カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

教区年間テーマ

キリスト者を活かす聖霊を信じます

教区長年頭メッセージ

聖霊は希望と喜びの源


福岡教区長　松永久次郎司教

福岡教区長松永久次郎司教は一九九八年、大聖年を準備する第二年「聖霊の年」の初めに当たり、全教区民に向けてメッセージを送った。この中で松永司教は、教区の全員が、聖霊が与えたいのちを喜びと希望をもって活発に生き、聖霊の導きのもとに救いのみ業―神の国の建設に協力するよう呼びかけている。

皆様、明けましておめでとうございます。

神が恵んでくださった新しい一年です。神の祝福のもと、神の国の建設のため、正しく活かすことができるよう、共に努めて参りましょう。

さて、この一年をパパ様は、二千年の大聖年を準備する「聖霊の年」と指定されました。年頭にあたり、この「聖霊の年」の意義について少し考えてみることにいたします。

一、聖霊は命の与え主

聖霊は「命の与え主」と呼ばれます。特にキリスト者は秘跡を通して、神の命のお恵みを豊かにいただいています。わたしたちはこの神から与えられた「命のお恵み」を感謝の心で受け止め、相応しい実りを挙げるよう努力しなければなりません。命を与えられたということは、意義ある生き方をするようにということです。

だからです。

そこでわたしたちは、神から命を与えられているという大切な真理をしばしば思い起こし、日常生活においてたとい重荷を感じ困難に遭遇するとしても、心強く、生き生きと生きて行かねばなりません。人生には困難がつきものです。しかし、わたしたちは困難に打ちのめされることなく、嫌悪感を感じて活力を無くした生き方をするのではなく、いつも神からの命の活力に溢れて、逞しく生き、活発に働いて行くべきなのです。

「人間が生き生きとしていること、これが神の栄光です」と、聖イレネオ教父が書いていることを忘れてはならないと思います。「生き生きとしていること」、これがこの世におけるキリスト者の特徴でなければならないのです。



二、聖霊は希望の支え、喜びの源

聖霊はキリスト者の中で働いて、キリスト者の生きる希望を支えます。わたしたちは困難を前にして動揺する必要はありません。「神は真実な方です。耐えられないような試練に遭わせることはなさらない」（一コリント10・13）からです。わたしたちは、いつもどんな時も、聖霊の営みに与って、神の国の建設のために力を尽くしながら、永遠の彼方での栄光ある完成の希望を持って、働き続けることができるのです。

また、神との親しみとお互いの交わりのお恵みを与える聖霊は、わたしたちに安らぎと温もりの心を与えます。どんなに荒廃した状況に置かれたとしても、心の奥底に神からの喜びを感じ、人々の善意に触れる喜びを体験できます。キリスト者は決して独りぼっちではないのです。神が（キリストが）共に居てくださいます。神の命に与る兄弟と共に働き、また戦っているのです。このようにして、心の安らぎと堅固な喜びは、真のキリスト者の特権となるのです。

また、地上の人生が決して空しいものではなく、意義あるものであるという信仰は、わたしたちに大きな力を与えます。教会が教えるように、「われわれが待望する約束された完成は、すでにキリストにおいて始まり、聖霊の派遣によって進められ、その聖霊を通して教会の中で続けられている」（教会憲章48）のです。わたしたちの労苦には意味がある、わたしたちの歩みは確実に目的に向かっている、というのが真理なのです。この真理を深い確信をもって受け入れることができるのは、心の深い安らぎです。なにものも破壊することのできない喜びの源となるのです。

三、聖霊は神の国の建設に招く

聖霊は、光のお恵みでわたしたちの行く道を照らし、わたしたちに力を与えて堅実な働きを継続させます。わたしたちは、キリストが聖霊を通して教えられることをしっかりと受け止め、良く学んで正しい判断力を養い、具体的な事柄において正しく賢明な識別ができるようになる必要があります。そして、キリストのご計画に全力を挙げて協力しなければならないのです。聖霊の導きのもと、キリストの救いのみ業に協力することがキリスト者の使命なのです。この尊い使命がわたしたちに活力を与え、生きがいを与えるのです。

わたしたちは、単なるお恵みの受け取り手ではなく、神の栄光のため、そして人々の幸せのため、神の国を建設する逞しい働き手とされているのです。弱く惨めなわたしたちですが、聖霊による救いの働きの価値ある協働者なのです。この偉大な使命を思ってわたしたちは、神を賛美しつつ、誠実な働き手の務めを果たして行かねばならないのです。

新しい年が明けました。それは「聖霊の年」です。わたしたちはこの「とき」の意義を良く学び、それを最大限に全うして行きたいものと思います。

こうした願いを込めて、改めて新年のお祝いを申し上げる次第です。

一九九八年元旦

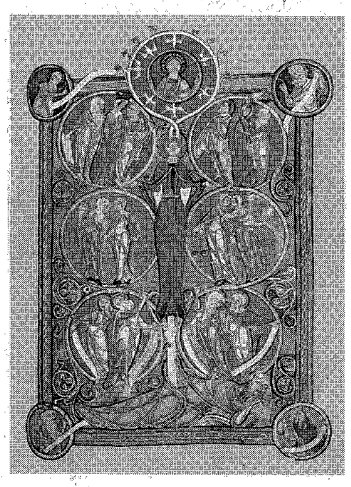
福岡教区長
ヨセフ　松永久次郎

今月のみことば

わたしの魂は主をあがめ、
わたしの霊は
救い主である神を
喜びたたえます。（ルカ1・47）

イエズス会　塩谷　恵策　神父

1998年　キリスト教一致祈禱週間
（1月18日～25日）



“霊”は弱いわたしたちを
助けてくださる
（ローマ 8・26）

福岡キリスト者合同祈祷会

1998年1月25日（日）午後2時半～
於：カトリック大名町教会
司式：櫻井尚明神父（カトリック福岡教区司祭）
説教：東島勇気牧師（日本基督教団中部教会）

受付：14時／祈祷会：14時30分
茶話会：15時30分

＊カテドラルからのお知らせ＊
塔の改修工事のため1月14日～2月中旬まで現在の駐車場入口が閉鎖されます。裏へお廻り下さい。

全世界へ行って、福音を宣べ伝えよ

聖パウロ修道会
志願者募集

聖パウロ修道会は、社会的コミュニケーションを通して福音宣教を行う修道会です。現在、サンパウロ（旧：中央出版社）を中心に活動しています。将来の修道者（司祭、修道士）を希望するカトリック信者の男子志願者（新中学生以上）を募集しています。手続きなど詳しくはお問い合わせください。

〒810福岡市中央区小笹4-11-11
聖パウロ修道会福岡修道院
☎　092-531-0924
FAX　092-524-6169
院長　Fr. 百村　等
担当　Fr. 戸村　修

福岡カトリック神学院
生徒募集

神学院入学を希望する者は、下記の条件が必要ですので、主任司祭と相談の上、福岡カトリック神学院までご連絡ください。

【入学条件】
①司祭を希望するカトリック信者の男子（来年3月に小学校卒業予定の現小学6年生以上）
②主任司祭の推薦
＊途中編入も可

詳しくはお問い合わせください。

〒810福岡市中央区浄水通38
福岡カトリック神学院
☎　092-531-6821
FAX　092-524-7373
院長　Fr. 山元　眞

福岡サン・スルピス大神学院
入学案内

出願資格：(1)原則として22歳以上のカトリック男子信徒　(2)受洗後3年以上を経過していること　(3)カトリック司祭になりたいという明確な意志をもっていること　(4)司祭召命について、少なくとも半年前から、当該教区長、出身小教区主任司祭、教区召命担当司祭に話し、指導を仰いでいること

入学選考日程：1998年2月1日（日）16時～7日（土）正午
科目：カトリック教会の教え
小論文・面接

福岡サン・スルピス大神学院
☎　092-531-0924
FAX　092-524-6169
院長　Fr. 大山　悟

みちくさ

「聖霊、来たり給え。信者の心に充ち給え、主の愛熱の火をわれらに燃えしめ給え」という祈りがある。今では、あまり使われなくなった「公教会祈祷文」に載っている《始業の祈り》である。何かを始めるとき、この祈りが唱えられてきた。新しい年、そして「聖霊の年」の始めにあたり、この《始業の祈り》を心を込めて唱えたい▼聖霊、といえば、まず、いつも十字の印をするときに「父と子と聖霊のみ名によって。アーメン」と唱えることばを思う。そして、次に考えるのは、堅信の準備のときに「聖霊について」習ったこと。「聖霊の七つのたまもの」を暗記したことなど…。三位一体の神の教義で、ともかく、ピンとこないのが聖霊である。説明するのも難しい▼聖霊降臨祭のミサの中で、「聖霊の続唱」が福音朗読の前、アレルヤ唱に続いて歌われる。「聖霊来てください。あなたの光のかがやきで私たちを照らしてください…。」の祈りである。これが一年に一度しか歌われないのは残念である。この「続唱」の中に聖霊とは何かが示されている。「貧しい人の父。心の光。証しの力を注ぐ方。…」。以下、聖霊の働きが教えられている。ぜひ参照して、この祈りを元旦にでも唱えてほしい▼教区の年間テーマが決まった。《キリスト者を活かす聖霊を信じます》。聖霊の特徴は「新しさ」と「始まり」にある、と考える。元旦といっても単に一日が明けただけ、というシラケた風潮もあるようだが、聖霊に祈れば、すべてが新しくなる。元旦に聖霊を想うのはふさわしい。（Y）

主のご降誕と新年のお慶び申し上げます

一九九八年・聖霊の年　元旦（神の母聖マリアの祭日）

教区長　松永　久次郎司教

〈福岡地区〉

司教館　青木　悟
　　松井　忠之
　　山下　正
糸島　黒川　博
平田　三郎司教
今村　中浜　一男
大楠　中村　彰
大牟田　森山　信三
小郡　牧山　勝美
久留米　山田　成章
　　三村　邦明
古賀　W・マヘル
　　乾　盛夫
笹丘　T・ドワイヤー
　　P・マックストラビク
浄水通　青木　悟（管理者）
大名町　浦口　均
　　田中　重治
高宮　H・シーベル
茶山　堤　要吉
西新　平田　敬
箱崎　T・リシャール
光丘　J・バイヨ
二日市　H・キニュウ
山川　辰幸

　　本郷　岩永　義人
吉塚　高見　三明
老司　畠山　七郎
大神学院　大山　悟
　　高木　善行
　　J・ツルデル
　　Z・イエール
神学院　櫻井　尚明
パウロ会　牧山　強美
　　白浜　満
　　山元　眞
　　百村　等
イエズス会　戸村　修
　　J・Iモラレス
　　塩谷　恵策
　　梶山　義夫
　　三宅　秀和
　　S・オチョア
　　A・セトアイン
　　G・ケルクマン
ファミリーセンター　S・M・ライル
御受難会　畠　基幸
　　来住　英俊
　　M・ヴェッター
　　C・ブレシュット
司牧センター（美野島）　M・コース

〈北九州地区〉

飯塚・田川　深堀　勝人
黒崎　L・ベリオン
　　C・バスチ
小倉　平田　寛
　　三好
新田原　竹森　勇
天神町　M・ラバルタ
戸畑　堤　敏雄
　　牧山　美好助祭
直方　中村　信哉
水巻　J・ガイヤール
門司　下町　豊重
（門司港）牧山　重光（管理者）
湯川　浦　俊雄
行橋　川上　惣一
若松　山頭　原太郎
八王寺（パリ外国宣教会）
　　L・デシャンブ
　　E・モーゼ

〈佐賀地区〉

伊万里　C・ガザルディ
鹿島　L・マネルバ
唐津　V・チェリッツァ
佐賀　M・タルディフ
多久　A・テムペリーニ

　　武雄　A・ベッラ
鳥栖　R・マグリン
馬渡島　伊東　成晃
呼子　田川　清美
シトー会　C・ミケレーナ
ロザリオの園　A・アレグリーニ

〈熊本地区〉

　　荒尾　K・オマホニ
大江・崎津　川添　猛
帯山　V・ヤングキャンプ
菊池　R・オウエンス
健軍　鵜野　泰年
島崎　M・コーフィールド
玉名　L・メネガッツオ
手取　W・カリー
　　M・マッコンネル
人吉　H・オッカロール
本渡　M・モロイ
水俣　P・ダイヤモンド
武蔵ケ丘　J・ノーリス
八代　F・マッケイ
生命山　J・ノーリス
　　F・ソットコルノラ
在米国　C・コデノッティ
休暇中　渡辺　隆義
　　B・J・ロザイロ

典礼 あ・ら・か・る・と 5

ミサの聖書朗読が行われる場所は、教会堂の大きさや構造などによってさまざまですが、一般的には次のような規定があります。「教会堂の中には、的確に配置され、固定された、ふさわしい高貴さを持つ高められた場を設ける。それは神のことばの尊厳にふさわしいものであり、同時にミサには神のことばの食卓とキリストの聖体の食卓の二つの食卓が用意されていることを信者にはっきりと意識させるようなものでなければならない。また、ことばの典礼の間、信者がよく聞きとることができ、注意を払えるような場が必要である。それゆえ、それぞれの教会堂の構造を考えて、朗読台と祭壇との的確な組み合わせを工夫する」（「ミサの聖書朗読指針」32）。

このように、ミサにおける聖書朗読は、教会に集まったすべての人に向かって行われるものですから、信者席から朗読する人の姿が見えて、朗読の声が聞き取りやすい場所で行われることが望ましいのです。現代のような拡声装置などなかった時代には、たとえば、バジリカ様式の教会堂のように聖堂正面奥の半円形の内陣を背にして朗読することで聖堂全体に声を響かせる工夫をしました。また、シリアの教会では、朗読を行うために少し高くなった「演壇」のような場所を聖堂の中央に造って、集まった人々に朗読の声が届きやすいように配慮しました。

神のことばを告げ知らせる場所

右の規定にもあるように、ミサの中で二つの食卓が用意されています。「信仰はことばから生まれ、ことばによって養われる」（第二バチカン公会議『司祭の役務と生活に関する教令』4）といわれるように、わたしたちはミサにおいて神のからだによって養われるだけでなく、神のことばによっても養われ、力づけられます。この神のことばをふさわしく告げ知らせるために、聖堂の構造に応じて朗読のための場所を考えることが必要です。

（カトリック中央協議会『毎日のミサ』一九九五年十月号第一頁）

良き指南役

伊東誠二神父様の思い出

伊東神父様は天国へ旅立たれました。十二月二日、福岡カテドラルにおいて最後のお別れをいたしましたが、神父様には大変お世話になったことなどがなつかしく思い出されます。伊東神父様は、最初に日本の地を踏んだ私たちにとって、父であり、また良き指南役でいらっしゃいました。

一九五一年、その時神父様はお若く、大名町教会の主任司祭でしたが、日本に来て間もない私たち四人のカノッサ会員は、言葉、風習、習慣など何も分からない迷子のようでした。そんな私たちにとって、英語に通じておられた伊東神父様は、何かと相談に乗っていただいたお一人でした。神父様は、はっきりした勧めをくださり、そのお言葉にはためらいもなく、従うべき神のみ旨を示すもので、神父様の賢明さにはたびたび驚かされました。このお若い神父様は一体どこにこれ程の確信を見つけ出しておられたのでしょうか。

私たちは毎朝、わりと早い時間に聖堂に行っていましたが、それより早く薄暗いすみっこで床に跪き、頭が床にまでつくほどお辞儀をして、長い間祈る神父様をよく見かけたものでした。まず、主との語らい、これが神父様のパワーの秘密だったのでしょう。そのころ私たちは、自分たちの限界と種々の困難を前に学校を創設することを決めかね、及び腰でおりました。そんな時神父様はこうおっしゃったのです。「シスター、あなた方は司教様からこの国へ来るよう呼ばれたのです。司教様のお望みは神様のみ旨であることを決めかね、及び腰でおりました。そんな時神父様はこうおっしゃったのです。「シスター、あなた方は司教様からこの国へ来るよう呼ばれたのです。司教様のお望みは神様のみ旨であることを修道女のあなたがたに従順は教えているでしょう。たとえ、学校が失敗に終わることになるとしても、シスター方が今なすべきことは従順です。」

その後、学校創立準備のため大牟田へ移ってからも、私たちのことを心配し、聖歌隊に所属していた二人の若い女性を送ってくださいました。後にその二人は最初の邦人カノッサ会シスターとなりました。こうして、一九五二年四月、大牟田の地に明光学園中学・高等学校が開校し、「笑顔で学校の廊下を行ったり来たりするだけのシスターたち」の従順によって、神様は次々と奇跡を起こしてくださり、今日に至っています。

ある若い姉妹は「伊東神父様に感謝しましょう！　あの時神父様の助けがなかったら、今のカノッサ会員の私も存在しなかったでしょうから」と。

今は天に召された伊東神父様に私たちの心からの感謝を申し上げ、これからも学校の使徒職を通して神様のみ旨を果たせるよう、天国から見守り続けてくださると確信しています。

（カノッサ修道女会　シスター アデレ・フルラン）

待望のCD発売



キリスト者が待ちこがれていたCD「天は神の栄光を物語り」が株式会社アーツ・コアから売り出された。これは1996年に初来日し、各方面で絶賛を浴びたシスティーナ礼拝堂合唱団による公演（東京公演）をライブ収録したもの。グレゴリオ聖歌「来たれ　聖霊よ」など11曲が収められている。￥2,854（税込）

教皇様のご意向のために祈りましょう

―祈祷の使徒会一月の意向―

【一般の意向】
主の霊がすべてのキリストの弟子の間で和解と一致を早めてくださるように

【布教の意向】
アフリカ諸国が、正義、兄弟愛、そして平和のうちに進歩発展するように

【日本の教会の意向】
大聖年の直接準備の二年目を迎え、聖霊の賜物をより深く理解し、その豊かな恵みを味わうように

ご会葬御礼

故アシジのフランシスコ伊東誠二神父の教区葬に際しましてはご多忙中にもかかわらずご会葬賜り、温かいご芳志をいただき心より御礼申し上げます。

勝手ながら香典返しとして福岡カトリック神学院に寄贈させていただきましたので御諒承くださいますようにお願い申し上げます。

実は拝眉のうえお礼申し述べるはずのところ、略儀ながら紙上をもってお礼申し上げます。

一九九七年十二月

福岡教区長　松永　久次郎

神学院基金への寄付の御礼

アシジのフランシスコ伊東誠二神父様の香典返しとして教区長松永久次郎司教様より多額の寄付を福岡カトリック神学院における司祭養成のためにいただき心よりお礼申し上げます。

故人のご安息を心よりお祈り致します。

一九九七年十二月

福岡カトリック神学院院長　山元　眞

あけまして　おめでとうございます
1998年　元旦
参加者募集のお知らせ
2月13日(金)～15日(日)　黙想の家後援会員の黙想会
指導：来住英俊神父〔会費；会員8,000円／一般；12,000円〕
※　お問合せ、お申込はお電話で…12：30～17：00受付まで
福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ　土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289

別れ・出逢い・旅立ち
草苑(SOU-EN)
ご葬儀
木下株式会社
TEL092－526－5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

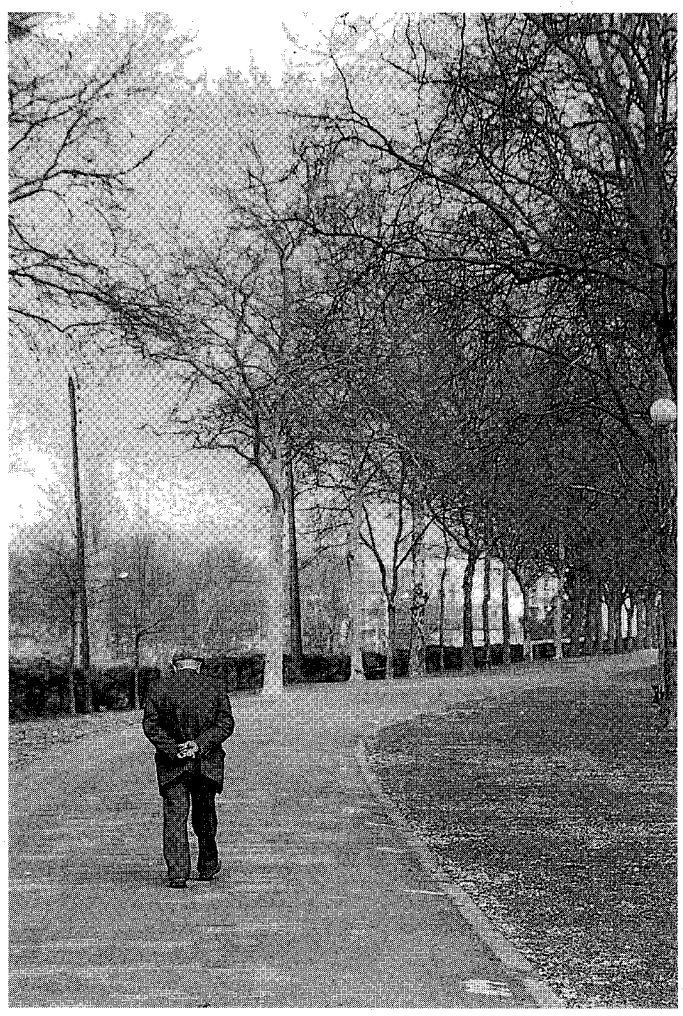
キリストの心で病者とかかわる

福岡カトリック・パストラルケア研究会

最近、新聞紙上にはやたらに外来語が増えて「何のことかさっぱり分からない」といわれていますが、ご多分にもれず、この会もパストラルとケアとの二つの言葉をくっつけて活動内容を示しています。

この会はこの七月にガンの手術を受けたシスターと彼女を見舞いに行った看護婦さん、そして一人の司祭の出会いが「病人訪問」という共通の話題をきっかけとして発足へ向けて動き始めました。たまたま手元に京都教区の信徒使徒職養成シリーズ5「病人訪問―いやされるかかわり」（沼野尚美著）があり、これをテキストとしてお互いの体験を分かち合い、勉強しようということになりました。

パストラルケアとはパストール（羊飼い）が羊の世話をするように、「人々を親身になって、精一杯お世話する」という意味です。キリストは「私が来たのは羊に命を得させ、しかも豊かに得させるためである。私は善い羊飼いである。善い羊飼いは羊のために命を捨てる」（ヨハネ10・10～11）と言います。このキリストと同じ精神で他の人と接することがパストラルケアの基本的精神です。福岡カトリック・パストラルケア研究会はこの精神を学ぶことを目指していますが、この研究会のねらいはパストラルケアワーカーを養成することではなく、上述のパストラルケアの精神を学ぶことにより、病人訪問のあり方や自己の霊的養成を考えていこうとするものです。



これから次第に深刻化していく日本の高齢化社会。このような中で生きていくためにお互いの関わり、つながりは不可欠です。自分の周囲を少し見回すと、多くの友人知人が病人を抱えておられます。入院のお知らせを受けた。さあいつ、お見舞いに行こうか。何を持っていこうか。行ったら何を話そうか。見舞いに行くことに気が向かない。また見舞いに行ったら元気づけようとして病人を無視して一方的に話をし、満足して帰ってくる。…元気な人にはしばしば病人の気持ちは計り難いものです。自分では善い愛の行為ができたと思っていても、病人にとってありがた迷惑、大変な苦痛である場合もあります。病人訪問がふさわしくできるためにも、お互いの体験を分かち合いながら、病人の心理を学べたらと思います。また病人に耳を傾ける者となるため、あるいは自分が病人になったときのために、カトリック信仰の教え、諸秘跡、カトリックの人生観、価値観なども学びたいものです。失敗談、成功談を含めて率直な意見交換を繰り返しながら、お互いの人間的・霊的・知的向上に役立つような機会を提供できたらと考えています。

本会は「福岡・生と老い、死を見つめる会」を母体とした分科会の一つです。カトリック信者を主な対象としていますが、カトリックのケア精神を学びたい人ならだれでも参加できます。参加費は無料ですが、寄付をお願いしています。神学生も自由に参加できるためにということで、現在のところ福岡サン・スルピス大神学院にて行われています。第一日曜日の午後二時から四時までです。神学生のために五時三十分から聖体賛美式が行われますが、それに参加することもできます。大神学院の静かな霊的雰囲気の中で、自分の関わり、信仰を見つめ直し、リフレッシュして、それからの生活の力としてはいかがでしょうか。

（シスター箕浦）

召命について分かち合う

11・30青年の集い

昨年十一月三十日午後一時三十分から五時まで、福岡サン・スルピス大神学院において「青年の集い」が行われました。主催は、教区有志の会「召命を共に祈る会」と大神学校でした。青年たちが集える場を提供しながら、今の教会に必要とされる召命ということに特に深い関心を持ち、自ら神の呼びかけと教会の必要に応えていく若者が生まれることを願っているものです。

「キリスト者として抱えている日常の問題について」というテーマのもと、二十三人の青年と大神学生、修道者、司祭が集まりました。はじめに自己紹介がおこなわれ、召命に直接関心を持ってきている人や、まだ洗礼を受けていない人など、さまざまな層の青年たちの集いとなりました。

続いて、葛島神学生の大神学校に入る前後の信仰上のいろいろの思いを語っていただきました。その後、司祭、修道者、神学生を交えて、青年たちが五つのグループに分かれて、分かち合いを行いました。

何とはなしに思っている疑問や悩みなどを分かち合うことで青年同士同じ思いを持っていることに気づいたりして、これから励まし合っていく心のつながりが生まれたように感じられる集いとなったと思います。中には、話を突っ込まれて困った青年もいたようです。分かち合いの経験はまだ浅く、傷つけ合うこともあると思いますが、これからの道を求めている若者と召命の道を歩いている者同士が、少しでも近づき、教会の必要と互いの召命に応える刺激となることを心から願っています。

最後のミサの説教の中で聖パウロ会の戸村修神父様は、今の人々が、特にキリストをまだ知らない人も含めて救いを求めていること、そのための働き手となれるように祈りましょうと励ました。

（取材協力　青木悟神父）

創立記念日を祝う

福岡カトリック神学院

十二月八日、無原罪の聖母の祝日に福岡カトリック神学院（院長　山元眞神父）で創立記念のお祝いが行われた。同神学院は一九三二（昭和七）年四月十一日、福岡市大名町に設立され、フレデリック・ボア神父を初代校長としてスタートして以来、一九四六（昭和二十一）年九月からは、泰星高校として教育事業を主とするマリア会の経営に移管され、小神学校は独立して、「神学校」として司祭養成の場として独自の歩みをするようになった。所在地も大名町から平尾の旧泰星学園へ、そして一九五一（昭和二十六）年からは、現在の浄水通に変わっている。四年前には「福岡小神学校」から「福岡カトリック神学院」へと名称も変わった。

神学院は、将来、司祭になることを望んでいる中・高生がその目的のもとに共同生活をし、養成を受けるところである。かつて、多い時には四十人をこえる小神学生がいたこともある。現在は、高校生一人、中学生四人が司祭職を目指して祈りに勉強に、そしてスポーツに励んでいる。中学生は福岡市立平尾中学に、高校生はそれぞれの能力に応じて市内の高等学校に通学していることに気が向かない。また見舞いに行ったら元気づけようとして病人を無視して一方的に話をし、満足して帰ってくる。…元気な人にはしばしば病人の気持ちは計り難いものです。自分では善い愛の行為ができたと思っていても、病人にとってありがた迷惑、大変な苦痛である場合もあります。病人訪問がふさわしくできるためにも、お互いの体験を分かち合いながら、病人の心理を学べたらと思います。また病人に耳を傾ける者となるため、あるいは自分が病人になったときのために、カトリック信仰の教え、諸秘跡、カトリックの人生観、価値観なども学びたいものです。失敗談、成功談を含めて率直な意見交換を繰り返しながら、お互いの人間的・霊的・知的向上に役立つような機会を提供できたらと考えています。



司教と談笑する神学生たち

F・サルデイ師

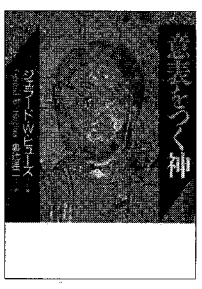
長年にわたり福岡教区で司牧に従事し、母国イタリアに帰国していたミラノ宣教会フランチェスコ・サルデイ神父が、昨年十二月五日、腎不全のため北イタリアのレッコで帰天した。享年八十歳。

イタリアでは十二月九日、佐賀教会では七日に葬儀ミサが行われた。

サルデイ神父は、イタリアはヴィチェンツァのティエーネで生まれ、一九四三年に司祭に叙階。一九四七年より中国で宣教。一九五〇年に来日して横浜教区山城教会主任、ミラノ会管区長を務めた。福岡教区に移ってからは佐賀地区（伊万里、呼子、武雄）で司牧宣教に従事、一九九一年にイタリアに帰国、ミラノ近くのレッコにあるミラノ会司祭の家で療養していた。

★意表をつく神

ジェラード・W・ヒューズ著
裏辻洋二訳



神の思いに近づく旅は、日々の驚きの連続であり、内的な旅は直線的に進まず、私たちの意識の種々の層をとおって、らせん状に進む。意識のあるレベルで意表をつく神へと向かう。神は意外と私たちの身近に隠れておられる。

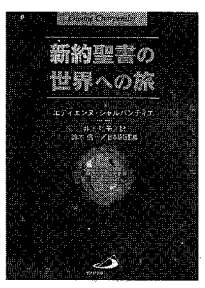
本書の目的は隠された宝を探すこと。しかも、ありそうもない畑に、つまり自分自身の中にその宝を探す。どのように掘り当てるか、具体的にその方法を提示している。キリストこそが私の宝であることに至る、内的な喜びを見いだす霊的読書。

女子パウロ会　税別一七〇〇円

◇◇◇

★新約聖書の世界への旅

E・シャルパンティエ著
井上弘子訳
鈴木信一／日本語版監修



本書は、フランスで聖書関係の著作としては、ベストセラーとなって、版を重ねた。また数カ国語に翻訳されて、優れた聖書入門書として、各国で高い評価を受けている。

ユーモアを交えたしっかりとした語り口で、読者を知らず知らず聖書の世界に引き入れてくれる。一歩掘りさげて聖書の視野を広げたい人たちには便利な書。「旧約聖書の世界への旅」の姉妹版。

サンパウロ　税別二三〇〇円

BOOK 読みは専科

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石材 { 石理影の大御そ 石他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2-21
TEL096-352-2417

福岡黙想の家　1月

◇1日(木)～5日(月) シスターのための黙想会
◇6日(火)～12日(月) 休館
◇13日(火) 祈りの日・'98始業ミサ
◇14日(水) ミカエル会
◇14日(水)～15日(木) 聖霊による刷新西日本地区世話人会
◇16日(金)～18日(日) 日本カトリックセンターコース・九州会場ワークショップ
◇24日(土)～25日(日) クリスチャンサポートグループの集い
◇30日(金)～2／1日(日) 日本カトリック女性連盟理事会

[問合先] 黙想の家　☎ 0940・32・3222　FAX 0940・32・3385

生命山カトリック別院

生命山では、皆様のために、美しい自然の中で、神との語らいの日々を過ごしていただきたく、黙想会を計画いたしました。ご参加ください。

■祈りの集い
日時：1月8日(木) 10時～15時
テーマ：詩編を祈る
指導：フランコ神父

★次回は2月12日（木）です。
■諸宗教対話について質疑応答
日時：2月8日（日）14時～16時30分
場所：カトリック手取教会
指導：フランコ神父
主催：熊本諸宗教対話研修会
参加費：無料
＊個人、又はグループでの黙想等、常時受け付けています。
[問合先] 生命山カトリック別院　☎0968・85・3100



ゼノ修道士のアニメ映画作成にご協力を！

（右下段参照）

会合と催し

教区年間テーマ：キリスト者を活かす聖霊を信じます

1月

1日（木）元旦／神の母聖マリア《守るべき祝日》
世界平和の日ミサ（カテドラル10時）
＋G.ロー［人吉教会1950］
2日（金）＋J.ドノフ［菊池教会1985］
＋ヨセフ牧山藤房［福岡司教館1993］
4日（日）主の公現
6日（火）**司祭新年の集い**（浄水通11時）
11日（日）主の洗礼
福岡地区「成人ミサ」
14日（水）＋A.ハルブ［崎津教会1945］
15日（木）成人の日
17日（土）聖アントニオ
18日（日）年間第2主日
キリスト教一致祈祷週間（～25日）
＋J.M.マルタン［大牟田教会1975］
19日（日）＋L.ガルニエ［大江教会1941］
21日（水）聖アグネスおとめ
25日（日）年間第3主日
カトリック児童福祉の日《指定献金》
今村教会堅信式
福岡キリスト者合同祈祷会 ■
26日（月）聖テモテ・聖テトス
28日（水）聖トマス・アクイナス
31日（土）聖ヨハネ・ボスコ

■印は本面に詳細説明あり

2月

2日（月）主の奉献
3日（火）**司祭評議会**［司教館別館10時30分］
5日（木）日本26聖人殉教者
6日（金）聖アガタおとめ殉教者
路上生活者への炊き出し（2月中の火・金）
10日（火）聖スコラスチカおとめ
11日（水）ルルドの聖母／建国記念日
14日（土）聖チリロ・聖メトジオ
＋J.オマラ［荒尾教会1974］
16日（月）＋J.ボア［黒崎教会1957］
22日（日）＋F.ベルトラン［門司港教会1940］
23日（月）＋パウロ糸永武男［今村教会1992］
25日（水）灰の水曜日（四旬節）大斎・小斎
26日（木）今村信徒発見記念日
＋F.ドルエ［八王寺教会1983］
＋G.オーブリ［大神学院院長1985］
28日（土）＋マルチノ青木保［浄水通1997］

■印は本面に詳細説明あり

福岡

■炊き出しのお知らせ　[日時] 毎週金曜日 [内容] 18時ごろに食事を作り、20時30分ごろに配ります。カンパ、毛布、下着、お米などもよろしくお願いします。[場所] 美野島司牧センター [問合先] 右に同じ☎092・431・1419

■第4回福岡カトリック・パストラルケア研究会　[日時] 1月11日（日）14時～16時 [場所] 福岡サン・スルピス大神学院新館ホール [テーマ] 病人訪問体験談 [講師] 沼野尚美氏（姫路聖マリア病院チャプレン）[参加費] 700円 [問合先] 事務局（シスター箕浦☎092・871・4943大神学院）

■SE・CO新年の集い　[日時] 1月17日（土）11時～ [場所] 聖心のウルスラ宣教女修道会福岡修道院会議室 [内容] 講話 [講師] カトレット神父（イエズス会広島修練院院長）[会費] 1000円（昼食費共）[問合先] 龍☎092・581・6838／山下☎574・3787／白壁☎552・1879／武田☎552・4250／シスター高取☎512・0033＊前号本欄のお知らせで16日（土）となっておりましたが17日（土）の間違いです。お詫びして訂正いたします。

■召命を共に祈る会　[日時] 1月22日（木）14時～ [場所] 佐賀教会信徒会館 [問合先] 青木悟神父☎092・522・5139＊福岡から車が出ます。1月20日までに青木神父にお申し込みください。

■福岡キリスト者合同祈祷会　[日時] 1月25日（日）14時～16時【1面参照】

■福岡生と老い・死をみつめる会　[日時] 1月25日（日）14時～16時 [場所] カテドラル大名町教会4階会議室 [テーマ] 講話「生と老い」と語り合い、死別体験者の語り合い [講師] 井口潔氏（井口病院理事長、九州大学名誉教授）[会費] 500円。[問合先] 事務局（大山美穂子☎FAX092・713・8523／村尾嘉道☎607・6992）

■カテキスタの集い　[日時] 2月1日（日）13時30分～15時30分 [場所] 福岡カトリック神学院 [講師] 山元眞神父（同神学院院長）[テーマ] 子供のミサ [会費] 500円 [問合先] 福岡カトリック神学院☎092・531・6821 FAX522・7373★1月はお休みです

■典礼聖歌研修会―ミサを歌おう　[日時] 2月11日（水）[場所] カテドラル大名町教会 [講師] 新垣壬敏氏（白百合女子大学教授）[参加費] 大人1000円、中・高生500円 [主催] 福岡教区典礼委員会 [申込締切] 1月28日 [申込先] 教区本部事務局FAX092・523・2152

■第16回「出会いの集い」…きてみませんか？！　[日時] 2月15日（日）13時～16時30分 [場所] カテドラル大名町教会1階講堂 [内容] お話し（浦口均神父）・ダンス（吉川信雄氏）・レクリエーション・お茶・派遣の祝福 [対象] 20歳以上の独身男女 [参加費] 1000円 [主催] カトリック福岡司教区カナの会 [申込締切] 2月5日 [申込先] 渕上（光丘）☎092・501・8198／安部（高宮）☎512・4028 各務（かがみ・古賀）☎943・4759

■第71回福岡結婚準備セミナー　[日時] 2月19日（木）～3月14日（土）毎土曜・木曜日19時～21時30分 [場所] カテドラル大名町教会 [申込・問合先] カトリックファミリーセンター☎092・541・6207 FAX552・5022

北九州

■第10回お母さんの集い　[日時] 2月9日（月）10時30分～13時 [場所] カトリック小倉教会聖堂 [講師] 土岐圭子氏（親業訓練インストラクター）[内容] 講話とミサ [参加費] 500円 [問合先] 福吉三代子☎093・962・1395

佐賀

■聖書に学ぶ家庭生活―佐賀新聞文化セミナー　結婚と家庭生活についてについて聖書をもとに三カ月にわたってアレグリーニ神父とともに考える。[日時] 第二、四土曜日15時30分～17時 [場所] 玉屋教室 [講師] アレグリーニ・アレグリーノ神父（ロザリオの園）[受講料] 7200円（プリント料300円）[申込・問合先] 佐賀新聞文化セミナー事務局☎0952・28・0371

■平和をともに考える2月11日佐賀の集い―社会に開かれた教会の使命は、平和のために働くこと　[日時] 2月11日（水）14時～16時 [場所] 佐賀カトリック幼稚園講堂 [講演] 平和のために働く人は幸い [講師] 岡田武夫司教（浦和教区長）[参加費] 無料、会場カンパをお願いします [主催] 佐賀カトリック正義と平和協議会 [問合先] 森内慎一郎☎0952・30・9015

熊本

■第55回熊本結婚準備セミナー　[日時] 1月19日（月）～2月16日（月）毎月曜・火曜日19時～21時30分（2月3日は休会）[場所] 手取教会☎096・353030 FAX092・551・5022（カトリック・ファミリーセンター）

■生活のなかで読む聖書　[日時] 1月16日（金）16時～18日（日）13時30分 [場所] カトリック福岡黙想の家 [テーマ] 教話を学ぶより深い聖書の読み方 [内容] グループでみ言葉を読み、そのメッセージを把握する。聖書を生活の中で読むことの深い意味を学び、教話作成を試みつつ、自らの信仰を振り返る。楽しい聖書の読み方発見。[指導] 日本カトリック研修センタースタッフ [対象] 信徒・修道者・司祭 [費用] 31500円 [問合先] 日本カトリック研修センター研究企画部〒466名古屋市昭和区広路町隼人30☎052・831・5037 FAX052・831・5317

研修センター出張コース

映画

★アニメ『どんぐりの家』＝埼玉県内に実在するろう重複障害者の共同作業所をモデルに、現代の教育や福祉の在り方を問いかける　①1月24日・古賀市中央公民館 ②2月21日・福岡市福祉プラザ [問合先] 九州シネマ・アルチ☎092・712・5297

ゼノさんの映画製作ご協力のお願い内容
1. 募集目標額　70,000,000 円
2. 募集資金の種別
①製作協力会員　1口　100,000 円
②賛助会員　1口　10,000 円
③ローソク会員　寄付金（金額は問わない）
3. 募集期間　1998年9月末まで
4. 送金は　銀行振込み、または郵便振替で
＊くわしくは《ゼノさんの映画をつくる会》まで☎0423・27・9731／FAX 0423・27・9732

第7回　全国カトリック家庭セミナー

家庭のきずな―親子・夫婦

日時：1998年2月22日（日）～23日（月）
場所：日本カトリック会館
プログラム：（予定）22日講演①森一弘司教／テーマ：夫婦のきずな／／23日講演②アグネス・チャン／テーマ：親子のきずな
参加費：一日／1000円／対象：信者に限りません
申込・問合先：カトリック中央協議会・家庭委員会
日本カトリック会館内　☎03-5632-4445／FAX5632-4465

編集後記

新年、明けましておめでとうございます。

旧年中は皆様のあたたかいご協力により、教区報を発行することができました。特に、発送準備をしてくださった福岡地区婦人会の方々に感謝申し上げます。今年は聖霊の年。神様の霊、力である聖霊の恵みをたくさんいただきたく思います。霊に導かれて編集を続けることができますように。

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

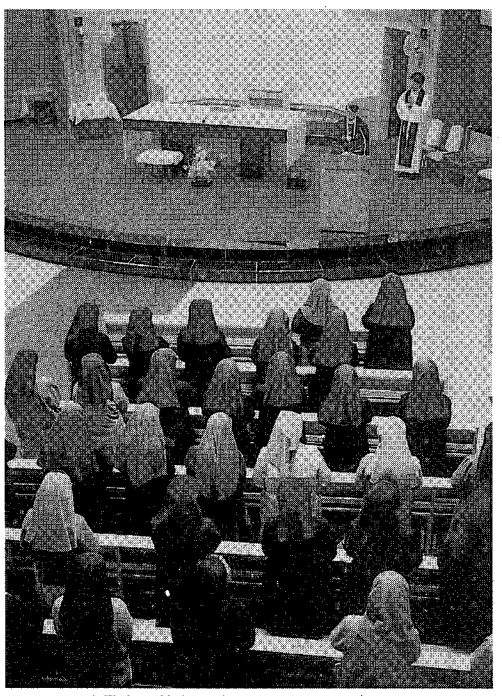
カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今日における福音宣教を考える

＝福岡教区修道女連盟＝

福岡教区修道女連盟（会長＝シスター諸石珠枝）主催の研修会が、一月十五日カテドラル大名町教会で開かれた。朝からの悪天候にもかかわらず、教区内の女子修道会から、一五〇余名の出席者があった。大阪教区長、池長潤大司教は、信者として、修道者としての根本を説き、参加者は、福音宣教に向けて新たな気持ちで前進する決意を確認した。


池長大司教主司式でミサがささげられた

研修会は、開会の祈りで始まり、続いて池長大司教による講話を参加者全員で聞いた。

テーマは『現代における修道生活　二十一世紀に向かって』。社会にとっても教会にとっても、変化の大きい現代にあって、修道者がどのように生きて行くことができるのかという問題は、参加者にとって大きな、また緊急を要する課題のひとつでもある。

司教はまず、現代が教会史の中でも、最も大きな変化のある時点であることを、公会議後の教会の姿をたどって示し、九十年代になって『新しい福音化』が注目され、次いで修道生活をテーマとして開催された九十四年のシノドス（代表司教会議）までを簡潔に説明した。



さらに、司教自らの体験に基づき、通常身近に起こる出来事の中で、本当に『人間に』出会っているのかと参加者に問い、近年日本人が人間を知らない国民になっているのではないかという危険性を指摘した。

そのなかで、修道者の使命とは何か、それは預言的役割であると説き、修道者は、福音的勧告を生きる者と言われるが、その根本にある『何のために』という部分をはっきりと、しっかりと生きていかなければ、『宣教とは…』の問いに答えることはできない。生涯を通じて神の国を表現し続けたイエスの生き方にならい、修道者は、神の国に触れ、そこに留まり、人々とそこに生きる者であることを強調し、イエス中心に生きること、それが修道者に呼びかけられ、また期待されていることとして講話を締めくくった。

修道者対象の研修会ではあったが、講話の内容は、キリスト者としての根本的なあり方を問うものであった。近年、福音宣教について論じられているが、福音宣教は議論するようなことではなく、実行することである、との指摘はすべての信者にも当てはまることである。

福音宣教とは、ある人にとっては信者をふやすことであったり、聖書を教えることであるかも知れない、がなによりもまず、「イエスがしたようにすること」が求められている。それは「人とかかわる」ことである。イエスはあらゆる人々とかかわった。このイエスの生き方に倣うことが福音宣教である。人間を知らなければ人とかかわることはできないし、人とかかわらなければ人間を知ることはできない。

現代社会の特徴として、人とのかかわりが希薄になっていることが指摘されたが、このことがまさに福音宣教を妨げている。議論し、考えるだけでは宣教にならない。キリスト者は、それぞれ自分ができることを考え、考えたことを実行しなければならない。宣教は要理教育だけではない、教えることだけではない。

司教の熱のこもった講話に参加者は深い感銘を受け、感謝のうちに研修会を終了した。

（取材協力　シスター菅原百合子・シスター朝穂かほる）

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般の意向】堅信を生きる

【布教の意向】有資格の養成者

【日本の教会の意向】障害のある人が住みやすい社会

選任式

三月六日十時三十分から、福岡サン・スルピス大神学院で朗読奉仕者と祭壇奉仕者の選任式が行われる。小倉教会出身の藤渕邦大神学生が祭壇奉仕者に選任される予定。

司祭異動

二月一日付／吉塚教会主任（休暇）B・Jロザイロ▼浄水通教会管理者（吉塚教会管理者＝スルピス会）高見三明▼佐賀教会助任（来日＝ミラノ外国宣教会）G・フェッラーラ▼一月十二日着任／福岡カルメル会修道院（大分男子カルメル会＝カルメル会員）N・ガレノ

ロレート、それは希望の家

「世界病者の日」教皇メッセージ

― 希望は苦しみに新しい希望を与え、苦しみを救いの手段に変える ―

ヨハネ・パウロ二世教皇は二月十一日、ロレートの聖母聖堂（イタリア）で祝われる「世界病者の日」に当たり、恒例のメッセージを全教会におくった。その中で教皇は、特に病者をはじめ医療関係者と司牧者に特別の思いを寄せ、困難や無理解にひるむことなく、ゆだねられた任務の崇高な意義を忘れないよう諭された。

教皇はまず、信徒が「病む者にとっての健康、苦しむ者にとっての慰め手」であるマリアの取りつぎを求めて、病者のために主に祈るよう励ましてから、聖霊の働きによって受肉された「キリストは、わたしたちの苦しみを取り除くためでなく、分かち合うために来られた。人間の苦しみを自らのものとすることにより、苦しみに救いの価値を与えられた」ことを想起させる。

聖霊はやさしい心の友となり、あらゆる時代の悩みや争いや危険の中で慰めをもたらし、困難な状況に立ち向かう力を与えてくださる。

御子イエスの救いのわざに生涯かけて協力されたマリアは、苦しむ人に心を配り、苦しむ人々とともに苦しむ者の象徴となられた。

これらのすばらしい模範が、苦しい状況にある人々に「希望の地平」を開いていることを、教皇は強調し、すべての信仰者と善意の人々が協力して、人間社会を「希望の家」に変える努力をするよう励まし、病人を抱えることによって「家庭が背負っている重荷を、教会共同体をはじめ、あらゆる共同体が共に担うよう」にと招く。

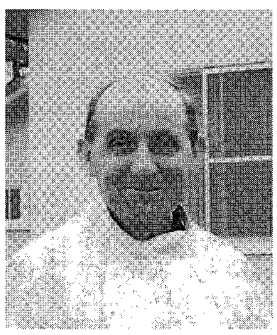
具体的には、健康と病気の問題に取り組むこと、人間の尊厳を保護・促進すること、貧しい人や疎外された人たちへの優先課題を具体化すること…などを挙げている。

病者に対しては「心も体も健康でありたいという皆さんの熱い望みを、マリアの取りつぎにゆだねます。その望みを、キリストの賜物である《希望》という対神徳をもって照らし、高めるようお勧めします。この希望は、苦しみと救いの道、福音宣教の機会、あがないの機会に変えるものであり、苦しみに新しい価値を見いだすために役立つでしょう」と、苦しみへの積極的な姿勢を示している。

最後に、病者とかかわる家庭や専門家、ボランティアらは、病者の介護と生活の質の向上に努めるとき、人間に「奉仕」することになる、と信仰者の自覚を促している。（2面に本文抜粋）

◆「ロレートの聖母聖堂」とは、イタリア中部アドリア海に面する小都市ロレートにある聖堂。この聖堂の中には古い小さな家があるが、これは十三世紀に聖地ナザレから運ばれてきた、ある質素な家の壁を組み立て再築されたものである。それは聖母マリアが住んでおられた家の壁という言い伝えがある。

エミール・モーゼ神父帰天



パリ外国宣教会のエミール・モーゼ（Emile Mauget）神父は去る一月四日午前七時三十分心筋梗塞のため帰天した。享年八十三歳。

通夜は同日午後七時三十分、葬儀ミサと告別式は翌一月五日の午前十一時、小倉教会において、松永久次郎司教司式で行われ、パリ外国宣教会司祭をはじめ、管区長、多くの司祭、信徒たちが出席、来日以来四十八年に及ぶ神父との別れを惜しんだ。

E・モーゼ神父は一九一四年六月五日、フランスのアンジュ地方ボーポーで生まれ、十九歳でパリ外国宣教会に入会、一九四一年に司祭に叙階された。

ベトナムで従軍司祭を務めた後一九四九年に来日、以後おもに北九州地区の門司、黒崎、八王寺、門司港教会の主任を歴任、一九九一年に叙階五十周年を祝った後、八王寺のパリ外国宣教会本部で祈りのうちに静養中であった。

平田神父は一九一四年七月九日生まれ、一九四一年十二月二十一に司祭に叙階された。

ヨセフ・ライル氏

ファミリーセンターのS・ライル神父の令弟ヨセフ・ライル氏は昨年十二月二十九日、アイルランドで帰天、葬儀が去る一月二日に行われた。

ペトロ平田義雄神父

名古屋教区司祭ペトロ平田義雄神父（福岡・本郷教会出身）は城北クリニックで透析治療を受けていたが、去る一月十六日午後一時五十分、心不全のため帰天した。享年八十三歳。

通夜は十六、十七日に主税町教会で、葬儀・告別式は十八日布池教会で行われた。

みちくさ

昨年の暮れ、ある男性の人生の最後にかかわらせていただいた。このかたは堅信の秘跡を受けて以来、約四十年にわたって教会から離れていた。結婚をしたが、やがて離婚。残された人生を一人で暮らした。母親はその間、ずっと息子が教会に戻ることを願い、とくに聖母マリアに恵みを願っていた。病床の彼は、司祭に会うことを頑なに断る。母親が勧め、願っても、司祭に会って秘跡を受けようとはしなかった▼医者からもうだめだと聞き、母親は教会に走った。意識がはっきりしていた彼は、司祭の言葉を受け入れ、ゆるしの秘跡を受け、ご聖体を拝領し、病者の油を塗られた。その後間もなく、彼は意識を失い、大晦日の未明、天国に旅立った▼一人息子を失ったにもかかわらず、母親は彼の死を、その死に方を喜んだ。会う人、会う人に、「よかったあ、よかったあ」と言った▼放蕩息子のたとえ話、よきサマリア人のたとえ話、ナインのやもめの話は、神のいつくしみがもっともよく表れた話しである。神の方から近寄ってくださる。ここに福音がある。弱いから、貧しいから、勇気がないから、だから、神の方から近寄ってくださる。神が人となり、わたしたちのところに来てくださった。ここに神の愛、いつくしみがある▼一年の最後の日、彼は五十七年の生涯を閉じた。彼の上にそそがれた神のいつくしみ、それはまさに無償の、掛値なしの愛の表れであった。それを見た人は幸いであった。新年を迎えるにあたって、福音の根本を見せられた思い。神は賛美されますように。（Y）

2月11日「世界病者の日」教皇メッセージ（抜粋）



愛する兄弟姉妹の皆さん

1. 一九九八年二月十一日の「世界病者の日」は、ロレートの聖母聖堂で祝われます。

この聖母聖堂は、聖なるおとめにささげられた、世界的な広がりをもつ最初の聖堂であり、キリスト者にとっては、何世紀にもわたって聖母マリア崇敬の真の中心地となっている聖所です。わたしは、たびたびここに巡礼に来ました。その度毎に、ここに信頼をこめてやって来る多くの病者に、いつも特別な親しみを覚えてきました。わたしたちは、聖母がこの家で、『病む者にとっての健康』、『苦しむ者にとっての慰め手』として、わたしたちの祈りを聞き届けてくださるようにと、『聖母マリアへの連願』を唱えています。

2. **「ことばは肉となった」（ヨハネ1・14）**

ほかのどこよりもロレートの聖母聖堂でこそ、福音記者ヨハネのこのことばの深い意味をよく悟ることができます。御父の愛は、世を救う受肉のうちにもっともよく表されました。神は、人間を探し求めてみずから人間となり、絶対的な神と限界のある人間との間の架け橋となられたのです。

キリストは、わたしたちの苦しみを取り除くためでなく、分かち合うために来られました。人間の苦しみをみずからのものとすることにより、苦しみに救いの価値を与えられたのです。つまり、キリストは人間の条件を身に帯びることを望み、限界と苦しみを共有し、それによって限界ある人間を救われたのです。キリストが成し遂げられた救いは、病者のいやしのうちに前もって示されており、苦しい状況にある人々に「希望の地平」を開いています。

3. **聖霊の働きによって**

聖霊は、聖霊降臨の祭日の典礼にある「聖霊の続唱」で歌われるように、人の心の中で、貧しい人の父、恵みの与え主、心の光となられるのです。また、やさしい心の友、疲れたときの憩い、一日の暑さを和らげるかた、あらゆる時代の悩みや争いや危険のただ中で慰めをもたらすかたとなられます。困難な状況に立ち向かい、それを乗り越える力を人の心に与えてくださるのはこの霊です。

4. **おとめマリアの胎内で**

おとめマリアは、苦しむ人に心を配り、苦しむ人とともに苦しむ者の象徴となられました。十字架のもとで御子の苦しみと死に参与することは、おとめマリアの「仕える心」の最高の表現でした。そのとき、マリアは教会の母としての使命を受けられたのです。

何世紀もの間、多くのキリスト者は、「病む者にとっての健康」と呼ばれるマリアを観想しながら、病者に寄り添うやさしさを学んできました。

5. わたしは使徒的書簡『紀元2000年の到来』の中で、「人間生活にとって有益な科学的、技術的、医学的な進歩」（46項）に、特別の注意を払うようにと信仰者を招いています。しかしながら、病気を克服し苦痛の緩和に成功してきているといっても、人間が中心であることや人間の尊厳が無視され、踏みにじられるような多くの状況を忘れることはできません。医療が連帯性に基づく奉仕ではなく営利を目的とされたり、健康上の問題を抱えた家族が放り出されたり、社会の中でもっとも弱い人々が、無関心と差別の結果に甘んじなければならなかったりしています。

この「世界病者の日」にあたり、わたしは、すべての信仰者と善意の人々が協力して、人間社会を「希望の家」に変える努力を新たにするよう教会共同体を激励します。

6. このような努力をするためには、「教会共同体」が深い交わりを生きていなければなりません。つまり、男も女もすべての人が、みことばに耳を傾けること、祈ること、秘跡にあずかることを通して「ただ一つの心、ただ一つの魂」となり、兄弟愛によって連帯し、持ち物をより多く分かち合うときはじめて、「一つの部分が苦しめばすべての部分がともに苦しむ」（1コリント12・26）という聖パウロのコリントの信徒へのことばを実現するのです。

7. 愛する病者の皆さん。皆さんは、教会共同体の中で特別な場を占めておられます。皆さんは、今体験しておられる苦しみや、健康を取り戻したいという願望により、希望の価値に対して敏感でおられます。心も体も健康でありたいという皆さんの熱い望みを、マリアの取り次ぎにゆだねます。その望みを、キリストのたまものである「希望」という対神徳をもって照らし、高めるようお勧めします。

この希望は、苦しみを救いの道、福音宣教の機会、あがないの機会に変えるものであり、苦しみに新しい意味を見いだすために役立つでしょう。事実、苦しみが人間と社会そのものにとって、一つの積極的な意味を持ち得るということです。それはすべての人間が、救いをもたらすキリストの苦しみとその復活の喜びにあずかるように、また教会を聖化し築く力となるように招かれているからです。皆さんの苦しみの体験は、キリストの苦しみに結ばれており、聖霊がその中におられます。この体験こそが、復活の勝利の力を宣言するでしょう。

8. 多くの家庭が、病人を抱えることによって重い負担を担っています。このような家庭が背負っている重荷を、教会共同体をはじめ、あらゆる共同体がともに担うように招きます。それと同時に、苦しんでいる人々を見舞うようにとの主の命令がだれよりもまずその親族に向けられていることを思い起こしてください。愛をこめて自分を与える精神、および信仰と祈りと秘跡に支えられた家族の介護は、病者にとってはかけがえのないいやしの手立てとなり、またすべての人にとって人間としての貴重な価値、霊的価値を発見する機会となるでしょう。

9. 以上述べてきたことを踏まえて、専門家であれボランティアであれ、絶えず病者のそばで彼らの必要にこたえる医療関係者と司牧者に、特別の思いを寄せたいと思います。決して困難や無理解にひるむことなく、ゆだねられた任務の崇高な意義を忘れないでください。医療の世界にかかわるということは、単に病気と闘うだけでなく、何よりも人間の生活の質を向上させるということです。

人間の尊厳は、苦しみや病気や老化があるとしても、何ら損なわれるものではありません。病気の人や臨終の人を看護することは、衰えていく「外なる人」を助けることであり、それによって、「内なる人」が日々新しくなるのです（2コリント4・16参照）。

10. 悲しむ者の慰め手であるマリア、わたしたちは、医療に携わる人々や病者の看護に寛大に献身する人々と一緒に、身体的あるいは精神的に苦しんでいる人々をあなたにゆだねます。

母であるあなたのやさしさに、病者の涙、ため息、希望をゆだねます。その傷口に、慰めと希望の香油を注いでください。

わたしたちを、他者の必要に開かれた者、苦しむ人の助けに駆け寄る者、孤独な人に同伴する者、人生の多難な営みを終えようとする人に希望を与える者としてください。

わたしたちの歩みのあらゆるとき、喜びのときや悲しみのときに、母の愛をもって「あなたの子イエスを示してください。慈しみ、恵みあふれる、喜びのおとめマリア」。アーメン。

ヨハネ・パウロ二世

（訳 日本カトリック宣教研究所）

典礼 あ・ら・か・る・と 6

今月末から教会の暦は四旬節に入ります。四旬節の最初の日は「灰の水曜日」と呼ばれ、教会では、前年に祝福された枝を燃やしてできた灰を頭に受ける式が行われます。

灰はキリスト教だけでなくいろいろな宗教や文化でも、清めや回心や再生などのしるしとして用いられてきました。旧約聖書では、ヨシュアが頭に灰をかぶったこと（ヨシュア7・6）やニネベの王が粗布をまとって灰の上に座ったこと（ヨナ3・6）などが書かれています。また、イエスも、コラジンとベトサイダという町をしかるとき、粗布を着て灰をかぶって悔い改めることについて語ります（マタイ11・21）。悔い改めのしるしとして灰を用いる習慣は、やがてキリスト教にも取り入れられ、罪を犯した人が公に回心を表すしるしとしても用いられるようになりました。現在のように、灰の水曜日に回心のしるしとして灰を受けることは、十一世紀の終わりごろから始まったようです。

また、灰は命のはかなさ、死すべき命をも連想させます。司祭が灰を頭にかけるときのことばの一つに「あなたはちりであり、ちりに帰っていくのです」ということばがあります。確かにわたしたちは土に帰る運命にありますが、灰を祝福するときには次のような祈りがあります。「全能の神よ、あなたは、罪人の死ではなく回心を望まれます。…土から出て土に帰って行くわたしたちが…罪のゆるしを受けて新しいいのちを得、復活された御子の姿にあやかることができますように」。この祈りにあるように、はかない命をもつわたしたちにも、回心によってゆるしを受け、新しいいのちに生まれる希望が与えられているのです。そして、復活したキリストこそ、この希望の源です。このように、四旬節の初めに受ける灰は悔い改めを表すとともに、新しいいのちに生まれる希望をいだかせるしるしともいえるでしょう。（カトリック中央協議会『毎日のミサ』一九九五年三月号第一頁）

ご会葬御礼

故エミール・モーゼ神父の教区葬に際しましてはご多忙中にもかかわらずご会葬賜り、温かいご芳志をいただき心より御礼申し上げます。

勝手ながら香典返しとして福岡カトリック神学院並びに美野島司牧センターに寄贈させていただきましたので御諒承くださいますようにお願い申し上げます。

実は拝眉のうえお礼申し述べるはずのところ、略儀ながら紙上をもってお礼申し上げます。

一九九八年一月

福岡教区長　松永　久次郎
パリ外国宣教会管区長　ミシェル・コナン

神学院基金への寄付の御礼

故エミール・モーゼ神父様の香典返しとして教区長松永久次郎司教様とパリ外国宣教会管区長ミシェル・コナン神父様より多額の寄付をいただき心よりお礼申し上げます。

故人のご安息を心よりお祈り致します。

一九九八年一月

福岡カトリック神学院　山元　眞
美野島司牧センター　マルセル・コース

私に従いなさい

聖パウロ修道会
志願者募集

聖パウロ修道会は、社会的コミュニケーションを通して福音宣教を行う修道会です。現在、サンパウロ（旧：中央出版社）を中心に活動しています。将来の修道者（司祭、修道士）を希望するカトリック信者の男子志願者（新中学生以上）を募集しています。手続きなど詳しくはお問い合わせください。

〒810-0033
福岡市中央区小笹4-11-11
聖パウロ修道会福岡修道院
☎ 092-531-0924
FAX 092-524-6169
院長　Fr. 百村　等
担当　Fr. 戸村　修

福岡カトリック神学院
生徒募集

神学院入学を希望する者は、下記の条件が必要ですので、主任司祭と相談の上、福岡カトリック神学院までご連絡ください。

【入学条件】
①司祭を希望するカトリック信者の男子（来年3月に小学校卒業予定の現小学6年生以上）
②主任司祭の推薦
＊途中編入も可

詳しくはお問い合わせください。

〒810-0028
福岡市中央区浄水通38
福岡カトリック神学院
☎ 092-531-6821
FAX 092-524-7373
院長　Fr. 山元　眞

参加者募集のお知らせ

四旬節の黙想会

① 2月27日（金）16:00受付～3/1（日）15:00
② 3月 8日（金）16:00受付～ 8（日）12:00
③ 13日（金）16:00受付～ 15（日）15:00
④ 20日（金）16:00受付～ 22（日）15:00
⑤ 27日（金）16:00受付～ 29（日）15:00
⑥ 4月 3日（金）16:00受付～ 5（日）15:00
⑦ ※聖なる3日間とご復活を祝う／9日（木）16:00～12（日）昼食まで

指導：御受難会士
会費：各12,000円
⑦のみ18,000円
＊部分参加ご希望はご相談ください。

福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　**共立総合防災**
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ 土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092－526－5656
福岡市中央区平和3丁目11-5

福岡市にホスピスを！

賛同と協力を

福岡市にホスピスを設置する会

一九九六年十一月、まだ人生なかばにある御主人を亡くされた婦人の、御主人の最期を共にしながら痛感した「尊厳ある最期」への願いが「福岡市にホスピスを設置する会」として歩き始めようとしています。

昨今、社会において「生と死」に関する関心は、ますます高まりつつあり、「死」は、日本人の意識の中で急速にタブー視のベールをはぎ取られています。

死を直視して、真に人間らしく心安らかに最期を締めくくりたいと考えるのは、誰もが抱く希望でしょう。人は誰でも大きな困難を抱えている時、親しい人の死を突然迎えた時、また元気な時でも、心のケアを必要とします。

まして自分が病気をした時、死に直面している時、心のケアなしに人生を健全に対処していくことは非常に難しいでしょう。しかし、現代におけるターミナルケアの場では、そうした最も基本的な願いすら、かなえられないことが多いようです。

私たちは、二十一世紀の医療施設こそ、患者が残された日々を、心安らかに人間としての尊厳を保ちながら、家庭的な雰囲気の中で過ごすことができる、ホスピス（緩和ケア）病棟が設置されていることを強く望んでいます。

最近、鹿児島市や宮崎市、久留米市などでもホスピス病棟の設置のニュースを耳にします。福岡市にも是非と望んでいます。



そこで、第一回目の準備委員会を左記の要領で開催することにいたしました。

職業や宗教は問いませんが「福岡教区報」の読者の皆様のご賛同とご協力、ご参加を心からお待ちいたします。

日　時：二月十五日（日）
　　午後一時半より
場　所：大名町教会4階
呼掛人　鬼木保之（福岡生と老い死をみつめる会会長）／大山悟神父（生と老い死をみつめる会顧問）／小林計子（大楠教会信徒）

召命を共に祈る

有志の集いである「召命を共に祈る会」（代表＝青木悟神父）では、司祭、修道者の豊かな召命を求めて、祈りのうちに種々の企画をしている。同会は、福岡地区と教区レベルで集いがもたれているが、一月二十二日に佐賀教会で教区レベルの集まりがもたれ、以下のことが決定された。一人でも多くの信徒の参加が待たれている。

二月五日午後七時四十五分から、福岡サン・スルピス大神学院で召命祈願ミサ。福岡地区の「祈る会」は二月十二日に司教館で。徹夜祈祷会（教区レベル）が三月七日午後七時三十分から翌朝七時まで、福岡サン・スルピス大神学院で。次回の教区レベルの集いは熊本で予定されている（日時、場所は未定）。

また、青年の集いが二月二十二日（日）午前十一時から午後四時三十分まで、福岡サン・スルピス大神学院で開かれる。この青年の集いは今年度三回目で、司祭、修道者とともに祈り、分かち合いを通して、参加者各自の召命について考えるもの。この参加者の中から、早くも司祭、修道者の召命が生まれる兆しがある。

召命を求める祈り

神よ、わたしは、あなたの国の証し人となる人々が、数多く出るように祈ります。キリスト信者の心に聖霊の息吹を注ぎ、あなたの招きの声を強く響かせ、召し出しに答える清らかな愛を燃え立たせてください。さまざまな立場で、自分の召し出しを考えている人々が、あなたの呼びかけにすすんで答えることができるようにしてください。教会の母マリアよ、わたしたちの願いを聞き入れ、あなたの子イエスに取り次いでください。

いつくしみ深い父よ、あなたの民を顧み、イエス・キリストのために生涯をささげる司祭、修道者の召命をお与えください。聖霊の恵みと力に支えられて、多くの青年があなたの招きに答え、あなたの愛に強められて、兄弟に奉仕する心を与えられますように。

わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

うれしい初聖体

日系ペルー人の子どもたち

美野島の外国人司牧センター（コース・マルセル神父）では昨年十二月十四日、八～十二歳の男女各四人計八人の子どもたちが、めでたく初聖体をうけた。

これは三位一体修道会のシスター大山の協力で初めて実現したもの。日曜学校をきちんと開き、三か月かかって準備したが、ミサや勉強会に参加させるために、シスター大山とスタッフたちは悪戦苦闘した、という。

当日、借り物の初聖体衣装を着けた子どもたちは、嬉しさ一杯ではしゃいでいたが、式が始まると緊張して神妙な面持ち。見守る両親たちも満足感にみたされていた。

式後ホールで祝賀会。故国での大パーティーには及ばなかったが、母親たちがわざわざ名古屋からペルーの調味料や香辛料、食材を取り寄せて作ったごちそうに、一同舌づつみを打った。

美野島司牧センターは、開設後四度目の新年を迎えた。活動といえば日曜日のミサがほとんどで、あとは少ないながら洗礼の勉強といった程度。ところがこの二年ほどの間に、子どもたちが次第に増え（現在三十～四十人）、日曜学校の充実が課題になっている。

子どもたちの両親は大半が外国人（そのほとんどはペルーなど南米日系人）だが、最近は国際結婚によって生まれた子ども増加傾向にある。



初聖体をうけて記念撮影

子どもたちはその特性として、あっという間に日本語をおぼえる一方で、母国語が上達しない親とのコミュニケーションがむずかしくなり、信仰教育をしたくても十分にできない、という深刻な問題が生まれつつある。

今後、毎年のように洗礼や初聖体の準備が必要になろう。子どもたちは日々成長しており、信仰も配慮しなければならない。

生活面での相談や司牧面に追われる中で、司牧面にも対応していくことは容易ではない。司祭をはじめ修道者、そして信徒一般の協力と支援が不可欠である。

（取材協力　M・コース神父）

私の「他宗教との対話」

今から四十年ぐらい前に、山梨県で、初めて一人の住職さんに会いました。そのとき、私と一緒にいた知人は「おぼうさんに《こんにちは》と言ってください。」と私に言いました。私が素直に、「こんにちは」と言ったら、住職さんは「こんにちは」と答えました。私の仏教との初めての対話がこれだけだったのです。

今、私はいろいろの宗教のたくさんの聖職者たちと親しくお付き合いをさせていただいています。あちこちのお寺などで話を頼まれることもあって、佐賀の「カトリック人生講座」で毎年、他宗教の一人の聖職者に講義をしていただいています。しかし、私にとって、一番楽しくて有益な「他宗教との対話」をする所が「佐賀会座」という仏教研究会です。その研究会には、何人かの僧侶も参加しますが、女性も男性も、青年も老人も皆、平等の立場で、積極的に話し合っています。私は、毎年かならず指名されて、しゃべらせていただきます。その代わりに、「佐賀会座」の何人かの会員は（一人の住職さんも含めて）佐賀カトリック教会で開かれる「聖書を読む会」に参加してくださっています。

昨年から、私は「九州龍谷短期大学」の仏教科でキリスト教学を講義するようになりました。そこで私は、キリスト教学の講義をしてから、一人の学生になって、仏教関係の講義を拝聴します。これも素晴らしい対話だと思います。

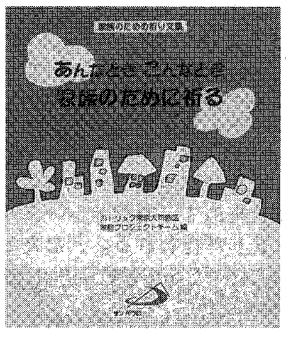
時によって、私は、眠っていながらも、「他宗教との対話」をすることがあるかもしれません。それは、私が眠っているときに、だれかが「心のシルクロード」を読んでいるかもしれないからです。『心のシルクロード☆神父と僧侶の往復書簡』という本では、伊万里市の井手恵住職さんと私は、宗教、教育、福祉、いじめなどについて話し合っています。まさに、仏教とキリスト教との対話のユニークな書物で、もうすぐ、初版第六版発行になります。その本を読んで、キリスト信者は仏教の考え方を知り、一般の人はキリスト教の考え方を知ることができます。だれが読んでも、「心が暖まる…希望が涌いてくる。」と言ってくれます。

ついでに…キリスト教を人に分かりやすく紹介したいと思う方は、その人に『心のシルクロード』をプレゼントしてください。定価は、一二六一円（税別）です。電話でも「佐賀新聞社の出版部」に求めることができます。☎0952・28・2152

A・アレグリーニ神父
（佐賀・ロザリオの園）

BOOK 読みは専科

★あんなときこんなとき
家族のために祈る
カトリック東京大司教区家庭プロジェクトチーム編



神さまに祈るいろんなお祈りが展開されている。

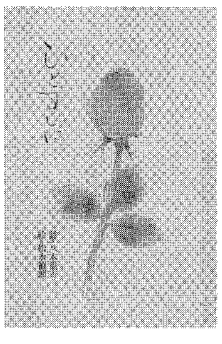
子供の祈り、父親、母親の祈り、老人の祈りなどそれぞれに味がある。一般の方々から家庭プロジェクトチームが募集した祈りの傑作である。

家族のために素直に祈ることの感動を、この書は教えてくれる。

対象・小学生高学年～大人まで
B6版変型　一八〇ページ
サンパウロ　税別九〇〇円

◇　◇　◇

★ひとすじに
詩　八木重吉
絵　松永禎郎



ミニ本シリーズの最新刊。ひたむきに神にあこがれ、人を愛する道を求めつづけた信仰の詩人八木重吉の珠玉の名編。

淡く美しい水彩画によって、いっそう心が豊かにされる。

手もとにおいて味わい、誰にでも親しめる。記念品や贈りものとしても手ごろで好適。

―冬の日は　やわらかく
慈悲の顔のようにあかるい―

女子パウロ会　税別六〇〇円

ジャパンスマイルか
株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石材素材 { 石の理想 / 石の影像 / 他の御そ }
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2-21
TEL096-352-2417

福岡黙想の家　2月

◇4日(水)　ミカエル会
◇10日(火)～11日(水)　きょうだい会
　聖母カテキスタ会
◇13日(金)～15日(日)　福岡黙想の家後援会員の黙想会
　総会
◇15日(日)～16日(月)　パリミッション会集い
◇15日(日)～21日(土)　アウグスチノ会黙想会
［問合先］黙想の家　☎ 0940・32・3222
　FAX 0940・32・3385

生命山カトリック別院

生命山では、皆様のために、美しい自然の中で、神との語らいの日々を過ごしていただきたく、黙想会を計画いたしました。ご参加ください。
■祈りの集い
日時：②2月12日（木）10時～15時
テーマ：詩編を祈る（全10回）
指導：フランコ神父
★次回は③3月10日（火）です。
＊個人、又はグループでの黙想等、常時受け付けています。
［問合先］生命山カトリック別院　☎0968・85・3100

『こころの病』理解のために
―みんなの集い―

講演　「ギャンブル汚染列島」帚木蓬生氏（作家・精神科医）
メッセージ　「旅立ち、よろしく」宮崎たかし氏（ギタリスト・シンガー・KBCテレビキャスター）

と　き　2月14日（土）13時（開場12時）
ところ　西市民センター（地下鉄姪浜駅より徒歩2分）
☎092-891-7021　＊公共交通機関をご利用下さい

会合と催し

教区年間テーマ：キリスト者を活かす聖霊を信じます

2月

2日（月）主の奉献
3日（火）司祭評議会［司教館別館10時30分］／顧問会
5日（木）日本26聖人殉教者
6日（金）聖アガタおとめ殉教者
　福岡・路上生活者への炊き出し(2月中の火・金)
8日（日）福岡地区信徒協代表者会議（カテドラル）
10日（火）聖スコラスチカおとめ
11日（水）ルルドの聖母／建国記念日
　典礼聖歌研修会（カテドラル）■
14日（土）聖チリロ・聖メトジオ
　＋J.オマラ［荒尾教会1974］
16日（月）＋J.ボア［黒崎教会1957］
22日（日）聖ペトロ使徒座
　＋F.ベルトラン［門司港教会1940］
23日（月）＋パウロ糸永武男［今村教会1992］
25日（水）灰の水曜日（四旬節）大斎・小斎
26日（木）今村信徒発見記念日
　＋F.ドルエ［八王寺教会1983］
　＋G.オーブリ［大神学院院長1985］
28日（土）＋マルチノ青木保［浄水通1997］

■印は本面に詳細説明あり

3月　聖ヨセフの月

1日（日）四旬節第1主日
2日（月）＋R.ミケレ［鹿島教会1987］
　＋J.オブライエン［手取教会1990］
3日（火）松永司教霊名祝い（浄水通教会11時）
6日（金）朗読奉仕者・祭壇奉仕者選任式
　（福岡サン・スルピス大神学院10時30分）
　＋H.ジョリ［久留米教会1966］
8日（日）四旬節第2主日
12日（火）＋F.M.ヴェイヨン［唐津教会1973］
15日（日）四旬節第3主日
16日（月）＋L.M.ベリボ［箱崎教会1977］
19日（木）聖ヨセフ／松永司教霊名の祝日
　＋J.ベラス［水俣教会1990］
　＋M.ボア［新田原教会1959］
21日（土）春分の日
22日（日）四旬節第4主日
25日（水）神のお告げ
26日（木）＋J.ドイル［荒尾教会1962］
　＋J.ムルグ［小倉教会1989］
29日（日）四旬節第5主日

■印は本面に詳細説明あり

福岡

■第5回福岡カトリック・パストラルケア研究会　この研究会は、病人訪問や病人の世話に関わり、あるいはそれらに従事する人々による、勉強会です。病人訪問時の病人への対応の仕方、病人（入院患者）の心理、病者の塗油の秘跡や、カトリックの葬儀などについて勉強します。［日時］2月1日（日）14時～16時［場所］福岡サン・スルピス大神学院新館ホール［内容］勉強会［参加費］無料［問合先］事務局（シスター箕浦☎092・871・4943大神学院）

■カテキスタの集い　［日時］2月1日（日）13時30分～15時30分［場所］福岡カトリック神学院［講師］山元眞神父（同神学院院長）［テーマ］子供のミサ［会費］500円［問合先］福岡カトリック神学院☎092・531・6821 FAX 524・7373

■炊き出しのお知らせと協力のお願い　［日時］2月の火曜日、金曜日（計8回）［内容］①調理（15時～17時、大名町教会厨房）②配布（20時30分～22時、博多駅・天神界隈）③献品（米、卵、アルミホイル、サランラップ、紙コップ、ホッカイロ、毛布、下着＊厨房の炊き出し用の箱にお入れください）④献金（司祭へ預けてください）［主催］「2月の熱いスープ」の会［問合先］責任者・佐田一兵（大名町教会所属）☎092・933・6545

■典礼聖歌研修会―ミサを歌おう　［日時］2月11日（水）［場所］カテドラル大名町教会［講師］新垣壬敏氏（白百合女子大学教授）［参加費］大人1000円、中・高生500円［主催］福岡教区典礼委員会［申込締切］1月28日［申込先］教区本部事務局 FAX 092・523・2152

■福岡地区・召命を共に祈る会　［日時］2月12日（木）14時～［場所］司教館5階会議室［問合先］青木悟神父☎092・522・5139（教区本部）

■第16回「出会いの集い」　［日時］2月15日（日）13時～16時30分［場所］カテドラル大名町教会1階講堂［内容］お話し（浦口均神父）・ダンス（吉川信雄氏）・レクリエーション・お茶・派遣の祝福［対象］20歳以上の独身男女［参加費］1000円［主催］カトリック福岡司教区カナの会［申込締切］2月5日［申込先］渕上（光丘）☎092・501・8198／安部（高宮）☎512・4028　各務（かがみ・古賀）☎943・4759

■第71回福岡結婚準備セミナー　［日時］2月19日（木）～3月14日（土）毎土曜・木曜日19時～21時30分［場所］カテドラル大名町教会［申込・問合先］カトリックファミリーセンター☎092・541・6207 FAX 552・5022

■青年の集い　［日時］2月22日（日）11時～16時30分［場所］福岡サン・スルピス大神学院［内容］分かち合い、講話、ミサ（山元眞神父司式・説教）［主催］福岡地区・召命を共に祈る会［問合先］青木悟神父☎092・522・5139（教区本部）

■福岡生と老い・死をみつめる会　［日時］2月22日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会4階会議室［テーマ］講話「犯罪が映す生と死」と語り合い、死別体験者の語り合い［講師］芹野陽一氏（元法務技官・四国学院大学教授）［会費］500円。［問合先］事務局（大山美穂子☎ FAX 092・713・8523／村尾嘉道☎607・6992）

■聖歌研修会　［日時］3月1日（日）13時～［場所］カトリック大楠教会［聖歌指導］深堀純氏（大名町教会信徒）［内容］四旬節・聖週間の聖歌

■カテキスタの集い　［日時］3月1日（日）13時30分～15時30分［場所］福岡カトリック神学院［講師］山元眞神父（同神学院院長）［テーマ］子供のミサ（初聖体）［会費］500円［問合先］福岡カトリック神学院☎092・531・6821 FAX 524・7373★当日、浄水通教会では9時のミサの中で初聖体式が行われます。ご参加ください。

■朗読奉仕者・祭壇奉仕者選任式　［日時］3月6日（金）10時30分～［場所］福岡サン・スルピス大神学院

■典礼・聖歌と祈りの集い　［日時］3月8日（日）14時～17時［場所］福岡黙想の家［内容］四旬節・聖週間の聖歌［聖歌指導］深堀純氏［会費］100円［主催］福岡典礼聖歌研究会［問合先］福岡黙想の家☎092・532・3222 FAX 0940・32・3385

北九州

■第10回お母さんの集い　［日時］2月9日（月）10時30分～13時［場所］カトリック小倉教会聖堂［テーマ］築きましょう温かい人間関係［講師］土岐圭子氏（親業訓練インストラクター）［内容］講話とミサ［参加費］500円［問合先］福吉三代子☎093・962・1395

佐賀

■聞文化セミナー―聖書に学ぶ家庭生活―佐賀新　結婚と家庭生活について聖書をもとに三カ月にわたってアレグリーニ神父とともに考える。［日時］第二、第四土曜日15時30分～17時［場所］玉屋教室［講師］アレグリーニ・アレグリーノ神父（ロザリオの園）［受講料］7200円（プリント料300円）［申込・問合先］佐賀新聞文化セミナー事務局☎0952・28・0371

■平和をともに考える2月11日佐賀の集い―社会に開かれた教会の使命は、平和のために働くこと　［日時］2月11日（水）14時～16時［場所］佐賀カトリック幼稚園講堂［講演］平和のために働く人は幸い［講師］岡田武夫司教（浦和教区長）［参加費］無料、会場カンパをお願いします［主催］佐賀カトリック正義と平和協議会［問合先］森内慎一郎☎0952・30・9015

熊本

■第55回熊本結婚準備セミナー　［日時］1月19日（月）～2月16日（月）毎月曜・火曜日19時～21時30分（2月3日は休会）［場所］手取教会［申込・問合先］手取教会☎096・352・3030 FAX 092・552・5022（カトリック・ファミリーセンター）

第7回　全国カトリック家庭セミナー
家庭のきずな―親子・夫婦

日時：1998年2月22日（日）～23日（月）
場所：日本カトリック会館
プログラム：（予定）22日講演①森一弘司教／テーマ：夫婦のきずな／／23日講演②アグネス・チャン／テーマ：親子のきずな
参加費：一日／1000円／対象：信者に限りません
申込・問合先：カトリック中央協議会・家庭委員会
日本カトリック会館内　☎03-5632-4445／ FAX 5632-4465

召命祈願ミサ

2月5日（木）19時45分、有志の会である《召命をともに祈る会》主催で、福岡教区に豊かな司祭、修道者の召命を求めて、福岡サン・スルピス大神学院で「召命祈願ミサ」が行われる。どなたでも参加できます。

編集後記

助っ人が一人現れました。年末に故障していたMACも元気になり、新人もやがてMACのお友だちになるでしょう。変な天気です。お体、ご大切に。

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

9巡礼教会を指定

信仰生活の充実ねがい

２０００年の大聖年に向けて

福岡教区長ヨセフ松永久次郎司教は二月二十五日、大聖年を準備する期間に当たり、福岡教区内の九教会を巡礼教会に指定した。これは聖フランシスコ・ザビエル来日四百五十周年と日本二十六聖人の殉教四百周年を記念する意向がふくまれている。

指定された教会に参詣し、定められた条件を満たす信徒は、部分免償をうけることができる。

巡礼指定教会は次の通り。

【福岡地区】**大名町教会**（日本26聖人の一人聖パウロ三木に捧げられている）**今村教会**（キリシタン時代の殉教者の記念）

【北九州地区】**小倉教会**（殉教者加賀山隼人の記念）**湯川教会**（聖フランシスコ・ザビエルに捧げられている）

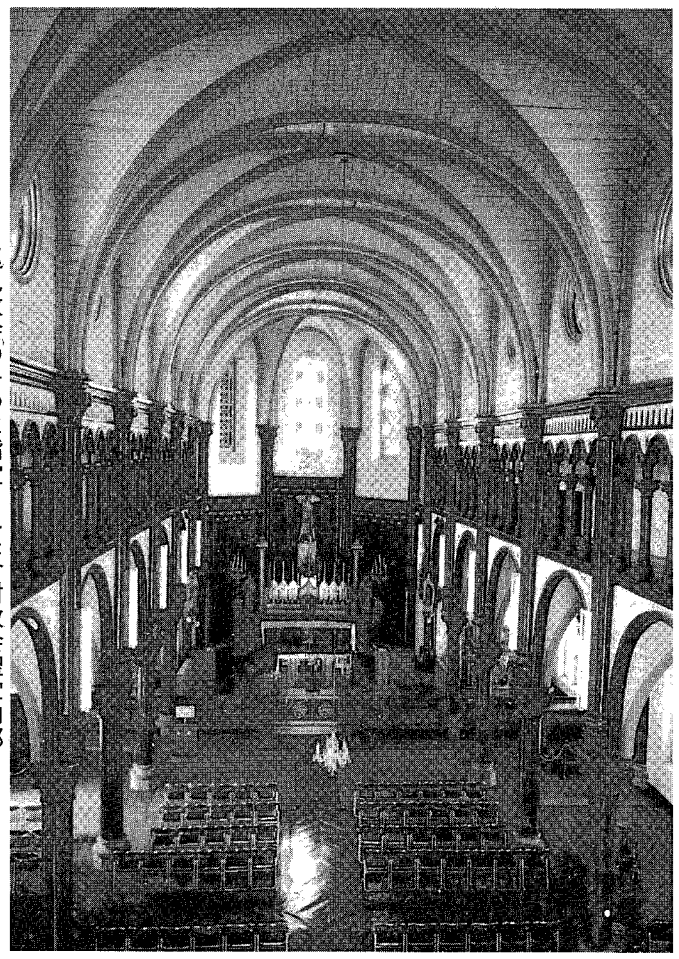
【熊本地区】**手取教会**（小笠原玄也一家殉教者の記念）**八代教会**（八代の殉教者の記念）

【佐賀地区】**佐賀教会**（一九九九年に小教区設立百周年を迎える）**多久教会**（日本二十六聖人ゆかりの教会）

期間は一九九八年四旬節から一九九九年十一月二十七日まで、指定された教会に参詣し、指定された祈りを、教皇様の意向に従って唱えることが条件。

指定された祈りは、使徒信経、主の祈り、天使祝詞、栄唱、聖霊の降臨を求める祈り、召し出しを求める祈りだが、他の適当な祈り、例えばロザリオなどを加えて祈ることが勧められる。

松永司教は、より多くの信徒が上記の趣旨に従い、必要な条件を満たして、教会の霊的宝庫から豊かな分配に与かり、信仰生活をより充実させるよう、強く要望している。


巡礼教会の一つに指定された今村教会聖堂内部

免償とは…

「赦された罪に対する現世での罰が神から許されること。正しい心構えと定められた条件を満たすキリスト信者はこの許しを教会の取り次ぎによって得る。教会は救いの奉仕者として、キリストと聖人たちが得た償いの宝庫から権威をもって分配し適用する」。（教皇パウロ六世、免償についての教皇制定法）

部分免償とは…

赦された罪に対する有限の罰の一部分を取り除く免償。かつては何日、何月、何年という期間が付けてあったが、現在ではすべて除去された。新しい規準によると、部分免償はそれを得る人の心構えと免償付の行為の性格に基づいている。（現代カトリック事典より）

教区内での今後の動き

聖香油ミサは聖火曜日の午後３時からに変更

去る二月三日、司祭評議会の会合が司教館別館にて行われ（出席者は松永司教他司祭十六人）、大聖年の準備や来年度の予定などについて討議がなされた。

一、大聖年準備関係で決まったこと

①記念行事、集会等の企画は各地区で考える

②教区内で巡礼して大聖年を準備する。そのために聖年の殉教者と聖フランシスコ・ザビエル関係の教会を巡礼のために指定する。巡礼者には部分免償が得られる。（**本面記事参照**）

二、来年度の予定

①例年聖木曜日に行われていた聖香油ミサは、四月七日の聖火曜日午後三時からカテドラル大名町教会で行われる。信徒、修道者の参加が望まれる。なお、ミサ後に司祭叙階10周年、25周年、50周年の祝いがある。

②聖霊の年にあたり、聖霊降臨祭（五月三十一日）をカテドラルで午後一時三十分から特別に祝う。そのミサの中で合同堅信式が行われる。受堅対象者は、復活祭前後に受洗した大人。なお、この機会に未受堅者を掘り起し、堅信の秘跡を受けられるように配慮する。聖霊の年にあたって、教会の誕生を祝うミサの中で、聖霊についての「証し」の場をもうける。

③教区内全司祭対象の研修会は六月八日（月）から十日（水）に行われる。前半は聖霊についての講演会、後半は大聖年に向けての教区の取り組みを考える。開催場所は未定。

④教区司祭の黙想会は十月十二日から二十三日にフランスのアルスで開かれる。その間、いくつかの小教区は主任司祭不在になるので、宣教会、修道会司祭と信徒の方々の協力が求められている。

一九九八年四旬節教書

赦しはすばらしい信仰体験

福岡教区長ヨセフ松永久次郎司教は一九九八年の四旬節に当たり、恒例の教書を発布、特に聖霊の働きである赦しの秘跡について述べ、教皇の意向にそって「回心と刷新」を呼びかけている。

松永司教は教書の中で、赦しの秘跡がすぐれた信仰体験・真の謙遜を示す行いであり、神が慈しみ深い私たちの父であることを実感する秘跡である、とその真髄を示し、それゆえにこそ、形式になげれることなく、ふさわしい準備をもってこれに近づくよう促している。

共同回心式が行われるようになってから、とかく信徒たちは四旬節と待降節の二回で済ます傾向があるが、適当な期間ごとに赦しの秘跡に近づく必要があるとのべ、具体的に、例えば復活祭の頃はもちろん、あがないのみ業の節々に、すなわちクリスマス、聖霊降臨、聖母被昇天祭、諸聖人祭、また誕生日や結婚記念日、近親者の命日など、人生の節々に、この秘跡にあずかるよう強く勧めている。

最後に、主の祈りの精神に従い、神と兄弟に赦しを願う前に隣人を赦す「赦しのこころ」を持つことを求めている。

（教書全文は2面に掲載）

選任式

三月六日十時三十分から、福岡サン・スルピス大神学院で朗読奉仕者と祭壇奉仕者の選任式が行われる。小倉教会出身の藤渕邦大神学生が祭壇奉仕者に選任される。

司祭異動

三月八日付／馬渡島教会（呼子教会主任）田川清美▼呼子教会（馬渡島教会主任）伊東成晃

「世界青年の日」メッセージ

ヨハネ・パウロ２世

教皇ヨハネ・パウロ二世は今年四月五日に行われる「世界青年の日」のためにメッセージを送り、地の面を新たにする霊について思いめぐらすよう、若者たちに勧め、主のみことばが、後には堅固で実り豊かなものとなりました」と、聖霊のたまものによって、キリストのわざが成し遂げられたことを説く。

聖霊はあなたがたにすべてのことを教えてくださる

「聖霊はキリスト者に、素直さ、自由、忠実の賜物を与えます…実に聖霊は知恵と識別の霊、思慮と勇気の霊、主を知り、畏れ敬う霊です」。聖霊なくしてはキリストのくびきを負うこともできない、と述べ、「聖霊は人を大胆にし、…典礼の中でキリストの秘儀を体験させ…教会の中で、疲れを忘れて働くように、失敗を恐れず最後まで努力するよう促します。

「一致」こそは聖霊の賜物であり、互いに理解させ、文化や民族の違いをこえて、私たちが神の子、兄弟姉妹であることを認めさせる。だから教会は「この千年期の終りに当たり、聖霊の働きを祈り求め、キリスト教一致の賜物を願わなければなりません」と強調される。

最後に「聖霊の賜物はすべての召命の根本」であるとし、キリスト者への招き、すなわち聖なる者となり、多種多様の召命と使命を果たすためにも霊に支えられ、養われなければならない、と若者たちを励ましている。

花岡山殉教祭への御案内

十主の平安。イエス・キリストの十字架上の御受難と御復活の栄光を黙想しつつ。

毎年、花岡山にて行われております小笠原玄也、加賀山マリアみや御一族の殉教祭を、今年は来る四月十九日（日）、松永久次郎司教様をお迎えし、左記の通り執り行うことになりました。大勢の皆様方のおいでをお待ちいたしております。

記

一、日時　四月十九日（日）午後二時
二、行事　野外ミサ、司式　松永久次郎司教
三、場所　加賀山マリア殉教碑前（花岡山）

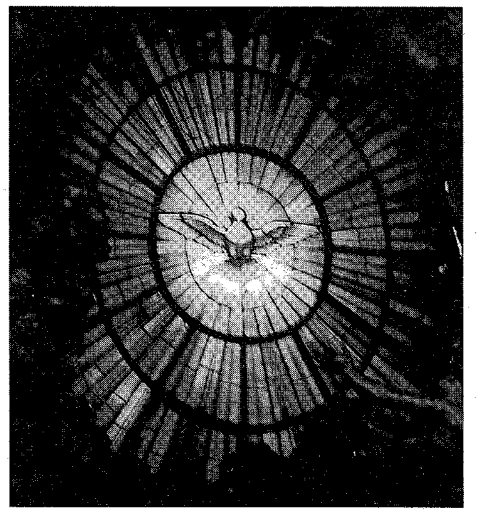
なお、当日雨天の際も、予定通り挙行いたします。

お問い合わせは、島崎教会へ　☎０９６・３５２・５６１０

みちくさ

「サンタ・マリアのご像はどこ？」　これは三百年近く続いた迫害の時代を通り抜けた日本の信者の信仰告白であった。ところで、これに続いて信者たちは宣教師に、「わたしたちは今カナシミ節を守っています。あなたも守りますか？」と質問したということである（その年の灰の水曜日は三月一日、復活祭は四月十六日であった）。四旬節という日本語はまだなかったが、「四旬節のこころ」を信者は大切にし、実践していたのである。プチジャン神父はそのことがよく分かった。そして「わたしたちもカナシミ節を守ります。今日はその十七日目です」と答えたそうである▼福岡県大刀洗町・今村の信徒発見の場面もこれに通じるものがある。長崎浦上から訪ねて来た四人の信者を迎えて、今村の婦人が尋ねた。「夕飯のお菜は何にしましょうか。鶏はどうですか？」「わたしたちは鶏も卵も食べません。食べてはならぬ時ですから…」これで疑いは晴れた。信者であるに違いないと思った。この出来事が起こった時も（一八六七年二月二六日）四旬節の中だったからである▼カトリック信者は苦しみを通してキリストの十字架の犠牲に与かるこころをいつも持っている。そして償いの実践がその特徴の一つなのである▼外面的な迫害のない信教自由の国、経済的には豊かになったと言われる日本で、健康のため、美容のためのダイエットの話はよく聞くが、霊的健康、魂の美容のための苦行の話はあまり聞かないようだ。何かをどこかに忘れて来たようで、寂しい気持ちがするのだが…　（M）

一九九八年四旬節教書
赦しは聖霊の特別な働き



十父と子と聖霊の御名によって。アーメン。

一九九八年の四旬節にあたり、この聖なる季節をふさわしく過ごすことができるようにとの祈りをこめて、福岡教区の神の民の皆様に、心からのご挨拶を申し上げます。

ところで私たちは今、西暦二千年の大聖年を迎える準備の期間にあたりますが、パパ様はそのために特に「回心と刷新」を呼びかけておられます。今年はまた「聖霊の年」と指定されています。キリストは復活の日の夕方弟子たちに現れ、彼らに息を吹きかけて、「聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される（ヨハネ20・22～23）」と言われました。実に罪の赦しは特別に聖霊の働きと言うことができるのです。

この「聖霊の年」に赦しの秘跡について考えるのは相応しいことだと思います。

一、赦しの秘跡は信仰の行い

赦しの秘跡は、神の前に自分の罪を認め、神の代理者である司祭にそれを告白して、赦しの恵みを願うことであり、それは優れた信仰の行いです。教会憲章は、「多くの点で過ちを犯すわれわれは皆絶えず神の憐みを必要とし、日々『われらの罪を赦したまえ』と祈らなければならない」（40）と教えていますが、赦しの秘跡において、私たちはこの信仰を表明します。自分の罪を認めそれを告白することは、人間的に考えれば愚かとも言えますが、これこそ真の信仰を示す美しい行いなのです。それはまた、神と人との前に赤裸々な自分の姿を認める、真の謙遜を示す行いでもあります。

このように、赦しの秘跡において、罪人のわたしは、聖なるお方の前に出ます。自分が罪人であることを告白するとき、私たちは至聖なるお方に、言わば直接触れるような信仰体験をいたします。そしてこの至聖なるお方は同時に、慈しみ深い私たちの父であることを実感し、確認するのです。だからこそ、赦しの恵みによって私たちは、人間全体を包む根源的喜びを体験することになるのです。信仰を持ち誠実な心で赦しの秘跡に近づく者は、だれでもこの信仰体験を分かち合うと思います。

二、相応しい準備・糾明と痛悔

赦しの秘跡のお恵みに与かるためには、相応しい準備が必要です。すなわち両親の糾明を行って自分の罪を正しく認め、真の痛悔の心を起こすことが求められます。

私たちは先ず、神と隣人に対する務めを正しく果たしたかを反省しなければなりません。そのためには、糾明の具体的方法が種々教えられていますので、それらを利用してください。ここでわたしは、一つの方法として、「主の祈り」を真心こめて唱え、「主の祈りのこころ」を正しく実行しているかを確かめるよう勧めます。それは結局、神への賛美の務めを果たし、隣人愛を正しく実行しているかを確かめてみることになります。また、イエスのお言葉、「殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、父母を敬え、また隣人を自分のように愛しなさい」（マタイ19・18～19）とのお言葉をそのまま受けとめ、その一つ一つを自分の日常の行動に当てはめて吟味するのも、もう一つの方法です。これらの方法は通常、親しみ易く簡単で実際的だと思います。

私たちは罪を認めた後、真の痛悔を行うべきです。すなわち罪によって慈しみ深い父である神のみ心を傷つけたこと、そして十字架を通して私たちの罪の償いをしてくださったキリストの救いの愛を無にしたことを真心込めてお詫びし、また永遠の命への招きを軽視して地獄の罰に値する者となったことを悔やむことが必要です。また罪によって私たちは隣人の加害者となっていますので、そのこともお詫びすべきです。私たちは、「全能の神と兄弟の皆さんに」心からお詫びするとともに、再び罪を犯さないと固く決心し、善い行いによって過去の不足を補うよう努力することが必要なのです。

この糾明と痛悔が赦しの秘跡の基本的準備となります。

三、適切な時期に赦しの秘跡を受けること

近頃、信者が赦しの秘跡を受ける回数が少なくなったようです。告白台は物置になっている教会も時として見られるほどです。教会の掟は少なくとも年に一度赦しの秘跡を受けるようにと定めていますが、毎日曜相応しい心でご聖体の秘跡に近づくためには、また聖霊の導きのもとキリスト者としての生活を毅然として生きていくためには、適当な期間毎に、赦しの秘跡に近づく必要があります。自分の弱さを認める謙虚な信者は、特にそうあるべきだと思います。

「毎日のお祈り、一週に一度のミサ、一カ月に一回の赦しの秘跡」とある宣教師が呼びかけているのを聞いたことがありますが、わたしもこの呼びかけに賛同する者です。信者は一カ月に一回、せめて二カ月に一回、赦しの秘跡を受けるようお勧めいたします。ご復活祭は言うに及ばず、クリスマス、聖霊降臨、聖母被昇天祭、諸聖人祭など大祝日の前には、できるだけ赦しの秘跡を受けるようにしてください。そして誕生日、結婚記念日、親しい方の命日など、特別のお恵みをお願いするときは、赦しの秘跡を受け心を清めた後、神に特別のお祈りを捧げるようにいたしましょう。

四、赦しの心を持つ

キリストは「赦してあげなさい。そうすれば、あなたがたの過ちを赦してくださる（マルコ11・25）」と言われましたが、これは山上の説教の「主の祈り」に始まって新約聖書を一貫するキリストの基本的な教えの一つです。私たちは罪人です。赦しのお恵みをいただくことなしには、神のみ心に叶うことはできません。ところで神の赦しをいただくためには、隣人に対する私たちの赦しの心が言わば必要条件なのです。実に、赦しのこころは救いの道です。赦しのこころこそキリスト者の心です。カトリック者は赦しの秘跡に親しみ、赦しのこころを会得して、生きていくべきなのです。

「赦しを与えてこそ、真の平和は実現する」という趣旨のメッセージを、パパ様は昨年の世界平和の日に全世界に向けて送られました。真に、赦しのこころこそ、わたしたちの心に、わたしたちの家庭と教会に、そして社会にまた全世界に、真の平和と喜びをもたらすものなのです。赦しのこころは「キリストのこころ」「カトリックのこころ」なのです。

― 結び ―

赦しの秘跡については語るべきことがまだまだ沢山ありますが、今回は司牧的な面をほんのわずかだけお話ししました。福岡教区の信者の皆様が、赦しの秘跡について勉強を続けてくれることを希望いたします。そして赦しの秘跡に親しみ、適当な期間毎にこの秘跡を受けてくださるようお願いいたします。もし信者の皆様が赦しの秘跡をもう一度よく勉強して、そのお恵みを信仰生活に活かすよう習慣づけるとすれば、二千年の大聖年の素晴らしい記念の一つになると思います。

神の赦しに基づく平和に満たされて、お恵み豊かな復活祭を迎えられるよう、そして聖母マリアとともに復活の喜びに与ることができるよう、心を込めてお祈りいたします。

一九九八年四旬節

カトリック福岡教区
教区長　ヨセフ　松永久次郎

典礼 あ・ら・か・る・と 7

洗礼準備と受洗後の導き

入信の第一段階である入門式をとおして求道者として共同体に受け入れられた人は、洗礼志願式において洗礼を受ける意志を表明し、教会は、その人が神から選ばれた者であることを宣言します。

洗礼は本来、復活徹夜祭に授けられるもので、四旬節はその準備期間としての性格をもっていることから、洗礼志願式は四旬節第一主日に行われます。この式によって始まる洗礼準備期の間、「志願者の心は良心の反省と回心のわざによって清められ、聖霊に照らされて救い主キリストの深い認識に達するように」（「成人のキリスト教入信式の緒言」26）導かれます。また、四旬節第二、第四、第五主日には「洗礼志願者のための典礼」が行われ、教会は洗礼志願者の決意が固められるよう祈ります。「成人の入信式」一五六番では、復活節の全期間を、復活徹夜祭で洗礼を受けた人々を教会共同体へと導く期間にあてるよう次のように勧められています。

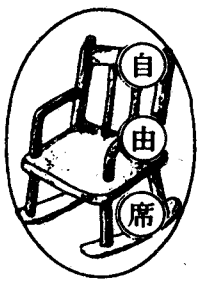
「復活節の全期間がこれ（入信の秘跡直後の導き）に当てられる。入信した人の最初の歩みを助けるために、信者の共同体、代父母と主任司祭はあらゆる機会に懇切に援助することが必要である。かれらが共同体に喜んでとけ込むことができるよう、細心の注意を払う」。

このような共同体の導きと協力のうちに、洗礼を受けた人々はキリスト者としての歩みを始め、ミサや他の秘跡の典礼に参加して聖書の理解を深め、さまざまな教会活動をとおして、教会共同体との交わりを深めていきます。そして、新たに洗礼を受けた人々とのこのような交わりをとおして、すでに洗礼を受けた信者も、つねに新しい気持ちで教会活動にのぞむことができるのです。

（カトリック中央協議会『毎日のミサ』一九九五年三月号第二一頁・同一九九六年四月号第二一頁）

ルルド記念巡礼に参加して

畠山春秋



昨年の暮れに二日市教会に行くと『ルルドの聖母御出現一四〇周年記念巡礼』のパンフが出ていた。自分の年を考え、意を決して参加することにした。

出発は二月七日。四日後の二月十一日、十時三十分からルルドの地下大聖堂で、御出現記念荘厳ミサが行われた。各国の千人を越す聖職者や四万人のシスター、信徒、未洗者で広大な大聖堂も満員。神の国の縮図を見ているようだった。

私たちの入堂が遅く最後列だった。が、背の低いご婦人二人は、隣の人の配慮で最前列へ行かせてもらった。近くにいた三人のシスターは、祭儀がよく見えるよう、時々前後を交代していた。人垣で撮影できない人がいると、前列の者がカメラを引き取って撮影を代行していた。ルルドは優しかった。

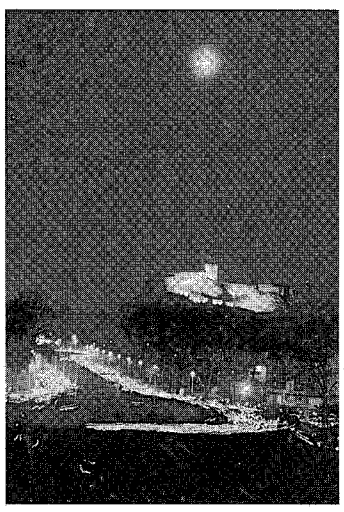
福音は六カ国語で朗読された。カナの婚宴の場面だった。カナでもマリア様の隣人愛がイエス様の奇跡に結びついた。共同祈願は各代表者が自国語で唱え、会衆がキリエ・エレイソンと大合唱した。その歌声は、天国の三位一体のみもとへと届いたに違いない。

二十時四十五分からロウソク行列があった。大聖堂にある丘に相対する丘のうえにあるルルド城は、ロウソクの灯と同色にライトアップされ、ルルド城の上には丸い月が輝いていた。

祈りの合間に時々、会衆がロウソクを天にかざし、ラウダーテ・マリアムを大合唱した。

百四十年前、マリア様にお会いしたベルナデッタは、貧しく、無学で、病弱な少女だった。だが彼女はルルドを驚異の聖地にした。彼女が神のみ旨の最善の奉仕者だったからだ。MOF担、利益供与等金にのみ奉仕している社会で、神のみ旨を行う人生がいかに素晴らしいものであるかを思い直す必要を痛感しながら、経済最優先の国へ戻ってきた。

（二日市教会信徒）



参加者募集のお知らせ
四旬節の黙想会
①3月 6日(金) 16:00受付 ～ 8日(日) 15:00〈ガブリエル神父〉
② 13日(金) 16:00受付 ～ 15日(日) 15:00〈マテオ神父〉
③ 20日(金) 16:00受付 ～ 22日(日) 15:00〈来住神父〉
④ 27日(金) 16:00受付 ～ 29日(日) 15:00〈マテオ神父〉
⑤4月 3日(金) 16:00受付 ～ 5日(日) 15:00〈畠 神父〉
⑥※聖なる3日間と主の復活／9日(木) 16:00～12(日) 昼食まで〈来住神父〉
お問合せ/申込：0940-32-3222 (9:30～17:00受付)迄
会費：①～⑤各12,000円 ⑥ 18,000円
＊部分参加ご希望はご相談ください。
福岡黙想の家 〒811-41 宗像市名残1056 TEL 0940(32)3222 FAX 0940(32)3385

有限会社 共立総合防災
＊消防設備 設計・施工
＊電気工事 保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役 ヨハネ 土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 (SOU-EN)
ご葬儀
木下株式会社
TEL092－526－5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

「福岡にホスピスを」発足

通称：「ホスピスの会」

「福岡生と老い・死をみつめる会」「福岡カトリック・パストラルケア研究会」と連携

福岡市にホスピスを設置する運動が始まった（既報＝本紙2月号）。大楠教会信徒の小林計子さんの呼びかけで、第一回の準備会が二月十五日午後一時半からカテドラル大名町教会四階会議室で開かれた。

約二十人が参加。これまでの経過報告がなされた後、正式名称が提案され、「福岡にホスピスを」の名称が決定された。なお同会は通称「ホスピスの会」と呼ばれる。

いわゆるターミナル・ケアについては、すでに「福岡生と老い・死をみつめる会」（会長＝鬼木保之氏）が活動をしているが、今回設立された「ホスピスの会」はその下部組織となる。今後の活動は、同じ下部組織の「福岡カトリック・パストラルケア研究会」（顧問＝大山悟神父）と連携しながら進められる。

「ホスピスの会」は世話人として、主婦、内科医、精神科医、薬剤師、療法士、看護婦、ソーシャルワーカー、神父らから成る。今後の活動として、会則の制定、学習会、資金作りなどが企画されている。なお、次回の集まりは四月十九日、カテドラル大名町教会で開かれる予定。趣旨に賛同される方はだれでも参加できる。また、年に一回、秋に公開講座を開く予定。同会に関する問い合わせは、鳥栖市儀徳町二九〇七、古賀医院、☎0942・83・2294、FAX 83・2413

「福岡生と老い・死をみつめる会」、「福岡カトリック・パストラルケア研究会」についての情報は本紙四面で毎月お知らせしている。

第六回福岡カトリック・パストラルケア研究会では、講師にドミニコ会士の井原彰一神父（心療内科医・坂出市聖マルティン病院副院長）を招き、「人格について」の演題で、病気におそわれた時、その人の人格に病はどんな影響を及ぼすか、について講演が行われる。参加費は七〇〇円。詳細は本紙四面を参照。問い合わせは事務局のシスター箕浦まで。☎092・871・4943（福岡サン・スルピス大神学院）まで。

平和のために働くとは

岡田武夫司教講演



佐賀カトリック正義と平和協議会（正平協）は「平和をともに考える2月11日佐賀カトリック幼稚園で開いた（＝写真）。講師として日本カトリック正義と平和協議会担当司教の岡田武夫司教（浦和教区長）を呼び、約五十人の参加者と共に平和について考えた。

演題は「平和のために働く人は幸い―社会に開かれた教会の使命は、平和のために働くこと―」。岡田司教は約一時間半にわたる講演の中で、平和のために働くことは人権を大切にすること、と述べ、諸民族間の理解、一致、協力が必要なこと、差別を克服することにより、平和が実現していくこと、男女間の平和についてもよく考えることなど、韓国、フィリピン、ベトナムでの司教自らの体験を交えてわかりやすく説いた。また、平和を実現するためには「ゆるすこと」が不可欠であり、神の義を実践することでその結実としての平和を獲得することができる、と熱心に語った。

昨年帰天した相馬司教は平和教育・現地訪問・連帯を大切にしていた、と前任者の遺徳を偲んだ。そして、平和教育のために、たとえば一九九五年に司教団が出した「平和への決意」、日本カトリック正義と平和協議会から出された「新しい出発のために」の精神を再確認することを勧めた。

さらに、今年の元旦（世界平和の日）に出された教皇ヨハネ・パウロ二世のメッセージにある「一人ひとりの正義からすべての人の平和が生まれる」ということにも言及した。

同司教はまた、浦和教区での青年たちの現地での平和への取り組みなどを紹介した。この講演会には、佐賀地区の各小教区からの参加者と主任司祭たちの参加が目立った。参加者は、「いい話を聞いてよかった」、「感銘を受けた」、「人権の問題は人と人を大切にすることにあると理解できた」など感想を言ってくれた。（取材協力　佐賀教会　森内慎一郎）

ミサを歌おう

典礼聖歌研修会

福岡教区典礼委員会（委員長＝青木悟神父）は、二月十一日に典礼聖歌研修会をカテドラル大名町教会で開催した。テーマは「ミサを歌おう」で、同一テーマでは三回目にあたる。講師は「マラナタ」や「ごらんよ空の鳥」の作曲者として知られている新垣壬敏氏（白百合女子大学教授）。

歌の研修を始めるにあたって、新垣氏はまず、「なぜ歌うのか」ということについて説明をした。「歌う人は倍祈る」という言葉があるが、ただそれだけだろうか。典礼は一回一回がその場限りの出来事である。歌はささげものである。「唇の果実」（聖パウロ）である。ユダヤ社会では、神に最高のものをささげようとした。最高の唇の果実をささげよう、と呼びかけた。また、聴くことの大切さを説いた。神は語るのであって、その語る神に耳を傾けねばならない。

その後、歌の研修、練習が始まったが、新垣氏は練習の合間に音楽的な説明を随所に取り入れ、単なる歌の練習ではない有意義なものとした。四旬節に用いられる典礼聖歌の練習が、典礼学的な説明とともになされた。また、歌についての説明だけでなく、典礼においてなされる聖書朗読についても示唆に富んだ説明がなされた。

午前十時に始まり、昼食を挟んで行われた研修会はあっという間に過ぎ、閉会のミサで使われる典礼聖歌を練習して感謝のミサに臨んだ。午後四時に散会。参加者は約二百人。

カテドラルで教会一致のために祈る

キリスト教一致祈祷週間


キリスト教一致のために祈る牧師と神父

福岡教区エキュメニズム委員会（委員長＝櫻井尚明神父）では毎年行われているキリスト教一致祈祷週間にあたり、最終日の一月二十五日午後二時半からカテドラルで福岡キリスト者合同祈祷会を開催した。司会を福岡サン・スルピス大神学院の櫻井尚明神父が、説教を福岡中部教会の東島牧師が担当、超教派でキリスト教一致のために祈りをささげた。東島牧師は制度的一致を云々するより、共に神の国を継ぐ相続人である現実に目をとめよう、と呼びかけた。

風のような司祭

昨年四月から一年間の休暇・研修の機会をいただいたわたしは、同じ昨年十月末に新司祭のような不安と期待を抱いて吉塚教会へ赴任し、今年一月末から三月までは浄水通教会でお世話になっています。人の目には、わたしは風の吹くまま気の向くまま動きまわっている、と映っているかもしれません。喜んで迎えてくださる方々もおられますが、ある方々にとって、わたしのような者はさっと吹き去っていく一陣の風のようなもので、ありがた迷惑な存在かもしれません。しかしわたしは、司祭は本来自分の気の向くままにではなく、教区長あるいは上長の命令を受けて転々とするという限りにおいては、風のような者なのだと再認識するに至りました。司祭は、「神の国を述べ伝え、その福音を告げ知らせながら、町や村を巡って旅を続けられた」（ルカ8・1）イエス、そして聖霊の導きのままに宣教活動をした使徒たちと同じ生き方をしているわけです。

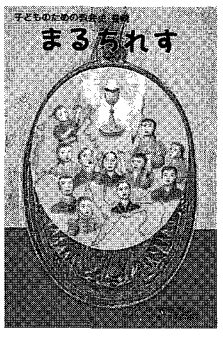
ところで、聖書で「霊」という言葉は、「風」や「息」を意味するといいます。聖霊は思いのままに吹く風のような方であるだけでなく、人を生かす命の息でもあられます。イエスご自身「聖霊に満ちて」おられました（ルカ4・1、4・14、10・21参照）。わたしは司祭として、信者さんたちにとって「風」になっているだろうか、風邪やホラ吹きになってはいないか、冷たい強い風だろうか、生気を与える風だろうか、などと自問しています。感動の舞台となった長野のスピードスケートリンクの氷は世界のどこにも負けないほど上質だそうですが、カナダのカルガリーの方が長野より高地にあるために空気が薄く、したがって空気抵抗が少ないので好記録が出やすいそうです。またジャンプ競技では、競技者がジャンプしたあと着地するまで、風がどのように、どの程度吹くかによって、記録が大きく左右されるといいます。前者の場合は、無風状態が幸いし、後者の場合は風を必要とします。司祭も、ある時には無風となって信者を見守り、ある時には向かい風となって支え、ある時には追い風となって後押しするようであればよいと思います。もちろん、信じる人々を愛と宣教の共同体として生かす主役は聖霊です。司祭はその忠実な奉仕者になるよう日々召されているのです。

高見三明神父（聖スルピス会）

二月号の本欄、第三段二行目の「毎年」は「毎度」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

★まるちれす

長崎地区カテキスタ養成委員会編集
結城了悟・片岡瑠美子監修



信徒のベテラン教師、カテキスタ、司祭らの執筆による「子どものための教会史」で、ザビエルの宣教から現代まで、長崎の教会の歩みをたどる。ワークブック形式になっており、やさしい文章と最新の資料を満載しながら、コンパクトにまとめられている。

小学生高学年以上対象。A4判一〇五ページでカラー

長崎大司教区　税別九八〇円

◇　◇　◇

★私はどのように神を見いだしたか

カルロ・M・マルティーニ
アイラン・エルカン
佐久間　勤訳



ミラノの大司教、マルティーニがジャーナリストの質問に答える魅力にあふれた信仰の歩みと神体験を幅広く語っている。

神へと回心するときには、かならず大きな喜びがあります。回心を経て人は、現実を新しい仕方で見直し、透き通る落ちついた目で、すべてを考え直すことができるのです。神を見いだすのはいつでも可能です。

女子パウロ会　税別一四〇〇円

★休業のお知らせ

聖パウロ書院は棚卸しのために三月二十日から四月三日まで休業させていただきます。

BOOK 読みは専科

ジャパンスマイルか株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石材 { 石理影の大御そ 石他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2-21
TEL096-352-2417

福岡黙想の家　3月

◇ 6日（金）～ 8日（日）　四旬節の黙想＜Fr.ガブリエル＞
◇11日（水）　ミカエル会
◇13日（金）～15日（日）　四旬節の黙想＜Fr. マテオ＞
◇14日（土）～15日（日）　マリッジエンカウンター
◇20日（金）～22日（日）　四旬節の黙想＜Fr.来住英俊＞
◇22日（日）～25日（水）　オブレート会黙想／研修
◇27日（金）～29日（日）　四旬節の黙想＜Fr. マテオ＞

［問合先］黙想の家　☎ 0940・32・3222　FAX 0940・32・3385

生命山カトリック別院

生命山では、皆様のために、美しい自然の中で、神との語らいの日々を過ごしていただきたく、黙想会を計画いたしました。ご参加ください。

■祈りの集い
日時：③3月10日（火）　10時～15時
テーマ：詩編を祈る（全10回）
指導：フランコ神父
★次回は④4月16日（木）です。
＊個人、又はグループでの黙想等、常時受け付けています。

［問合先］生命山カトリック別院　☎0968・85・3100

第37回　クルシリヨ開催

このたび福岡教区では、来る5月2日（土）から5日（火）まで下記の通り第37回クルシリヨを開催いたします。

ご存じのとおり、このクルシリヨは教会の要望に従い、使徒職に献身する信徒の養成をめざすもので、司教様も、生涯教育の一環としてクルシリヨの体験を強く望まれています。

この世の福音化をめざす今年のクルシリヨに、小教区、修道会からもたくさん参加くださいますよう、お願い申し上げます。

参加希望者は教会等にあります申込書を、下記事務局に4月25日までにお送りください。

＊なお、時間的に間に合わない恐れがある場合には、下記連絡先に電話で直接お申し込みください。

記

1. 日　時　5月2日（土）19時～5日（火）16時
2. 場　所　福岡黙想の家　☎0940・32・3222
3. 参加費　12,000円
   宿泊・食事・用品代として当日受付けます。
4. 携行品　ロザリオ・着替・寝間着・洗面用具
   （筆記具・その他ほとんど事務局で用意します）
5. 問合先　福岡教区クルシリヨ事務局
   大谷真造　☎092-661-0120

＊当日は18時30分をめどに受付けをしてください。

第9回徹夜祈祷会

豊かな司祭、修道者の召命を求めて、福岡サン・スルピス大神学院で「徹夜祈祷会」が行われる。どなたでも参加できます。「召命を共に祈る会」主催。

日　時：3月7日（土）19時受付～8日（日）5時半ミサ　ミサ後朝食、終了
内　容：聖体礼拝、種々の祈り（道行き、ロザリオ等）、講話（山元眞神父）、ビデオ鑑賞、聖体賛美式、ミサ（松永久次郎司教司式）他
参加費：1,000円
問合先：青木悟神父（教区本部☎092-522-5139）

会合と催し

教区年間テーマ：キリスト者を活かす聖霊を信じます

3月　聖ヨセフの月

1日（日）四旬節第1主日
2日（月）＋R.ミケレ［鹿島教会1987］
　＋J.オブライエン［手取教会1990］
6日（金）**朗読奉仕者・祭壇奉仕者選任式**
　（福岡サン・スルピス大神学院10時30分）
　＋H.ジョリ［久留米教会1966］
8日（日）四旬節第2主日
　徹夜祈祷会閉会ミサ（大神学院5時30分）
10日（火）**松永司教霊名祝い**（浄水通教会ミサ11時）★
12日（木）＋F.M.ヴェイヨン［唐津教会1973］
15日（日）四旬節第3主日
　武雄教会堅信式
16日（月）＋L.M.ベリボ［箱崎教会1977］
19日（木）**聖ヨセフ／松永司教霊名の祝日**
　＋J.ベラス［水俣教会1990］
　＋M.ボア［新田原教会1959］
21日（土）春分の日
22日（日）四旬節第4主日
25日（水）神のお告げ
26日（木）＋J.ドイル［荒尾教会1962］
　＋J.ムルグ［小倉教会1989］
29日（日）四旬節第5主日

★先月号で3日としておりましたが、10日の誤りでした。

4月

5日（日）受難の主日（枝の主日）
　聖週間
　世界青年の日
　＋F.ブレンゲ［佐賀教会1946］
7日（火）**聖香油ミサ**（カテドラル15時）
　＋C.シュミッツ［黙想の家院長1988］
9日（木）聖木曜日（主の晩さん）
10日（金）聖金曜日（主の受難）
　大斎・小斎：聖地献金
11日（土）聖土曜日（復活徹夜祭）
　司教ミサ（カテドラル20時）
12日（日）復活の主日
　＋パウロ大野正恒［泰星学園校長1985］
13日（月）福岡教区司教座教会献堂記念日
15日（水）＋J.ドレル［直方教会1984］
19日（日）復活節第2主日
　司教座教会献堂記念特別献金
25日（土）聖マルコ福音記者
　＋A.レウトル［新田原教会1944］
26日（日）復活節第3主日
29日（水）シエナの聖カタリナ
　みどりの日

福岡

■第6回福岡カトリック・パストラルケア研究会　この研究会は、病人訪問や病人の世話に関わり、あるいはそれらに従事する人々による、勉強会です。病人訪問時の病人への対応の仕方、病人（入院患者）の心理、病者の塗油の秘跡や、カトリックの葬儀などについて勉強します。［日時］3月15日（日）14時～16時［場所］福岡サン・スルピス大神学院新館ホール［内容］勉強会［参加費］七〇〇円［問合先］事務局（シスター箕浦☎092・871・4943大神学院）＊3面参照

■聖歌研修会　［日時］3月1日（日）13時～15時30分［場所］カトリック大楠教会［聖歌指導］深堀純氏（大名町教会信徒）［内容］四旬節・聖週間の聖歌［問合先］有馬浩☎092・861・2673

■カテキスタの集い　［日時］3月1日（日）13時30分～15時30分［場所］福岡カトリック神学院［講師］山元眞神父（同神学院院長）［テーマ］子供のミサ（初聖体）［会費］500円［問合先］福岡カトリック神学院☎092・531・6821　FAX524・7373★当日、浄水通教会では9時のミサの中で初聖体式が行われます。ご参加ください。★4月は休会。

■心の健康づくり講演会　児童精神科医として、「いじめ」や「不登校」など子どもの心の問題に早くから取り組んで来られた河合洋先生をお迎えして、現代の子どもの心の健康についてお話いただきます。［日時］3月3日（火）14時（13時30分開場）～16時［テーマ］子どもの心の危機をめぐって［講師］河合洋（かわいひろし・かわいクリニック院長・児童精神科医）［場所］福岡市健康づくりセンター・あいれふ10階ホール（福岡市中央区舞鶴2・5・1☎092・751・7778）［参加費］無料（先着300名）［申込先］電話、FAXで御予約を☎092・711・4377　FAX733・5587福岡市保健福祉局、保健予防課、精神保健福祉係まで［主催］福岡市、福岡市教育委員会

■第71回福岡結婚準備セミナー　［日時］3月5日（木）～3月14日（土）毎土曜・木曜日19時～21時30分［場所］カテドラル大名町教会［申込・問合先］カトリックファミリーセンター☎092・541・6207　FAX552・5022

■朗読奉仕者・祭壇奉仕者選任式　［日時］3月6日（金）10時30分～［場所］福岡サン・スルピス大神学院★福岡教区所属の藤渕邦大神学生が祭壇奉仕者に選任されます。ご参加ください。

■典礼・聖歌と祈りの集い　［日時］3月8日（日）14時～17時［場所］福岡黙想の家［内容］四旬節・聖週間の聖歌［聖歌指導］深堀純氏［会費］100円［主催］福岡典礼聖歌研究会［問合先］福岡黙想の家☎0940・32・3222　FAX0940・32・3385

■中央区心の健康づくり講演会　植物には心を癒す効果がありま す。また、園芸活動そのものが楽しみばかりでなく、身体の機能向上も自然に図ることが出来ます。講師はわが国の園芸療法の分野の第一人者です。［日時］3月11日（水）13時（12時30分開場）～15時［テーマ］園芸療法―植物とのふれあいで心身を癒す―［講師］グロッセ世津子（園芸セラピー研究家）［場所］あいれふ10階ホール（福岡市中央区舞鶴2・5・1☎092・761・7361）［会費］500円。［問合先］事務局（大山美穂子☎FAX092・713・8523／村尾嘉道☎607・6992）

■キリスト教講座―生きる―　［日時］5月12日（火）10時～／19時～（毎週火曜日・全6回）［場所］カテドラル大名町教会［講師］松永久次郎司教、久野信氏、橋本勲神父、シスター前川輝子、今村茂氏、G・ケルクマン神父、来住英俊神父。詳細は次号に掲載

■聖書講座［前期］フィリピの信徒への手紙・コロサイの信徒への手紙　［日時］5月15日（金）19時～21時（毎週金曜日・全10回）［場所］カテドラル大名町教会［講師］松永久次郎司教、青木、高見、森山、櫻井、中浜、牧山神父。詳細は次号に掲載

佐賀

■聖書に学ぶ家庭生活―佐賀新聞文化セミナー　結婚と家庭生活について聖書をもとにアレグリーニ神父とともに考える。［日時］第二、第四土曜日15時30分～17時［場所］玉屋教室［講師］アレグリーニ・アレグリーノ神父（ロザリオの園）［受講料］7200円（プリント料300円）［申込・問合先］佐賀新聞文化セミナー事務局☎0952・28・0371

■福岡生と老い・死をみつめる会　［日時］3月29日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会4階会議室［内容］一年に一度のメモリアルサービス（お亡くなりになった方の写真をお持ちください）と語り合い。［説話］中島慈教尼（真言宗）

■福岡地区・召命を共に祈る会　［日時］3月16日（月）14時～［場所］司教館5階会議室［問合先］青木悟神父☎092・551・5139（教区本部）

編集後記

今年もまた四旬節がやって来ました。回心。神のほうに心を回すと、改心できる？

2000年大聖年
聖地巡礼旅行積立プランのご案内

大聖年に聖地巡礼旅行を予定しておられる方へのお得なお知らせです。

◎30万円を目標にされると
→→月々12,183円で7,600円がお得（24回で2,5％をサービス）

◎50万円を目標にされると
→→月々20,305円で12,680円がお得（24回で2,5％をサービス）

聖地巡礼は弊社へおまかせください。
問い合わせは　（担当：二田、有村）
近畿日本ツーリスト株式会社／北九州支店
〒802-0004 北九州市小倉北区鍛冶町1-2-16
☎093-551-2182／FAX521-1774
人が好き。地球が好き。旅がスキ。
近畿日本ツーリスト

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

バチカン
4/19~5/14

アジア特別シノドス開催

西欧と違った方法で福音宣教を
―諸宗教と共に生きる道で―

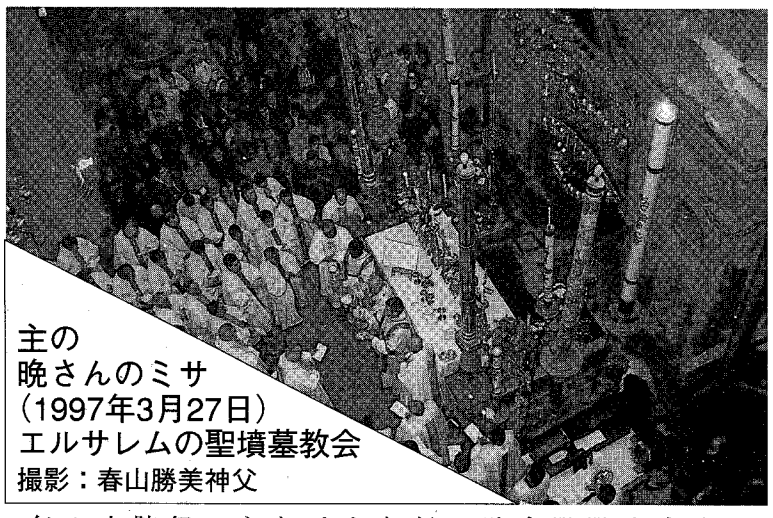
アジアのための特別シノドス（代表司教会議）が今月十九日から五月十四日までバチカンで開かれる。テーマは「アジアにおける救い主イエス・キリストの宣教と奉仕」。

教皇は大陸別にシノドスを呼びかけ、実施しているが、今回のアジア特別シノドスは、アジアの教会がアジアにおけるキリストの教会の在り方や進むべき方向を討議し、アジアにふさわしい教会づくりを目指す会議になる。

今回のシノドスの準備のためにアジア各国の司教団の意見が求められた。日本カトリック司教協議会は一九九七年二月の臨時司教総会で検討、さらに同年六月の司教総会を経て七月に司教団の意見をまとめ、バチカンに提出した。それによれば、アジアの宣教の現状および今後の方向性について、ヨーロッパの枠組みの中で判断していくのではなく、アジアで生きている人々の魂のレベルで現実を見つめていく必要があるとする。

アジアと一口に言ってもその範囲は広い。西は中近東から東は日本まで。そこに住む民族、言語、文化、宗教は多種多様である。このアジアの性格そのものが今回の特別シノドスの特徴となるであろう。

アジアには多くの宗教がある。したがって、アジアにおける福音宣教は諸宗教との対話を抜きにしては考えられない。教会は心を開いて他の諸宗教から学び、キリストの秘義への理解を深めるべきである、と日本の司教団は考えている。



主の晩さんのミサ（1997年3月27日）
エルサレムの聖墳墓教会
撮影：春山勝美神父

新田原教会出身の上田徹助祭、大分教区司祭に叙階

三月二十一日春分の日十一時から、カテドラル大分教会で大分教区長平山高明司教による司祭叙階式が執り行われた。受階者は福岡教区新田原教会出身のドミニコ上田徹助祭。

叙階式には大分教区の信徒、修道者、司祭はもちろんのこと、福岡教区からも新田原教会信徒をはじめ多数の参列者があり、カテドラルは超満員となった。

司祭に叙階された新司祭は長崎カトリック神学院（長崎南山中・高校＝小神学校）、福岡サン・スルピス大神学院を経て昨年三月二十日に助祭叙階。

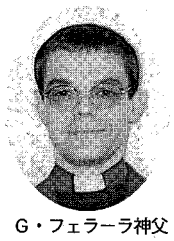
上田新司祭は叙階式の挨拶で、「何か借金をかかえているような気持ちです。これからの司祭生活で、皆さまにお返ししていきたい」と抱負を語った。

ようこそ福岡教区へ



G・A・ニコラ神父

福岡女子跣足カルメル修道会付司祭としてガレノ・A・ニコラ神父（カルメル会）が、佐賀教会主任司祭としてフェラーラ・ジョルジョ神父（ミラノ外国宣教会）が赴任した。



G・フェラーラ神父

ヨハネ・パウロ2世

司祭職と奉献生活は教会の基本的な役割

ヨハネ・パウロ二世教皇は一九九八年度「世界召命祈願日」のためにメッセージを送り、信徒たちが召命のために熱心な祈りをささげ、司祭、両親、教師たち責任ある人たちが召命を促進する責任感を新たにするよう、切なる願いを込めて訴えた。世界召命祈願日は毎年復活節第四主日（よき牧者についての福音が読まれる）に行われ、今年は五月三日に当たる。

このメッセージの中で教皇は、まず、父のみ心に従い聖霊に支えられてあがないのみ業を完成されたイエス・キリストが、そのみ業を永遠に継続するために弟子たちを選んで祭司とし、教会を建てて聖霊の導きに

「世界召命祈願の日」（五月三日）メッセージ

召命に導くよう呼びかけ、この年に堅信を受ける若者たちには、自己の存在意義について問いかけ、イエスの声に耳を傾けて召命を識別し、その道を選びとるよう招いている。（2面に本文抜粋）

説いている。

最後に、多くの聖なる召命を求める熱い祈りの前に、司教はじめ、司祭、助祭、修道者たち、さらに既婚者、教師やカテキスタに、その生活によって証し人となり、人々を

ゆだねたことを想起する。

ついで司祭職と奉献生活に焦点をあて、「この二つの召命は、教会のいのちと完成の上で、基本的な役割をもっている」と明言、それぞれの召命の重要さを

熊本地区信徒使徒職協議会

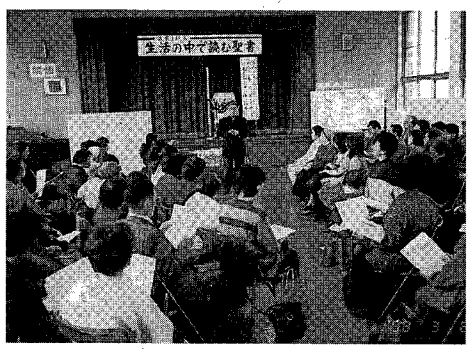
生活の中で聖書を読む研修会

熊本信徒使徒職協議会の主催により、三月七日、八日の両日、ASIPAの研修会が手取教会において開催された（＝写真）。

アジア司教連盟は、教会の新しい在り方は「参加する教会」「共同体の交わり」「復活のキリストをあかしする教会」であると宣言。これを推進するための道として開発された総合的信徒養成プログラム、アジア版アシパ（ASIPA）が、熊本地区の多くの信徒に、生涯養成の一環として、また司牧活動の有効な道具として活用するため実施された。講師は名古屋の日本カトリック研修センターの松田清四郎神父。松田神父はASIPAセミナーの権威者で信徒養成リーダーを育成している専門家。このチャンスを逃さぬようにと呼びかけた結果、百三十四人の信徒が参加した。

「生活の中で読む聖書」をテーマに、松田神父の講話から始まり、みことばのわかち合いの方法を体験し学んだ。

その中で、使徒職は、洗礼と堅信の秘跡からくること、信者の「共同体づくり」が必要であることを、具体的に分かりやすく話し、信徒としての意識の目ざめをうながした。その後八人の小グループに分かれ、参加者全員が聖書を持ち、みことばを読み、聴き、分かち合う初歩的な方法を体験した。その中には、初めて聖書を開いたという信徒もいたが、気軽に誰にでも実践できる、そしてお互いに霊的に豊かになれる方法を体験し、多くの感動があった。（取材協力手取教会　安部由子）



藤渕神学生、祭壇奉仕者に選任

三月六日、福岡サン・スルピス大神学院では、福岡教区長松永久次郎司教主司式のもと、朗読奉仕者と祭壇奉仕者の選任式が執り行われた。

同大神学院では、神学部一年次に教区から正式に助祭、司祭候補者として認可され、専門的な教育を受ける。一年次の終わりに朗読奉仕者に、二年次の終わりに祭壇奉仕者に、最終学年である四年次に上がる前に助祭に叙階されるのが通例となっている。今年朗読奉仕者に選任されたのは五人（すべて長崎大司教区）。祭壇奉仕者には福岡教区（小倉教会所属）の藤渕邦大神学生（＝写真）の他、長崎大司教区の二人の神学生が選任された。藤渕神学生のご両親は、この復活祭に小倉教会で受洗予定である。



ご両親と記念撮影

司祭異動

四月一日付／浄水通教会教会管理者（教区事務局長兼任）青木悟▼教区顧問・評議員（伊万里教会主任兼任）C・ガザルディ＝ミラノ外国宣教会

四月十三日付／佐賀教会主任（横浜教区）G・フェラーラ＝ミラノ外国宣教会

新FAX番号

浄水通教会
092・531・3695

笹丘通教会
092・761・4524

花岡山殉教祭の御案内

十主の平安。イエス・キリストの十字架上の御受難と御復活の栄光を黙想しつつ。

毎年、花岡山にて行われております小笠原玄也、加賀山マリアみや御一族の殉教祭を、今年は来る四月十九日（日）松永久次郎司教様をお迎えし、左記の通り執り行うことになりました。大勢の皆様方のおいでをお待ちいたしております。

記

一、日時　四月十九日（日）午後二時
二、行事　野外ミサ、司式　松永久次郎司教
三、場所　加賀山マリア殉教碑前（花岡山）

なお、当日雨天の際も、予定通り挙行いたします。
お問い合わせは、島崎教会へ　☎096・352・5610

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう
【一般の意向】教会の中に交わりの精神を
【布教の意向】太平洋諸国
【日本の教会の意向】アジア特別シノドスの成果

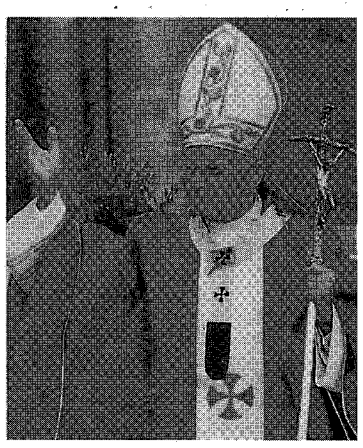
みちくさ

「この頃の子どもはろくに返事もできん」とは、いつもくり返される大人の嘆きであろう。中学校の卒業式に出席して、改めてその感を新たにした。名前を呼ばれて「ハイ」と答えるのはほんの数人。大方は無言でノソッと立つ。教会の堅信式でもほぼ同じだ▼だが、子どもばかりを責めてもいられない。齢六十路をこえて、あちこちの病院にお世話になるが、診察室や薬局の待合室で、同じような光景にぶつかる。名前を呼ばれると、黙って立って、ゆっくりと歩を進める。当然ながら看護婦さんは、二度三度と、間をおいてもっと大きな声で呼ばざるをえない▼返信用はがきも似たりよったり。身分上、返信用はがき付きの案内状を受けたり出したりする。相手は教会、修道会関係がほとんどなのだが、作法どおりの返信が極めて少ないのに驚かされる。「〇〇行」を二本線で消して「様、御中」に、「御出席、御住所」などは「御」を消し、「御芳名」は「御芳」まで消すのだが、これがほとんど守られていない▼さる年の返信はがきで調べたところ、七〇通のうち完璧なのはわずかに六通だけであった。約三分の一は、どうせ欠席だからというわけか、ナシのつぶて。これは論外である▼うちの炊事係の返事はすばらしい。「いただきまあす」「ハアーイ」「ごちそうさまでした」「ハアーイ」たまに小さな声で「おそまつさま」食材はともかく、自分の手にかかればおそまつな料理はないのだという自信がほの見え、聞いて楽しい。神の恵みにおそまつなどないのだから当然か。（H）

召命は教会を豊かにする

一九九八年「世界召命祈願日」メッセージ（抜粋）

《霊》と花嫁が言う。「来てください」（黙22・17）



1. イエスは、…《霊》に導かれて荒れ野に行かれた（マタイ4・1）

イエスの生涯は、最初から最後まですべて聖霊の働きのもとにありました。復活の夜明けには、新しい契約を結ばれます。そして最後に、イエスは五旬祭（聖霊降臨）の日に、最初の共同体の信仰を固めるため、その上に聖霊を注ぎ、彼らを世界にお遣わしになりました。

それ以来、キリストの神秘体である教会は、同じ霊の息吹に突き動かされ、神のことばの光で歴史を照らしながら、また、イエスのわき腹から流れ出る生きた水の川で人々の心といのちを清めながら（ヨハネ7・37―39参照）、時代の小道を歩み続けています。

このように教会は、「父と子と聖霊の一致によって集められた民」となり、「父なる神が御子イエス・キリストをとおして呼ばれる人々を宣教のために聖別する聖霊の神秘の保管者」（教皇ヨハネ・パウロ二世使徒的勧告『現代の司祭 養成』35）となって、自己の召命を実現していきます。

2. あなたがたは…生ける神の霊によって…人の心の板に書きつけられた手紙です（二コリント3・3）

「世界召命祈願日」は、神の聖なる霊が、洗礼を受けた人の心と生命に、愛と恵みのご計画を描いておられることを知らせる絶好の機会です。このご計画だけが、人間の存在に十全的な意味を与えることができるのです。…

わたしはどこから来たのか、そしてどこへ行くのか。わたしは何者なのか。人生の目的は何なのか。自分の時間はどう使うべきなのか。霊は、このような人間の心の重大な問題に誠実に向き合うよう助けるだけでなく、これに対する勇気ある回答への道を開きます。一人ひとりの男女が、神の思いのうちに、また、人類の歴史のうちに、自分の場があることを発見するのは、新しい召命の出発点となります。

3. 《霊》と花嫁とが言う。「来てください」（黙示録22・17）

黙示録のこのことばは、聖霊と教会がいのちの通う関係で結ばれていることを思いめぐらすよう招きます。この関係から、さまざまな召命が生まれます。

そしてまた、同じ黙示録のこのことばは、多くのキリスト者の共同体が聖霊降臨の日に生まれたものであることを思い起こさせます。この共同体は、多種多様のたまものをもちながら一致し、渇いている人々によい便りをもたらすために遣わされています。

召命は神からのものであるということが真実なら、召命に関する対話が教会をとおして行われるということもまた真実です。…

聖霊と、その神秘的花嫁である教会は、いまもなお多くの男女に向かって「来なさい」と、繰り返し呼びかけています。

来なさい。あなたをご自分のいのちに参与させたいと望んでおられるキリスト・受肉されたみことばに出会うために。

来なさい。障害を乗り越え、遅れずに神の招きにこたえるために。来て、神が人類とともに織り上げていく愛の歴史を見なさい。神は、あなたと一緒に愛の歴史を織っていきたいと望んでおられます。

来て、受けたゆるしと与えたゆるしの喜びを味わいなさい。神と人間、また人間同士の間にあった分裂の壁は壊されました。罪がゆるされ、いのちの宴がすべての人のために用意されています。

みことばの力に引かれ、秘跡をとおして成長し、そして、「わたしはここにいます」と言う人たちは幸いです。この人たちは、欺くことのない希望に強められて、全面的に、また徹底的に神に従う道を歩んでいます。というのも、「わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです」（ローマ5・5）。

4. たまものにはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ霊です（一コリント12・4）

霊のたまものや奉仕職、そしてさまざまな形の奉献生活は、洗礼によって新たに生まれ、みことばと秘跡によって成長する新しいいのちのうちに養われるのです。

この召命祈願日には、特別に司祭職への召命と奉献生活への召命に注目したいと思います。というのも、この二つの召命は、教会のいのちと使命の完成の上で、基本的な役割をもっているからです。

今日キリストは、司教たちや司祭たちをとおして救いのわざを続けておられます。彼らは、「教会の中で、教会のために、…頭であり牧者であるイエス・キリストを、秘跡的に示します。キリストのことばを権威をもって宣言し、…キリストのゆるしのわざと救いの犠牲のわざを繰り返し」（『現代の司祭養成』15）ます。

そしてまた、「奉献生活は、歴史を通じて聖霊によって呼び起こされ、今日の教会においても非常に多様な姿で存在しています。このことを、聖霊への感謝のうちに思い起こさずにいられるでしょうか。奉献生活は、教会の使命を決める大切な要素として、教会の中心に位置づけられています。それは、奉献生活がキリスト者としての召命の本性を表しており、また、ただ一人の花婿に結ばれようとする花嫁である教会の緊張感を表しているからです。

これらの召命は、あらゆる時代に必要なものですが、今日、大きな矛盾をはらむ世界、生命にかかわる各種の根本的な選択から神を除外したいとの誘惑にとらわれた世界にあって、よりいっそう必要となっています。

毎年行われるこの「世界召命祈願日」が、信者たちの心に司祭職と奉献生活への新しい召命を得るための熱烈な祈りを促す日となり、また、すべての人、とくに両親と信仰の教師には、召命を促進するための責任感を新たにする日となるよう切に願っています。

5. あなたがたの抱いている希望について説明しなさい（一ペトロ3・15参照）

愛する司教の皆さん。まずあなたがたに、そして司祭、助祭、奉献生活の会の皆さんに呼びかけます。「すべての人にすべてとなるよう皆さんの一人ひとりを動かしている霊的および人間的情熱について、あきることなくあかしを立ててください。その情熱によって、キリストの愛が、できるだけ多くの人にゆきわたるようになるためです。

社会のあらゆる構成員と、ふさわしい関係を築いてください。霊が皆さんの共同体に起こす奉仕職への召命とカリスマへの召命を、補い合いと協力の心で大切にしてください。一人ひとりのキリスト者が成長し、十分に成熟することができるよう働いてください。若い人たちが福音に奉仕している皆さんを見るとき、司祭職あるいは奉献生活を選んでキリストに全生涯をささげることの魅力を感じ取ることができますように。

既婚者の皆さん。皆さんは、結婚への召命の深い意味について、いつでも説明できるようでいてください。家庭内の調和、信仰と祈りの精神、キリスト教的徳の実践、他者、中でも貧しい人々に開かれていること、教会生活への参加、落ちついて日々の困難に立ち向かう強さなどは、子どもたちの召命が成熟していくのにふさわしい土壌を造ります。婚姻の秘跡の恵みに支えられ、「家庭教会」として理解されている家庭は、愛の文明のための常設の研修所です。ここで若い人々は、自由にまた誠実に自己を明け渡すことによってのみ人生は充実するのだということを学ぶことができるのです。

教師、カテキスタ、司牧担当者、そのほか教育に携わっておられる皆さん。重要で骨の折れる皆さんの奉仕は、霊のわざに協力するものであることを意識してください。若い人たちの歩みを妨げるものから、彼らの心と知恵を解き放つよう助けてください。人間として、キリスト者としての成長に伴う絶え間ない緊張の中で、自己の最善を尽くすよう彼らを励ましてください。彼らの感受性を、みことばの光と力で養ってください。そうすれば、彼らも主に招かれるとき、教会と世界の善のために自己の召命にこたえることができるでしょう。

今年は、紀元2000年の大聖年を迎える準備の中心に聖霊があります。その準備の歩みは、特別に堅信の秘跡に注目するよう招いています。ですから、この時期に堅信の秘跡を受ける皆さんに話したいと思います。愛する若者の皆さん、堅信式の初めに司教は次のように言うでしょう。「これから聖霊をお受けになる皆さん、聖霊を受けることは、霊的なしるしを押されることであって、それによって、あなたがたはキリストの姿に似る者となり、キリストの教会の、より完全な構成員になります」と。こうして、あなたがたにとって恵みの時が始まるのです。この時期、皆さんは、自己の存在意義について自分自身に問いかけ、また、皆さんもその構成メンバーであるキリスト者の共同体に問いかけるよう招かれています。今こそ召命を識別し、その道を選び取る時です。イエスの声に耳を傾けてください。イエスは「来て、見なさい」と招いておられます。神が皆さんの上に描いておられる、全く個人的で、二つとないご計画に従い、教会共同体においてキリストに、皆さんのあかしを立ててください。皆さんの心に注がれた聖霊にすべてをゆだね、その働きに任せてください。皆さんが真理に導かれ、まことの自由と愛のあかし人とされますように。束の間の人間的成功や富のはかない夢に振り回されることなく、むしろ、愛のため、また寛大な任務のために、労力と勇気のいる道を走ることを恐れないでください。だれの前でも、「あなたがたの抱いている希望について説明」（一ペトロ3・15）できるようになってください。すべての人に愛をもって使徒的祝福を送ります。

教皇ヨハネ・パウロ2世

（訳・日本カトリック宣教研究所）

典礼 あ・ら・か・る・と 8

人が色に対していだくイメージや感覚は民族や宗教によって違いがあり、また一人ひとりによっても異なりますが、色をシンボルとして用いる習慣は広く浸透していると考えられます。

典礼で用いられるさまざまなシンボルのなかでも、色は重要な位置をしめています。祭服の色の変化によって、わたしたちは祝われる典礼の性格や典礼季節を知ることができます。

初代教会のころは、とくに決まった色が定められていたわけではありませんが、やがて、一般には神の栄光を表す白が用いられるようになりました。そして、5、6世紀以降には、白だけではなく赤や緑や紫などさまざまな色も用いられました。このことは、当時に建てられた教会堂に残されているモザイクやフレスコ画などからも推測することができます。そして、中世の時代には、金（あるいは黄）、白、赤、青、緑、茶、紫、黒の8色が用いられたこともあり、豪華な装飾を祭服に施すようにもなりました。やがて、教皇インノチェンチオ3世の時代（13世紀の初め）には、その後の基本となる5色、すなわち白、赤、緑、紫、黒が定められました。

祭服の色

祭服の色に関する現在の規定は、「ローマ・ミサ典礼書の総則」307～310にみられます。また、同じ総則の298に、「あらゆる段階のすべての奉仕者に共通の祭服はアルバである」と述べられているように典礼で奉仕する人の祭服は白が基本であることがわかります。具体的な色としては、右に述べた伝統的な5色のほかに、ばら色を用いることができるようになっています（308参照）。同時に、各司教協議会は、それぞれの民族の必要や性質に適した色を定めてローマの使徒座に提案することができることも述べられており（308参照）、色にさまざまな意味を与えている各民族の伝統や習慣をいかす工夫の可能性が示されています。

（カトリック中央協議会『毎日のミサ』一九九五年三月号第二一頁・同一九九六年四月号第二一頁）

聖なる３日間と主の復活を祝う

《主な典礼の時間》
4月 9日(木) 20:00 ～ 主の晩餐の夕べのミサ
10日(金) 15:00 ～ 主の受難の典礼
11日(土) 23:00 ～ 聖時間
0:00 ～ 復活徹夜祭
12日(日) 11:00 ～ 復活の主日にミサ

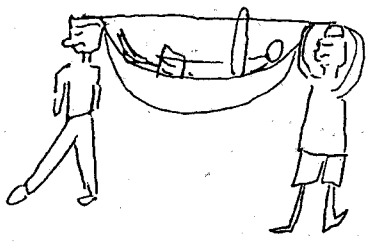
参加者募集のおしらせ
聖なる３日間の黙想
9日(木) 16:00 ～ 12日(日) 昼食後迄
〈指導：来住神父〉
※ 部分参加も受付けます。ご相談下さい。
（受付：9:30 ～ 17:00）

福岡黙想の家 〒811-4155 宗像市名残1056 TEL 0940(32)3222 FAX 0940(32)3385

有限会社 共立総合防災
＊消防設備 設計・施工
＊電気工事 保守点検
〒810-0044
福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役 ヨハネ 土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 〔SOU-EN〕
ご葬儀
木下株式会社
TEL092－526－5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

地獄の逃避行



ハンモックで運ばれて逃避するSr. 根岸（シスター自身のイラスト）

Sr. 根岸さんからの便り

シエラレオネ

昨年五月にシエラレオネで起こったクーデターを逃れて帰国、再度現地に戻ったシスター根岸美智子さん＝群馬県高崎市出身＝から、その後のきびしい状況が二月十九日、二十一日、ファックスで届けられた。

情報によると、二月十四日、西アフリカ平和維持軍が首都フリータウンを制圧し、事態は好転するかにみえたが、反乱兵が十六日、ルンサを襲い、修道院や学校、病院を略奪した。人々の支えとなっていたミッションが襲撃の的になったらしい。

「すべてを失いました。」と言うシスター根岸さんたちは辛くも難を逃れたが、高熱の病気と疲労による極限の衰弱の中、三日間決死の逃避行。途中、安全地帯まで20キロの地点で反乱軍につかまり、一度は死を言い渡されたが奇蹟的に命びろいをし、現在はフリータウンにある聖ヨゼフ会の司祭の家に身を寄せている、という。

「今ルンサは地獄の状態です。何もかも奪われてしまいましたので、どうしようもありません。でも命が守られましたから、たびたび感謝です。ホセ・ルイス神父以下五人が反乱軍に連行され、不明です。お祈りください」

シスター根岸さんは昨年八月、福岡における「平和の集い」に参加、現地の模様を生々しく語った。その日のミサ献金はシエラレオネの子供たちに送られた。

シスター根岸の活動についての問合せは支援する市民グループ「手を貸す運動本部」へ。代表／佐藤正明、〒194・0043東京都町田市成瀬台4・1・20、☎0427・26・6459 FAX426・3067

介護者に必要な心構え

第6回パストラルケア研究会

福岡カトリックパストラルケア研究会の第6回例会が去る三月十五日、坂出市聖マルチン病院副院長、井原彰一師（ドミニコ会司祭）を講師とし、大神学院にて開催された。当日は天候にも恵まれ六十余名の参加者があった。

「病院ではなく家で最期を迎えたい」という、ある末期ガン患者の願いを受け入れ実行された在宅ターミナルケアの症例を紹介しながら、この種のケアが含み持つ諸問題について話した。「住み慣れた家で家族に囲まれ、人間らしい安らかな死を迎えたい」と望む人の数は増えているが、家族の中に介護を引き受ける人（キー・パーソン）がいないなら、本人の望みとは裏腹に入院を余儀なくされ、病院で死を迎えることになる。家族において病人の介護を引き受けるこのキー・パーソンが荷う負担は大きい。非常事態が続くとき介護者の体力は消耗し、神経はぎりぎりの状態にあり、ちょっとしたことにも過剰に反応し、家族の崩壊を招くこともある。

したがって病人の家族や、特に直接に介護に携わる人々のケアも重要である。またかれらにとっては、必要なときにはいつでも医師と連絡がとれ、いつもサポートされているという安心感を持てることが必要である。終末期にある病人は基本的な生の能力が次第に減退していく。その際、病人が自分自身に不安を持ち、怒り、拒否などの行為を示すこともあるが、介護者は病人の文化的・宗教的・家庭的・人格的背景を十分に把握し、さらにその人の生活習慣を十分に考慮しながら、人間としての尊厳を傷つけない多様で柔軟な、かつきめ細かい対応をなすべきである。

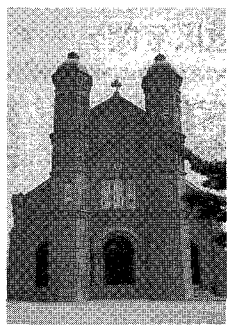
死が恐れられタブー視された時代は終わり、終末期は人格的成熟を遂げる「時」として考えられるようになってきた。この「時」、病人は主体的・精神的、いわば全人的ケアを受けることで、自分の命の尊さとそれまでの人生の豊かさを実感できるのである。

終末期にある病人介護は決して医療関係者のみに任せてしまうべきものではなく、病人の家族をはじめ、その病人に関わるすべての人々が、互いに協力し合いながらなすべきことである。そして介護者は、常にその病人を「掛け替えのない存在」「人格を持ったその人」として受け入れ、常に共感する心をもって接することが求められる。そのため「かれらに関わる私たちは、死生観を学び、知識と技術、そして自らの人間性を向上させていくようにしなければならない」と結んだ。

「福岡教区ハンドブック」98年度版発行

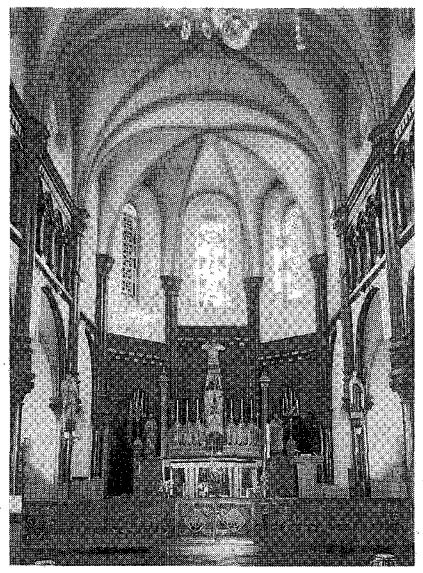
このハンドブックは、福岡教区内の信徒・司祭・修道者ができるだけ教区内の行事や他の小教区の行事等にも関心を持つため、また、「信者の心得」などを通して教区全体が共通理解を持てるように願って作られたものである。作成にあたった事務局は、「司教様の希望に沿いながらできるだけ使いやすいように作ったつもりです。『信者の心得』も最初に皆様で読んでいただくとよいと思います。教会委員会や信徒総会の時など、カレンダーの部分を利用してください。また、新しく成人洗礼を受けられる方々に差し上げて読んでいただくのもよいと思います。皆様の有意義なご利用を願っています」と利用を勧めている。ハンドブックは復活祭から各小教区で配付される。

大聖年準備のための指定巡礼教会 1 今村教会



浦上の信徒発見より二年後の一八六七年（慶応3）の二月、筑後平野の中心にある今村でも、二百戸にのぼるキリシタンの集団が、浦上の信徒たちによって発見された。以来、浦上の信徒の例にもれず迫害にあったが、一八八〇年（明治13）に教会としての活動が始まり、翌年には今村に最初の教会ができた。間口六間、奥行十間（11米×18米）の小規模の教会だった。信徒が増えたため早くも六年後には拡張せざるをえなくなる。だが信徒の増加の勢いはその後もおとろえず、手狭になったので、一九〇八年（明治41）、本田保神父は壮大な教会の建設を計画、外国に資金（予算は三万円）の援助をあおいだ。

当時長崎、五島で多くの教会を手がけていた鉄川与助氏に工事を依頼、フランスやドイツの援助のもと、長崎、久留米の職人約二十人と信徒たちの労働奉仕を得て、着工して二年後の一九一三年（大正2）に完成し、十二月九日に大天使聖ミカエルの名のもとに献堂式が行われた。



建物自体は洋風小屋組、二つの鐘塔をもつロマネスク風の煉瓦造り。平面はバジリカ方式で、身廊と左右に側廊がある。中央祭壇の下には、この地方で崇敬されている殉教者ジョアン又右衛門の墓があるといわれている。

二つの塔は八角形でらせん階段つき。煉瓦など建築資材は日本で特注製造されたが、ステンドグラスはフランス製で、大部分が建設当時のものである。

建坪は約六五五平方米、塔屋総高二三、五〇米。辺りに高層ビルがないので、場所によっては数キロ先からも眺望できる。

天井は鉄川氏建築に共通してみられるリブ・ヴォルト、いわゆる「コウモリ天井」で美しく、同時期に完成した長崎の浦上天主堂が原爆で焼失したことを思えば、これが明治・大正期の洋式教会としてもつ意義は大きい。

この教会の、というより、この小教区の特徴は、ほとんどの信徒が青木姓か平田姓であること。起源はわからないが、なるほど、同地方は、青々と田んぼが広がる平野ではある。

データ
●信徒数／約九八〇人●ミサ時間／土曜日二〇時、日曜日九時●住所／〒830・1223三井郡大刀洗町今七〇七●電話0942・77・0204●主任司祭／ミカエル中浜一男

場所
●大分自動車道筑後小郡インターチェンジから国道53号線を北野方面へ。下高橋交差点を左折一、二分走ると右手に老人ホーム聖母園と今村教会が見える。●西鉄大牟田線小郡駅（急行停車）からバスで北野方面行き下高橋停留所下車（約20分）、徒歩15分。同端間駅からタクシー15分。JR鳥栖駅下車。タクシーで約30分。

召命祈願ミサ

5月7日（木）19時45分、有志の会である《召命をともに祈る会》主催で、福岡教区に豊かな司祭、修道者の召命を求めて、福岡サン・スルピス大神学院で「召命祈願ミサ」が行われる。どなたでも参加できます。

5月17日世界広報の日

広報研修会

記

テーマ：聖霊に支えられて、希望を伝える
日　時：5月17日（日）13時30分～16時
講演：13時30分～14時20分
講師：Fr. 山元眞（教区広報委員長）
場　所：カテドラル大名町教会4階会議室

・・・・・・・・・・・・・・・

カテドラルでの9時のミサは「広報の日」のミサ（司式：Fr. 山元）です。
講演会は「世界広報の日」の教皇メッセージについてのものです。広報担当者だけでなく、一般の方もぜひご参加ください。講演会に続いて各小教区の広報担当者の集いをいたします。

BOOK 読みは専科

★子供の自立をめざしてあなたの愛が伝わっていますか
久野　信著



子供の教育、小学生から大学生まで、子供の成長のすべての年齢に、広くかかわって三十八年になる著者が、子供を大切にするとはどういうことか、を考え続け、求め続けた末にたどりついた確信をつづる。子供の自立にとって大切なことは、子供が「自分は愛されている」と実感すること。だが、親の愛が十分に子供に伝わっていないことに気づき、多くの実践を試みた。カウンセリングや講演会、親のための学習会で実践したことを、分かりやすく述べている。
サンパウロ　税別一二〇〇円

◇　◇　◇

★ビーグル海峡だ！
南北アメリカ徒歩縦横断の記録
あんばい　こう著



彼は幼少から病弱な少年であったが、登山家の父親の影響を受けて、山や自然を愛し、たくましい青年に成長した。「若い今でしかやれないことがある」と一念発起し、体力づくりをかねての厳しい労働に従事しながら二百万円をためて、単独で南北アメリカ2万キロを徒歩で縦横断をなしとげた。この時、青年の心を燃やし続けていたのは故郷の山を大規模な乱開発計画から守ろうという願いだった。
女子パウロ会　税別一八五〇円

★休業のお知らせ
四月十三日から十六日まで

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石材 { 石の理想 / 石の影像 / 他の大御そ
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860-0006 熊本市段山本町2-21
TEL 096-352-2417

福岡黙想の家　4月

◇3日(金)～5日(日)　四旬節の黙想＜Fr.畠＞
◇9日(木)～12日(日)　聖なる三日間と主の復活を祝う〈Fr. 来住〉

［問合先］黙想の家　☎ 0940・32・3222
FAX 0940・32・3385

黙想の家のホームページを御利用ください
◎ホームページ　http://w32.mtci.or.jp/~daneox
◎e-mail　Mail to daneox@mtci.or.jp

生命山カトリック別院

生命山では、皆様のために、美しい自然の中で、神との語らいの日々を過ごしていただきたく、黙想会を計画いたしました。ご参加ください。

■祈りの集い
日時：④4月16日（木）
9時45分～15時
テーマ：詩編で祈る（全10回）
指導：フランコ神父
★次回は⑤5月14日（木）です。

■研修会　茶道とミサ
日時：5月4日（月）15時～
5日（火）15時
講師：フランコ神父
＊個人、又はグループでの黙想等、常時受け付けています。
［問合先］生命山カトリック別院　☎0968・85・3100

第37回　クルシリヨ開催

このたび福岡教区では、来る5月2日（土）から5日（火）まで下記の通り第37回クルシリヨを開催いたします。

ご存じのとおり、このクルシリヨは教会の要望に従い、使徒職に献身する信徒の養成をめざすもので、司教様も、生涯教育の一環としてクルシリヨの体験を強く望まれています。

この世の福音化をめざす今年のクルシリヨに、小教区、修道会からもたくさん参加くださいますよう、お願い申し上げます。

参加希望者は教会等にあります申込書を、下記事務局に4月25日までにお送りください。

＊なお、時間的に間に合わない恐れがある場合には、下記連絡先に電話で直接お申し込みください。

記

1. 日　時　5月2日（土）19時～5日（火）16時
2. 場　所　福岡黙想の家　☎0940・32・3222
3. 参加費　12,000円
宿泊・食事・用品代として当日受付けます。
4. 携行品　ロザリオ・着替・寝間着・洗面用具
（筆記具・その他ほとんど事務局で用意します）
5. 問合先　福岡教区クルシリヨ事務局
大谷真造　☎092-661-0120

＊当日は18時30分をめどに受付けをしてください。

会合と催し　教区年間テーマ：キリスト者を活かす聖霊を信じます

4月

5日（日）受難の主日（枝の主日）
聖週間
世界青年の日
＋F.ブレンゲ［佐賀教会1946］
7日（火）**聖香油ミサ**（カテドラル15時）
＋C.シュミッツ［黙想の家院長1988］
9日（木）聖木曜日（主の晩さん）
主の晩さんの夕べのミサ（カテドラル19時）
10日（金）聖金曜日（主の受難）
大斎・小斎：聖地献金
11日（土）聖土曜日
復活徹夜祭（カテドラル19時）
12日（日）復活の主日
＋パウロ大野正恒［泰星学園校長1985］
13日（月）福岡教区司教座教会献堂記念日
15日（水）＋J.ドレル［直方教会1984］
19日（日）復活節第2主日
司教座教会献堂記念特別献金
花岡山殉教祭（1面参照）
25日（土）聖マルコ福音記者
＋A.レウトル［新田原教会1944］
26日（日）復活節第3主日
新田原教会信徒会館落成式
29日（水）シエナの聖カタリナ／みどりの日

5月　聖母月

1日（金）労働者聖ヨセフ
2日（土）聖アタナシオ
3日（日）復活節第4主日／聖フィリポ・聖ヤコブ使徒
召命祈願日／憲法記念日
5日（火）こどもの日
久留米教会信徒会館祝福・落成式
＋F．ルマリエ［八代教会1945］
7日（木）召命祈願ミサ（大神学院19時45分）
10日（日）復活節第5主日
＋F.チリ司教［初代福岡教区長1930］
福岡教区修道女連盟総会・研修会
12日（火）福岡短期キリスト教講座①（～6月16日）■
14日（木）聖マチア使徒
15日（金）**福岡聖書講座**①（～7月17日）■
ヨハネ棚町正刀［茶山教会1968］
17日（日）復活節第6主日／広報の日《献金》
広報研修会（3面参照）
18日（月）熊本結婚準備セミナー①（～6月16日）■
23日（土）福岡結婚準備セミナー①（～6月20日）■
24日（日）主の昇天／扶助者聖マリア
26日（火）聖フィリポ・ネリ
31日（日）聖霊降臨の主日
合同堅信式（カテドラル13時30分）

■印は本面に詳細説明あり

福岡

■**第7回福岡カトリック・パストラルケア研究会**　この研究会は、病人訪問や病人の世話に関わり、あるいはそれらに従事する人々による、勉強会です。病人訪問時の病人への対応の仕方、病人（入院患者）の心理、カトリックの葬儀などについて勉強します。［日時］4月5日（日）14時～16時［場所］福岡サン・スルピス大神学院新館ホール［内容］入院患者の心理（勉強会）［参加費］無料［問合先］事務局（シスター箕浦☎0942・871・4943大神学院）
★第8回は5月3日ではなく、17日に勉強会の予定。

■**カテキスタの集い**　★4月5日は受難の主日につき休会。
［日時］5月3日（日）13時30分～15時30分［場所］福岡カトリック神学院［講師］山元眞神父（同神学院院長）［テーマ］堅信の準備［会費］500円［問合先］福岡カトリック神学院☎092・531・6821 FAX524・7373★予告6月7日・7月5日

■**JOY倶楽部支援コンサート《桜色した風のあとに…》**　知的ハンディキャップの奏でる楽器からあたたかさをハーモニーに乗せてあなたの心へ届けます［日時］4月5日（日）15時（14時30分開場）～［会場］福岡市西市民センター（福岡市西区姪浜）［演奏］JOY倶楽部ミュージックアンサンブル［参加費］JOY倶楽部支援金として一口2000円（中学生以下は1000円）それぞれ一口につきコンサート整理券一枚を差し上げます。［問合先］福岡障害者文化事業協会・事務局長緒方克也☎092・583・8080 FAX583・8081［主催］福岡障害者文化事業協会

■**SE・CO～奉仕と分かち合い～ボランティア・グループ総会**［日時］4月18日（土）10時30分～［場所］聖心のウルスラ宣教女修道会福岡修道院会議室［内容］講話、総会（平成9年度報告と新年度計画）［講師］山元眞神父［参加費］1000円（昼食費共）／自由参加です［問合先］☎龍（092・581・6838）山下（574・3787）白壁（552・1879）武田（552・4250）シスター高取（512・0033）

■**ホスピスの会**　［日時］4月19日（日）14時～　時［場所］カテドラル大名町教会［内容］［参加費］　［問合先］鳥栖市儀徳町二九〇七、古賀医院、☎0942・83・2294

■**福岡生と老い・死をみつめる会**　［日時］4月26日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会4階会議室［内容］平成9年度総会。ビデオ鑑賞と語り合い。死別体験者の語り合い。［会費］無料［問合先］事務局（大山美穂子☎092・713・8523／村尾嘉道☎607・6992）

■**福岡地区・召命を共に祈る会**［日時］4月27日（月）14時～16時［場所］司教館3階応接室［問合先］青木悟神父☎092・522・5139（教区本部）

■**第5回短期キリスト教講座―生きる―**　［日時］5月12日10時～11時45分／19時～20時45分（毎週火曜日・全6回）から6月16日まで［場所］カテドラル大名町教会［テーマ・講師］①5月12日・あなたの愛が伝わっていますか・久野信氏、②19日・生かし、生かされるキリストの愛のパラドックス・前田照子修道女、③26日・わたしのキリスト理解・橋本勲神父、④6月2日・キリストとはどんなお方か・松永久次郎司教、⑤―(1)9日（午前）・老いと死ひとりの信者として・今村茂氏、(2)9日（午後）聖書に生かされて・G・ケルクマン神父、⑥16日・ホスピタリティ旅人のもてなし・来住英俊神父［受講料］一講座500円［申込先］カトリック福岡司教館☎092・522・5139（16時まで深堀）FAX523・2152（24時間）

■**聖書講座［前期］フィリピの信徒への手紙・コロサイの信徒への手紙**　［日時］5月15日19時～21時（毎週金曜日・全10回）から7月17日まで［場所］カテドラル大名町教会［テーマ・講師］①5月15日・フィリピ書の著者、年代、場所、構成と教義・松永久次郎司教、②22日・感謝と祈り、キリストと生きること・松永司教、③29日・キリストを模範とせよ、共に喜ぶ、テモテとエパフロディト・青木悟神父、以下は次号に掲載［受講料］毎回800円、全回5000円［申込・問合先］カトリック福岡司教館☎092・522・5139（16時まで深堀）FAX523・2152（24時間）［主催］福岡教区聖書委員会

■**信徒会館（テレジア館）落成記念講演会**　［日時］5月17日（日）10時30分（9時ミサ終了後）～［場所］カトリック新田原教会［講師］シスター渡辺和子（ノートルダム修道会）［講演テーマ］キリストの香り［会費］会場カンパ［問合先］新田原教会☎09302・3・1594

■**青年の集い**　［日時］5月17日（日）11時～17時［場所］福岡サン・スルピス大神学院ホール［テーマ］未定［内容］講話・分かち合い・ミサ［問合先］青木悟神父☎092・522・5139（教区本部）

■**第72回福岡結婚準備セミナー**［日時］5月23日（土）～6月20日（土）　5月30日を除く毎土曜・木曜日19時～21時30分［場所］カテドラル大名町教会［申込・問合先］カトリックファミリーセンター☎092・541・6207 FAX552・5022

佐賀

■**聖書に学ぶ心の教育・パート2～道徳とは―佐賀新聞文化セミナー**　聖書の言葉を踏まえながら、現代の道徳の在り方について考える［日時］第二、第四土曜日15時30分～17時［場所］タマヤ教室［講師］アレグリーニ・アレグリーノ神父（ロザリオの園）［受講料］7200円（プリント料300円）［申込・問合先］佐賀新聞文化セミナー事務局☎0952・28・0371

熊本

■**第56回熊本結婚準備セミナー**［日時］5月18日（月）～6月16日（月）　6月第二週を除く毎月曜・火曜日19時～21時30分［場所］手取教会［申込・問合先］手取教会☎096・352・3030 FAX092・552・5022（カトリック・ファミリーセンター）

編集後記

聖霊来てください。わたしたちの知恵を照らしてください。

2000年大聖年
聖地巡礼旅行積立プランのご案内

大聖年に聖地巡礼旅行を予定しておられる方へのお得なお知らせです。

◎30万円を目標にされると
→→月々12,183円で7,600円がお得（24回で2,5％をサービス）

◎50万円を目標にされると
→→月々20,305円で12,680円がお得（24回で2,5％をサービス）

聖地巡礼は弊社へおまかせください。
問い合わせは　（担当：二田、有村）
近畿日本ツーリスト株式会社／北九州支店
〒802-0004 北九州市小倉北区鍛冶町1-2-16
☎093-551-2182／FAX521-1774
人が好き。地球が好き。旅がスキ。
近畿日本ツーリスト

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店　〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般の意向】霊の声に誠実に

【布教の意向】終生にわたる宣教者の召命

【日本の教会の意向】召命の促進

＊説明は3面に

「聖霊の年」に聖霊降臨を祝う

5月31日・カテドラル

教会の誕生を祝う ミサと合同堅信式

カトリック教会では、紀元二〇〇〇年の大聖年を間近に控え、三年にわたり直前の準備をしている。第二年目にあたる今年のテーマは「聖霊」。日本カトリック司教協議会は大聖年準備特別委員会を設け、その準備を進めているが、同委員会は聖霊降臨の主日のために「教会の使命は、わたしの使命」と題するメッセージを発表した。カテドラルでは合同堅信式が行われる。

メッセージは教区本部事務局を通して各小教区に配付されている。

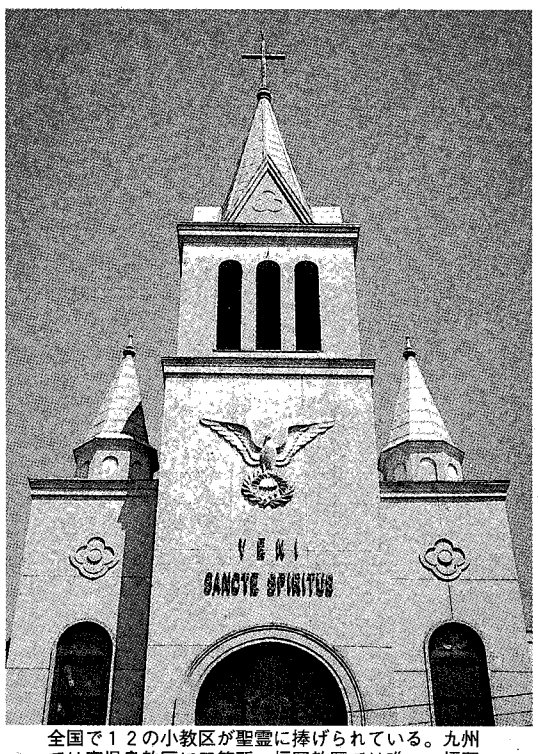
大聖年直前準備の聖霊の年に「聖霊降臨」を祝うに当たり、

「教会は聖霊の導きに身をゆだねること以外の方法で、新しい千年期を迎えることはできません」という教皇ヨハネ・パウロ二世のことばを、今一度、真剣に受けとめるようわたしたちは招かれている。カトリック教会は、今大きな転換期の中を歩んでいるが、今こそ、わたしたちはキリストの福音こそが希望の光であると信じ、聖霊の導きに身をゆだねて回心する必要がある。その回心によって、教会の使命である、「救いの道具となる」ことができる。聖霊に導かれて、教会と社会を刷新する奉仕者となる決意を新たにすることこそ、二〇〇〇年の大聖年を迎える最良の準備である。

聖霊降臨祭は、聖霊を弟子たちに送るというキリストの約束が実現し、教会が誕生し、歩み始めたことを記念する日であるが、その同じ聖霊が今もわたしたちに降臨している。聖霊の働きは「愛」である。言語や民族の違いが、人類を分裂させる原因となるのではなく、それらの違いを多様性として受け入れながら、人類を一つにする力が聖霊によって与えられる。教会はこの「愛」という、人類に共通の唯一の言語を使って、きょうもキリストの福音を告げている。

聖霊降臨は、けっして一回かぎりの出来事ではない。特に堅信の秘跡の中で実現する。按手して聖香油を塗り、祈ることによって聖霊が注がれる。こうして受堅者は福音を告げる教会の使命に参与する。

また、日本カトリック典礼委員会は、今年の聖霊降臨の主日のために特別に祈願文と共同祈願の前後文を準備しているので、それを利用することが勧められる。



全国で１２の小教区が聖霊に捧げられている。九州では鹿児島教区に三箇所。福岡教区では唯一、福岡市内の浄水通教会が聖霊に捧げられている。

聖香油ミサ・今年から火曜日に

「司祭は聖霊の道具」

四月七日午後三時、福岡カテドラル大名町教会で、松永久次郎司教司式、平田司教はじめ八十人にのぼる司祭団の共同司式で聖香油ミサが荘厳に行われた。病者の油など聖なる油が祝別されるこのミサは、典礼上は聖木曜日の日中に行われるが、福岡教区では今年から、受難の火曜日に行うことになった。すでに聖木曜日以外の日に行っている教区もある。その理由は、聖香油のミサ後司祭たちの祝賀の集いや夕べのミサなどのために時間的ゆとりがないため、参加できない司祭が多かったことである。今年はほとんどすべての司祭たちが参加した。

松永司教はミサ中の説教で、教皇が毎年聖木曜日に司祭たちにおくるメッセージを紹介し、『ヴェニ・クレアトル』（聖霊の賛歌）を、節を追って、聖霊が司祭たちに力と恵みを与え、豊かにし、養い、導いてくださることを話された。さらに「聖霊の年であることを思い起こそう。聖霊はキリスト者を活かし、通常私たち（司祭たち）を通して語り働く。私たちは聖霊のよき道具として、その働きを妨げないように」と諭し、「司祭が不足している福岡教区に働き人を送ってくれるよう、信頼をもって祈り、聖霊の年に多くの召命があるように」と司祭団を激励した。


ミサの中で松永司教により聖香油が聖別された

3司祭 叙階50周年を祝う

ミサ後四時三〇分から、一階ホールで祝賀会があり、席上、叙階金祝を迎えた三司祭、パトリック・ダイヤモンド神父(76)、ガブリエル・C・ブレシュトー神父（75）、ヴィルジニオ・チエリッザ神父（74）が紹介され、松永司教から記念品と花束が贈呈された。

松永司教のことば

「トゥ　エス　サチ　エルドス　イン　エテルヌム（あなたは永遠に祭司である）と言います。五十年間だけでなく永遠に働き続けてもらいたい。これからも司祭としてのすばらしい活躍を見せてください。そして私たちの希望になってもらいたい」（3面に金祝司祭の関連記事）

1998年「世界広報の日」メッセージ

聖霊に支えられて、希望を伝える

まず　祈りの人であれ

ヨハネ・パウロ二世教皇は一九九八年五月十七日の「世界広報の日」にあたり、聖霊が「人間の心において希望の守護者」であることから『聖霊に支えられて、希望を伝える』というテーマでメッセージをおくった。

教皇はまず、聖霊が与える希望は終末的、つまり救い、神との完全な一致への希望であるとしながらも、この「終末的希望は、この世の生活の幸福と現実に深く結びついている」ことを想起している。「天の希望は、今ここに生きている人々の幸せのために、本当に心をくだくよう私たちを駆り立てます。」

もっとも大切なこととして教皇が強調していることは、「コミュニケーションに携わるキリスト者は、聖霊によって養成されることが必要です。しかもそれは、ただ祈りの人のみにできることなのです。祈りは聖霊によって強められ、…説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えさせてくれるでしょう」。

社会的コミュニケーションを正しく利用するために決して忘れてはならないことは、「メディアによるコミュニケーションが、単に誘導、勧誘、販売の効率をあげるためにだけ行われてはならない。…これはイデオロギーのための媒体ではない。人間を単なる消費の単位とか、商品販売上の利益が期待できる対象と見なしたり、操作したりしてはならない」と戒めている。そのためにも「コミュニケーションに携わるキリスト者は、効果的に働けるよう養成を受けなければならない。この養成は、技術的能力、倫理・道徳上の養成、さらに人類文化・哲学・歴史・社会学・美学に関する養成、しかし何よりも大事なことは、内的生活、霊的生活への養成でなければなりません」。

最後に「神の約束に心から自らをゆだねる人々にとって輝かしい模範であるマリア」に取り次ぎを願おうと励ましている。

5月17日世界広報の日

広報研修会

記

テーマ：聖霊に支えられて、希望を伝える
日　時：5月17日（日）13時30分～16時
講　演：13時30分～14時20分
講　師：Fr. 山元眞（教区広報委員長）
場　所：カテドラル大名町教会４階会議室

・・・・・・・・・・・・・・・

カテドラルでの９時のミサは「広報の日」のミサ（司式：Fr. 山元）です。
講演会は「世界広報の日」の教皇メッセージについてのものです。広報担当者だけでなく、一般の方もぜひご参加ください。講演会に続いて各小教区の広報担当者の集いをいたします。

教区合同堅信式

記

日時：5月31日（日）13時30分
聖霊降臨の主日
場所：福岡カテドラル大名町教会
司式：松永久次郎司教
対象：復活祭前後に受洗した方（高校生以上）
主旨：「聖霊の年」の聖霊降臨祭を司教とともに教区で祝い、その中で堅信式を行う
申込：申込書（各小教区にある堅信申込用紙）に記入の上、小教区司祭に申し込む
準備：各小教区で
集合：受堅者と代父母は、5月31日（日）12時30分に聖堂に集合
問合先：本部事務局　Fr. 青木
☎092-522-5139

アジア特別シノドスのための祈り

救い主イエス・キリスト、あなたは、この世の罪と苦しみをすべて引き受けてくださるほど世界を愛してくださいました。
死と復活の神秘をとおして全人類に永遠のいのちを与えるために、十字架に至るまで、罪と苦しみを担ってくださいました。
アジア特別シノドスに合わせて心から祈ります。「主イエス、来てください！」
わたしたちとともにいてください。
あなたのいのちの福音を悟らせてください。
アジアにおいて、あなたの愛と奉仕の使命に生きているわたしたちを力づけてください。
あなたの母マリアのまわりに集い、心から祈ります。
アジアが新たな聖霊降臨を体験できるよう、いのちを与える霊を注いでください。
わたしたち一人ひとりが、愛を受けて強められ、ことばと行いによって愛の文明を築くため、力を合わせて働くことができますように。
慈悲の心は利己心に、平和は戦争に、一致は分裂に打ち勝ちます。
主イエス・キリスト、わたしたちの祈りを聞き入れてください。
御父と聖霊とともに生き、支配しておられる唯一の神であるあなたに、すべての誉れと栄光が、今もいつも世々に。アーメン。



福岡教区教勢 (1997.1.1～12.31)



＊司祭・修道者・神学生の数は含まれません

地区名	小教区名	在籍信徒数			転入		転出		幼児洗礼		成人洗礼		洗礼	求道者		初聖体	不明	死亡	結婚				ミサ参加者			教会学校(小)	世帯数
		男	女	合計	96	97	96	97	96	97	96	97	合計	96	97				信者	混宗	異宗	他宗	主日	復活	降誕祭		
福岡地区	糸　島	152	163	315	23	24	8	3	8	0	1	1	1	3	0	8	21	1	0	0	0	1	110	150	200	27	112
	今　村	452	541	993	5	9	9	10	13	7	4	6	13	2	0	17	0	15	0	0	7	1	700	850	900	74	235
	大　楠	142	197	339	16	13	8	21	4	3	3	5	8	15	27	21	3	3	5	0	2	1	200	250	700	61	152
	大牟田	77	141	218	15	8	22	3	3	4	5	6	10	8	6	5	10	4	1	0	0	14	100	160	300	10	121
	小　郡	165	220	385	27	7	10	11	1	6	0	0	6	2	2	0	52	1	0	0	1	0	90	200	250	13	136
	久留米	538	714	1,252	43	26	32	64	20	20	7	6	26	3	3	15	38	12	0	0	16	26	450	700	1,000	57	294
	古　賀	378	481	859	38	28	28	16	4	6	5	4	10	7	3	9	4	6	0	0	3	2	250	500	450	36	319
福岡県総人口	笹　丘	358	480	838	26	20	14	15	4	11	6	6	17	1	5	12	4	10	1	0	1	3	350	550	800	52	344
4984720人	浄水通	200	292	492	17	23	11	19	4	8	5	8	16	17	105	8	36	4	2	0	21	39	150	280	580	30	241
	大名町	639	931	1,570	72	56	67	49	6	8	20	11	19	18	20	5	104	14	4	0	24	35	500	800	3,000	62	806
県総信徒数	高　宮	187	278	465	34	15	18	22	8	3	8	1	4	3	5	0	69	3	0	0	4	1	120	220	330	23	301
24,561人	茶　山	269	302	571	17	15	8	10	0	6	2	2	8	1	4	4	0	5	0	0	6	0	254	309	247	18	173
比率0.49%	西　新	547	663	1,210	36	40	38	42	6	7	9	6	13	6	14	14	0	5	0	0	7	1	400	530	650	53	409
	箱　崎	118	160	278	12	5	22	19	2	1	1	4	5	4	7	6	0	2	0	0	2	0	100	170	220	4	49
	光　丘	600	672	1,272	45	29	31	19	6	7	8	8	15	8	6	15	132	3	0	0	9	0	380	450	500	75	450
	二日市	194	248	442	34	25	18	24	6	3	4	4	7	7	1	2	12	1	0	0	4	0	250	300	500	38	110
	本　郷	332	353	685	10	5	4	8	3	6	2	0	6	3	4	2	14	5	0	0	6	0	370	550	600	40	171
	吉　塚	314	406	720	13	8	14	3	2	6	9	5	11	3	5	11	0	2	1	0	2	0	230	350	400	36	274
	老　司	273	329	602	13	24	14	16	9	6	8	5	11	3	0	4	12	3	1	0	6	0	120	300	370	41	231
	小　計	5,935	7,571	13,506	496	380	376	374	109	118	107	88	206	114	217	158	511	99	15	0	121	124	5,124	7,619	11,997	750	4,928
北九州地区	飯　塚	102	142	244	8	2	14	3	1	3	1	0	3	2	3	2	0	2	1	0	4	3	70	150	160	10	112
	黒　崎	409	685	1,094	11	13	13	13	14	1	3	10	11	11	12	9	0	12	0	0	3	2	400	500	900	53	485
	小　倉	1,196	1,759	2,955	135	29	79	49	10	5	10	16	21	15	16	19	629	17	2	0	20	12	500	800	1,000	94	936
	新田原	896	973	1869	26	16	34	15	21	13	7	8	21	6	4	29	0	17	3	0	7	2	850	1,500	1,300	150	485
	田　川	60	88	148	2	2	2	0	2	1	0	0	1	2	2	0	26	3	0	0	1	1	25	70	90	0	68
	天神町	143	199	342	42	14	4	17	5	4	4	0	4	2	3	0	0	2	0	0	1	0	82	133	190	11	163
	戸　畑	335	429	764	9	9	22	22	6	6	8	7	13	7	67	8	3	3	0	0	5	1	210	320	580	35	329
	直　方	88	89	177	10	0	2	4	4	3	1	0	3	2	5	0	10	5	0	0	1	0	40	100	120	11	59
	水　巻	337	411	748	13	19	8	7	9	6	4	0	6	5	3	5	0	5	1	0	5	0	150	300	350	45	294
	門　司	224	305	529	10	4	26	13	1	2	12	0	2	1	1	4	0	5	0	0	4	1	180	250	250	20	215
	湯　川	555	657	1,212	45	28	17	31	13	8	6	3	11	2	1	14	15	9	0	0	5	0	350	500	600	40	483
	行　橋	330	366	696	16	30	24	5	9	8	1	2	10	0	4	9	1	7	1	0	8	0	250	350	600	45	249
	若　松	114	163	277	1	3	10	3	4	3	2	2	5	2	2	0	0	0	0	0	4	0	80	180	220	11	130
	小　計	4,789	6,266	11,055	328	169	255	182	99	63	59	48	111	57	123	99	684	87	8	0	68	22	3,187	5,153	6,360	525	4,008
福岡県	合　計	10,724	13,837	24,561	824	549	631	556	208	181	166	136	317	171	340	257	1,195	186	23	0	189	146	8,311	12,772	18,357	1,275	8,936
佐賀地区	伊万里	109	135	244	10	2	10	10	4	4	1	2	6	4	4	7	5	3	1	0	3	0	60	130	150	23	90
	鹿　島	23	28	51	1	0	1	0	1	1	1	0	1	1	6	0	0	0	0	0	0	0	10	30	55	3	26
佐賀県総人口	唐　津	199	265	464	14	7	10	10	11	0	1	4	4	0	3	6	25	6	1	0	12	0	120	150	250	42	192
885,022人	佐　賀	263	402	665	19	29	20	32	3	5	18	32	37	7	1	18	7	26	1	0	7	21	150	250	350	42	338
	多　久	55	59	114	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	3	1	0	0	0	0	25	30	55	7	49
県総信徒数	武　雄	35	49	84	3	8	0	4	2	1	0	0	1	0	1	4	0	0	0	0	2	0	20	50	90	10	32
2,764人	鳥　栖	156	222	378	10	6	9	12	7	10	3	6	16	10	7	8	0	4	0	0	5	0	115	260	290	55	163
比率　0.31%	馬渡島	190	192	382	2	1	6	1	8	5	0	0	5	0	0	4	0	1	1	0	0	0	300	350	350	40	73
	呼　子	195	187	382	2	8	7	1	3	2	3	0	2	0	1	0	1	4	0	0	0	0	370	390	400	30	114
佐賀県	合　計	1,225	1,539	2,764	62	65	63	70	39	28	27	44	72	22	23	51	41	45	4	0	29	21	1,170	1,640	1,990	252	1,077
熊本地区	荒　尾	43	106	149	3	4	0	2	5	2	1	4	6	6	5	2	0	2	0	0	1	0	50	65	80	7	75
	大　江	132	190	322	2	3	2	3	2	3	3	0	3	1	2	2	0	5	0	0	2	2	120	150	260	20	134
	帯　山	125	173	298	9	5	17	4	1	5	1	6	11	6	3	11	11	0	1	0	5	0	80	150	150	9	111
	菊　池	18	50	68	2	0	7	8	0	2	1	0	2	1	1	0	31	2	0	0	0	0	20	40	40	0	24
	健　軍	182	255	437	12	7	19	20	3	1	3	2	3	0	1	3	0	6	0	0	5	1	150	300	400	24	181
熊本県総人口	崎　津	103	133	236	6	0	9	1	1	3	0	0	3	0	0	11	0	2	0	0	2	2	60	140	170	18	72
1,866,145人	島　崎	140	220	360	4	17	4	3	2	0	5	0	0	4	4	0	0	2	0	0	1	0	180	280	320	11	158
	玉　名	48	78	126	0	2	0	0	2	1	0	0	1	0	22	2	1	1	0	0	1	2	60	100	200	15	53
県総信徒数	手　取	368	672	1,040	49	29	56	28	2	8	22	16	24	23	35	3	37	13	0	1	13	15	330	550	650	56	596
3,945人	人　吉	62	125	187	4	3	2	16	2	1	1	0	1	1	0	0	0	5	0	0	3	1	60	100	220	19	93
比率　0.21%	本　渡	33	67	100	7	0	6	56	2	4	2	1	5	0	0	0	56	2	0	0	3	0	30	60	130	0	100
	水　俣	41	61	102	0	5	1	0	1	4	2	0	4	0	1	0	17	0	0	0	1	1	20	70	100	0	37
	武蔵ケ丘	150	225	375	73	17	40	10	7	0	2	6	6	4	2	9	0	11	0	0	6	1	200	220	350	22	190
	八　代	44	101	145	1	4	4	11	2	0	2	0	0	6	5	1	0	0	0	0	0	3	80	120	250	8	76
熊本県	合　計	1,489	2,456	3,945	172	96	167	162	32	34	45	35	69	52	81	44	153	51	1	1	43	28	1,440	2,345	3,320	209	1,900
教　区	総　計	13,438	17,832	31,270	1,058	710	861	788	279	243	238	215	458	245	444	352	1,389	282	28	1	261	195	10,921	16,757	23,667	1,736	11,913

広大な畑に少子化加速

今年も各教区の現勢報告が出そろう季節になった。

福岡教区においても、福岡、佐賀、熊本三県の五十五の小教区から報告が出そろった。

誰にも一番気になる数字は自分の教会の信徒数だろう。

天の御父の畑を手伝うという意味でみると、前年度より七百七十一人増しということは、「良」か「やや良」ということになるのだろうか。ちなみに、福岡教区三県の総面積は約一万四千八百平方キロメートル、総人口は約七百七十五万人である。この広大な畑に対して、働き手である信徒は三万千二百七十人、約〇・三%でしかない。新たな働き手を求めなければ到底無理な広さに思える。働き手の希望者ともいえる「求道者」が前年の八割増しというのは大きな喜びである。求道者が増えている教会はきっと活気のある教会であろう。

もう一つの希望である「幼児洗礼」の数字に、急速な少子化現象が見えるのは止めようもないものなのだろうか。今回の表には出ていないが、いわゆる教会学校の、特に小学生だけの数字を見ても、決して増えてはいない。過去三年間の小学生の総数は、千八百四十人・千八百人・千七百三十六人となっている。教会学校が無い教会すらある。

私たちカトリック教会の特徴でもある伝承をどこに伝えればよいのか。後継者である子供たちに伝えるのは家族だけではないと思う。もう一度、共同体の中で子供たちのことを考えるのも、新学期が始まった今、急がれることではないだろうか。

気になる「居所不明者」の実態

もう一つ気になるのは「居所不明」という欄の数字である。こちらも年々増えて一千人の大台を突破してしまっている。これはどんな数字だろうか。統計上の約束では、主任司祭が過去三年くらい通常の方法（電話や手紙）で連絡が取れなかった在籍信徒数ということになっている。洗礼は受けているが仕事や生活に忙しいとか、病気で出かけられないままの人というわけではない。いわゆる連絡が取れない人ということなのだろう。

数年前、ある大きな教会の「居所不明者台帳」を閲覧する機会があった。台帳の中に知人の名前を見つけて驚いてしまった。その知人は別の教会で活躍し、教会の役員までしていたからである。なぜ、そのようなことになったのか見当もつかないが、時折、土曜の夜のミサに出席するチャンスがある時など、他の小教区の信徒に出会うことは多い。この人たちも何らかの理由で、自分の籍のある教会でなく、便利だとか、都合がいいくらいで別の教会へ出かけ、よしとしているのかもしれない。これらの人は主日のミサに参加しながらも、自分の籍がある教会では「居所不明者」になっているかもしれない。

私たちは一国民として、現住所を移れば必ず役所に届ける。また、何かのグループに加入したり、退会すれば必ず届けるはずである。神の民である私たちは地上の家である教会を移転するならば、やはり届けるのが当然だろう。神の民としての意識もそんなところから備わっていくのではないだろうか。

（教区本部事務局）

参加者募集

対　象：一般信徒

① 5月16日(土) 16：00 ～ 17日(日) 15：00 ＜マテオ神父指導＞
② 6月20日(土) 16：00 ～ 21日(日) 15：00 ＜来住神父指導＞
③ 7月18日(土) 16：00 ～ 19日(日) 15：00 ＜畠神父指導＞

会　費：6,000円
申　込：0940－32－3222 (受付；9：30～17：00)

福岡黙想の家
〒811-4155 宗像市名残1056
TEL 0940(32)3222 FAX 0940(32)3385

有限会社 共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810-0044
福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ　土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 (SOU-EN)
ご葬儀
木下株式会社
TEL092－526－5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

50の年輪を刻む

遠く祖国を離れ、司祭生活の大半を日本での宣教と司牧のためにささげてくださった三人の司祭を紹介する。

パトリック・ダイヤモンド神父（聖コロンバン会、本渡教会）一九二二年三月十五日アイルランド生まれ、一九四八年十二月二十一日司祭叙階。一九五〇年来日、横浜で半年日本語の勉強した後、崎津教会（十二年間）など専ら熊本地区で司牧宣教に従事。一九九五年から本渡教会で司牧。七十六歳。



ひとこと「ずっと天草にいて、深堀司教様、平田司教様、松永司教様と三代の司教様にお世話になりました」

ガブリエル・ブレシュトー神父（御受難会、福岡黙想の家）一九二三年四月二十二日フランス生まれ。一九四八年六月二十九日司祭叙階、一九七一年来日。七十五歳。



ひとこと「司祭として神の愛を理解できるようになりたい。愛にみたされ、みんなに愛をみせるように。三十歳まで体が弱かったが、一生懸命頑張っていきたい」

ヴィルジニオ・チェリッザ神父（ミラノ外国宣教会、唐津教会）一九二四年一月九日イタリア生まれ、一九四八年六月二十七日司祭叙階。一九五二年来日、山梨、甲府で四十四年司牧したのち一九九四年福岡教区へ。現在唐津新教会の建設に奮闘中。七十四歳。



ひとこと「神さまと皆さまにお礼を言います。特に神さまには、よく我慢してくださった、御苦労さまと言いたい。四年前にこちらに来て九州人、次は宇宙人。これからはサービスの期間と思っています」

典礼 あ・ら・か・る・と 9

古代オリエントの時代から、油は薬として、また美容や健康などのためにも用いられてきました。聖書では、オリーブから取られた油が重用され、シラ書では、「人間が生きていくうえで何よりも必要なもの」（シラ39・26）の一つにあげられています。また、古代オリエントやエジプトでは王や高官の叙任のときに油を塗りました。同様に、旧約聖書ではアロンやダビデは油を注がれて祭司や王に選ばれました。そしてイエスも、神からの聖霊と力によって「油注がれた者（メシア）」となり（使徒言行録10・38参照）、新約の祭司、王、預言者としての務めを果たしました。

典礼との関連では、油は洗礼、堅信、司祭と司教の叙階、病者の塗油などのときに用いられます。求道者は、洗礼志願式のなかで聖霊による強めのための油を塗られて洗礼志願者となります。そして、洗

油―聖霊による証印―

礼のときには額に塗油を受け、祭司、王、預言者であるキリストの務めにあずかることが表されます。堅信の秘跡では、按手に続いて額に油が塗られ、聖霊によって信仰が強められることを願います。洗礼との関連で行われるこのような塗油は、すでに2～3世紀ころには行われていて、洗礼における聖霊の働きを象徴的に表していました。また、叙階式では、司祭叙階の場合は手に、司教叙階の場合は頭に油が塗られ、神の民を導くキリストの牧者としての使命を受け継ぎます。さらに、病者の塗油においても聖霊の助けと保護を願って油が塗られます。病者に対する塗油の実践は、ヤコブの手紙にも述べられています（ヤコブ5・14以下参照）。

このように、油はそれを受ける人が聖霊によって強められ、いやされ、聖別されることと結ばれて用いられます。わたしたちは塗油を受けて聖なる霊による証印を押され、「油注がれた者」となってキリストとともに生きる者となり、聖霊の豊かな祝福と力に満たされるのです。

（カトリック中央協議会『毎日のミサ』一九九五年六月号第一頁）

花岡山殉教祭

殉教者と心の交わりを深めるために

四月十九日午後二時より、熊本、花岡山殉教祭が、小笠原玄也と、その妻加賀山マリアみや、一族十五名の殉教者墓地広場にて、松永久次郎司教の司式で挙行された（＝写真）。

晴天に恵まれ、緑映える中、地元熊本及び教区各地から司祭、修道者、信徒、約三百七十名が集った。

式典は、十五名の殉教者が眠る「聖域」への行列から始まり、墓前には、幼い子どもたちの手で、花々が供えられた。ついで、司教による献香、散水式が行われ、その後、心を一つにし、十五名の殉教者たちの列福を求める祈りが、参列者一同で唱えられた。

殉教ミサは松永司教と地元の各小教区の主任司祭、六名の共同司式で捧げられた。司教は、説教の中で大要、次のように語った。

小笠原玄也一族の殉教の特徴の一つは、家族そろっての殉教である。人間の心は自然に神に向かうようにつくられているので人間の心は生まれつきキリスト信者ということができる。親の影響を受けて、子どもでも何も知らないうちから神を知っていた。殉教にまで至るこの信仰は、家族だけでなく、四人の侍女にも影響を与えるほどのものであった。



また、その信仰はあしかけ十八年にわたる長い試練に耐え、最後まで信仰を守り抜いて殉教に至ったものである。貧しい生活をした彼らは、物質的に支えてくれた人々に感謝を表して殉教していった。

遺書を残していることもその特徴の一つである。彼らは納得して殉教していく。やむをえずではない。身内に信仰を捨てた人もいたが、神はいつくしみ深い方、必ずゆるしてくださるから、神の元に立ち返ってください、と励ましている。たしかにこの世の人生は大切ではあるが後の世にくらべれば問題にならない、永遠に続く命を大切にしなければならない、と説く。

これが殉教者の墓地といえる所はここだけである。それは私たちを励ますため。殉教者の遺徳を偲んでそれをよく学び、その勇気にあずかるためである。ここは貴い場所。ここには特別な恵みがある。大切にしよう。他の人々に話して伝えることができるように殉教者についてよく学びましょう。

司祭、修道者の召命は信仰の実りのひとつである。司祭の召し出しの数は、ある意味でその地区の信仰のバロメーターといえる。もっと信者が奮起して、神さまへの感謝としての信仰の美しい証しをしてほしい。

この殉教ミサの中で、聖体拝領後、参列者全員による「宣言文の唱和」が行われた。この意図するところは、日々の暮らしの中で、信徒一人ひとりが自覚して殉教者との心の交わりを深め、その生き方を規範とするよう、奨励するものである。

式典は、午後四時過ぎ、滞りなく終了した。

（取材協力 島崎教会 高木光行）

御寄付御礼

故ミカエル赤星宏様の御香典返しに代えて赤星スミエ様より司祭養成のためにご寄付をいただきました。ここにご報告し、心より御礼申し上げます。

福岡カトリック神学院
院長　山元　眞神父

聖書に親しむ

―聖書の全テキストを読む「聖書百週間」―

約二年間にわたって、新旧約聖書の全テキストを読む「聖書百週間」という聖書の読み方があります。この方法を基本にして、聖書に親しむ集いを計画しました。どなたでもご参加ください。

日時／5月19日（火）13時45分～15時30分（以後毎週火曜日）
場所／カテドラル大名町教会
持参品／新旧約聖書
参加費／200円
問合先／大山悟神父☎092・871・5044

信仰生活刷新セミナー

《聖霊の年》



神の国は聖霊による愛と平和とよろこび

週	日時	テーマ	講師
第1週	5月25日	聖霊にまねかれて	松永久次郎司教
第2週	6月1日	神の愛	山元眞神父
第3週	6月8日	救いのみわざ	Sr. モロ
第4週	6月15日	新しい生命	T・ドワイヤ神父
第5週	6月22日	神の賜物の受領	マテオ神父
第6週	6月29日	聖霊の満たし	F・マッケイ神父
第7週	7月6日	聖霊のうちでの成長	畠基幸神父
第8週	7月13日	ミサ・聖霊の証人	松永久次郎司教

会場：カテドラル大名町教会
とき：毎週月曜日10時～12時
主催：聖霊による信仰生活刷新セミナー実行委員会
顧問：青木悟神父・ライル神父・ガブリエル神父
問合先：Br.床島藤吾（司教館：☎092-522-5139）

今月の意向（1面参照）

【一般】霊の声に対するマリアの誠実さが、すべての信者にとって神のみ旨を広い心で果たすための模範と励ましとなるように

【布教】若者が全生涯にわたる宣教者の召命をいつでも受け入れるように

【日本の教会】自分の健康や生命よりも他者の救いを大切にする動機から、多数の司祭、修道者、宣教者が生まれるように

召命祈願ミサ

5月7日（木）19時45分、有志の会である《召命をともに祈る会》主催で、福岡教区に豊かな司祭、修道者の召命を求めて、福岡サン・スルピス大神学院で「召命祈願ミサ」が行われる。どなたでも参加できます。

BOOK 読みは専科

★堅信への道―リーダーと共同体のための準備の手引き
カトリック横浜教区
典礼委員会著



堅信への道

「紀元二〇〇〇年の大聖年への準備として、一九九八年は聖霊の年と教皇ヨハネ・パウロ二世によって定められました。…神の国の建設のための積極的な協力者は、堅信の秘跡によって生まれるのです」（本文より）。

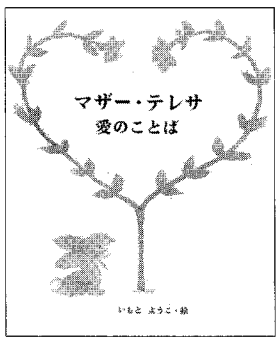
本書は特に、堅信の準備をしている人、そのリーダー、指導者にとって必読の書である。

堅信の準備のための資料（参考書・ビデオ）もご覧下さい。

サンパウロ　税別五八〇円

◇　◇　◇

★マザー・テレサ　愛のことば
絵・いもとようこ



マザー（お母さん）という呼び名のとおり、世界の人びとの心のよりどころとなったマザー・テレサのことば。《いもとようこ》の温かい挿絵を添えた、おしゃれな小型本。小学高学年～大人向／A5変型・二四頁

女子パウロ会　税別九五〇円

ジャパンスマイルか株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石材素材 { 石理影の大御そ 石他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860-0006 熊本市段山本町2-21
TEL 096-352-2417

会合と催し

教区年間テーマ：キリスト者を活かす聖霊を信じます

5月　聖母月

1日（金）労働者聖ヨセフ
2日（土）聖アタナシオ
3日（日）復活節第4主日／聖フィリポ・聖ヤコブ使徒
召命祈願日／憲法記念日
5日（火）こどもの日
久留米教会信徒会館祝福・落成式
＋F．ルマリエ［八代教会1945］
7日（木）召命祈願ミサ（大神学院19時45分・3面参照）
10日（日）復活節第5主日
＋F.チリ司教［初代福岡教区長1930］
福岡教区修道女連盟総会・研修会
12日（火）福岡短期キリスト教講座①（～6月16日）■
14日（木）聖マチア使徒
15日（金）**福岡聖書講座**①（～7月17日）■
ヨハネ棚町正刀［茶山教会1968］
17日（日）復活節第6主日／広報の日《献金》
広報研修会（1面参照）
18日（月）熊本結婚準備セミナー①（～6月16日）■
23日（土）福岡結婚準備セミナー①（～6月20日）■
24日（日）主の昇天／扶助者聖マリア
26日（火）聖フィリポ・ネリ
31日（日）聖霊降臨の主日
合同堅信式（カテドラル13時30分）

6月　みこころ月

1日（月）聖ユスチノ殉教者
3日（水）聖カロロ・ルワンガと同志
4日（木）＋ミカエル西田邦洋［若松教会1996］
5日（金）聖ボニファチオ司教
福岡聖書講座④（～7月17日）
6日（土）聖ノルベルト司教
7日（日）三位一体の主日
8日（月）司祭研修会（～10日）
11日（木）聖バルナバ使徒
13日（土）聖アントニオ・パドバ
14日（日）キリストの聖体
19日（金）イエスのみ心
20日（土）聖母のみ心
21日（日）聖アロイジオ・ゴンザガ
＋ドミニコ深堀仙右衛門司教
［第3代福岡教区長1985］
＋トマス平田好［門司港教会1938］
24日（水）洗礼者聖ヨハネの誕生
28日（日）《聖ペトロ使徒座への献金》
戸畑教会堅信式
29日（月）聖ペトロ・聖パウロ使徒

■印は本面に詳細説明あり

福岡黙想の家　5月

◇2日（土）～5日（火）クルシリヨ
◇6日（水）　ミカエル会
◇11日（月）～15日（金）聖ザベリオ宣教会
◇16日（土）～17日（日）一般黙想会／マテオ神父指導
◇23日（土）～24日（日）聖霊刷新祈りの会
◇30日（土）～31日（日）マリッジ・エンカウンター

［問合先］黙想の家　☎ 0940・32・3222
FAX 0940・32・3385

黙想の家のホームページを御利用ください
◎ホームページ　http://w32.mtci.or.jp/~daneox
◎e-mail　Mail to daneox@mtci.or.jp

生命山カトリック別院

生命山では、皆様のために、美しい自然の中で、神との語らいの日々を過ごしていただきたく、黙想会を計画いたしました。ご参加ください。

■祈りの集い
日時：④5月14日（木）
9時45分～15時
テーマ：詩編で祈る（全10回）
指導：フランコ神父
★次回は⑥6月11日（木）です。

■研修会　茶道とミサ
日時：5月4日（月）15時～
5日（火）15時
講師：フランコ神父
＊個人、又はグループでの黙想等、常時受け付けています。
［問合先］生命山カトリック別院　☎0968・85・3100

福岡

■第37回クルシリヨ　［日時］5月2日（土）19時～5日（火）16時　［場所］福岡黙想の家

■カテキスタの集い　［日時］5月3日（日）13時30分～15時30分　［場所］福岡カトリック神学院　［講師］山元眞神父（同神学院院長）　［テーマ］堅信の準備　［会費］500円　［問合先］福岡カトリック神学院　☎092・531・6821　FAX 524・7373★次回6月7日

■第5回短期キリスト教講座―生きる―　［日時］5月12日10時～11時45分／19時～20時45分（毎週火曜日・全6回）から6月16日まで　［場所］カテドラル大名町教会　［テーマ・講師］①5月12日・《還る家》をさがす子どもたち！（午前）・お父さん、わかってよ！（午後）・富田富士也氏★講師予定の久野信氏は富田氏に変更　②19日・生かし、生かされるキリストの愛のパラドックス・前田照子修道女（礼拝会）、③26日・わたしのキリスト理解・橋本勲神父、④6月2日・キリストとはどんなお方か・松永久次郎司教、⑤―(1)9日（午前）・老いと死 ひとりの信者として・今村茂氏、⑤―(2)9日（午後）聖書に生かされて・G・ケルクマン神父、⑥16日・ホスピタリティ 旅人のもてなし・来住英俊神父　［受講料］一講座500円　［申込先］カトリック福岡司教館　☎092・522・5139（16時まで深堀）　FAX 523・2152（24時間）

■聖書講座［前期］フィリピの信徒への手紙・コロサイの信徒への手紙　［日時］5月15日19時～21時（毎週金曜日・全10回）から7月17日まで　［場所］カテドラル大名町教会　［テーマ・講師］①5月15日・フィリピ書の著者、年代、場所、構成と教義・松永久次郎司教、②22日・感謝と祈り、キリストと生きること・松永司教、③29日・キリストを模範とせよ、共に喜ぶ、テモテとエパフロディト・青木悟神父、④6月5日・キリストを信じるとは・高見三明神父、⑤12日・わたしに倣う者になりなさい―勧告・高見神父、以下は次号に掲載　［受講料］500円（一講座800円）　［申込・問合先］カトリック福岡司教館　☎092・522・5139（16時まで深堀）　FAX 523・2152（24時間）　［主催］福岡教区聖書委員会

■第8回福岡カトリック・パストラルケア研究会　この研究会は、病人訪問や病人の世話に関わり、あるいはそれらに従事する人々による勉強会です。病人訪問時の病人への対応の仕方、病人（入院患者）の心理などについて勉強します。　［日時］5月17日（日）14時～16時　［場所］福岡サン・スルピス大神学院新館ホール　［内容］体験談「入院患者の立場から」後藤敬子修道女（聖心のウルスラ宣教女修道会）　［参加費］無料　［問合先］事務局（シスター箕浦　☎092・871・4943大神学院）
★第9回は6月7日、講話「病人訪問―司祭として」の予定。

■青年の集い　［日時］5月17日（日）11時～17時　［場所］福岡サン・スルピス大神学院ホール　［テーマ］未定　［内容］講話・分かち合い・ミサ　［問合先］青木悟神父　☎092・522・5139（教区本部）

■第72回福岡結婚準備セミナー　［日時］5月23日（土）～6月20日（土）5月30日を除く毎土曜・木曜日19時～21時30分　［場所］カテドラル大名町教会　［申込・問合先］カトリックファミリーセンター　☎092・541・6207　FAX 552・5022

■福岡地区信徒使徒職協議会代表者会議　［日時］5月24日（日）14時～16時　［場所］カテドラル大名町教会3階会議室　［会費］500円　［問合先］事務局（大山美穂子　☎092・713・8523）

■教区信徒使徒職協議会役員会　［日時］6月14日（日）14時～　［場所］カテドラル大名町教会

■聖歌研修会　［日時］6月14日（日）13時～15時30分　［場所］カトリック大楠教会　［聖歌指導］深堀純氏（大名町教会信徒）　［問合先］有馬浩　☎092・861・2673

■第16回「出会いの集い」　…きてみませんか？！　［日時］6月14日（日）11時～16時＊雨天決行　［場所］カトリック糸島教会　［内容］バーベキューパーティー・フォークミサ（山元眞神父司式）・派遣の祝福　［対象］20歳以上の独身男女　［参加費］2000円　［主催］カトリック福岡司教区カナの会　［申込締切］6月7日　［申込・問合先］前野（浄水通）　☎092・771・0793／村尾（大名町）　☎607・6992／本吉（高宮）　☎551・7797／松下（二日市）　☎922・3869
＊当日参加も可能ですが、できるだけ事前にお申し込みください。

■典礼・聖歌と祈りの集い　［日時］6月28日（日）14時～17時　［場所］福岡黙想の家　［聖歌指導］深堀純氏　［会費］1000円　［主催］福岡典礼聖歌研究会　［問合先］福岡黙想の家　☎0940・32・3222　FAX 3385

■ホスピスの会　［日時］7月19日（日）13時30分～　［場所］カテドラル大名町教会　［内容］講演、その他　［参加費］500円　［問合先］事務局／〒810-0034福岡市南区南大橋8・29小林計子　☎FAX 092・512・8723★昼間時30分～17時）　☎094

北九州

■聖書に学ぶ心の教育・パート2～道徳とは―佐賀新聞文化セミナー　聖書の言葉を踏まえながら、現代の道徳の在り方について考える　［日時］第二、第四土曜日15時30分～17時　［場所］タマヤ教室　［講師］アレグリーニ・アレグリーノ神父（ロザリオの園）　［受講料］7200円（プリント料300円）　［申込・問合先］佐賀新聞文化セミナー事務局　☎0952・28・0371

■第13回カトリック人生講座　［日時］毎週木曜日10時～11時30分・19時30分～21時（6月25日まで）　［場所］佐賀カトリック幼稚園講堂　［テーマ・講師］①5月14日・古くて新しいユダヤ人問題―新しい世紀における宗教の在り方・小平卓保神父②21日・いま、私たちが失いつつあるもの・吉野徳親氏③24日（日）バス日帰り研修「豊後のキリシタン史跡探訪」の旅　［解説］平山高明司教（参加費別途6000円・先着45人）④28日・ホスピスでの生と死・井田栄一医師⑤6月4日・心の痛みを癒すもの―高齢者福祉の諸問題・木村知己牧師⑥11日・子育てと反抗期―教育は祈りである・村木敏子修道女（幼きイエス会）⑦18日・希望教育・A・アレグリーノ神父⑧25日・安定した錨のように―希望・信頼・喜びの人生・G・フェラー　［受講料］4000円（一講座700円）　［申込・問合先］佐賀教会　☎0952・23・4754　FAX 23・4929

佐賀

■信徒会館記念講演会　［日時］5月17日（日）10時30分（9時ミサ終了後）～　［場所］カトリック新田原教会　［講師］渡辺和子修道女（ノートルダム修道会）　［講演テーマ］キリストの香り　［会費］［内容］講話とミサ　［参加費］500円　［問合先］新田原教会カンパ　［問合先］新田原教会　☎0930・2・3・1594

■第11回お母さんの集い　［日時］6月8日（月）10時30分～13時　［場所］カトリック小倉教会聖堂　［テーマ］兄弟のように　［講師］櫻井尚明神父（福岡サン・スルピス大神学院教授）　［内容］講話とミサ　［参加費］500円　［問合先］福吉三代子　☎093・962・1395

■あつまりませんか　【女子青年黙想会】　［日時］6月21日（日）10時～16時30分　［場所］福岡サン・スルピス大神学院新館ホール　［内容］体験談「入院患者の立場から」後藤敬子修道女（聖心のウルスラ宣教女修道会）　［参加費］無料　［問合先］事務局（シスター箕浦　☎092・871・4943大神学院）
★第9回は6月7日、講話「病人訪問―司祭として」の予定。

■青年の集い　［日時］5月17日（日）11時～17時　［場所］福岡サン・スルピス大神学院ホール　［テーマ］未定　［内容］講話・分かち合い・ミサ　［問合先］青木悟神父　☎092・522・5139（教区本部）

■第72回福岡結婚準備セミナー　［日時］5月23日（土）～6月20日（土）5月30日を除く毎土曜・木曜日19時～21時30分　［場所］カテドラル大名町教会　［申込・問合先］カトリックファミリーセンター　☎092・541・6207　FAX 552・5022

■福岡地区信徒使徒職協議会代表者会議　［日時］5月24日（日）14時～16時　［場所］カテドラル大名町教会3階会議室　［会費］500円　［問合先］事務局（大山美穂子　☎092・713・8523）

■教区信徒使徒職協議会役員会　［日時］6月14日（日）14時～　［場所］カテドラル大名町教会

■聖歌研修会　［日時］6月14日（日）13時～15時30分　［場所］カトリック大楠教会　［聖歌指導］深堀純氏（大名町教会信徒）　［問合先］有馬浩　☎092・861・2673

■第16回「出会いの集い」　…きてみませんか？！　［日時］6月14日（日）11時～16時＊雨天決行　［場所］カトリック糸島教会　［内容］バーベキューパーティー・フォークミサ（山元眞神父司式）・派遣の祝福　［対象］20歳以上の独身男女　［参加費］2000円　［主催］カトリック福岡司教区カナの会　［申込締切］6月7日　［申込・問合先］前野（浄水通）　☎092・771・0793／村尾（大名町）　☎607・6992／本吉（高宮）　☎551・7797／松下（二日市）　☎922・3869
＊当日参加も可能ですが、できるだけ事前にお申し込みください。

■典礼・聖歌と祈りの集い　［日時］6月28日（日）14時～17時　［場所］福岡黙想の家　［聖歌指導］深堀純氏　［会費］1000円　［主催］福岡典礼聖歌研究会　［問合先］福岡黙想の家　☎0940・32・3222　FAX 3385

■ホスピスの会　［日時］7月19日（日）13時30分～　［場所］カテドラル大名町教会　［内容］講演、その他　［参加費］500円　［問合先］事務局／〒810-0034福岡市南区南大橋8・29小林計子　☎FAX 092・512・8723★昼間時30分～17時）　☎094

熊本

■第56回熊本結婚準備セミナー　［日時］5月18日（月）～6月16日（月）6月第二週を除く毎月曜・火曜日19時～21時30分　［場所］手取教会　［申込・問合先］手取教会　☎096・352・3030　FAX 092・552・5022（カトリック・ファミリーセンター）

編集後記

「教区報を見て参加しました」と聞くとうれしいです。教区報が少しでも役立っていると、やりがいがあります。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者 ペトロ 平田 清

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所 大石真澄
☎092-552-8195 Ⓕ092-541-7734

FUJIKi
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1 TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長 藤木鐵三　福岡支店長 長山和博

アジア特別シノドス終わる

アジア固有の宣教について代表司教が提言

四月十九日に始まったアジア特別シノドス（代表司教会議）が五月十四日の閉会ミサで終了した。約一ヶ月の会期中、アジア各国の代表司教たちは地域の諸問題、特に福音宣教についてのアジア固有の考え方を教皇に提言した。



会場となったバチカン（写真は聖ペトロ大聖堂と広場）

日本からは代表司教が六人、エキスパート、オブザーバー、司教アドバイザーがそれぞれ一人ずつ、計九人が参加（本面6段参照）した。六人の司教はシノドス開催までに四回の会合をもち、それぞれの発題をまとめた。各司教の発題は、いずれも会期三日目の四月二十一日に行われた。五月十三日、閉会の前日、シノドスに参加した司教たちはそれぞれのメッセージを発表した。

アジアには世界人口の約半分が集中しており、しかもその六十パーセントは二十五歳以下。仏教、イスラム教、ヒンズー教などさまざまな宗教がある。キリスト教はフィリピンと韓国以外では少数である。また、多くの国が発展途上にあり、貧困、人権問題、環境問題、民族問題、女性への差別などの諸問題をかかえている。

これらのアジアの状況を踏まえながら、シノドスに参加した日本の司教は以下のテーマで発題した。

白柳誠一枢機卿（東京教区）は「**諸宗教間対話の歴史と課題**」、濱尾文郎司教（日本カトリック司教協議会会長・横浜教区）は「**世界平和への奉仕**」、島本要大司教（長崎教区）は「**インカルチュレーションと地方教会**」、池長潤大司教（大阪教区）は「**文化史のなかの宣教**」、野村純一司教（日本カトリック司教協議会副会長・名古屋教区）は「**アジアの霊性と現代の信仰生活**」、押川壽夫司教（那覇教区）は「**アジアにおける司牧と現実的な成長の過程**」で、原文は英語（島本大司教はラテン語）。

カトリック中央協議会のホームページで発表された日本語全文テキストを参考に司教たちの発題の要旨を紹介する。

日本人の心に触れる

神は世界に多様な文化、多様な習慣を持った人々を置かれた。カトリック教会は普遍的であればこそ、この多様性を包み込まねばならない。

その点、アジアの教会は西洋化されている。そのため、信仰の表現が日本人の心に触れにくいものになっている。特に、教会用語、神学表現、典礼の表現などが日本のものになりきっていない。結果、「カトリック教会は西洋のもの」という強い印象を与えている。これまでの福音宣教は、西洋式の「上から教授する」やり方で行われてきた。このような方法は、東洋人の心に迫るのには力に欠け、感情的に興味を起こさせることも少なく、有意義で喜びと創造的な行動に向ける決意を生むこともなく、いのちと心を欠いた抽象概念として人々に覆いかぶさってくる。これからは、ゆたかな歴史と文化の素晴らしい多様さの中で、誠実な心で神を探し求めている人々の生活と、心の中に息づいている聖霊の働きを妨げないように、福音宣教の方向転換が求められる。

アジアにおけるカトリック教会は、その教育活動、社会福祉活動の故に高く評価されている。しかし神に導く宗教としては、十分に評価されていない。「祈る教会」となる努力、すなわち、霊性を高める努力が今後の大きな課題となる。

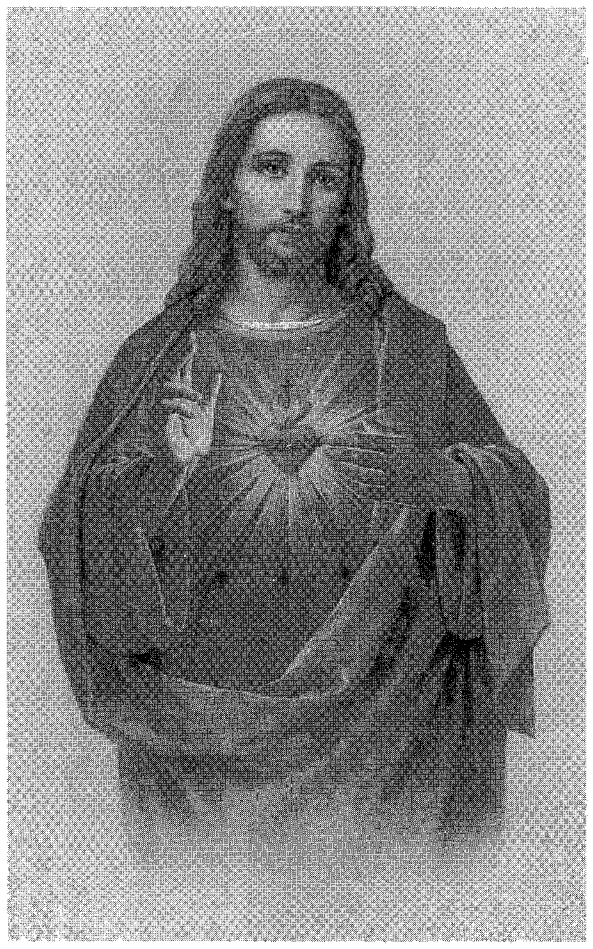
世界平和の実現

教会は、過去の戦争において人間の命を守るという神のみ旨をあかしする預言者的な使命を果たすことができなかった。以下の教皇の呼びかけに応えねばならない。「教会は、過去の誤りと不信仰、一貫性のなさ、必要な行動を起こすときの緩慢さなどを悔い改めて自らを清めるよう、その子らに勧めることなくして、新しい千年期の敷居をまたぐことはできません。過去の弱さを認めることは、私たちの信仰を強める勇気ある誠実な行為です」（使徒的書簡『紀元二〇〇〇年の到来』第33項）。

諸宗教間の対話が重要

日本の教会は、アジアの多数の宗教の信奉者とも対話をしながら、平和のために一緒に働いていかねばならない。

六月はみ心の月



6月19日（金）は「イエスのみ心」の祭日。イエスのみ心に対する信心は中世に始まり、聖マルガリタ・マリア・アラコクがみ心の信心についての啓示を受けた17世紀にフランスで広まった。そして1858年に、教皇ピオ9世によって全世界で祝うことが定められた。イエスのみ心に表される神の愛を思い起こすとともに、イエスの無限の愛のしるしであるみ心をたたえる祭日である。

シノドスとは

「世界代表司教会議」の略。

語源はギリシャ語で「一緒に歩む」「共に進む」という意味があるが、後に会議を指すようになった。

全世界のすべての司教が集まる「公会議」をたびたび開くことが困難なことから、第二バチカン公会議以降、四年に一度各国代表の司教会議が開かれている。目的は、教皇と司教たちとの緊密な関係を助長し、信仰および倫理の擁護と向上、規律の遵守と強化のために教皇に助言すること。また、世界における教会活動に関する諸問題を研究する。通常総会、臨時総会のほか、特定地域または複数の地域に直接関連する問題を取り扱う特別会議がある。

アジア特別シノドス

教皇ヨハネ・パウロ二世は第三の千年期に向けて教会の活性化を図るために、四大陸別のシノドスを始めた。

今回のアジア特別シノドスには、中東からシベリアにおよぶ地域から司教が集まった。日本からは、上記六人の司教のほか、小田武彦神父（中央協福音宣教研究室室長）、弘田鎮枝修道女（ベリス・メルセス修道会）、アドルフォ・ニコラ神父（イエズス会日本管区長）が参加。

カトリック福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう
【一般の意向】信仰の名による暴力ではなく
【布教の意向】聖霊を求める
【日本の教会の意向】聖霊降臨と堅信の秘跡

＊説明は2面に

6月28日 湯川教会出身 小島知博さん 司祭に叙階

湯川教会（北九州市小倉南区）出身のサレジオ会員、使徒ヨハネ小島知博さんが六月二十八日（日）午後二時に、湯川教会で松永久次郎司教から司祭に叙階される。一九六六年八月十四日生まれ。小倉北区の小倉教会で受洗。中学二年の時に川崎サレジオ中学に編入。司祭職を目指す。同高校を卒業後、二松学舎大学に進学、初誓願を立てた。川崎サレジオ中学で二年間の教育実習。上智大学神学部を経て九六年四月より米国留学。九七年五月三十一日、米国フロリダ州で助祭叙階。

召命祈願ミサ

6月4日（木）19時45分、有志の会である《召命をともに祈る会》主催で、福岡教区に豊かな司祭、修道者の召命を求めて、福岡サン・スルピス大神学院で「召命祈願ミサ」が行われる。どなたでも参加できます。

召命学校

対象：小学校4～6年生男子（中学生希望者も可）
日時：7月25日（土）11時～26日（日）昼食後
場所：福岡カトリック神学院
参加費：1,000円（交通費は自己負担）
持参品：ロザリオ、洗面用具、着替え、保険証コピー、筆記用具、水筒
定員：20人（定員になり次第締切）
申込・問合先：福岡カトリック神学院　山元　眞神父
☎092-531-6821　FAX. 092-524-7373

召命錬成会

対象：小学校4～6年生男子（原則として）
日時：7月20日（月）16時～22日（水）10時30分
場所：福岡・聖パウロ小神学校
参加費：1,000円
持参品：ロザリオ、洗面用具、着替え、保険証コピー、筆記用具
申込・問合先：聖パウロ小神学校　戸村　修神父
☎092-531-0924　FAX. 092-524-6169
◎申込締切は7月15日です

みちくさ

紫陽花（アジサイ）の咲く頃になると、いつも思うことがある花の色が次々に変わることから花言葉が「移り気」とは悲しい。神の目からすれば、色を変化させて人間を楽しませようとなさった（？）のに、人間が勝手にマイナスイメージを抱いたのだろう。心から紫陽花に同情する▼花言葉―花の特質に基づいて象徴的な意味をもたせることは、洋の東西を問わず、どこにもある。ヨーロッパでは中世の騎士に始まり、十九世紀初頭から中頃にかけて全世界に知られるようになった▼もともと花言葉は、スイセン＝うぬぼれ、オリーブ＝平和のような、ギリシャ・ローマ神話や聖書に基づいてできたものだが、諸民族がその文化や歴史、風俗により意味をつけたため、いくらかの違いがあり、ひとつの花に複数の意味をもつものもある。その最たるものがバラで、色や葉、トゲの有無などによって三十以上の意味があるからややこしい▼ユリといえば純潔の象徴で、聖母マリアの花ということは誰でも知っている。ユリにもいろいろあるが、白百合という名のユリはなく、テッポウユリである。キリスト教文化圏ではマドンナ・リリーと呼ばれ、受胎告知の絵では必ず見られる花である。面白いことに、この場面のユリは「処女受胎」という神学的意味をもたせるためにおしべを描かない、というのがキリスト教図像学の一応のきまりだという▼聖書や聖人たちとの関連を考えながら草花を眺めると、新しい発見がある。では、教区報より読者のあなたへ、勿忘草を…（H）

信徒会館落成

新田原 久留米

新田原小教区では四月二十六日、待ちわびた信徒会館が完成し、松永司教司式のもと、竣工式が行われた。(‖写真)

新田原では、信徒の増加に伴い、聖堂を建て直した後の旧聖堂をテレジア館と称して信徒の憩いの場として親しんできたが、築後六十数年を経て老朽化が進み、また子どもたちの要理教室の不足や、信徒の活動の拠点が必要なことから、テレジア館を建て直す必要に迫られていた。そこで平成五年に小教区の施設を見直すための特別委員会を発足させ、土地、建物、使徒職活動などの現状を総合的に見直し、検討した結果、要理教室が六室三百人収容可能の大ホール等を備えた信徒会館の建設が必要であり、その建設場所や建設資金の積み立て等、準備が必要なことから、信徒会館建設準備委員会を平成八年に結成し、竹森勇主任司祭の陣頭指揮のもと、役員をはじめ信徒一丸となって、具体的に建設計画が進められた。建設場所はテレジア館を取り壊してその場に、建設規模は三百坪を越えるというもので、小教区にとって一大事業であり、そのために信徒の心は建設に向けて一つになり、準備を進めてきた。

昨年六月、慣れ親しんできたテレジア館が取り壊されたときは惜しむ声もあったが基礎を据え、一階部分ができて二階へと工事が進むうちに信徒の心は期待に満ちあふれていった。

建設の概要は鉄筋コンクリート二階建てで、総床面積は約三百五十坪、一階部分は大ホール、厨房、和室、浴室、管理事務室などを含む約百九十三坪で、二階部分は多目的ホール、要理教室が六室、青年会の部屋、高校生の部屋など約百五十七坪で構成される。

玄関前の柱は天に向かってそびえるローソクをモニュメントとし、信徒をはじめ、教区や地域の人たちを迎え、キリストの上に建てられた家としてその使命を与えられた。愛称は信徒会館」と呼ばれることとなった。

五年にわたる準備と多くの教区内外の愛に助けられ、主のみ名のもとに信徒を一つにしてくださった神に感謝し、皆さんのおいでをお待ちしています。

(取材協力　新田原教会広報部)



久留米教会

久留米教会では、五月五日に新しい司祭館と信徒会館が落成した。午前十時から聖堂で感謝のミサが松永久次郎教区長の主司式、近郊の司祭の共同司式で捧げられ、引き続き、司祭館・信徒会館の祝別式が執り行われた。式には、当教会の役員をはじめ、歴代の主任・助任司祭、修道者、工事関係者、近郊教会、いわゆる筑後地区の信徒会長が参加。式後は祝賀会がもたれた。

旧司祭館は老朽化が使用については限界の状況であった。本来は聖堂の改築と一緒に工事が行われる予定であったが、場所などが検討され、約一年後に完成。新司祭館・信徒会館は旧司祭館の跡に建設された。鉄骨三階建てで、三階が司祭居室、客室、風呂など。二階は事務室、会議室、食堂、サロンなど。一階が信徒会館になっており、四つの部屋に仕切って利用することができる。受付、厨房などがある。資金の面で、同小教区内にある聖マリア、聖ルチア病院などからの援助があった。

(取材協力 久留米教会間瀬雅夫)

典礼 あ・ら・か・る・と 10

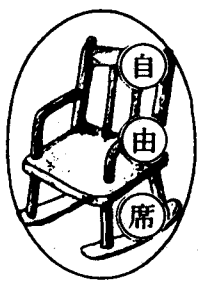
祭壇―主の食卓―

「ローマ・ミサ典礼書の総則」二五九番は、祭壇について次のように述べています。「祭壇は、十字架のいけにえが秘跡的なしるしのもとに現在のものとなる場所であるとともに、またミサにおいて、それにあずかるよう神の民がともに招かれている主の食卓でもあり、感謝の祭儀によって実現される感謝の行為の中心である」。ここで述べられているように、キリスト者にとっての祭壇は、実際に動物を殺していけにえをささげるためのものではなく、キリスト者が一つに集まってキリストの過越を記念する主の食卓なのです。

祭壇は、初めは石造りの固定されたものではなく、ミサが行われる場所に移動できる木製のテーブルのようなものでした。やがてキリスト教の迫害が終わると殉教者の墓の上に祭壇が造られるようになり、さらに4世紀以降には、岩であるキリスト(Iコリント10・4参照)、生きた石であり隅の親石であるキリスト(Iペトロ2・4、7参照)という聖書の考えに基づいて、石造りの固定された祭壇が次第に増えていきました。しかし、このような固定された祭壇が聖堂正面の奥の壁に接して造られたため、司式者は人々に背を向けてミサをささげるようになり、また、私的にミサをささげるために聖堂内に複数の祭壇が造られたために、主の食卓のシンボルである祭壇の特徴が不明確になってしまいました。

このようなことを見直して、「ローマ・ミサ典礼書の総則」二五九～二六七番では、祭壇は周りを回ることができ、司式者が会衆に対面して祭儀を行うことができるよう、壁から離して造られること、全会衆の注意が自然に集まる中心となる場所に置かれること、他の祭壇の数を少なくすることなどが定められています。こうして、祭壇は、キリスト者が一つに集まり、ただひとりの救い主キリストとともに感謝の祭儀をささげる食卓として、わたしたちの中心に置かれるのです。

(カトリック中央協議会『毎日のミサ』一九九五年七月号第一頁)



クルシリヨを通して

糸島教会　浦越タ佳

私は、今回のクルシリヨに母と共に参加させていただきました。クルシリヨに参加することで「愛の実践」という言葉を改めて知り、感じることができたように思います。

「愛の実践」ときくと、たいへんな偉業のように考えがちですが、それは私たちがもっと身近に行えるものだということを知りました。

五月二日。クルシリヨの初日です。私は十四歳で同じ年頃の人もいなくって、とても不安でした。そんな時にスタッフの方が「頑張って」と声をかけてくださいました。普段なら聞き流してしまうようなその言葉で私は「頑張ろう」と勇気を持つことができたのです。また、連日のように届けられるパランカや霊的花束に支えられて、クルシリヨを過ごすことができたことにとても感謝しています。

このような経験から、愛の実践とは特別なことではなく、毎日の生活の中で行えることだということに気づくことができました。

しかし、これで終わってはいけません。皆さんからいただいた多くの愛を、今度は私がほかの人たちに送る番です。私は将来、人のために役に立てたらと考えています。そして「今」をその出発点にしようと思います。その第一歩として「小さな愛の実践」を行い、毎日の生活を通して神様のことを伝えていきたいです。

カテドラルで聖体礼拝

今年の「キリストの聖体」の祭日は六月十四日。カテドラル大名町教会では、前夜(十三日)午後七時のミサ後から翌朝七時のミサ前まで小聖堂において聖体を顕示し、聖霊の年にあたって徹夜の聖体礼拝を行う。

同教会では、大聖年直前の準備が始まった昨年「イエス・キリストの年」から、聖体の祭日に、この徹夜聖体礼拝を行っている。参加は自由。

お詫びと訂正

五月号の3面「50の年輪を刻む」の記事の中で、ガブリエル・ブレシュトー神父とヴィルジニオ・チェリッザ神父の写真が入れ替わっていました。お詫び訂正します。

TV番組の紹介

番組名―「生かされて～ある修道士の半生～」。26聖人とコルベ神父をテーマにつくられた番組。

＊テレビ西日本(福岡)　6月25日(木)午前1時52分～

＊テレビ熊本(熊本)　6月5日(金)午前1時45分～

分かち合いグループ

教会博士に宣立されたリジューの聖テレーズの著作を読み、メッセージを分かち合い、祈る集いを行っています。どなたでもご自由にご参加ください。

日時 毎月第四日曜日午後二時～三時半／**場所** カルメル会修道院 福岡市西区上ノ原 ☎092・807・7361／**連絡先** カルメル会修道院／**世話人** 城島暁(浄水通教会所属)。尚、同日午後一時～一時五十分キリスト教入門講座があります。

参加者募集

―素朴な自然の中で過ごす4日間―

オブレート会　サマーキャンプ

テーマ　人の中へ、人と共に　―オブレート会来日50周年―
期間　8月4日(火)午後2時集合～7日(金)午後解散
場所　考える村　高知県安芸郡芸西村
対象　小学生高学年(5、6年)・中学生の男子カトリック信徒
(高校生・大学生・社会人の方々もリーダーとして活躍していただけます)
参加費　10,000円　申込締切　7月15日(水)
■お申込み・お問合わせ
〒468-0014　名古屋市天白区中平2-2627
古川健一 ☎052-805-3918 オブレート会修学院

今月の意向(1面参照)

【一般】一度であっても暴力が宗教上の理由で引き合いに出されたり守られたりすることのないように
【布教】全教会が「福音宣教の主な働き手」として、聖霊を認め、絶えず助けを求めるように
【日本の教会】大聖年の準備の大切な時として迎えた聖霊降臨の祝日に、聖霊の賜物の価値を見つめ直し、特に堅信の秘跡の恵みを思い起こすように

第11回「信徒の霊性」研修合宿

―　信仰の旅　―

教えられた信仰、生きてきた信仰、人に伝えたい信仰

日時：7月24日(金)～26日(日)
会場：天城山荘　☎0558・85・0625
〒410-3206 静岡県田方郡天城湯ケ島町湯ケ島2860
対象：カトリック信徒、求道者、司祭、修道者
会費：21,000円(当日会場にて)
定員：90人(定員になり次第締切)
企画担当：「信徒の霊性」スタッフ　代表　森一弘
申込方法：官製はがきに住所、氏名、年齢、性別、電話番号、所属教会を明記し、下記まで
申込先：〒107-0052 東京都港区赤坂8-12-42
☎03・3479・3603
聖パウロ女子修道会「信徒の霊性」係(牧山・清家)

参加者募集

黙想会のごあんない

対　象：一般信徒

① 6月20日(土) 16：00 ～ 21日(日) 15：00
② 7月18日(土) 16：00 ～ 19日(日) 15：00

指導司祭　来住(きし) 英俊(ひでとし)　神父

会　費：6,000円(一泊三食)
申　込：0940－32－3222 (受付：9：30～17：00)

福岡黙想の家　〒811-4155 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810-0044
福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ　土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289

別れ・出逢い・旅立ち
草苑(SOU-EN)
ご葬儀
木下株式会社
TEL092－526－5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

連休利用しクルシリヨ

福岡黙想の家

さる五月二日から五日まで、福岡黙想の家で第37回クルシリヨが開催され、スタッフほか二十一人の参加があった。不安のうちに参加した人たちは、そこで新しい出会い、喜びを分かち合い、別れ、旅立ちを体験した。参加者の一人ひとりが、主において、いつでもどこでも一つであり、信仰の仲間であることを確認したことであろう。

クルシリヨは教会の要望に従い、使徒職に献身する信徒の養成をめざす研修会で、生涯教育の一環として、一度は（参加できるのは一回だけ）このクルシリヨを体験するよう強く望まれている。

十二年間も出血を患っていた女性を想い起こそう（マルコ5・24～34）。イエスにしたがう群衆にまぎれて、彼女は信仰をもってイエスの衣にふれ、癒された。おびただしい群衆の中で、キリストの恵みにあずかったのはこの女性だけであった。クルシリヨの集い、そしてその目的はここにある。

主キリストは人々に恵みを与えたいと望んでおられる。しかし、それを望み、主に近づかなければ与えられない。クルシリヨは主の恵みを実感できる貴重な機会である。

クルシリヨの性格上、この度のクルシリヨが、だれの指導で、どんなテーマで、どのように行われたかを知らせる（読む）ことは、たいして意味がない。参加してこそ意義があるといえよう。参加者の声をきこう。

「いろいろな迷いや悩み、不安をかかえてこのクルシリヨに参加しましたが、今では、そんな小さな自分がふっきれて、明日へと一歩をふみだす勇気をもつことができました。ありがとうございました」（若い女性）。

（取材協力　光丘教会・山中敏則）



黙想の家のルルド前で記念撮影

福岡修女連

全役員を一新

福岡教区修道女連盟（会長＝シスター木村）主催の総会とアモール（アジア・太平洋修道女会議）の報告会が、五月十日福岡雙葉学園テレサホールで松永司教を招いて開催された。当日は教区内の女子修道会から九十一人の参加者があった。

総会は聖霊の導きを祈る聖歌で始まり、新役員の会長シスター木村（聖パウロ女子修道会）はじめ、副会長シスター富山（聖心のウルスラ宣教女修道会）会計シスター朝穂（師イエズス修道会）書記シスター伊東（天使の聖母宣教修道女会）書記シスター出口（援助修道会）会計監査シスター諸石（幼きイエス会）の新しい六人の役員紹介があった。

総会協議事項の後に松永司教の《聖霊の賜物》について講話があり、大聖年を準備する第二年《聖霊の年》に当たり聖霊の賜物について風を受け、風に運ばれて目的の港に着く帆船に例えての話など、信仰の原点に立ち返らせ、修道女は聖霊の働きに素直に応え、救いのみ業に参与、協力するように諭した。

司教司式のミサに感謝のうちに全員あずかり、総会を終了。午後は昨年六月四日からインド、バンガロールで第十一回アモール大会に日本代表として参加したシスター小野島（援助修道会）、シスター国分（ノートルダム教育修道会）による報告会。大会テーマ《環境と女性―その根と芽、希望の印し》のもとに開催された会議中の生々しい体験学習の話、アジアに住む女性、子どもたち、そして「母なる大地」がいかに抑圧され、侵害され、破壊されているかその痛み、衝撃と感動が出席者全員の心に残った。

二年後に控えている第十二回アモール大会は、日本で八月六日、原爆記念日に合わせて広島市で開催される予定。この大会に向けて、アジアに住む一人の修道女としての意識を各自が喚起し、希望のしるしとなる役目が果たせるように、福岡教区修道女連盟、修道会に、協力と連帯、そして祈りを切望され報告会は終了した。



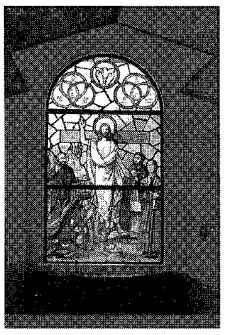
神の国は聖霊による愛と平和とよろこび

週	日時	テーマ	講師
第1週	5月25日	聖霊にまねかれて	松永久次郎司教
第2週	6月1日	神の愛	山元眞神父
第3週	6月8日	救いのみわざ	Sr. モロ
第4週	6月15日	新しい生命	T・ドワイヤ神父
第5週	6月22日	神の賜物の受領	マテオ神父
第6週	6月29日	聖霊の満たし	F・マッケイ神父
第7週	7月6日	聖霊のうちでの成長	畠基幸神父
第8週	7月13日	ミサ・聖霊の証人	松永久次郎司教

会場：カテドラル大名町教会
とき：毎週月曜日10時～12時
主催：聖霊による信仰生活刷新セミナー実行委員会
顧問：青木悟神父・ライル神父・ガブリエル神父
問合先：Br.床島藤吾（司教館：☎092-522-5139）

大聖年準備のための指定巡礼教会

2 多久教会

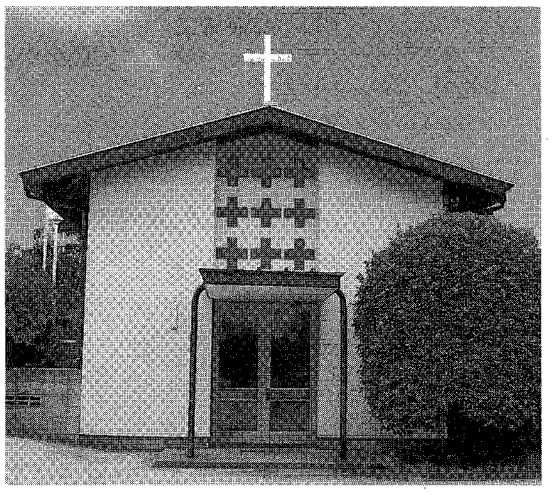


多久教会（佐賀地区）は一九六二年（昭和37）の創建で、佐賀県内ではもっとも若い教会である。とはいえ、歴史上鍋島藩で最初の教会が建てられたのは、今から三九四年前にさかのぼる。小城町三岳寺の高僧に相談の上、鍋島直茂が一六〇七年（慶長12）に浜町と鹿島に教会を建てる許可を与えたという。

禁教令が終止符を打たれて以後、一八九四年（明治27）まず佐賀に、続いて小城、唐津に教会が建てられた。

一九五六年（昭和31）八月、佐賀に着任したミラノ外国宣教会のマグリン・リカルド神父は、その二年後には多久を訪れ、信徒の家や公民館でミサを行ない、司牧活動を始めている。当時はまだ明治、三菱などの大手石炭産業が盛んな時期で、信徒の多くは炭坑で働くために長崎県下から移住してきた人々であったという。その頃何人の信徒がいたか、今は知るすべもないが、すでに信徒のグループができていた。

そこで一九六〇年（昭和35）、多久市北多久町小侍に土地を購入、二年後の二月十八日に、約三十坪という小規模の（かわいい…ともいえる）聖堂と司祭館が完成した。福岡の須賀氏の設計。聖フランシスコ・ザビエルを保護者と仰ぎ、時の教区長深堀仙右衛門司教により、県内十一番目の教会として献堂祝別された。



30周年にステンドグラス

くだって一九九二年（平成4）、創立三十周年を機に美麗なステンドグラスが祭壇奥にとりつけられた。現主任司祭A・テンペリーニ神父のデザインで、イタリアはミラノのグラッシ社の製作。

左右に聖母マリアと幼きイエスを抱く聖ヨセフ、中央のステンドグラス（2m50×1m40）は十字架を背に復活のキリストを中心に、本教会の守護者フランシスコ・ザビエル、迫害時代に勇敢に信仰を証ししたセバスチアン木村神父、トマス籠手田とその妻マリア（ともに平戸の出身で、長崎・西坂で処刑、日本二百五福者に数えられる）が描かれている。

シンボルの中に「信・望・愛」「真・善・証」の文字がある。深い意味があるのはもちろんだが、漢字入りのステンドグラスとは珍しい、というより唯一ではなかろうか。佐賀教会の信徒で書家山浦敬依氏による。

十五年ほど前にイタリアの信徒たちの協力を得て信徒会館ができ、一九六六年（昭和41）には付属の幼稚園も開園して今日に至る。しかし聖堂そのものは木造モルタルのためか台風（一九九一年）などにより、なにかと傷んでは修理の繰り返しで、建築当初の部分がだんだん少なくなっていくのを見るのは、少しさみしいと昔を知る人はいう。


新装なった聖堂玄関前で

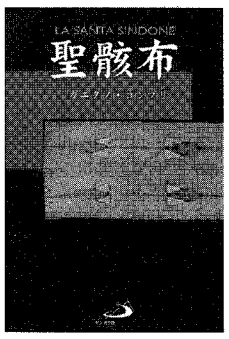
データ

●信徒数／約一二〇人●ミサ時間／日曜日十時●住所／〒846・0002多久市北多久町小侍四〇●電話0952・75・2605●主任司祭／アルド・テンペリーニ

場所

●JR唐津線中多久駅下車徒歩10分。●昭和バス（佐賀・唐津線）多久市役所前停留所下車、徒歩3分。道路を隔てて北部小学校の校舎とグランドがある。

聖霊の年 BOOK 読みは専科



★聖骸布
ガエタノ・コンプリ著

イエス・キリストの遺体を墓におさめる時に包んだといわれる聖骸布の炭素14による年代測定が一九八八年に行われ、その結果「聖骸布は中世のもの」と発表された。が、この結果を受け入れない学者も多いという。そして、一九九八年と二〇〇〇年の春、この聖骸布がイタリアのトリノで公開される。

B5判上製　二六六頁
サンパウロ　税別二八〇〇円

◇◇◇



★空にかざったおくりもの
文・光原百合／絵・牧野鈴子

子どもには大きな夢があり、きらきらと輝くたから箱を一人ひとりがもっていて、美しいもの、大切だと思うものを箱に入れてそっと隠している。そのようなたからをこの本は教えてくれる。10編からなる短い物語のなかにこの宝を探してみませんか。読者はキラッと光るすてきなものを見いだすでしょう。小学中級以上向き

女子パウロ会　税別一四〇〇円

聖パウロ書院休業お知らせ

七月二十九日～八月十四日まで店内改装工事のため、休業させていただきます。その間お急ぎの方は左記までご連絡ください。小笹聖パウロ女子修道会
☎092・531・0942
FAX 531・4080

ジャパンスマイルか
株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石材 { 石理影の大御そ 石他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860-0006 熊本市段山本町2-21
TEL 096-352-2417

会合と催し

教区年間テーマ：キリスト者を活かす聖霊を信じます

6月　みこころ月

1日（月）聖ユスチノ殉教者
2日（火）福岡短期キリスト教講座④（～16日）■
3日（水）聖カロロ・ルワンガと同志
　助祭、司祭志願者認定式［大神学院］
4日（木）佐賀「カトリック人生講座」⑤（～25日）■
　＋ミカエル西田邦洋［若松教会1996］
5日（金）聖ボニファチオ司教
　福岡聖書講座④（～7月17日）■
6日（土）聖ノルベルト司教
7日（日）三位一体の主日
8日（月）司祭研修会（～10日）
11日（木）聖バルナバ使徒
13日（土）聖アントニオ・パドバ
14日（日）キリストの聖体／久留米教会堅信式
19日（金）イエスのみ心
20日（土）聖母のみ心
21日（日）光丘教会堅信式
　＋ドミニコ深堀仙右衛門司教
　［第3代福岡教区長1985］
　＋トマス平田好［門司港教会1938］
23日（火）若松エキュメニズム集会
24日（水）洗礼者聖ヨハネの誕生
28日（日）《聖ペトロ使徒座への献金》
　戸畑教会堅信式
　司祭叙階式（1面参照）
29日（月）聖ペトロ・聖パウロ使徒

7月

3日（金）聖トマ使徒
　福岡聖書講座⑧（～17日）■
　＋フランシスコ・X.平田正喜［老司教会1994］
5日（日）大楠教会堅信式
6日（月）聖マリア・ゴレッティ
11日（土）聖ベネディクト修道院長
15日（水）聖ボナベントゥラ
16日（木）カルメル山の聖母
20日（月）海の日
　＋ヤコブ平田勇［西新教会1980］
　＋W.シュルツ［吉塚教会1987］
22日（水）マグダラの聖マリア
25日（土）聖ヤコブ使徒
　＋J.ラグレブ［門司天使園園長1982］
　＋J.ブルトン［呼子教会1957］
26日（日）聖ヨアキム・聖アンナ
　吉塚教会堅信式
28日（火）＋L.ルリエ［聖小崎育児園園長1970］
29日（水）聖マルタ
31日（金）聖イグナチオ・ロヨラ
　＋聖ヨハネ平田惣五郎［浄水通教会1989］

■印は本面に詳細説明あり

福岡黙想の家　6月

◇1日（月）～4日（木）　御受難修道会共同体の日
◇5日（金）～7日（日）　ユースフルライフ・カウンセリングワークショップ
◇20日（土）～21日（日）　聖母の丘老人ホーム職員黙想会
　一般週末黙想会／来住神父指導
◇21日（日）～22日（月）　聖母カテキスタ会
◇28日（日）　典礼・聖歌と祈りの集い

［問合先］黙想の家　☎ 0940・32・3222　FAX 0940・32・3385

黙想の家のホームページを御利用ください
◎ホームページ　http://w32.mtci.or.jp/~daneox
◎e-mail　Mail to daneox@mtci.or.jp

生命山カトリック別院

生命山では、皆様のために、美しい自然の中で、神との語らいの日々を過ごしていただきたく、黙想会を計画いたしました。ご参加ください。

■祈りの集い
日時：⑥6月11日（木）
　9時45分～15時
テーマ：詩編で祈る（全10回）
指導：フランコ神父
★次回は⑦9月17日（木）です。

■黙想会
日時：7月31日（金）17時～
　8月9日（日）朝食後
講師：フランコ神父
＊個人、又はグループでの黙想等、常時受け付けています。
［問合先］生命山カトリック別院　☎0968・85・3100

福岡

■第5回短期キリスト教講座―生きる―　開催中　［日時］5月12日10時～11時45分／19時～20時45分（毎週火曜日・全6回）から6月16日まで［場所］カテドラル大名町教会［テーマ・講師］④6月2日・キリストとはどんなお方か・松永久次郎司教、⑤―(1)9日（午前）・老いと死ひとりの信者として・今村茂氏、⑤―(2)9日（午後）聖書に生かされて・G・ケルクマン神父、⑥16日・ホスピタリティ旅人のもてなし・来住英俊神父［受講料］一講座500円［申込先］カトリック福岡司教館☎092・522・5139（16時まで深堀）FAX 523・2154（24時間）

■聖書に親しむ　開催中　約二年間にわたって新旧約聖書の全テキストを読みます。どなたでもご参加ください。［日時］毎火曜日13時45分～15時30分［場所］カテドラル大名町教会［講師］大山悟神父（福岡サン・スルピス大神学院院長）［会費］200円［問合先］092・871・5044（大山悟神父）

■第72回福岡結婚準備セミナー開催中［日時］6月4日（木）～6月20日（土）毎木曜・土曜日19時～21時30分［場所］カテドラル大名町教会［申込・問合先］カトリックファミリーセンター☎092・541・6207　FAX 552・5022

■聖書講座［前期］フィリピの信徒への手紙・コロサイの信徒への手紙　開催中　［日時］5月15日19時～21時（毎週金曜日・全10回）から7月17日まで［場所］カテドラル大名町教会［テーマ・講師］④6月5日・キリストを信じるとは・高見三明神父、⑤12日・わたしに倣う者になりなさい―勧告・高見神父、⑥19日・コロサイの信徒への手紙の著者、年代、場所、構成と教義・森山信三神父、⑦26日・御子による創造と和解・森山神父、⑧7月3日・パウロの務め、キリストに結ばれた生活・中浜一男神父、以下は次号に掲載［受講料］一講座800円［申込・問合先］カトリック福岡司教館☎092・522・5139（16時まで深堀）FAX 523・2152（24時間）［主催］福岡教区聖書委員会

■カテキスタの集い　［日時］6月7日（日）13時30分～15時30分［場所］福岡カトリック神学院［講師］山元眞神父（同神学院院長）［テーマ］堅信の準備②［会費］500円＊堅信の秘跡（式）に関する資料をお持ちくだされば幸いです［問合先］福岡カトリック神学院☎092・531・6821　FAX 524・7373★次回7月5日

■第9回福岡カトリック・パストラルケア研究会　この研究会は、病人訪問や病人の世話に関わり、あるいはそれらに従事する人々による勉強会です。病人訪問時の病人への対応の仕方、病人（入院患者）の心理などについて勉強します。［日時］6月7日（日）14時～16時［場所］福岡サン・スルピス大神学院新館ホール［内容］「み言葉」について［講師］平田寛神父（小倉教会）［参加費］無料［問合先］事務局（シスター箕浦☎092・871・4943大神学院）★第10回は7月5日、体験談［…］シスター酒部（ショファイユの幼きイエズス会）とみこころボランティアの予定

■第16回「出会いの集い」　…きてみませんか？！　［日時］6月14日（日）11時～16時＊雨天決行［場所］カトリック糸島教会［内容］バーベキューパーティー・フォークミサ（山元眞神父司式）・派遣の祝福［対象］20歳以上の独身男女［参加費］2000円［主催］カトリック福岡司教区カナの会［申込締切］6月7日［申込・問合先］前野（浄水通）☎092・771・0793／村尾（大名町）☎607・6992／本吉（高宮）☎551・7797／松下（二日市）☎922・3869＊当日参加も可能ですが、できるだけ事前にお申し込みください。

■福岡地区信徒協代表者会議　［日時］6月14日（日）14時～［場所］カテドラル大名町教会

■聖歌研修会　［日時］6月14日（日）13時～15時30分［場所］カトリック大楠教会［聖歌指導］深堀純氏（大名町教会信徒）［問合先］有馬浩☎092・861・2673

■SE・CO～奉仕と分かち合いのボランティア・グループ◎第8回バザー　［日時］6月21日（日）11時～14時［場所］聖心ウルスラ幼稚園［問合先］内藤☎092・542・3566
◎勉強会　［日時］7月4日（土）10時30分～13時30分［場所］聖心のウルスラ宣教女修道院会議室［内容］講話［講師］塩谷恵策神父（イエズス会福岡修道院）［会費］1000円（昼食代共）［締切］6月30日［問合先］龍☎581・6838

■福岡生と老い・死をみつめる会　［日時］6月28日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会4階会議室［内容］講話「ベウラの園10年の歩み」と語り合い・死別体験者の語り合い［講師］加山寿美枝氏（ベウラの園代表）［会費］500円［問合先］事務局（大山美穂子☎092・713・8523／村尾☎607・6992）

■典礼・聖歌と祈りの集い　［日時］6月28日（日）14時～17時［場所］福岡黙想の家［テーマ］年間の主日［お話］来住神父（御受難会）［会費］1000円［主催］福岡典礼聖歌研究会［問合先］福岡黙想の家☎092・541・6207　FAX 532・3222　FAX 532・3385

■ホスピスの会　［日時］7月19日（日）13時30分～［場所］カテドラル大名町教会［内容］講演、その他［参加費］500円［問合先］5・0034福岡市南区南大橋1・8・29小林計子☎FAX 092・512・8723★昼間（9時30分～17時）0942・83・2294

北九州

■第11回お母さんの集い　［日時］6月8日（月）10時30分～13時［場所］カトリック小倉教会聖堂［テーマ］兄弟のように［講師］櫻井尚明神父（福岡サン・スルピス大神学院教授）［参加費］500円［締切］6月7日［問合先］福吉三代子☎093・962・1395

■あつまりませんか【黙想会】　［日時］6月21日（日）10時～16時30分［場所］援助修道会黒崎修道院［テーマ］生き方をさがしてみませんか［指導］中村信哉神父（直方教会主任）［対象］青年男女（高校生以上）［会費］1000円（昼食代その他）［申込締切］6月14日［申込・問合先］シスター塩路（黒崎修道院）［主催］あつまりません会

■祈りのある生き方とは【召命黙想会】　日常の生活からひとり離れてみませんか［日時］7月18日（土）19時～20日（月）16時［場所］福岡黙想の家［内容］聖書を使っての個人指導［指導］コングレガシオン・ド・ノートルダムのシスター［対象］独身男女［会費］5000円［持参品］聖書・筆記用具・洗面用具他［申込・問合先］コングレガシオン・ド・ノートルダム戸畑修道院／シスター笠原節子☎093・871・1166シスター松宮るみ子☎884・0506

佐賀

■聖書に学ぶ心の教育・パート2～道徳とは―　開催中　佐賀新聞文化セミナー　［日時］第二、第四土曜日15時30分～17時［場所］タマヤ教室［講師］アレグリーニ・アレグリーノ神父（ロザリオの園）［受講料］7200円（プリント料300円）［申込・問合先］佐賀新聞文化セミナー事務局☎0952・28・0371

■第13回カトリック人生講座　開催中　［日時］毎週木曜日10時～11時30分・19時30分～21時30分（6月25日まで）［場所］佐賀カトリック幼稚園講堂［日時・テーマ・講師］⑤6月4日・心の痛みを癒すもの―高齢者福祉の諸問題・木村知己牧師⑥11日・子育てと反抗期―教育は祈りである・村木敏子修道女⑦18日・希望教育・A・アレグリーノ神父⑧25日・安定した錨のように―希望・信頼・喜びの人生・G・フェラー［受講料］一講座700円［申込・問合先］佐賀教会☎0952・23・4754　FAX 23・4929

熊本

■第56回熊本結婚準備セミナー　開催中　［日時］6月1日（月）～6月16日（月）6月第二週を除く毎月曜・火曜日19時～21時30分［場所］手取教会［申込・問合先］手取教会☎096・352・3030　FAX 092・552・5022（カトリック・ファミリーセンター）

編集後記

聖母月と復活節が終わり、み心の月になりました。大きな祭日もあり、恵みの時節です。引き続き「聖霊来てください」…。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者 ペトロ 平田 清

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所 大石真澄
☎092-552-8195 Ⓕ092-541-7734

FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長 藤木鐵三　福岡支店長 長山和博

カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう
【一般の意向】家庭
【布教の意向】中国のキリスト者
【日本の教会の意向】中国の教会との連帯

＊説明は2面に

1998年度 司祭研修会 テーマ「大聖年に向けて」

聖年行事

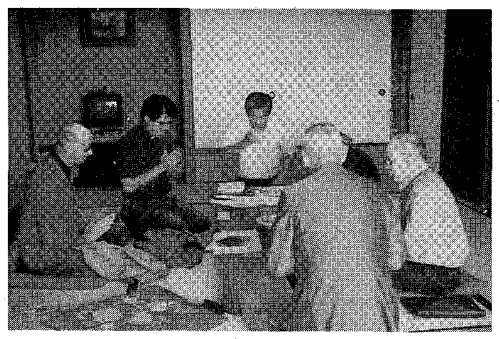
それぞれの場で 教区レベルでなく



聖霊についての講話の後、質問をする

毎年行われている教区内の全司祭を対象とした研修会が六月八日から十日まで、熊本県の阿蘇観光ホテルで開かれた。メインテーマは「大聖年に向けて」。サブテーマは「聖霊の年」。近づく紀元二〇〇〇年に向かって教区としてどのような準備をしていくか、また、大聖年にどのようなことができるか、ということを討議するのが今回の研修会の目的。そのために、まず、「聖霊の年」にあたって、講師から聖霊についての講演を聞き、祈りながら、分かち合いをしながら、メインテーマの討議の準備をした。最終日の全体会でまとめが行われたが、大聖年の準備や行事については各小教区や諸団体が、それぞれの場で企画、実行することとし、教区レベルでは特別な行事等は現在のところしないことになっていることが確認された。

研修会は三日間にわたって行われたが、一日目と二日目は、講師のフランシス・マシー師（イエズス会）の聖霊についての講演をもとに進められた。マシー師の講演は四回行われたが、それぞれが約二十分の短いものであった。これは、分かち合いの時間を十分にとるために計画されたもので、講師は講話の終わりに分かち合いのためにいくつかの課題を提供した。たとえば、聖霊の賜物の働きは現在の教会、小教区、信者の間に見いだすことができるのか。できるとすれば、どのようなことなのか。司祭自身や、司牧している共同体のためにどのような聖霊の力を今までどういうふうに体験して来たか、など。六つの分団会では、この課題をもとに分かち合いがなされた。



聖霊の助けを祈って分かち合いをする

講師は次のように結論をまとめた。すべての信者は入信の秘跡で受けた聖霊の火を燃立たせるように呼ばれている。神は、この恵みを無償で与えるが、信者はその恵みに応える必要がある。主であるイエス・キリストに絶えず回心をし、人を変える力のある聖霊に心を開かねばならない。聖霊によってのみ、教会はその司牧的必要と世界が必要としていることに応えることができる。課題は私たちの前にあり、結果は明らかである。

聖霊について研修した後、二日目の最後の分団会で「大聖年に向けて」のテーマのもと、話し合いがもたれた。大聖年を準備するためにどのようなことをしたらよいのか、大聖年を機会に何ができるのかが検討された。討議の材料として教区事務局から以下のようなヒントが与えられた。①小教区の信者の間に基礎共同体を造ることを薦める、②日曜日や結婚、葬儀などの典礼に案内役を設置するグループ別の司祭集会を充実させる、③グループがそれぞれで考え、それを実行していくことが確認された。教区レベルでは特別なことは行われない。

かち合いが分団会でなされた。最終日の全体会で各分団会の討議内容が発表されたが、大聖年に向けての具体的なことがらは決まらなかった。各小教区や諸団体、グループがそれぞれの場で考え、それを実行していくことが確認された。教区レベルでは特別なことは行われない。

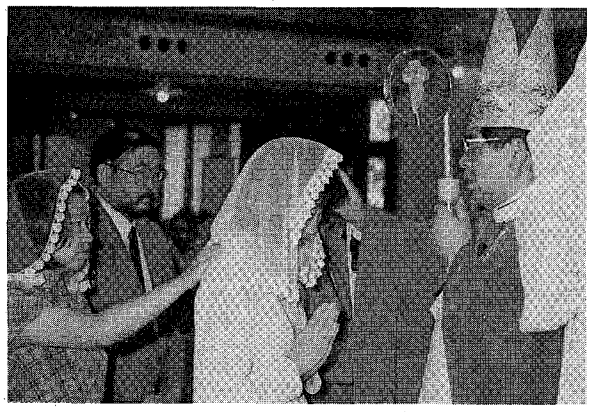
合同堅信式に73人

五月三十一日、「聖霊の年」の聖霊降臨祭がカテドラル大名町教会で祝われた。松永久次郎司教主司式のミサの中で今年の復活祭前後に洗礼を受けた受洗者が堅信の秘跡を受けた。この合同堅信式は四年前から行われているもので、今年は今までで最高の七十三人が受堅した。

成人の入信の秘跡では通常、洗礼、堅信、聖体の三つの秘跡が授けられるが、司牧的配慮から、堅信の秘跡を別に授けることが司教から勧められていた。そのことから、復活祭前後に受洗した人のために聖霊降臨祭に合同堅信式がカテドラルで行われることになった。

受堅者は、聖霊降臨祭の日に堅信の秘跡を受けることができて感激しています、と述べている。

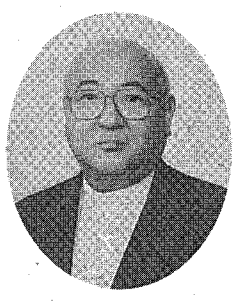
今年の受堅者の所属教会は、大名町、西新、浄水通、茶山、糸島、光丘、箱崎、古賀、二日市、本郷、久留米、今村、行橋、小倉、島崎、武蔵ヶ丘。



教皇庁移住・移動者司牧評議会

議長に濱尾司教を任命

東アジア初の人事



濱尾文郎司教

さる六月十五日、教皇ヨハネ・パウロ二世は、教皇庁移住・移動者司牧評議会の議長として、日本司教協議会会長であり横浜教区長のステファノ濱尾文郎司教を任命し、同時に大司教に挙げることを発表した。

教皇庁の高位の役職に就任するのは、東アジアからは初めて、まして日本人としては初めてのことである。以前にはフィリピン人やインド人で秘書から議長になった人はいるが、すでに引退。したがって、現在ではアジアから唯一の議長ということになる。

この任命に伴い、浜尾司教は日本における司教としてもつ任務を解かれ、バチカンに常住することになるが、任務の引き継ぎや準備の都合により、赴任するのは九月頃になる予定。

教皇庁の移住・移動者司牧評議会は、全世界の教会の観点から移住者や難民の世話をする機関で、同司教はこの任を受け、次のように語った。

「私自身、移住労働者の司牧に関心がありますが、能力不足を心配しています。しかし、同評議会のスタッフの助けと協力によって、この重大な任務を果たせることと思います。…新しい任地に赴任する私のためにお祈りください」

教皇庁人事に連動
日本司教協議会

会長に島本要大司教

松永久次郎司教は常任委員と典礼委員会委員長に

今年二月に開催された臨時司教総会で、濱尾文郎司教が日本司教協議会の会長に選ばれていたが、六月十五日に発表された教皇庁人事により、同司教は教皇庁に赴任することになったため、急遽十六日に選挙が行われ、以下のように人事が一新された。

会　長　島本要大司教
副会長　野村純一司教
常任司教委員には次の五司教が選任された。

池永潤大司教
地主敏夫司教
森　一弘司教
大塚喜直司教
松永久次郎司教

なお、この度の濱尾司教のバチカン赴任に伴い、横浜司教の座は空位となるが、新しい司教が選任されるまで、木村義男神父が教区管理者に選ばれた。

仙台教区

佐藤千敬司教が辞任

仙台教区長佐藤千敬司教は健康上の理由により、教会法四〇一条第二項の規定にしたがい、辞表を提出していたが、さる六月二十日、教皇ヨハネ・パウロ二世はこれを受け入れ、発表した。なお司教座空位期の教区管理者として鷹觜達衛（たかのはしたつえい）神父が選任された。

教会法第四〇一条第二項　教区司教は、健康を損ない、又はほかの重大な理由により職務遂行困難となった場合には、退任の意思表示を行うよう切に求められる。

司祭異動

◆B・Jロザイロ（吉塚教会主任）大阪教区・伊丹◆硫黄隆二（大阪教区・伊丹）吉塚教会主任◆戸村修（聖パウロ会福岡修道院）東京・若葉修道院◆杉原寛信（ローマ）聖パウロ会福岡修道院

平和を祈る集い・平和祈願ミサ

日　時：8月9日(日) 13時～16時
講演会：北朝鮮のいま～食料支援視察報告
　　13時～14時［カテドラル大名町教会講堂］
講　師：野坂秀男氏（カリタス・ジャパン事務局長）
ミ　サ：14時30分［カテドラル聖堂］
　　松永久次郎司教司式
　　【主催】福岡教区・福岡地区

みちくさ

ひところマスコミでも、チョベリバだの超むかつくだの、いわゆるコギャルのことばをとりあげていたが、今はもう聞かない。あれは一過性のはしかのようなものだったのか、「ら抜き」ことばのように、定着しつつあるのか▼ことばの乱れを嘆く一方で、いやことばは生きているものだから変わるのは当たり前、乱れというより揺れであり、変化であって、自然の現象だという説もある▼ことばというものは数学とちがって、たとえ誤りであっても大多数の人が抵抗なく使うようになれば、それも正しいとされる暗黙の了解がある。誤用も市民権を得て辞書にも採用される。こうして「あらたしい」は「あたらしい」になり、一所懸命は一生懸命でもよい、ということになった▼しかし年のせいか、筆者にはどうしても納得できないものがある。たとえば「生きざま」だ。キリスト教界でも少々乱用気味。「ざま（様、態）」とは「ざまあ見ろ」のように、あざけっていう語であって褒めことばではない。雑誌や説教で「キリストの生きざま、殉教者たちの生きざまに倣おう」などという表現にぶつかると鳥肌の立つ思いだ▼鳥肌といえば最近、テレビでたて続けに誤用の例があった。サヨナラホームランを打った選手がお立ち台で「快感です。鳥肌が立ちました」W杯サッカーのボールキッズに選ばれた少年（山崎某君）もインタビューに答えて「緊張します。鳥肌が立つほどです」。近頃の若者は恐怖の時でなく、うれしい時に鳥肌が立つらしい。古くさいが、これも新人類のせいか。（H）



この夏福岡で、約十日間にわたり「カタルーニャの熱い風」と銘打った、一風変わったイベントが催される。

カタルーニャ（スペイン北東部の地域）といっても日本人にはなじみ薄いが、ピカソやミロの出身地で、その中心都市は一九九二年にオリンピックが開催されたバルセロナと知れば、身近な存在になろうか。そのオリンピックの折に、人々に強烈な印象を与えたのがサグラダ・ファミリア（聖家族）教会だ。やはり同地出身のA・ガウディの設計で、すでに百年来建築中。完成までにさらに百年以上はかかろうという。

ガウディに魅せられ、その教会の建築現場で働いている一人のカトリック日本人彫刻家がいる。福岡出身の外尾悦郎氏がその人。外尾氏が故郷福岡へ帰るたびにもっていた仲間との交流から、互いに共通点をもつバルセロナと福岡の仲間たちの、市民レベルの国際交流イベントの計画がもちあがった。これに対し、アジア博など国際イベント誘致に積極的な福岡県と市、大学、各種企業が名乗りを上げ、地味ながら多彩な行事になりそうだ。シンポジウム、展示、講座、各種の交流が市内各所で、約十日間にわたり展開される。

会期は七月三十一日から八月九日まで。各イベントの内容、会場、時間、入場料等、詳しくは小教区掲示のポスターを参照のこと。

典礼 あ・ら・か・る・と 11

行列―共同の行動参加―

行列はミサをはじめ、他の典礼の中でも行われます。たとえば、受難の主日の枝の行列、復活徹夜祭の光の祭儀における復活のろうそくの行列、聖体行列などが思い浮かびます。

行列は、宗教儀礼の行為として多くの宗教に見られます。キリスト教では初期の迫害時代に、殉教した人の遺体を墓に運ぶ行列が行われていました。行列が典礼行為として発達したのは四世紀以降で、四世紀末のエルサレムでは受難の主日に、オリーブ山を下る枝の行列が行われたという記録が残されています。ローマでは六、七世紀に、教皇が司式するミサが行われる聖堂まで、信者は詩編や連願形式の聖歌を歌いながら行列しました。また、中世のころには、質素な服を着て、ベールや灰を頭にかぶり、裸足のまま行列する回心のための行列も行われました。

現在のミサでは、入堂、奉納、拝領、退堂のときに行列を行うことができますが、信者の行動参加がとくに表されるのは奉納と拝領の行列です。奉納行列では、信者の代表がパンとぶどう酒の供えものを祭壇まで運んで主の食卓の準備に参加し、一同はささげる心を一つにします。そして、拝領の行列では、キリストをお迎えるために一人ひとりが祭壇に近づいていくことによって、主の食卓に招かれた喜びを新たにし、キリストとの一致を深く意識することができます。また、司式者や奉仕者による入堂と退堂の行列では、会衆は直接には行列には加わりませんが、多くの場合これらの行列のときには聖歌が歌われます。一同はこの聖歌をとおして、賛美と感謝の心を一つにすることができるのです。このことは、奉納と拝領の行列の場合も同様です。

行列は一人で行うものではありません。集まった人々によって一つの目的をもった共同の行為として行われるとき、行列は典礼への行動参加を表すしるしとしての役割を果たすことができるのです。（カトリック中央協議会『毎日のミサ』一九九六年五月号第一頁）

指定教会の手取巡礼

高宮教会　鬼木久美子

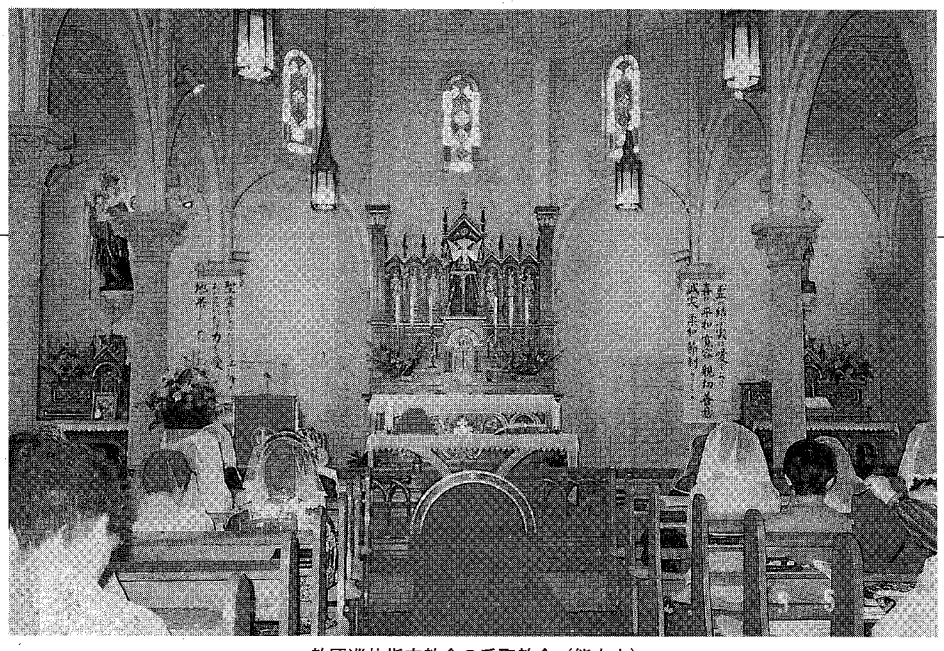
六月一日、今日は地区婦人会の巡礼の日。山口のザベリオ教会も完工したことだし、そちらもかんがえられたのだが、松永司教様が、福岡教区に巡礼教会を選ばれたので、その指定教会である熊本の手取教会に巡礼することになった。

大聖年を迎えるにあたって、心も新たにして福音宣教に臨み、また、教会発足の日の聖霊降臨の翌日とは、これも神様の思し召しと思いながら参加した。

曇空のもと、松井忠之神父様はじめ、福岡地区の各教会の婦人会から約九十名。朝八時すぎに出発。都市高速を福岡ICに。車は比較的空いていた。

目的地へ向かってひた走る車内でロザリオをとなえ、巡礼の意識を高める。筑後平野は麦刈りが終わって、たんぼは田植えの準備中であった。途中、基山と北熊本SAで休憩の後、熊本の手取教会に少し早めの十一時過ぎに到着。手取教会の神父様、婦人会長、ヨゼフ会長や役員の方々の歓迎を受ける。教会は昨日の聖霊降臨の跡をとどめた鳩の絵が飾ってあった。

ミサは十一時三十分より。歌は典礼聖歌集より選ばれていたが、キリエとサンクトゥス、それにアニュスデイは、昔懐かしいデ・アンジェリスミサ曲であった。聞くところによると、この教会では、月に二回、十一時のミサの時、これを歌っているとのことであった。そなえつけのミサのしおりを見ると、これも昔なつかしい大天使ミカエルの祈りがあって、そぞろ昔を思わせるものがあった。


教区巡礼指定教会の手取教会（熊本市）

福岡地区の教会の信仰と活動の中心であるご婦人たち九十名が参加したことは、神様のみ手がこれらの人々と通じて、さらにいっそう教会に活力を与えて下さるしるしであることを神に感謝し、指定された祈りを唱えて、巡礼の本分を果たす。

手取教会の役員の方々、信徒の皆さんの手厚いもてなしにより、信徒会館にて昼食。そのあと、手取教会の方々と話し合いのひと時を過ごした。九十歳のおばあちゃんが教会のためにまだ現役で働いておられるのを見て、感激したり、福岡から移って行った信者さんたちと交歓したりして、名残惜しみつつ水前寺公園に。

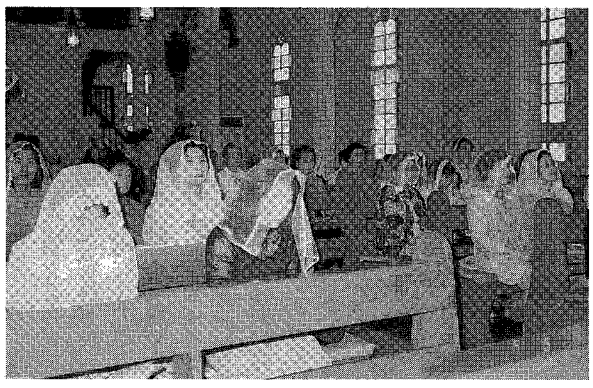
公園は水はきれいで水が豊富であることは蘇の伏流水のおかげであるに、きれいであることはすばらしいことだ。緑の芝生はよく手入れされていて、見栄えのするものであった。池には鯉が泳いでいたが、人面魚らしきものはなかなか見当たらなかった。

公園ではそれぞれ土産物店で買い物を楽しみ、ソフトクリームを舐めるなど、それぞれ思い思いの時間を過ごした。

十四時五十分、水前寺公園を出発。役員の方々の心遣いで、ちゃんとお土産を買う時間をとってあり、北熊本SAでしばらくゆっくりくつろいだ。あとは高速を走り、基山のSAで小憩のち福岡ICへ。車中でまた、今日一日にいただいたお恵みを思いながら、感謝のロザリオを唱える。十七時過ぎにICを降りてから、渋滞に巻き込まれ、大名町まで一時間半かる。いらいらしながら大名町に十八時三十分すぎにやっと到着。

天気予報では、夕方より雨にもあわず、神に感謝の一日であった。

皆は、神父様はじめ、役員の方々、世話をされた方々にお礼を言いながら、それぞれ帰路についた。



今月の意向（1面参照）

【一般】家庭が平和と誠実さの精神によって導かれるように

【布教】中国の司牧者と信徒が信仰による一致と、教会共同体による交わりの証を立てるように

【日本の教会】隣国である中国教会のために祈り、日本の教会が開かれた姿勢で兄弟愛を育み、連帯することができるように

召命学校

対　象：小学校4～6年生男子（中学生希望者も可）
日　時：7月25日(土) 11時 ～ 26日(日) 14時
場　所：福岡カトリック神学院
参加費：1,000円（交通費は自己負担）
持参品：ロザリオ、洗面用具、着替え、保険証コピー、筆記用具、水筒
定員：20人（定員になり次第締切）
申込・問合先：福岡カトリック神学院　山元　眞神父
☎092-531-6821　FAX. 092-524-7373

召命錬成会

対　象：小学校4～6年生男子（原則として）
日　時：7月20日(月) 16時 ～ 22日(水) 10時30分
場　所：福岡・聖パウロ小神学校
参加費：1,000円
持参品：ロザリオ、洗面用具、着替え、保険証コピー、筆記用具
申込・問合先：聖パウロ小神学校　戸村　修神父
☎092-531-0924　FAX. 092-524-6169
◎申込締切は7月15日です

黙想会 参加者募集中

指　導：来住（きし） 英俊（ひでとし）　神父

一般信徒対象／7月18日(土) 16：00受付 ～ 19日(日) 15：00
修道女対象／7月23日(木) 16：00受付 ～ 8月1日(土) 朝食

お知らせ　8月～9月1日(火) 祈りの日はお休みです。

福岡黙想の家　〒811-4155 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810-0044
福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ　土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092－526－5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

信仰の原点を見つめ直す

キリスト教講座リーダー研修会

一九九七年五月と十一月、そして一九九八年五月の三回に分けて熊本県の阿蘇で「キリスト教講座リーダー研修会」が行われた。この研修会は、グリフィン神父と藤沢教会（横浜教区）の大泉氏の指導のもと「自分との出会い」、「キリストとの出会い」、「共同体との出会い」というテーマで三期に分けて行われた。受講者は司祭一人、修道女四人、神学生五人、信徒二十四人、合計三十四人。熊本市内のメンバーは、毎週オカロル神父の講座に並行参加し、その内容を深めた。参加者の体験談を紹介する。

「自分との出会い」というテーマで行われた一期は、「興奮させられた！」というのが実感です。自分と本当に出会うことなしにキリストと本当に出会うことは出来なかったのです。なぜなら、自分自身の自分に対する態度であり、神に対する態度だからです。自分が何者であるかを見いだし、それをあるがままに受け入れることからしか、すべては始まらないということを学びました。私は父に反発して生きてきましたが、その問題点が何だったのか、また、私という人間は何を望んできたのか、すこしずつ理解することができ、自分を見いだすと同時に、亡くなった父との時間を超えた和解へと導かれたのです。

「キリストとの出会い」というテーマで行われた二期では、人間キリストにふれ、単性論者としてキリストを見てきた自分に気づかされます。すなわち、キリストが完全な神であるという点だけを見つめ、キリストが完全な人間であるという点をなおざりにして聖書を読み、キリストを半分しか見ていなかったのです。人間として魅力的だったキリスト、そして人間がどれほど素晴らしく、どれほど神から愛されているかを教えてくださったキリスト。折しも三年間通読の「聖書百週間」に参加していた私は「聖書を読む時、出来事の中に自分も一緒に参加して読むといい」という講座でのすすめで、どれだけ肉の温かさや親しみを持ってキリストの素晴らしい人間性と出会ったことでしょう。人間であることの喜び、自分であることの喜び、キリストがその人間のまっただ中に来てくださったことの喜びを味わいました。

一期での自分の救いの必要性を感じ、二期で全人格的にキリストとかかわることを促され、救いのありがたさを思います。

研修会を通して、コイノニアという初代教会の信徒間の交わりを体験できたのも恵みでした。研修仲間はなつかしい兄弟姉妹のようで、ハードなスケジュールの中にも夜おそくまで語り合い、歌い、飲み交わし、ウノに興じ、子どものように騒ぎました。

講座のしめくくりである三期は「共同体との出会い」というテーマで行われました。じつは始まる前から参加者に急な病気、入院事故とトラブルが続出し、その上、異常高温や忙しさも重なり、私自身ノリの悪い状況で参加しました。しかしおいしい夕食を食べたころには元気を回復し、二十年以上のキャリアで臨機応変に講座を進めてくださった《グリフィン、大泉コンビ》の見事なリードで、三期のテーマへとのめりこんでいきます。

三期では現在の教会の状況をシビアに考察し、サロン化、行事化、会議化、ボランティア化して本来の姿を見失った教会、社会と何ら変わらない教会を発見します。キリストの福音を告げ知らせ、祈り、支え合う共同体の欠如を思い、神と人との親しい交わりに生かされ、証しせずにはいられなかった初代教会へのあこがれと、宣教への熱意が芽生え始めました。聖霊のうねりの中に溶かされ、心温まる交わりを体験し、人間の計画や心配があまり意味のないことを知った私たちは、しっかり準備されたカリキュラムと司教様よりいただいた修了証をにぎりしめ、生まれたての宣教への熱意をもって「待たないで、恐れないで、すぐ始めてください」という神父様の派遣に心の中で大きくうなずきました。《主よ、私たちは、ただあなただけに信頼して出発いたします》。」（取材協力　手取教会　岸晴美）

むなかた市民クリスマスでカトリック典礼聖歌を歌おう!!!

十二月十五日に宗像市のユリックスで行われる市民クリスマスでカトリックの典礼聖歌を披露しようと練習にはげんでいるグループがある。団員二十人ほどの女性合唱団で「LUMEN VITAE（ルーメン・ヴィテ）」という名称をもつ。ラテン語で「命の光」の意。

小教区で聖歌の奉仕やオルガンの奉仕をしている人が中心になっているが、現在も団員を募集中。練習は毎月第二日曜日午後三時から五時半。場所は宗像市の福岡黙想の家もしくは、水巻カトリック教会にて。公演は今年十二月十五日火曜日の午後六時半。責任者は御受難会の畠基幸神父。水巻教会のJ・ガイヤール神父が協力する。公演当日は、典礼聖歌の作曲をしている新垣壬敏氏が指揮をする。代表、問合先は水巻教会所属の橋本富美さん。☎0940・33・5423

御寄付御礼

故パウロ棚町實様の御香典返しに代えて棚町万寿男様より司祭養成のためにご寄付をいただきました。ここにご報告し、心より御礼申し上げます。故人のご冥福を心よりお祈り申しあげます。

福岡カトリック神学院
院長　山元　眞神父



神の国は聖霊による愛と平和とよろこび

週	日時	テーマ	講師
第7週	7月6日	聖霊のうちでの成長	畠基幸神父
第8週	7月13日	ミサ・聖霊の証人	松永久次郎司教

会場：カテドラル大名町教会
とき：月曜日10時～12時
主催：聖霊による信仰生活刷新セミナー実行委員会
顧問：青木悟神父・ライル神父・ガブリエル神父
問合先：Br.床島藤吾（司教館：☎092-522-5139）

第４０回
日本カトリック看護協会
全国大会

『パストラルケアを目指して』
―看護者の霊性を深める―

日　時：１９９８年１０月１７日（土）～１８日（日）
場　所：熊本市「アークホテル熊本」
　　熊本市城東町５－６　☎（０９６）３５１－２２２２
対象者：医療従事者、または関心のある方
参加費：１５,０００円（懇親会費を含む）　宿泊は各自で
申込締切：９８年８月３１日
問合先：イエズスの聖心病院
　　☎０９６－３５２－７１８１／FAX３５２－７１８４
プログラム：17日―講演（福岡サン・スルピス大神学院院長　大山悟神父）、分かち合い、懇親会
　　18日―シンポジウム、派遣のミサと閉会式

参加者募集

－素朴な自然の中で過ごす４日間－
オブレート会　サマーキャンプ

テーマ　人の中へ、人と共に　－オブレート回来日50周年－
期　間　8月4日(火) 午後2時集合 ～ 7日(金) 午後解散
場　所　考える村　高知県安芸郡芸西村
対　象　小学生高学年(５、６年)・中学生の男子カトリック信徒
　　(高校生・大学生・社会人の方々もリーダーとして活躍していただけます)
参加費　10,000円　　申込締切　7月15日(水)
■お申込み・お問合わせ
〒468-0014　名古屋市天白区中平2-2627
古川健一　☎ 052-805-3918 オブレート会修学院

-1999年度　学生募集-

聖マリア学院短期大学

看護学科（看護婦・看護士養成３年課程）入学定員100名

選抜区分	試験期日	試験科目等
推薦選抜	１１月２５日	基礎学力調査（英語１程度）、小論文、面接
社会人選抜	１１月２５日	
試験選抜	２月１６日	国語１、英語１、理科（生物１B又は化学１B）、面接

専攻科：地域看護学専攻（保健婦・保健士養成１年課程）入学定員40名
　　助産学専攻　（助産婦養成１年課程・女子のみ）入学定員20名

選抜区分	試験期日	試験科目等
推薦選抜	１１月１０日	小論文、面接（専門科目に関する口頭試問を含む）
社会人選抜	１１月１０日	
試験選抜	２月　２日	看護学一般、面接

（お問い合わせ先）
〒830-8558　福岡県久留米市津福本町４２２番地
（西鉄大牟田線試験場前駅徒歩５分・聖マリア病院隣接）
聖マリア学院入試事務室 TEL：0942-35-7271 FAX：0942-34-9125

聖マリア学院医療福祉専門学校

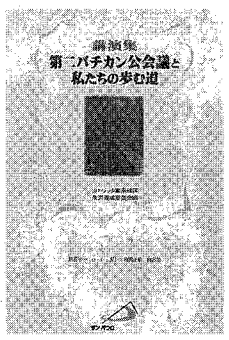
介護福祉学科（介護福祉士養成２年課程）入学定員100名

選抜区分	試験期日		試験科目等
学校推薦選抜	１１月５日		小論文（テーマは募集要項に記載）、面接
自己推薦選抜	１期	１０月６日	面接（自己推薦書に基づく）
社会人選抜	２期	１１月３０日	
	３期	１月２６日	
試験選抜	１期	２月２５日	国語１又は数学１・A（数と式）の選択
	２期	３月２４日	

＊介護福祉学科においては、特待生制度等の奨学生制度を充実。
＊聖マリア病院、聖マリア介護支援センター等と協同した実践教育と充実した卒後教育を実施。
＊キャンパス見学随時　　＊介護福祉学科体験入学：８月25日、９月26日

BOOK 読みは専科

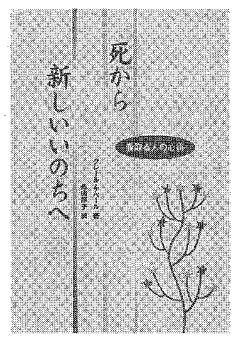
★講演集　第二バチカン公会議と私たちの歩む道
カトリック東京教区生涯養成委員会　編



この講演集は、二十一世紀の新しいチャレンジに立ち向かう前に、現代教会に決定的な影響を与えた第二バチカン公会議の理念をもう一度見直し、深め、意識と行動の刷新をはかろうとするものである。
サンパウロ　税別一一〇〇円

◇◇◇

★死から新しいいのちへ
クレール・ケベール著
外山厚子訳



死を迎えようとする人の看取りは、看取る側に自分のいのちのあり方を深くみつめさせる。身近な人に死が迫ったとき、残された時期をお互いに安らかに悔いなくすごすためには？
心身の痛みを取り除き、その人らしく人生を全うするための援助、生と死への看護について精神療法士としての豊かな経験から、わかりやすく語る。デーケン師おすすめの本。
女子パウロ会　税別一二〇〇円

聖パウロ書院休業お知らせ
七月二十九日～八月十四日まで店内改装工事のため、休業させていただきます。その間お急ぎの方は左記までご連絡ください。小笹聖パウロ女子修道会
☎092・531・4092 FAX 531・4080

ジャパンスマイルか
株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
ＴＥＬ092－761－8800
代表取締役　マルガリタ・マリア　吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
ＴＥＬ092－711－0550
代表取締役　ヨゼフ　吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材　石　理　影　の　大　御　そ　他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860-0006 熊本市段山本町2-21
ＴＥＬ096－352－2417

会合と催し

教区年間テーマ：キリスト者を活かす聖霊を信じます

7月

3日（金）聖トマ使徒
　福岡聖書講座⑧（～17日）■
　＋フランシスコ・X.平田正喜［老司教会1994］
5日（日）**大楠教会堅信式**
6日（月）聖マリア・ゴレッテイ
11日（土）聖ベネディクト修道院長
15日（水）聖ボナベントゥラ
16日（木）カルメル山の聖母
20日（月）海の日
　＋ヤコブ平田勇［西新教会1980］
　＋W.シュルツ［吉塚教会1987］
22日（水）マグダラの聖マリア
25日（土）聖ヤコブ使徒
　＋J.ラグレブ［門司天使園園長1982］
　＋J.ブルトン［呼子教会1957］
26日（日）聖ヨアキム・聖アンナ
　吉塚教会堅信式
28日（火）＋L.ルリエ［聖小崎育児園園長1970］
29日（水）聖マルタ
31日（金）聖イグナチオ・ロヨラ
　＋聖ヨハネ平田惣五郎［浄水通教会1989］

■印は本面に詳細説明あり

8月

1日（土）聖アルフォンソ
4日（火）聖ヨハネ・マリア・ビアンネ
　＋M.ボヌカズ［田川教会1991］
6日（木）主の変容／平和旬間（～15日）
　＋E.ベノア［門司港教会1962］
8日（土）聖ドミニコ
　＋P.マルケシーニ［待労病院付1980］
9日（日）**平和祈願ミサ（カテドラル）**
10日（月）聖ラウレンシオ
11日（火）聖クララおとめ
12日（水）＋A.ブルトン司教［第2代福岡教区長1954］
　＋J.オサリバン［熊本地区長1983］
13日（木）教区墓地開放（～15日）
14日（金）聖マキシミリアノ・コルベ殉教者
　＋ミカエル木村義巳［馬渡島教会1967］
15日（土）聖母の被昇天
　教区和田墓地ミサ（14時）
　平和を考える行進（鳥栖教会17時～）
19日（水）＋ステファノ川口康頼［小神学校校長1991］
22日（土）天の元后聖マリア
24日（月）聖バルトロマイ使徒
27日（木）聖モニカ
　福岡地区婦人会感謝ミサ（カテドラル）
28日（金）聖アウグスチヌス司教
29日（土）洗礼者ヨハネの殉教

福岡黙想の家　7月

◇1日（水）～10日（金）　修道女のための8日間の黙想会／マテオ神父
◇4日（土）～5日（日）　信徒の集い（山口地区）
◇7日（火）　大名町教会婦人会黙想
◇8日（水）　ミカエル会
◇18日（土）～19日（日）　一般週末黙想会／来住神父
◇18日（土）～20日（月）　ｺﾝｸﾞﾚｶﾞｼｵﾝ・ﾄﾞ・ﾉｰﾄﾙﾀﾞﾑ修道会
◇20日（月）～22日（水）　福岡女学院中学修養会
◇23日（木）～8月1日（土）　修道女のための8日間の黙想会／来住神父

［問合先］黙想の家　☎ 0940・32・3222　FAX 0940・32・3385

生命山カトリック別院

生命山では、皆様のために、美しい自然の中で、神との語らいの日々を過ごしていただきたく、黙想会を計画いたしました。ご参加ください。

■祈りの集い
日時：⑦9月17日（木）9時45分～15時
テーマ：詩編で祈る（全10回）

指導：フランコ神父
★次回は⑧10月8日（木）です。

■黙想会
日時：(A)7月31日（金）17時～8月9日（日）朝食後
　(B)8月16日（日）17時～24日（月）朝食後
講師：フランコ神父
＊個人、又はグループでの黙想等、常時受け付けています。
［問合先］生命山カトリック別院　☎0968・85・3100

福岡

■聖テレーズの著作を読む会［日時］毎月第四日曜日午後二時～三時半［場所］カルメル会修道院（福岡市西区上ノ原）［問合先］カルメル会修道院☎092・807・7361［世話人］城島暁（浄水通教会所属）。尚、同日午後一時～一時五十分キリスト教入門講座があります。

■聖書講座［前期］フィリピの信徒への手紙・コロサイの信徒への手紙　開催中［日時］5月15日19時～21時（毎週金曜日・全10回）から7月17日まで［場所］カテドラル大名町教会［テーマ・講師］⑧7月3日・パウロの務め、キリストに結ばれた生活・中浜一男神父、⑨10日・日々新たにされて・牧山勝美神父、⑩17日・家族に対して、結び・牧山神父［受講料］一講座800円［申込・問合先］カトリック福岡司教館☎092・522・5139（16時まで深堀）FAX 523・2152（24時間）［主催］福岡教区聖書委員会

■SE・CO～奉仕と分かち合いのボランティア・グループ◎勉強会　［日時］7月4日（土）10時30分～13時30分［場所］聖心のウルスラ宣教女修道院会議室［内容］講話［講師］塩谷恵策神父（イエズス会福岡修道院）［会費］1000円（昼食代共）［締切］6月30日［問合先］龍☎581・6838

■カテキスタの集い　［日時］7月5日（日）13時30分～15時30分［場所］福岡カトリック神学院［講師］山元眞神父（同神学院院長）［テーマ］教会学校と遊び［会費］500円＊教会学校に関する資料をお持ちくだされば幸いです［問合先］福岡カトリック神学院☎092・531・6821 FAX 524・7337★8月は休会

■第11回福岡カトリック・パストラルケア研究会　この研究会は、病人訪問や病人の世話に関わり、あるいはそれらに従事する人々による勉強会です。病人訪問時の病人への対応の仕方、病人（入院患者）の心理などについて勉強します。［日時］7月5日（日）14時～16時［場所］福岡サン・スルピス大神学院新館ホール［内容］体験談［…］とみこころボランティアの予定［講師］シスター酒部（ショファイユの幼きイエズス会）［参加費］無料［問合先］事務局（シスター箕浦☎092・871・4943大神学院）★8月は休会

■カルメル山の聖母記念ミサ　［日時］7月16日（木）14時～［場所］福岡カルメル会修道院［内容］ミサ（松永久次郎司教司式）・茶話会［対象］どなたでもご自由にお越しください［問合先］カルメル会福岡修道院☎092・807・7361

■祈りのある生き方とは【召命黙想会】　日常の生活からひとときと離れてみませんか［日時］7月18日（土）19時～20日（月）16時［場所］福岡黙想の家［内容］聖書を使っての個人指導［指導］コングレガシオン・ド・ノートルダムのシスター［対象］独身男女［会費］5000円［持参品］聖書・筆記用具・洗面用具他［申込・問合先］コングレガシオン・ド・ノートルダム戸畑修道院／シスター笠原節子☎093・871・1166シスター松宮るみ子☎884・0506

■ホスピスの会　［日時］7月19日（日）13時30分～［場所］カテドラル大名町教会［内容］講演と分かち合い、その他［参加費］500円［問合先］事務局／〒815・0034福岡市南区南大橋1・8・29小林計子☎FAX 092・512・8723★昼間（9時30分～17時）094 2・83・2294

■侯巧蓮（フォチェンリェン）さんの証言を聴く集い　日本軍による三光作戦の被害者・中国人元「慰安婦」の侯さんの証言集会を通して被害者や支援の方と共に「慰安婦」問題の解決を考えていきたいものです［日時］7月20日（月）14時～16時30分［場所］あいれふ（婦人会館）9階大研修室（福岡市舞鶴☎092・712・2662）［集会内容］①三光作戦における性被害とその特徴（三木恵美子さん―中国人「慰安婦」裁判弁護士）②証言（侯巧蓮さん―中国人「慰安婦」裁判原告）③元「慰安婦」のあばあさんたちとわたし（張双兵さん―山西省の小学校教師）④関釜裁判判決の意義と立法化（関釜裁判を支援する会）［参加費］800円（学生500円）［問合先］中国人元「慰安婦」の証言を聴く集い実行委員会・花房☎092・713・1879

■福岡生と老い・死をみつめる会　［日時］7月26日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会4階会議室［内容］講話「生と老い・死をみつめて」と語り合い・死別体験者の語り合い［講師］阿蘇品すみ子氏（久留米大学教授）［会費］500円［問合先］事務局（大山美穂子☎092・713・8523／村尾☎607・6992）

■福岡地区信徒協会議　［日時］8月27日（木）～9月24日（木）9月3日を除く毎木曜・土曜日19時～21時30分［場所］深堀純氏（大名町教会信徒）［問合先］有馬浩☎092・661・2673

熊本

■第11回熊本短期キリスト教講座　生きがいをさがそう！　［日時］9月18日10時30分～12時30分・19時～21時（毎週金曜日・全7回）から11月1日まで14時～16時のみ）［場所］カトリック光丘教会［聖歌指導］保科恵み～出産を通して・長岡孝子＝精神科医（熊本瀧田病院）④9日・福音による勇気～カトリック手取教会［テーマ・講師］①9月18日・歌・妻・母～園児に囲まれて・坂本スミ子（石井寿美子）＝熊本・聖母幼稚園園長、②25日・栄光と挫折～預言者エリヤの生涯に学ぶ・原寛＝日本聖公会聖三一教会司祭、③10月2日・生命にとって大切なこと～心と身体の健康、さらに生命のいやしについて・倉元涼子＝長崎教区（三山教会）⑦11日・神様の摂理・佐藤哲夫神父＝長崎教区（三山教会）⑩典礼研修―ミサ　第二バチカン公会議の指導に基づき、信徒の典礼への直接的奉仕のあり方を、実践を通して学ぶ。ミサは共同体全員が「祝う者」である。典礼は共同体の過去と現在の体験をシンボリックに表現するものである。典礼はシンボルなしに語ることはできない。［日時］9月10日16時（木）～13日（日）［場所］日本カトリック研修センター［指導］白浜満神父（福岡サン・スルピス大神学院）［対象］信徒・修道者・司祭［定員］35人［会費］3150円（税込み）［申込・問合先］日本カトリック研修センター研究企画部☎052・831・5037 FAX 831・5317

日本カトリック研修センター

お知らせとお願い

取材協力の方々へ

いつも本紙のためにご協力を賜わり、心よりお礼申し上げます。今後本紙に寄せられた原稿および写真は、原則として本紙編集部所有となりました。また原稿記事は編集の都合により、書き換え、一部削除もありうることをご承知おきください。ただし、写真につき、返却をご希望の場合は、ご要望に応じますので、その旨お知らせください。

教区報編集部

編集後記

ひさびさに梅雨らしい梅雨のまっただ中。W杯の日本代表チームの結果も芳しくなかったし、カラッとした晴れ間がほしい毎日です。今回、三面にキリスト教リーダー講座参加者の声を載せました。さまざまな催し物が行われており、それを本紙で紹介していますが、参加者の声を聞かせていただき、分かち合っていただければ幸いです。参加してみないことには、どんな内容かわかりませんので…。そのような声が伝わり、いろんな催し物の参加者が増えればよいと思います。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者 ペトロ 平田 清

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所 大石真澄
☎092-552-8195 Ⓕ092-541-7734

FUJIKi
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1 TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長 藤木鐵三　福岡支店長 長山和博

西日本宣教司祭大会要綱きまる

聖ザビエルの聖腕 一九九九年十月 福岡へ

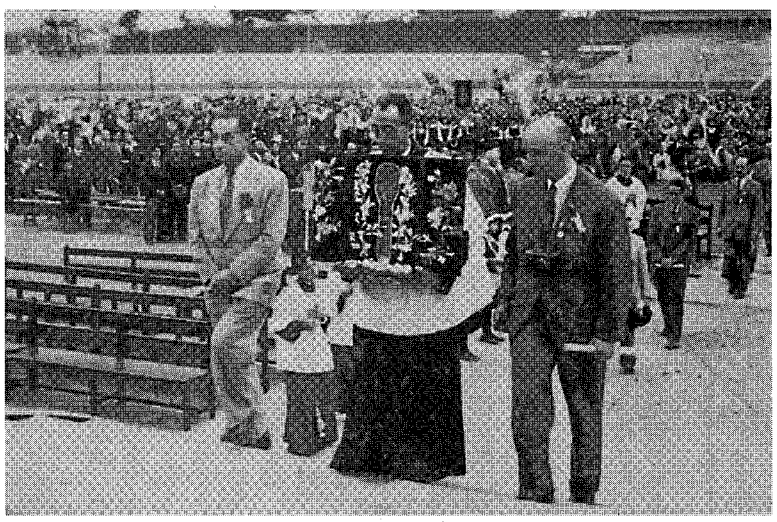
ザビエル渡来四五〇年を機に行われる司祭を対象とした西日本宣教大会については、すでにカトリック新聞や本紙でも報道されたが、このほど日時・場所や主催者、名称などが左記のとおり正式に決まった。

名称／西日本宣教司祭大会
日時／一九九九年十一月十六日（火）～十八日（木）
場所／アークホテル博多
アークホテル博多ロイヤルにて
主催者／ザビエル渡来四五〇年祭西日本委員会

委員長は島本要長崎大司教が務め、以下委員として糸永真一鹿児島司教、平山高明大分司教、松永久次郎福岡司教、三末篤實広島司教、押川壽夫那覇司教が名をつらねている。

なお、本大会の実行委員会が六教区より二名ずつ司祭が参加して結成され（福岡教区からは堤要吉神父と青木悟神父）、現在趣意書のまとめとアンケートの準備中である。

またザビエル渡来四五〇年祭の記念行事として、かつて五十年前に来日したザビエルの聖腕が来ることになっているが、福岡地区は一九九九年十月十一日から十八日の予定。



1949年のザビエル渡来400年祭には、同年6月1日に福岡市の平和台競技場でザビエル祭が盛大に行われた。写真は聖ザビエルの聖腕。

信者数少し増える 97年度「カトリック教会教勢」

カトリック中央協議会法人事務局より1997年度の「カトリック教会教勢」が発表され、７月２３日付けで各教区の広報担当者に送付された。それによると、日本国内の全信者数は

４４１,９１２人

で、前年より1,７１４人増えている。この中には聖職者、修道者、神学生の合計９６００人が含まれている。日本の全人口に対する信者の比率は０.３５３％で約３０００人に１人の割合でカトリック信者がいることになる。過去の統計をみると、この１０年間で約２０,０００人の信者が増えているが、この数は決して多いとはいえない。ちなみに福岡教区は、信徒数：３１,２７０人／信者数：３１,８５２人／聖職者、修道者、神学生数：５８２人で、ともに東京、長崎、大阪、横浜に次いで全国第５位。ちなみに、すべてにおいて最も多いのは東京教区で、それぞれ、８１,７６０人、８４,１７２人、２,４１２人。長崎教区の信者数は６９,２４５人。

カトリック福岡教区報
松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう
【一般の意向】生ける神の証し
【布教の意向】福音宣教の全世界的次元
【日本の教会の意向】アジア・太平洋地域の平和
＊説明は2面に

聖書講座［後期］

秋の毎金曜日の夜、勤めの帰り、一生懸命働いた週末のひととき、「みことば」を聴いて心のリフレッシュをされてはいかがでしょう。

テサロニケの信徒への手紙Ⅰ・Ⅱ

［日時］９月18日19時～21時（毎週金曜日・全10回）から11月20日まで［場所］カテドラル大名町教会［テーマ・講師］⑪９月18日・テサロニケの信徒への手紙Ⅰの著者、年代、場所、構成と教義・松永久次郎司教、⑫25日・主に倣う者・松永司教、⑬10月２日・パウロのテサロニケでの宣教・青木悟神父⑭９日・再訪の願いとテモテの派遣・高見三明神父⑮16日・神に喜ばれる生活、主は来られる・高見神父⑯23日・主の再臨への備え、結びの言葉・櫻井尚明神父⑰30日・テサロニケの信徒への手紙Ⅱの著者、年代、場所、構成と教義・牧山勝美神父［受講料］全回５０００円、一講座８００円［申込・問合先］カトリック福岡司教館☎０９２・５２２・５１３９（16時まで深堀）FAX５２３・２１５２（24時間）
［主催］福岡教区聖書委員会

日本カトリック司教団 核兵器の廃絶を求める関係各方面にメッセージ

さる五月、インドとパキスタンにおいて地下核実験が行われた。インドは計五回、隣接するパキスタンはインドに対抗する形で計六回の核実験を行っている。これにより、核拡散防止条約や包括的核実験禁止条約による核管理体制は、有名無実化する危機にあるといえよう。

そこで日本司教団は、常任司教委員会において、これらの核実験に関する日本のカトリック教会としての対応を検討した結果、核兵器廃絶を求めるメッセージを作成、インドとパキスタン両国政府、同国司教協議会ならびに核保有五カ国の司教協議会などの教会関係者、そして日本政府に送付した。

（メッセージの内容は2面に掲載）

広島平和アピール 広島教区長 三末篤實司教発表（抜粋）

五十三年前の原爆投下の恐怖と悲しみの中から、私たちは広島市民と共に、世界平和と核兵器廃絶のために働く召命を、神様から授かりました。私たちの力は小さく、弱いものでしたが、核兵器の残酷さと核戦争の悲惨さを世界の人々に訴え続けてまいりました。

世界は対立と戦いの時代から、協力と対話・共存の時代へと変わりつつあり、核兵器廃絶を望む声も世界に広がってきました。核保有国の核軍縮を盛り込んだ「核不拡散条約」の無期限延長と、「包括的核実験禁止条約」が相次いで、国連で決議されました。

しかし、その後も民族間の対立・抗争が世界各地で続いており、核保有国の核軍縮も進展せず、ついに今年の五月には、インドとパキスタンが相次いで、核実験を行いました。このアジア地域内の核実験によって、私たちの核兵器廃絶への願いが踏みにじられたことに、大きな悲しみと失望を感じました。核兵器を保有する国が増えることは、核戦争の危険が増すことを意味しております。

このような状況の中でも、私たちカトリック信者には絶望することは許されておりません。私たちは聖霊の働きを信じ、希望を持って、神から与えられた、「平和の使徒」としての使命を果たしていかなくてはなりません。

平和のために働くことは、喜びであり、恵みであります。私たちは核兵器廃絶の運動やさまざまな平和運動に取り組むことができます。人種・民族・国籍の違う人々との交流や協力、支援のために働くことができます。家庭や学校、職場、地域社会で愛と平和を育てることができます。

信仰と祈りをもって、隣人に関わり続けることが、世界平和の基礎を作る働きにつながっているのです。

平和を祈る集い

８月６日から15日は平和旬間です。インドやパキスタンが核実験を行い、平和がいつも脅かされている現実を突きつけられた思いです。この平和旬間を機会に、少しでも、平和の実現に向けて祈り、学び、何かを行い始めることができるように願っています。

日　時：８月９日（日）13時～16時
場　所：カテドラル大名町教会講堂・聖堂
講演会：北朝鮮はいま～食料支援視察報告
　　13時～14時［カテドラル大名町教会講堂］
講　師：野坂秀男氏（カリタス・ジャパン事務局長）
　　松井忠之神父（カリタス・ジャパン教区担当）
ミ　サ：14時30分［カテドラル聖堂］
　　松永久次郎司教司式（平和祈願ミサ）
＊当日のミサ献金は北朝鮮食料支援のため
【主催】福岡教区・福岡地区

1998年度／福岡地区信徒協研修会　９月１５日

共同体を生かす聖霊

―大聖年に向けて―

洗礼と堅信の秘跡によって神の子とされ、同じ命に生かされて一つの共同体を作っている私たちが、自分たちが受けた「聖霊」について理解を深め、その呼びかけにさらに積極的に応えていくにはどうすればよいか、また「聖霊の年」にあたってキリスト降誕２０００年の大聖年に向けて、どのような歩みを続けていけばよいのかを、ともに研修しましょう。

●講師●来住英俊神父（御受難会・福岡黙想の家）
●日時●１９９８年９月１５日（火・敬老の日）10時～15時
●会場●カテドラル大名町教会
●対象●信徒・修道者・司祭
●内容●講話・ミサ（司式：松永久次郎司教）
●参加費●１,０００円、中・高生５００円（当日受付にて）
●申込●小教区、修道院でまとめて下記までお申込みください。
〒818-0103 太宰府市朱雀4-8-10　杉本一俊
●申込締切●９月３日（木）
●主催●福岡地区信徒使徒職協議会

新ＦＡＸ番号
新田原教会
０９２・３０２・３・６０５０

召命祈願ミサ

10月８日（木）19時45分、有志の会である《召命をともに祈る会》主催で、福岡教区に豊かな司祭、修道者の召命を求めて、福岡サン・スルピス大神学院で「召命祈願ミサ」が行われる。どなたでも参加できます。

みちくさ

今年も平和旬間が来る。日本司教団は毎年、八月六日の主の変容の祝日から（この日は広島に原子爆弾が投下された日）聖母被昇天の祭日（この日は終戦記念日でもある）までを、平和を祈り、平和について考える期間として定めている。「みちくさ」として祈りをするのはどうかと思うが、アシジの聖者の祈りを紹介する。

平和を願う祈り
（アシジの聖フランシスコ）

神よ、わたしをあなたの平和の使いにしてください。
わたしが、憎しみのあるところに、愛をもたらすことができますように。
いさかいのあるところに、赦しを
分裂のあるところに、一致を
迷いのあるところに、信仰を
誤りのあるところに、真理を
絶望のあるところに、希望を
悲しみあるところに、よろこびを
闇のあるところに、光を
もたらすことができますように、
助け、導いてください。
神よ、わたしに
慰められることよりも、慰めることを
理解されることよりも、理解することを
愛されることよりも、愛することを
望ませてください。
自分を捨てて初めて
自分を見いだし
赦してこそゆるされ
死ぬことによってのみ永遠の生命によみがえることを深く悟らせてください。

（カルメロ神父編集「カトリック祈祷書 祈りの友」より　（Y））

内閣総理大臣　橋本龍太郎殿

核兵器廃絶を求めます

一九九八年五月、南西アジア（インド・パキスタン）に核拡散の嵐が吹き荒れました。この事態に対し、わたしたちは怒りと同時に、人類が今なお紛争解決の手段として対話の道を選べないことに悲しみを感じています。一連の核実験の強行が新たな核実験への誘い水になることのないよう心から訴えます。

核兵器に対する日本カトリック司教団の見解

人類史上初の核兵器の犠牲となった広島と長崎という二つの町をもつ日本にあって、日本カトリック教会は、核兵器をはじめすべての兵器を廃絶するよう、世界の人々に訴える責任と義務があると考えます。

核兵器は非人道的な兵器であり、決して認めることのできない悪そのものです。「都市全体または広い地域をその住民とともに無差別に破壊することに向けられた戦争行為はすべて、神と人間自身に対する犯罪であり、ためらうことなく固く禁止すべき」（第二バチカン公会議『現代世界憲章』80）ものだからです。

日本のカトリック教会は核兵器を持つことが力の均衡を保つために仕方ないことだという主張を絶対に認めることはできません。「ある国が核兵器を装備するとしたら、この事実は、他の国に、同種の、しかも同じ破壊力を持つ手段を手にしようと努力させる理由となるのです」（教皇ヨハネ二十三世『パーチェム・イン・テリス―地上の平和―』三）。「準備が整うということは戦争開始が可能だということを意味し、さらにそれは、ある時、どこかで、何らかの形で、だれかが、世界破壊の恐るべきメカニズムを発動させるという危険をおかすということなのです」（教皇ヨハネ・パウロ二世「広島での平和アピール」一九八一年二月二十五日『教皇ヨハネ・パウロ二世訪日公式メッセージ』）。

日本のカトリック教会は、できうる限りすみやかに核兵器の実験を停止し、核兵器を廃絶するよう求めます（日本カトリック司教団「核兵器廃絶アピール」一九九五年六月二三日）。

インドとパキスタンに対する抗議

両国が武力、わけても核兵器によらない平和を求める世界の人々の願いにこたえることなく、核の誘惑に屈したことに対して抗議します。原子爆弾によっていのちを落とした広島・長崎の三十六万を超える人々と、今なお苦しんでいる被爆者は、人類が二度と同じ過ちを繰り返してはならないという歴史の証人であって、核兵器の威力や核抑止力の証人ではありません。今なお原爆症で苦しんでいる方々の叫びに真摯に耳を傾けてください。平和のための核兵器など存在し得ないのです。今後、両国が一切の核実験を行うことなく、軍拡競争を中止することを要請すると同時に、決して核兵器を使用しないことを心から要望いたします。

核保有国（国連安全保障理事会常任理事国）に対する要請

わたしたちは、このたびの核拡散に対する核保有国の重大な責任を厳しく追及します。平和を望む世界の人々の声にこたえ、国連が核拡散防止条約（NPT）（一九七五）、包括的核実験禁止条約（CTBT）（一九九六）と、核軍縮の流れを作ってきたことに対して、一定の評価はできます。しかし、核保有国は核兵器を手放さない方針を貫いてきました。フランス・中国の駆け込み核実験、アメリカの臨界前核実験に見るように、そこには核兵器廃絶の意志は微塵も感じられません。

核保有国が核抑止力による安全保障という考えをやめ、自己中心的既得権を放棄する勇気を持つことを要請します。国連安全保障理事会常任理事国には、率先して、この世界から核兵器を廃絶する具体的計画を立てる義務があります。そうしない限り、非核保有国に核保有への欲望を正当化する口実を与え続けることになります。

無条件の核兵器廃絶条約に向けて、今すぐ行動を始めることを要望します。この条約こそ、世界の平和につながる近道だと信じるからです。

日本政府に対する要請

日本政府が被爆国の立場から核実験を非難してきたことを支持すると同時に、改めて核兵器の廃絶を留保なしに訴えることを強く要請します。これまで日本政府が、核保有国（国連安保理常任理事国）の核実験（臨界前核実験を含む）に対して例外なく批判してきたことは言い難いからです。日本政府は公式見解として非核三原則を表明しています。しかし、日本は核の傘に入っているではないかという疑問と、プルトニウムを保有することで核兵器準備をしているのではないかという疑惑に対して、明確な回答をいまだに出していません。これらがはっきりしない限り、日本も核抑止力の論理に従っていると言われても反論はできません。日本政府は、核兵器がもたらす恐ろしさを世界に広く知らせ、核抑止力によらない安全保障の道を国際社会とともに探求する使命が与えられていることを自覚してください。

日本のカトリック信者に対する要請

核兵器の削減は人々の心から戦争への恐怖を取り除くためにも、一致協力して誠実に努力することなくしては実現しないものです。すべての人の幸せを望んでおられる神の導きを祈りつつ、国と国、民族と民族との間に真の信頼関係が築かれるために、わたしたちにできることを一つひとつ実践していきましょう。わたしたちの力をはるかに超える神の力に信頼し、真心と愛をもって平和のために連帯していきましょう。

祈り

神よ、すべての心の中に、平和の知恵と正義の力と兄弟愛の喜びを注いでください。神よ、わたしたちに、憎しみには愛、不正には正義、戦争には平和をもってこたえることができる英知をお与えください。貧困をなくすために努力し、簡素な生活を選びとり、国籍を超えて連帯する勇気をお与えください。

一九九八年六月九日

日本カトリック司教協議会
会長　濱尾　文郎

典礼 あ・ら・か・る・と 12

福音朗読

ミサの前半部分であることばの典礼では、毎日さまざまな聖書の箇所が朗読されます。この朗読は、主日は三年周期、週日は二年周期の朗読配分に従って行われていますが、ことばの典礼の頂点は、何といっても福音朗読です（「ミサの聖書朗読指針」13参照）。

福音書の朗読をとおして、その日に記念されるキリストの救いの出来事が正式に告げられるのです。

したがって、福音朗読には最大の尊敬をもって臨むことが大切ですが、福音朗読とその前後の一連の典礼行為は、このことを明確に表すしるしとなっています（同指針17・18、「ローマ・ミサ典礼書の総則」35参照）。まず、福音を朗読する奉仕者（通常は助祭）は朗読の前に祝福あるいは祈りによって準備します。そして、朗読するときは初めに「○○による福音」と唱えながら、福音書に十字架のしるしをします。一方、会衆は、キリストを迎える心を表すためにアレルヤ唱（あるいは詠唱）のときから起立しています。そして、朗読の前には朗読者とあいさつの言葉を交わして、キリストが自分たちの集まりの中にいてくださることを確認し、立ったまま朗読に耳を傾けます。さらに、朗読が終わると、朗読者と会衆は「キリストに賛美」という言葉を交わして、信仰と感謝のうちに受け入れたキリストのことばをたたえるのです。この朗読の前と後の応唱は、できるだけ歌うことが望ましいとされています。このほかにも、朗読福音書がある場合は、入・退堂の行列のときに奉仕者が奉持すること、朗読の前に福音書に献香することなど、状況に応じて尊敬を表すしるしが加えられます。

福音朗読には、他の朗読にはない象徴的な動作やことばが加えられています。ミサに集まる一人ひとりが、これらのしるしをとおして、ことばの典礼の頂点である福音の朗読に特別の尊敬の気持ちを抱くことができるように配慮されているのです。（カトリック中央協議会『毎日のミサ』一九九六年十月号第一頁）

典礼と生け花研修会

―「花をいける心」の静修と時と場―

かねてより、典礼の場での生け花の意味、扱い方について考えておりました。たとえば「み言葉が人となる」降誕節、十字架から復活へと過ぎ越していく神秘、当日の朗読の主テーマを、その季節にふさわしく、典礼上のシンボルとなるよう「花をいける心」の静修の時と場です。初めての試みです。講師の関根英雄神父はタミエ(仏)のトラピスト修道院のジャン・ピエール修道士より、その霊的意味を学び、その心を教会の花係に伝え、木更津（千葉）、町田（東京）の小教区で実践しています。

日本文化の美の象徴である「生け花」が「み言葉」を語るシンボルとなる道を探りましょう。

なお、この研修は華道の研究会ではなく、「典礼といけ花」についての研修です。　（F.ソットコルノラ神父）

●日時●１９９８年10月４日（日）13時受付～
5日（月）15時　《前日からの宿泊も可能》
●会場●生命山カトリック別院
●講師●関根英雄神父（東京教区司祭・典礼委員）
●参加費●7,000円
●申込・問合先●生命山カトリック別院
☎０９６８・８５・３１００　FAX８５・３１８６

10月4日（日）	10月5日（月）
13：00　受付	5：30　座禅（自由参加）
15：00　お茶	6：00　朝の祈り
15：15～17：15	6：30　ミサ
オリエンテーション・講話	7：30　朝食
17：30　晩の祈り	8：30　作務
18：30　夕食	9：30　講話
19：30　分かち合い	10：30　実技
20：30　終課	12：00　昼食
	13：30　まとめ
	14：30　インマヌエルの祈り
	15：00　お茶・解散

―大沈黙―

青年のための 召命黙想会

自然の中で
あなたもともに
召命について
考えてみませんか？

●日時●
9月26日（土）16時
～27日（日）17時
●場所●
聖心の祈りの家（篠栗）
●対象●
18歳以上の独身男女
青年（受洗者）
●参加費●
2,000円
●申込締切●9月20日
●申込問合先●Fr. 青木悟
〒810　福岡市中央区
浄水通39
カトリック福岡司教館
☎092-522-5139

―召命をともに祈る会―

今月の意向（1面参照）

【一般】聖霊が生ける神について正真正銘の喜ばしい証しを呼び起こしてくださるように
【布教】どこでも広報が全世界的次元で福音宣教となるように
【日本の教会】過去の戦争での悲惨な思いを忘れずに、アジアや太平洋地域への和解と償いを真摯な姿勢で続けることを自覚するように

9月の意向

【一般】対人地雷の禁止／すべての国家が対人地雷の使用を断罪し、その消滅を約束するように
【布教】アジアの教会／新福音宣教の精神が、キリストを告げ知らせ、福音の土着化を推進し、また宗教間で対話するにあたってアジアの教会を励ますように
【日本の教会】家庭の崩壊に苦しむ人々／種々の理由から家庭の崩壊に苦しむ多くの人々が、真の愛の絆を知り、心がいやされ、新たに人生を歩み始めることができるように

福岡黙想の家
後援会より
お知らせ

8月中～9月1日(火)迄、祈りの日はお休みです。

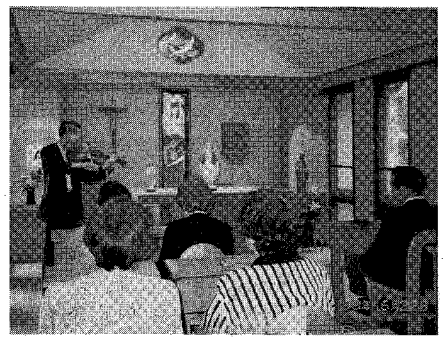
★ 9月26日(土) 午前9時～2時間程度
黙想の家敷地内の清掃、草取りを致します。どうぞ皆様ご協力をお願い致します。
★ 9月26日(土) 16：00 ～ 27日(日) 15：00
会員のための黙想会を致します。（会費：半額負担／3,000円）
※新規加入方も受け付けます。ご希望の方はお申し出下さい。
指導：来住英俊神父
★ 10月10日(土) '98 むなかたＴＥＮ・ＴＥＮまつり　心をひらいて
特別講演「現代の忘れもの」
講師：シスター　渡辺和子（ナミュール・ノートルダム修道女会）

福岡黙想の家　〒811-4155　宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810-0044
福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ　土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289

別れ・出逢い・旅立ち
草苑〔SOU-EN〕
ご葬儀
木下株式会社
ＴＥＬ092－526－5656
〒810-0016
福岡市中央区平和３丁目1-5

神の愛にふれる集い
―地域住民との出会い盛ん―



福音の光修道会（博多区光丘町）ではさる六月二十二日、町内の老人会を招いて神の愛にふれる集いを催し、参加した多くの人たちに喜ばれた。

健軍教会の鵜野泰年神父が講師として来院、チャペルで感銘深い話とバイオリン演奏を行った（＝写真）。その後、鵜野神父を囲んで和気あいあいのうちに昼食を味わいながら、同神父のバイオリン伴奏で昔懐かしい歌もとび出すなど、修道院食堂は笑顔いっぱいの、楽しい雰囲気に満ちあふれた。

福音の光修道会は現在地に居を定めて四十六年になるが、同時に開設した光の園保育園と創立三十五周年を迎える光丘幼稚園の事業を通して、地域との交流が深まっている。五年前から近隣の婦人たちに呼びかけて始まった「花びらの会」（弱視者のため拡大写本を製作し配付するボランティアグループ）の活動もようやく定着し、月一度の集いをみな楽しみにしている。

（取材協力シスター佐藤倭文子）

10月11日
カルメル会修道女 エディット・シュタイン 列聖

十月十一日、ローマで列聖される予定の福者、エディット・シュタイン（カルメル会修道女）をニコラ神父が紹介する。

福者の教えを短く要約することは難しいので、彼女の考えを引用してみます。十四歳のとき無神論者となった彼女は、三十歳の時アビラの聖テレジアの自叙伝を読み、キリスト教に導かれ、最高の真理である神を見つけ、こう打ち明けている。「私は安んじて主のお導きに委ねることができるのだという強い印象を持っています」と。

ナチスによって教授資格を奪われた時にも、絶望せず「私は講義ができなくなったことを、遺憾には思いません。私はその背後に偉大な憐れみ深い摂理があると思います」と書く。

着衣式の際に選んだ修道名は、分かりやすくは「十字架のテレジア・ベネディクタ」と訳されているが、もっと深い内容を含む「十字架に祝せられた」の意味を持つ。こうして彼女は自分の命の計画をはっきりとさせ、これからキリストの十字架の外に何の渇望もしない。

ある友にこう語る。「あなたは、困難が大きすぎ、喜びが小さすぎると言って不安になってはいけません。み摂理は、計り知れない報いなしには、何物をも奪われないからです」と。

もう一人の友人にこう書いている。「苦しみが続いているかぎり、あなたのために豊かな忍耐と最終的な慰めとを祈っています。神との一致に達するために苦しみの道はいちばん安全なのです。今日のようなきびしい時代では特別に必要なのは、喜びのうちに耐え忍んだ苦しみを通して救済を共にすることです」と。

忙しすぎるから祈る時間がない、という人に彼女はこう言う。「少なくとも内面的に一瞬の間、他のすべてのものから離れ、主のもとで隠れ場を見つけようと努めなければなりません。主は現存しておられます、私たちが必要とするものを主は一瞬にお与えになります」と。

福者の年譜

一八九一年ブレスラウ（当時のドイツ）でユダヤ人として誕生。一九一五年ゲッチンゲン大学を卒業。一九一六～一九一八年フライブルク大学のフッサール教授のもとで学術助手。一九二二年受洗と初聖体。一九二三年～一九三一年教職。一九三三年ケルンのカルメル会に入会。一九四二年八月九日アウシュビッツに到着、ビルケナウのガス室において殺戮される。一九八七年五月一日ケルンにおいて、教皇ヨハネ・パウロ二世により列福。一九九八年十月十一日ローマにおいて教皇ヨハネ・パウロ二世により列聖の予定。

御寄付御礼

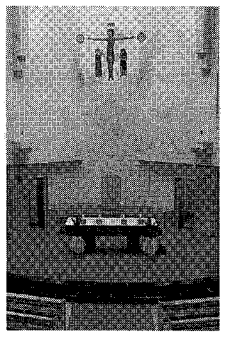
故パウロ山田市蔵様の御香典返しに代えて黒崎教会の山田弘様より司祭養成のためにご寄付をいただきました。ここにご報告し、心より御礼申し上げます。故人のご冥福を心よりお祈り申しあげます。

福岡カトリック神学院
院長　山元　眞神父

日本カトリック研修センター

⑩典礼研修―ミサ　第二バチカン公会議の指導に基づき、信徒の典礼への直接的奉仕のあり方を、実践を通して学ぶ。［日時］9月10日16時（木）～13日（日）［場所］日本カトリック研修センター［指導］白浜満神父（福岡サン・スルピス大神学院）［対象］信徒・修道者・司祭［定員］35人［会費］31500円（税込み）［申込・問合先］日本カトリック研修センター研究企画部☎052・831・5037 FAX 831・5317

大聖年準備のための指定巡礼教会 3 大名町教会



大名町教会の創立は一八八七年、パリ外国宣教会のE・ラゲ神父が旧橋口町（現在の中央郵便局あたり）に民家を借り仮教会として宣教したのに始まる。

一八九六年、A・ルッセル神父が購入した現在地に、E・ベレール神父が赤レンガ聖堂を建設した。当時福岡にはレンガ造りの建物は一つもなく、市民の注目の的になったという。

建設に際してはベレール神父が幼少時所属したパリの勝利の聖母教会に援助を仰ぎ、その寄付で完成したため、この聖堂も「勝利の聖母」に献げられ、現在に引き継がれている。現在の聖堂の正面入口にある聖母像は、その時パリの同教会から贈られたものである。

この教会は新カテドラルの建設に伴い解体される運命にあったが、明治期の貴重な洋風建築として保存運動が市民から起こり、結果、久留米聖マリア病院聖堂として移築復元された。

一九二九年、福岡教区の誕生に伴い、司教座聖堂に指定され、フェルディナン・チリー司教が初代教区長として着座した。

一九三八年、赤レンガ聖堂の、司祭館をはさんで右側に、三百人収容可能の新聖堂（木造）が完成、司教座聖堂としての威容が整った。



大名町教会の歴史は明治、大正、昭和の激動の時代と重なり、不思議と戦災を免れた。

しかし、時とともに老朽化し、加えて信徒数も増したため、新カテドラル建設の構想がもちあがり、紆余曲折を経て一九八五年二月、大成建設による大工事が始まり、教区センター、司祭館など諸施設を含む司教座聖堂が完成。一九八六年四月十三日献堂式が行われた。

カテドラルを概略すると―江藤誠一氏設計による鉄筋コンクリート造りで屋根は片流れ式。総工費七億五千万円。独立した鐘楼（40メートル）には大中小三つの鐘（フランス製）がある。

大聖堂は二～三階を占め、三階は階段席、全体として扇型で約千人収容。

熊本の信徒三家族の寄贈による中央祭壇は南西向きに固定され、その奥に司教座（カテドラ）がある。目立つのは聖母の生涯を描いた十六枚のステンドグラスで、フランスの女流画家I・スートラの原画によるもの。

大聖堂に聖櫃がないことで寂しく感じ、不満をもつ人もいるらしい。その聖櫃は隣接する小聖堂にある。ここの祭壇は赤レンガ聖堂以来主祭壇として使用されていたもの。右側に「恵みの聖母」のイコンがある。三階ギャラリー南側のパイプオルガン（パイプ一六七五本）はドイツ製。南側外壁を飾るレリーフは王たるキリストで、ドミニコ会のカルパンティエ神父の作。

カテドラルとは

司教が座るカテドラ（椅子・座）のある教会＝カテドラル・チャーチの省略形で、司教座聖堂を意味する。叙階式や堅信式など、教区の主な儀式を司教が司式するとき、司教のみがその座につく。その座にあって司教は、使徒の後継者として神の民を教え、聖化し、統治する役務を果たし、全教区民の救霊のために奉仕する。

外国人宣教師たちは布教の困難さに加えて敵性国民として抑留されたり、教会が倉庫に転用されたりしたが、聖堂そのものは不思議と戦災を免れた。

しかし、時とともに老朽化し、加えて信徒数も増したため、新カテドラル建設の構想がもちあがり、紆余曲折を経て一九八五年二月、大成建設による大工事が始まり、教区センター、司祭館など諸施設を含む司教座聖堂が完成。一九八六年四月十三日献堂式が行われた。

カテドラルを概略すると―江藤誠一氏設計による鉄筋コンクリート造りで屋根は片流れ式。総工費七億五千万円。独立した鐘楼（40メートル）には大中小三つの鐘（フランス製）がある。

大聖堂は二～三階を占め、三階は階段席、全体として扇型で約千人収容。

データ

●信徒数／約一五七〇人●ミサ時間／土曜日十九時、日曜日七時・九時、十六時（英語）●住所／〒810・0041福岡市中央区大名2・7・7●電話092・741・3687●主任司祭／アントニオ浦口均

場所

●JR博多駅下車、姪浜方面地下鉄乗り換え、「天神」下車。徒歩約8分。●西鉄大牟田線福岡駅下車。徒歩約8分。●西鉄バス「西鉄グランドホテル前」（明治通り）下車

-1999年度　学生募集-

聖マリア学院短期大学

看護学科（看護婦・看護士養成3年課程）入学定員100名

選抜区分	試験期日	試験科目等
推薦選抜	11月25日	基礎学力調査（英語1程度）、小論文、面接
社会人選抜	11月25日	
試験選抜	2月16日	国語1、英語1、理科（生物1B又は化学1B）、面接

専攻科：地域看護学専攻（保健婦・保健士養成1年課程）入学定員40名
助産学専攻　（助産婦養成1年課程・女子のみ）入学定員20名

選抜区分	試験期日	試験科目等
推薦選抜	11月10日	小論文、面接（専門科目に関する口頭試問を含む）
社会人選抜	11月10日	
試験選抜	2月　2日	看護学一般、面接

（お問い合わせ先）
〒830-8558　福岡県久留米市津福本町422番地
（西鉄大牟田線試験場前駅徒歩5分・聖マリア病院隣接）
聖マリア学院入試事務室 TEL：0942-35-7271 FAX：0942-34-9125

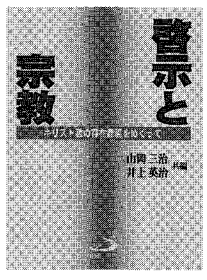
聖マリア学院医療福祉専門学校

介護福祉学科（介護福祉士養成2年課程）入学定員100名

選抜区分	試験期日		試験科目等
学校推薦選抜	11月5日		小論文（テーマは募集要項に記載）、面接
自己推薦選抜 社会人選抜	1期	10月6日	面接（自己推薦書に基づく）
	2期	11月30日	
	3期	1月26日	
試験選抜	1期	2月25日	国語1又は数学1・A（数と式）の選択
	2期	3月24日	

＊介護福祉学科においては、特待生制度等の奨学生制度を充実。
＊聖マリア病院、聖マリア介護支援センター等と協同した実践教育と充実した卒後教育を実施。
＊キャンパス見学随時　＊介護福祉学科体験入学：8月25日、9月26日

BOOK 読みは専科



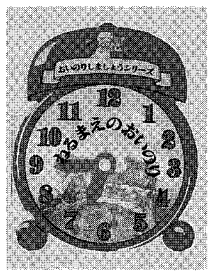
★啓示と宗教
山岡三治／井上英治共編

本書は、キリスト者の信仰生活の特徴にわかりやすくアクセスすることを願い、「啓示と宗教―キリスト教の存在意義をめぐって」と題して行われた上智大学夏季講習会の講演集である。初めに新・旧約聖書の観点から「神の啓示」と「宗教としてのキリスト教の独自性」について述べ、また「神の啓示と、キリスト教の存在意義」を神学はどうとらえているか、最後に現代に生きる人間の立場から啓示と宗教の問題を探求する。

サンパウロ　税別二四〇〇円

◇　◇　◇

★おいのりしましょうシリーズ
文／リンダ・パリー
絵／アラン・パリー
訳／かげやまあきこ



せいしょのおいのり・だいすきなおいのり・かぞくのためのおいのり・ねるまえのおいのりの四冊からなる。このシリーズはこどもたちに、いつでもお祈りできることを教えています。置き時計の形についている動く針で、時間の読み方も楽しく学べることでしょう。子どもの好きなかわいい動物の絵をあしらった神さまに向かうお祈り絵本。

女子パウロ会　本体各四五〇円

聖パウロ書院休業お知らせ

八月十四日まで休業いたします。ご連絡は左記まで。小笹聖パウロ女子修道会☎092・531・4092

ジャパンスマイル㈱
株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石材 { 石理影の御そ 石他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860-0006 熊本市段山本町2-21
TEL 096-352-2417

福岡黙想の家　8・9月

◇1日(土)～4日(火)　長崎純心聖母会学生志願者黙想会
◇7日(金)～16日(日)　幼きイエズス修道会黙想会／来住神父
◇17日(月)～22日(土)　ｺﾝﾍﾞﾝﾂｧﾙ聖ﾌﾗﾝｼｽｺ修道会黙想
◇18日(火)～22日(土)　ﾋﾞﾝｾﾝｼｵ・ｱ・ﾊﾟｳﾛの愛徳姉妹会
◇23日(日)～29日(土)　サレジオ会黙想
◇30日(日)～9月4日(金)　オブレート会黙想
◇11日(金)～12日(土)　聖体奉仕者会
◇13日(日)～15日(火)　きょうだい会黙想
◇14日(月)～15日(火)　聖母カテキスタ会黙想
◇19日(土)～20日(日)　週末黙想会／ガブリエル神父
◇23日(水)～24日(木)　九州アシュラム修養会
◇26日(土)～27日(日)　黙想の家後援会・会員黙想会／来住神父
◇27日(日)　典礼・聖歌と祈りの集い
◇29日(火)～10月6日(火)　聖母奉献修道会

[問合先] 黙想の家　☎0940・32・3222　FAX32・3385

黙想の家のホームページを御利用ください
◎ホームページ　http://w32.mtci.or.jp/~daneox
◎e-mail　Mail to daneox@mtci.or.jp

生命山カトリック別院

生命山では、皆様のために、美しい自然の中で、神との語らいの日々を過ごしていただきたく、黙想会を計画いたしました。ご参加ください。

■祈りの集い
日時：⑦9月17日（木）
⑧10月8日（木）
9時45分～15時

テーマ：詩編で祈る（全10回）
指導：フランコ神父
★次回は⑨11月12日（木）です。
■黙想会
日時：(B)8月16日(日) 17時～24日(月) 朝食後
講師：フランコ神父
＊個人、又はグループでの黙想等、常時受け付けています。
[問合先] 生命山カトリック別院　☎0968・85・3100

第40回 日本カトリック看護協会 全国大会

『パストラルケアを目指して』
―看護者の霊性を深める―

日　時：1998年10月17日(土)～18日(日)
場　所：熊本市「アークホテル熊本」
熊本市城東町5－6　☎(096)351－2222
対 象 者：医療従事者、または関心のある方
参 加 費：15,000円（懇親会費を含む）宿泊は各自で
申込締切：98年8月31日
問 合 先：イエズスの聖心病院
☎096－352－7181／FAX352－7184
プログラム：17日－講演（福岡サン・スルピス大神学院院長　大山悟神父）、分かち合い、懇親会
18日－シンポジウム、派遣のミサと閉会式

召命の集い'98

[テーマ]「イエス様がひろがる」
[日時] 11月3日（火）文化の日 9時30分～15時30分［雨天決行］
[場所] 福岡サン・スルピス大神学院
[内容] 召命祈願ミサ・観劇・ミニ運動会・工作・講演会他
★作品募集中★10月10日必着
[問合先] 召命の集い実行委員会　☎092・864・4203
＊くわしくは教会配布のご案内を参照してください

会合と催し

教区年間テーマ：キリスト者を活かす聖霊を信じます

8月

1日（土）聖アルフォンソ
4日（火）聖ヨハネ・マリア・ビアンネ
＋M.ボヌカズ［田川教会1991］
6日（木）主の変容／平和旬間（～15日）
＋E.ベノア［門司港教会1962］
8日（土）聖ドミニコ
＋P.マルケシーニ［待労病院付1980］
9日（日）**平和祈願ミサ（カテドラル）**
10日（月）聖ラウレンシオ
11日（火）聖クララおとめ
12日（水）＋A.ブルトン司教［第2代福岡教区長1954］
＋J.オサリバン［熊本地区長1983］
13日（木）教区墓地開放（～15日）
14日（金）聖マキシミリアノ・コルベ殉教者
＋ミカエル木村義巳［馬渡島教会1967］
15日（土）聖母の被昇天
教区和田墓地ミサ（14時）
平和を考える行進（鳥栖教会17時～）
19日（水）＋ステファノ川口康頼［小神学校校長1991］
22日（土）天の元后聖マリア
24日（月）聖バルトロマイ使徒
27日（木）聖モニカ
福岡地区婦人会感謝ミサ（カテドラル）
28日（金）聖アウグスチヌス司教
29日（土）洗礼者ヨハネの殉教

9月

3日（木）聖グレゴリオⅠ
＋P.コトレル［熊本地区で宣教1928］
8日（火）聖マリアの誕生
司祭評議会（司教館10時30分）
10日（木）日本205福者殉教者
13日（日）聖ヨハネ・クリゾストモ
カトリック国際協力の日（献金）
筑後地区ソフトボール大会
14日（月）十字架称賛
15日（火）悲しみの聖母／敬老の日
福岡地区信徒協研修会
＋A.ヒューゼ［福岡司教館1944］
16日（水）聖コルネリオ・聖チプリアノ
17日（木）＋P.オジョニ［ロザリオの園1982］
18日（金）**聖書講座［カテドラル19時］（～11月20日）■**
20日（日）聖アンデレ金と同志殉教者
門司教会堅信式
21日（月）聖マタイ使徒福音記者
23日（水）秋分の日
27日（日）聖ビンセンシオ・ア・パウロ
28日（月）聖トマス西と15殉教者
29日（火）聖ミカエル他大天使
＋Y.ヴィオン［福岡司教館1969］
30日（水）聖ヒエロニモ教会博士

■印は本面に詳細説明あり

福岡

■**聖テレーズの著作を読む会**　［日時］毎月第四日曜日午後二時～三時半★8月は9日。9月は15日。10月から第四日曜日になります。［場所］カルメル会修道院（福岡市西区上ノ原）［問合先］カルメル会修道院☎092・807・7361［世話人］城島暁（浄水通教会所属）。尚、同日午後一時～一時五十分キリスト教入門講座があります。

■**98すだちのコンサート**　すだちの会（宗像地区精神障害者当事者の会）発会記念のコンサートを本田路津子さんを招いて行います。［日時］8月22日（土）開場13時30分～［場所］宗像市中央公民館（大ホール）宗像市須恵☎0940・33・2548［主催］すだちの会［問合先］宗像保健所☎0940・36・2366

■**聖モニカ祭**　［日時］8月27日（木）10時～［場所］カテドラル大名町教会

■**聖書講座［後期］テサロニケの信徒への手紙Ⅰ・Ⅱ（3面参照）**

■**カテキスタの集い**　［日時］9月6日（日）13時30分～15時30分［場所］福岡カトリック神学院［講師］山元眞神父（同神学院院長）［テーマ］新しいカテキズム［会費］500円＊教会学校に関する資料をお持ちくだされば幸いです［問合先］福岡カトリック神学院☎092・531・6821 FAX524・7373★8月は休会

■**第11回福岡パストラルケア研究会**　この研究会は、病人訪問や病人の世話に関わり、あるいはそれらに従事する人々による勉強会です。病人訪問時の病人への対応の仕方、病人（入院患者）の心理などについて勉強します。［日時］9月13日（第二日曜）14時～16時［場所］福岡サン・スルピス大神学院新館ホール［内容］講話「苦しみと死と復活」、一年の振り返りと今後の展望［講師］大山悟神父（福岡サン・スルピス大神学院院長）［参加費］無料［問合先］事務局（シスター箕浦☎092・871・4943大神学院）★8月は休会★第12回［日時］10月4日（日）14時～16時［内容］講話「ホスピスケアのめざすもの―その人らしい生の完成を願って―」［講師］井田栄一氏（熊本・みこころホスピス医師）［参加費］七〇〇円［問合先］同右

■**ホスピスの会**　★8月は休会［問合先］事務局／〒815・0034福岡市南区南大橋1・8・29小林計子☎FAX092・512・8723★昼間（9時30分～17時）0942・83・2294

■**中・高生と母の祈りの集い**　［日時］9月26日（土）18時30分～27日（日）昼食［場所］大分県湯布院町福音の光祈りの家［指導］ブリ神父（サレジオ修道会）［対象］女子の中・高校生と希望する母親［募集人員］15名［参加費］4000円［申込締切］9月20日［主催・申込・問合先］福音の光修道会福岡修道院☎092・581・1663

■**典礼・聖歌と祈りの集い**　［日時］9月27日（日）14時～17時［場所］福岡黙想の家［聖歌指導］深堀純氏［会費］100円［主催］福岡典礼聖歌研究会［問合先］福岡黙想の家☎0940・32・3222 FAX3385

■**福岡生と老い・死をみつめる会**　［日時］9月27日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会4階会議室［内容］講話「意義ある人生」と語り合い・死別体験者の語り合い［講師］脇坂順一氏（久留米大学教授）［会費］500円［問合先］事務局（大山美穂子☎092・713・8523／村尾☎6069・6992）★8月は休会

■**第73回福岡結婚準備セミナー**　［日時］8月27日（木）～9月24日（木）9月3日を除く毎木曜日・土曜日19時～21時30分［場所］カテドラル大名町教会［申込・問合先］カトリックファミリーセンター☎092・541・6207 FAX552・5022

■**聖歌研修会**　［日時］10月4日（日）13時～15時30分［場所］カトリック光丘教会［聖歌指導］深堀純氏（大名町教会信徒）［問合先］有馬浩☎092・611・2673

■**典礼研修会**　［日時］11月8日（日）13時～17時［場所］カテドラル大名町教会1階講堂［テーマ］奉仕―実践をふまえて―［講師］白浜満神父（福岡サン・スルピス大神学院）［参加費］大人1000円、中・高生500円［申込締切］10月28日［主催］福岡教区典礼委員会［申込・問合先］教区本部事務局☎092・522・5139 FAX5232・2152青木悟神父

佐賀

■**佐賀信徒協理事会**　［日時］8月30日（日）13時～［場所］カトリック多久教会

熊本

■**第11回熊本短期キリスト教講座　生きがいをさがそう！**　［日時］9月18日10時30分～12時30分・19時～21時（毎週金曜日・全7回）から11月1日まで（14時～16時のみ）［場所］カトリック手取教会［テーマ・講師］①9月18日・歌・妻・母～園児に囲まれて・坂本スミ子（石井寿美子）＝熊本・聖母幼稚園園長、②25日・栄光と挫折～預言者エリヤの生涯に学ぶ・原寛＝日本聖公会熊本聖三一教会司祭③10月2日・生命にとって大切なこと～心と身体の健康、さらに生命のいやしについて・倉元涼子＝精神科医（熊本龍田病院）④9日・福音による勇気～カトリックの信仰と日本社会の危機・来住英俊神父＝御受難会司祭（福岡黙想の家）［受講料］全講座一〇〇〇円［申込・問合先］熊本カトリック案内所☎096・322・7948［主催］熊本短期キリスト教講座実行委員会

お知らせとお願い

取材協力の方々へ

いつも本紙のためにご協力を賜わり、心よりお礼申し上げます。今後本紙に寄せられた原稿および写真は、原則として本紙編集部所有となりました。また原稿記事は編集の都合により、書き換え、一部削除もありうることをご承知おきください。ただし、写真につき、返却をご希望の場合は、ご要望に応じますので、その旨お知らせください。

教区報編集部

編集後記

夏、まっただ中。夏休みも始まり、一息つく感じ。聖霊は「息」だそうだ。暑くても「聖霊」の息吹を吸い込むために深呼吸をしたい。

今号は八、九月合併号です。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者 ペトロ 平田 清

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所 大石真澄
☎092-552-8195 Ⓕ092-541-7734

FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1 TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長 藤木鐵三　福岡支店長 長山和博

カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所 福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

聖霊は共同体を生かす

大聖年に向けて研修会

福岡地区信徒協が企画

福岡地区信徒使徒職協議会の研修会が九月十五日、カテドラルセンター大名町教会で開かれた。紀元二〇〇〇年の大聖年を準備するために行われたもので、テーマは「共同体を生かす聖霊」。講演を聞きながら聖霊がどのように共同体に働くのかを祈りのうちに考えた。



この研修会は福岡地区信徒協（会長杉本一俊氏）が毎年九月十五日の祭日に開いているもので、一昨年からは、紀元二〇〇〇年の大聖年の準備として企画されている。今年は「聖霊の年」であることから、「共同体を生かす聖霊」というテーマで講話を聞きながら聖年を準備することが考えられた。参加者は約一七〇人。

講師の来住英俊神父（御受難会・福岡黙想の家）は、ある神父から「あなたは福音宣教していますか」と尋ねられた経験談から講話を始め、信者一人ひとりに教会共同体を建てる役割があることを再確認させた。そのためには自分自身で、キリスト者としての評価の基準を持たなければならないこと、教会を建てるために、「私を使ってください」という気持ちで自分を差し出すことの必要性を説いた。「自分をスッと出す軽やかさが聖霊のたまものである」など、経験に裏打ちされたわかりやすい講師の話に参加者は引き込まれた。

また、「新しい歌を歌っているか」と問いかけ、共同体を建てるために何をしようとしているか見つめ直す必要も説いた。

聖霊は集め、散らし、そしてまた集める。拡げるために散らす、という話は共同体での人間関係に悩む信者に慰めと希望を与えた。

カテドラルに集い・平和を祈る



平和旬間の八月九日、カテドラル大名町教会で「平和を祈る集い」が開かれた。主催は福岡教区と福岡地区。この集いは二部に分けて行われ、第一部は講演会で野坂秀男氏（カリタス・ジャパン事務局長）と松井忠之神父（同福岡教区担当）が「北朝鮮はいま」と題して講演をした。この七月に北朝鮮を視察した両人は、現地の深刻な食料や支援物資の援助の実態をビデオなどを使って報告した。第二部は在日外国人と共に平和祈願のミサを行った（＝写真）。献金は北朝鮮の食料支援のために捧げられた。

バーベキューで交流

―佐賀地区青年会―

佐賀地区青年会は八月二日、呼子教会でバーベキューパーティーを開き、互いに親睦を深め合った（＝写真）。参加者は各教会から二十余名、それにお告げのマリア会、聖心のウルスラ会、ショファイユの幼きイエズス会のシスターたちが加わって、にぎやかな交流となった。

十時半に呼子教会に集合した参加者は、まず伊東、ジョルジョ両神父のミサにあずかり、午後は七ツ釜の観光で海の香りと美しい景色を満喫。その後、暑さでバテ気味ながら、シスターたちが準備していたバーベキューに和してにぎやかなパーティーに突入、若さにまかせて健啖ぶりを発揮した。



そんな楽しい中にも一同は、幼きイエズス会のシスター脇山（唐津出身）が活動しているチャド共和国の話を聞いて しんみり。失業と食料・医療・衣料不足と政情不安の中で、常に死と隣合せの生活をしていることを知り、大いに考えさせられた。

伊東神父提供の花火でフィナーレ。疲れさえ心地よく感じられる一日であった。

（取材協力 佐賀教会 綾部優美）

長崎出津 次兵衛岩巡礼

日時：11月15日
8時浄水通教会集合
8時30分出発
19時浄水通教会解散
参加費：1000円
問合せ・申込先：Fr. 青木悟
☎092-522-5139（教区本部）

企画：召命をともに祈る会

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう
【一般の意向】みことばの種の発見
【布教の意向】宣教の日
【日本の教会の意向】福音宣教への勇気

＊説明は2面に

1999・2000年教区内行事予定

＊小教区や地区で行事を計画する際に下記の予定と重ならないようにご留意ください＊＊＊＊＊

【1999年】　《御父の年》
1月　1日(金) 新年ミサ10時［カテドラル］
　12日(火) 司祭新年の集い［浄水通教会］11時ミサ
　18日(日)～25日(日) ｷﾘｽﾄ教一致祈祷週間
2月　2日(火) 司祭評議会10時30分［司教館別館］
　17日(水) 灰の水曜日
3月　2日(火) 松永司教霊名お祝い［浄水通教会］11時ミサ
　19日(金) 聖ヨセフ　松永司教霊名祝日
　30日(火) 聖香油ミサ11時［カテドラル］
4月－(上旬日曜日) 花岡山殉教祭ミサ［花岡山］
4月　4日(日)【復活祭】［カテドラル］10時ミサ
　11日(日) 司教座聖堂献堂記念（ミサ特別献金）
　13日(火) 司教座聖堂献堂記念日
5月－福岡地区キリスト教講座・聖書講座［7月中旬まで：カテドラル］
5月　2日(日) 召命祈願日
　9日(日) 世界広報の日／広報の集い 13時30分［カテドラル］
　16日(日) 人吉教会創立100周年記念式典
　23日(日) 聖霊降臨祭／合同堅信式［カテドラル］
　26日(水) 司祭候補者認可式［大神学院］
　30日(日) 三位一体の主日（大聖年準備特別典礼の日）
6月14日(月)～19日(金) 教区司祭黙想会［黙想の家］
　27日(日) 佐賀教会創立100周年記念式典と堅信式
8月　6日(金)～15日(日) 平和旬間
　8日(日) 平和を祈る集い［カテドラル］
　15日(日) 教区墓地ミサ14時［和田墓地］
　26日(木)～30日(月) 福岡聖書展［大丸デパート］
　27日(金) 福岡地区婦人会感謝ミサ 10時［カテドラル］
9月－福岡地区聖書講座［カテドラル］
9月　7日(火) 司祭評議会10時30分［司教館別館］
　15日(水) 福岡地区信徒協研修会
10月10日(日) むなかたTEN・TENまつり［黙想の家］
11月－聖書週間14日～21日［聖書特別講演会］
11月　1日(月) 諸聖人
　2日(火) 諸死者の日
　3日(水) 召命の集い［大神学院］
　16日(火)～18日(木) 西日本宣教司祭大会
　18日(木) 西日本宣教司祭大会ミサ［ｶﾃﾄﾞﾗﾙ］
　19日(金) 神学院祭［大神学院］
　23日(火) 北九州地区信徒協研修会
《大聖年》
11月28日(日) 待降節第1主日：聖ペトロ大聖堂（バチカン）の聖年の扉が開かれる
12月　5日(日) 宣教地司祭育成の日
【2000年】　《大聖年》
1月　1日(土) 新年ミサ10時［カテドラル］
　11日(火) 司祭新年の集い 11時ミサ［浄水通教会］
　18日(火)～25日(火) ｷﾘｽﾄ教一致祈祷週間
2月　1日(火) 司祭評議会10時30分［司教館別館］
3月　7日(火) 松永司教霊名お祝い 11時ミサ［浄水通教会］
　8日(水) 灰の水曜日
　19日(日) 聖ヨセフ　松永司教霊名祝日
4月－花岡山殉教祭
4月13日(木) 司教座聖堂献堂記念日
　23日(日)【復活祭】

＊98年9月現在の予定です。今後変更されることがあります。毎月の教区報を参照してください。＊＊

聖コロンバン会宣教50周年記念黙想会

イエスの慈しみは聖霊と共に

―あなたの慈しみは大きく、天に満ち、あなたのまことは大きく、雲を覆います（詩108・5）―

●講　師●Sr. ブリージ・マッケナ（聖クララ会）
　Fr. ケヴン・スカロン（聖ヴィンセンチオ会）
●日　時●1998年11月21日(土)～23日(月)
　8時30分(受付)～21時／23日は13時30分からの司教司式ミサにて終了
●会　場●カトリック健軍教会
●参加費●1日1,000円
●問合先●カトリックファミリーセンター
　［☎ 092-541-6207／FAX 522-5022］
●代表者●Fr. H. オカロール
●後　援●熊本地区信徒使徒職協議会

福岡教区　典礼研修会

ミサにおける信徒の奉仕

―歴史的考察の上に立って―

「典礼は教会の活動が目指す頂点であり、同時に教会のあらゆる力の流れ出る源泉（典礼憲章10）」です。特に、ミサはキリストご自身と教会の行為であり、教会を構成するわたしたち一人ひとりが、自分の役割を果たすことによって、行動的にキリストに奉仕することが望まれています。
このたびの研修会では、ミサにおける信徒の奉仕の意義を、歴史的な考察の上に立って学んでいきたいと思います。

●講　師●白浜 満 神父（福岡サン・スルピス大神学院）
●協力者●深堀 純 氏（同上）
●日　時●1998年11月8日(日) 13時～17時
●会　場●カテドラル大名町教会　大講堂
●内　容●講話（ミサはありません）。典礼聖歌集を持参のこと。
●参加費●1,000円、中・高生500円（当日受付にて）
●申込・問合先●教区事務局 青木悟 神父［FAX092-523-2152］
　（小教区、修道院でまとめて下記までお申込みください）
●申込締切●10月28日 必着
●主　催●福岡教区典礼委員会

新FAX番号
新田原教会
09302・3・6050
＊8月号の市外局番が間違っていました。

召命祈願ミサ

10月8日（木）19時45分、有志の会である《召命をともに祈る会》主催で、福岡教区に豊かな司祭、修道者の召命を求めて、福岡サン・スルピス大神学院で「召命祈願ミサ」が行われる。どなたでも参加できます。

みちくさ

十月の最後から二番目の日曜日は「世界宣教の日」と定められ、世界に神の福音が行き渡るように霊的、物的援助をすることが求められている。今年は十八日▼この日のために教皇は毎年メッセージを送る。大聖年準備の二年目である今年は、聖霊にささげられている年でもあり、福音宣教の働き手はまず聖霊であることを思い起こさせる。道くさ？　をして今年の教皇メッセージに目を留めてみたい▼おもしろいことに、教皇は「現代世界にはびこっている危機的な状況が聖霊の働きの第一の重要なしるしでもある」という。なぜなら、そのような状況が「結果として、聖霊に対する心からの願いを呼び起こし、キリストの福音へのあこがれを明らかにする」から、だという。「物への関心はたとえ正当なものであっても、人間関係を冷たく難しいものにしてしまうほどに人間を夢中にさせる危険があります。人々は心のゆとりを失い、攻撃的になってしまったために、ほほえんだり、あいさつしたり、感謝したり、他の人が抱えている問題に心を開いたりすることが難しくなっています。」▼この「不毛」の状態は教会共同体についても、まったく同じことがいえるのではないだろうか。メッセージ2番の教皇のことばをもう一度繰り返してみたい。「人々は心のゆとりを失い、攻撃的になってしまったために、ほほえんだり、あいさつしたり、感謝したり、他の人が抱えている問題に心を開いたりすることが難しくなっています。」▼この状態から脱皮することができるように聖霊の助けを祈りたい。ここから福音宣教が始まる。（Y）

「世界宣教の日」教皇メッセージ

悲観せず希望を
すべての事の中に聖霊は働く

1998年10月18日

「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる」（使徒言行録1・8）。

1　一九九八年の「世界宣教の日」に際し、聖霊についてふれないわけにはいきません。今年が二〇〇〇年の大聖年を迎える準備の二年目として聖霊にささげられているからです。確かに聖霊は、初代教会で顕著にみられたように、教会の諸国の民への宣教のすべての分野における主要な働き手なのです（『救い主の使命』21参照）。…（中略）

「世界宣教の日」は、聖霊の驚くべきわざにわたしたちの目を向けさせるきっかけとなります。そしてわたしたちの信仰は強められ、教会には聖霊の力に助けられて熱心な宣教者が再び生まれてくるでしょう。大聖年の第一の目的は、キリスト者としての信仰とあかしを強めることにあるのです。

2　聖霊は信じる者の心の中で、また歴史の出来事を通して働き続けているので、わたしたちは楽観的に希望をもって生きることができます。この機会にぜひ考えていただきたいことがあります。それは、逆説的に聞こえるかもしれませんが、現代世界にはびこっている危機的な状況が聖霊の働きの第一の重要なしるしでもあるということです。複雑な現象の、否定的としか思えない要素が、結果として生命の与え主である聖霊に対する心からの願いを呼び起こし、人間の心の中におられる救い主キリストの福音へのあこがれを明らかにしています。

この点については、第二バチカン公会議の『現代世界憲章』（4～10項）の的確な判断を再確認したいと思います。そこで述べられている新しい時代の危機は、この数十年間で深刻さを増してきました。…（中略）

結果ははっきりと表れています。至るところで批判されているとはいえ、消費至上主義の仕組みは今も世界を支配しています。物への関心はたとえ正当なものであっても、人間関係を冷たく難しいものにしてしまうほどに人間を夢中にさせる危険があります。人々は心のゆとりを失い、攻撃的になってしまったために、ほほえんだり、あいさつしたり、感謝したり、他の人が抱えている問題に心を開いたりすることが難しくなっています。高度に発達した社会では、問題が経済的・社会的・文化的に複雑に絡み合っているため、精神的な面でも人口統計の上でも「不毛」の状態に陥っているのです。

しかし、人々をしばしば絶望の淵に追い込むこのような状態こそ、「主であり、生命を与えるかた」に祈るよう強く駆り立てるものとなるのです。なぜなら、意味と希望を見いだせずには、人は生きることができないからです。

3　聖霊の現存を示す第二の重要なしるしは、人々の中に宗教的な感覚が再び目覚めてきていることです。この動きは、無神論的なイデオロギーや哲学、また人間の視界を地上の事物に限定する物質主義の仕組みが理論的にも実際的にも満足できないものであるということをはっきりと証明しています。…（中略）

このような宗教性の目覚めに合わせて、「イエスがご自分の生活において受肉させた福音の諸価値（平和、正義、兄弟愛、差し迫った生活に困っている人への配慮）が人々に受け入れられたこと」（『救い主の使命』3）を心に留めることが大切です。…（中略）…全世界が平和を望み、未開の地や人種的な差別がなくなるように願っています。民族と民族、文化と文化の間の出会い、互いの違いの受容、連帯や奉仕活動への参加、独裁政治の拒否、民主主義の強化、経済的分野におけるよりバランスの取れた国際的な公正さへの願いが高まっています。

これらすべてのことの中に神の摂理が働いています。すべての人がよりよく生きることができるように人類と歴史を導いているのです。ですから悲観することはありません。逆に、神への信仰はわたしたちを福音のメッセージからあふれ出てくる楽観主義へと駆り立てます。「今日の世界を眺めると、悲観主義に導くような多くの否定的要素にぶつかります。しかし、その感情は正しくありません。わたしたちは神を信じています。……神はキリスト教のためにすばらしい春を準備しておられます。そしてその最初のしるしはすでに見えています」（『救い主の使命』86）。

4　聖霊は教会の中に現存し、諸国の民への宣教に向けて教会を導いています。宣教の主要な働き手はわたしたちではなく聖霊ご自身です。そのことはわたしたちを慰め、平和、喜び、希望、勇気で満たします。宣教者にとって結果は重要ではありません。それは神にゆだねるべきものです。宣教者は力の限り働かなければなりませんが、深みにおいては神の働きにまかせなければなりません。そのうえ聖霊は、教会の宣教の今後の可能性を世界の果てにまで広げているのです。わたしたちは毎年迎える「世界宣教の日」にこのことを思い起こします。この日は、福音宣教の範囲を限定することではなく、それが人類全体に向けられていなければならないことを訴えているのです。

キリストの十字架から生まれた教会において今日もなお迫害や殉教があるということは、宣教への希望の力強いしるしとなっています。イエスの名のために命をささげる宣教者や信徒が連綿として続いています。迫害が新しいキリスト者を誕生させ、キリストとその福音に向けられる苦しみが神の国を広めるために欠かすことができないということも、近年の歴史から明らかです。目立たない日常の奉仕のうちに、宣教のため、また一人ひとりの宣教者のために祈りと苦しみをささげる数多くの人々への感謝も忘れることはできません。

5　さらに、若い諸教会の中には「力強さ」という聖霊の現存のもう一つのしるしが表れています。これらの若いキリスト教共同体は熱心な信仰を持ち、特に若い世代が確信をもって信仰を広めています。わたしたちの目の前に繰り広げられているこのような光景に慰めを感じます。新しい改宗者たち、そして求道者たちさえも聖霊の息吹から力を受け、熱心な信仰をもち、自分たちが置かれた状況の中で宣教者となっています。

……（中略）

6　世界の至るところに見られる使徒としての意識の盛り上がりは、カリスマの多様性におけるせん。カリスマは普遍教会を豊かにし、育てています。使徒パウロは、コリントの信徒への第一の手紙の中で、教会の広がりを助けるために分配されたカリスマ（霊的な賜物）について詳しく述べています（12～14章）。わたしたちは「聖霊の時」を生きており、いろいろな表現や、方法や形の多様性をもっと認めていかなくてはなりません。それらは教会の豊かさと活力を表すものです。したがって、若い教会共同体では宣教が重要です。そこでは聖霊の働きに応じて生活を有益な形で刷新することがすでに静かに進められています。第三の千年期は、世界宣教のための新たな呼びかけの時であり、同時にそれぞれの地方教会における福音のインカルチュレーションの時であることは疑いありません。

7　わたしは回勅『救い主の使命』で次のように述べました。「教会の歴史において、宣教にかかわる大きな動きがいつも活力のしるしであったように、教活動の減少は信仰の危機のしるしです。……宣教活動は教会自覚とを活性化し、新鮮な意気込みと新しい刺激を与えます（2項）。

そのため、わたしは、あらゆる悲観的な考えに対して、聖霊の働きを信じるようにと、もう一度宣言します。聖霊は信者を聖性へと招き、宣教に献身するよう呼びかけています。（中略）…信仰は他の人に伝えられるとき強められるのです（『救い主の使命』2参照）。宣教への献身が普遍的に広がることに価値があります。人は皆例外なく教会の宣教活動に惜しみなく協力するよう呼びかけられているからです。祈ることや苦しみをささげること、そしてもっとも根本的要素である生活によるあかしは、神の子どもであればだれにでもできることです。

最後に、生涯をささげる宣教者の召命の価値について考えたいと思います。教会がその本性から宣教するものであるとすれば、宣教に生涯たずさわる男女はその典型だといえます。そのため、教会で働くすべての人、とくに若い人々に、この機会を利用して今一度わたしの考えを述べようと思います。わたしは『救い主の使命』の中で、「使命はまだ始まったばかりである」（1項）と強調しました。ですからわたしたちは、今日も呼びかけておられるキリストの声に耳を傾けなければなりません。「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」（マタイ4・19参照）。恐れることはありません。あなたの心の扉を開き、キリストに向かって生きてください。神の国を告げ知らせる使命にあなた自身をゆだねてください。主ご自身が「遣わされた」かたで（ルカ4・43参照）、主は同じ使命をあらゆる時代の弟子たちに与えたからです。この上なく寛大なかたである神は、百倍の報いを与え、永遠の命を受け継がせてくださるでしょう（マタイ19・29参照）。

「諸国の民」のために働く人、またどのような職業についても自分の置かれた場において福音を告げ知らせることに協力するすべての人を、宣教精神の模範、宣教にたずさわる教会の母マリアにゆだねながら、使徒としての祝福を心をこめて送ります。

バチカンにて
ヨハネ・パウロ二世

典礼 あ・ら・か・る・と 13

聖書 ―神のことばのしるし―

神のことばである聖書の朗読は、典礼の中でとくに大切にされています。第二バチカン公会議の『典礼憲章』では、「聖書が教会で読まれるとき、キリスト自身が語る」（7条）、「典礼行事にとって、聖書はもっとも重要なものである」（24条）と述べられています。そして、朗読のときに用いられる聖書の本自体も、神のことばのシンボルとして典礼の中で用いられます。

典礼の歴史をふり返ると、典礼暦がしだいに整えられ、その日に朗読する聖書の箇所が定まるにつれて、朗読で用いる箇所を集めた抜粋集のようなものが2世紀ごろから編集され始めました。また、福音朗読は聖書朗読の頂点としてとくに大切にされ、朗読のための福音書が、美しい装飾をほどこして編集されるようになりました。現在のミサでは、朗読福音書を奉持して入堂し、福音朗読のときに献香すること

今月の意向（1面参照）

【一般】キリスト者が「みことばの種子」を探しながら「聖霊の働き」を認めるように

【布教】宣教の日が教会の世界宣教と霊的物的連帯の機会として激励され、また生かされるように

【日本の教会】日本の社会の中で、不安を感じながら真実を求めている多くの人々に、キリストへの信仰の喜びを勇気をもって分かち合うことができるように

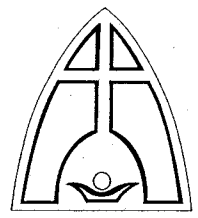
10月10日（土）　開場／午前10：00　講演会／午前10：30～　ミサ／午後2：00～
心をひらいて　むなかたTENTENまつり
17以上の、ボランティアやサークル活動グループによる出店をはじめ、まんぷくコーナーや本場クレープ（神父様の実演販売）他、ちびっこコーナーなどなど、盛りだくさん。
また、講演会はSr.渡辺和子様を講師にお迎えします。たくさんの方々のご来場をお待ち致します。
福岡黙想の家　〒811-4155　宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810-0044
福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ　土本政実
☎会社 092-761-5885　自宅 092-863-1289

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092－526－5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

シンボルマークとスローガン決まる

―創立五十周年の黒崎教会―



上村義幸氏作のシンボルマーク

今年創立五十周年を迎える黒崎教会（主任Ｌ・ベリオン神父）では十月十八日（日）に記念ミサを行い、聖家族の集いの名のもとに祝賀行事を行うことになった。記念ミサは、教会の将来を担う子ども中心のミサとなる予定である。

当教会ではこの記念行事が共同体の更なる発展のバネとなるよう、記念誌の編集や提案箱の設置など、この日のために、早くから信徒が一丸となって準備をすすめ、種々の計画を実施してきた。

信徒たちの関心をもっとも集めたのが、共同体が一つになって進むためのスローガンと黒崎教会のシンボルマークの募集だ。これは九月初めに決まった。スローガンは「伝えよう、広げよう、キリストのこころを」が選ばれ、二十六点の応募があったシンボルマークは、投票の結果、上村義幸氏の作品に決定した。

寄せられた多くの提案・意見のうち、巡礼などはすでに実施されたが、今後の課題として残されたものもある。

五十年の足跡をたどるうち、はからずも女優、萩尾みどりさんが黒崎教会出身であることが分かり、思い出を寄稿されるという思わぬ収穫もあった。

五十周年を機に、キリストの心を広げるために、大聖年に向けて新たな一歩をふみ出そうとしている。（取材協力　神塚一治）

子どもたちとともに 子どもたちのために

―福音の光修道会―

さる七月二十四日から八月二日まで、ＩＰＡアジア太平洋地域交流集会が日本で開催された。ＩＰＡ（子どもの遊ぶ権利のための国際協会）とはユネスコ・ユニセフの諮問団体で、世界的に子どもの遊びが消えていることを憂慮する人々の国際的集まりである。

福岡集会は「志賀島子ども金印ランド」の名称のもと、小学生を対象に七月二十四日から三日間、光丘幼稚園、志賀島を中心に行われた。「子どもの自立援助・資金なしでボランティアによる運営」という主旨に賛同して福音の光修道会・光丘幼稚園もこれに参加。九州大学院筑紫キャンパスの園田助教授実行委員長のもと、教師・学生・市民百二十人のボランティアによるイベントであった。



第一日は光丘幼稚園・春日原商店街・志賀島・家庭などで二百人の子どもたちが種々の労働を体験。二日目は全員志賀島に集合。子どもと大人が協力して、作る楽しさや遊ぶ・売る・観劇など、障害者施設の子どもたちを交えてお祭りを楽しんだ。最終日は、二日間で作った物をベイサイドプレイスに展示して朝市を開催した（＝写真）。

三日間子どもが主体となって交わり、活動し、ボランティアが労力・時間・資金を提供し、未来を背負う子どもたちのために、心を一つにして協力し合った、さわやかな夏のひと時であった。（取材協力　シスター佐藤倭文子）

シスターＭ・Ｔ　オシャナシー帰天



北九州の明治学園、戸畑・小倉の小教区で四十二年間宣教活動に尽くしたシスター・メリー・テレサ・オシャナシー（コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会）がさる八月十六日に帰天した。享年七十七歳。

シスター・オシャナシーは一九二一年五月七日、カナダはオンタリオ州に生まれ、十八歳で修道会に入り、一九四一年に初誓願。一九五六年八月十六日に三十五歳で来日、以後、明治学園、福島の桜の聖母学園で教鞭をとり、その後福島、戸畑で修道院長を務めた。

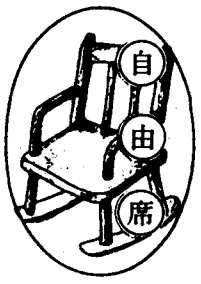
今年一月、手術のためカナダへ帰国。二月に手術後そのままカナダに留まるよう勧められたが、それを押し切って日本へ。しかし六月になって癌を再発したため入院、療養中であった。

シスターは人との出会いを大切にし、一人ひとりの名前をよく記憶し、いつも変わらぬ微笑みと優しさで、多くの人を洗礼へと導いた。

（取材協力　シスター松宮）

北九州シーグ（ＣＹＧ）30周年によせて

シスター杉本美佐子



今年の秋で、北九州シーグが三十歳を迎えると聞いて、たいへんうれしく、心からお祝い申しあげます。私は今、大阪に住んでいますが、二年前までは北九州の湯川の修道院に十年間いて、シーグの会委員もしておりました。三十年の三分の一はシーグに属していたことになります。

日本の教会では唯一の伝統ある北九州シーグの素晴らしい三十年のあゆみが次の輝かしい五十周年への橋渡しとなりますようにに。この三十年の間には神父様たちの理解と協力があり、両親やリーダーたちの祈りと援助、そしてたくさんの犠牲が捧げられていたと思います。

現在、子どもたちの数が少なくなっていますが、シーグの精神は代々に受け継がれていくと確信します。子どもたちは教会共同体の宝です。

ここではシーグの活動はありませんが、私にはシーグの精神が消えません。どこにいても、お互いにがんばりましょう。

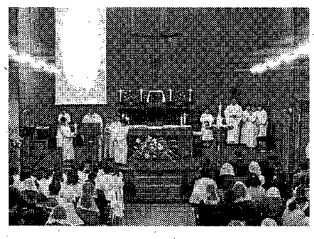
（天使の聖母宣教修道女会）

聖パウロ書院、改称して セントポールＦＵＫＵＯＫＡ

大名町教会の一角にある旧聖パウロ書院（聖パウロ女子修道会経営）が、新世紀に向かう宣教を目指して、内部改装と共に名称も新しくして、さる八月十五日にオープンした。

カトリック書籍を中心に、キリスト教関係の出版物、良書ほか視聴覚メディア、典礼用品など扱って、信者、一般の方々からも親しまれている。街の中心にあって多くの人々が心のオアシスとして利用し、神と人々とのかけ橋となっていくことが期待される。

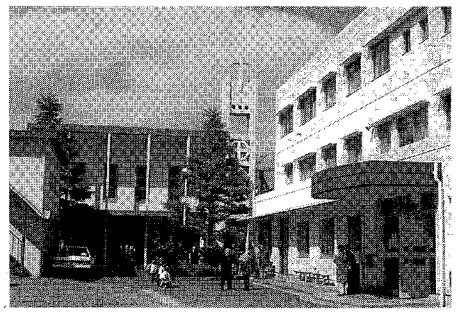
大聖年準備のための指定巡礼教会 4 小倉教会



徳川家康の時代、小倉にはすでに司祭一人、修道士二人がおり、信者も二千人を数えたという。一六〇六年にはもう一つの教会を建てた、と記念誌「歩み」にある。

だが、キリシタン禁令により、記録に残るだけでも四十四人の殉教者があった。一六一九年に斬首された小倉の重臣ディエゴ加賀山隼人もその一人である。

禁教令撤廃後の一八八七年、福岡で宣教を開始したＥ・ラゲ神父が、二年後に小倉に拠点をおき、教会復活後初の邦人司祭有安神父（平戸出身）が福音の種をまいて、現小倉教会の出発点となった。



一八九六年にＦ・フェラン神父が香春の現在地を購入、まず司祭館と伝道館を建てた。そして一九〇〇年、ついにＦ・ベルトラン神父により、小倉で初めての聖堂（日本家屋二階建）が誕生した。

この教会も古くなり狭くなったので、一九三四年に本格的な教会堂が建てられたが軍事工場に近く、目標になるとかで取り壊された。終戦の数日前のことである。

以来十数年、信者たちは米進駐軍の援助で建てられたバラックの仮聖堂で辛抱していたが、ＪＯＣや青年会など教会活動は盛んで、北九州全体の拠点に成長。数年にわたる資金集めが実り、一九五八年に現在の教会堂が落成した。

現代風のつくりで、一般のもつ教会のイメージとは異なるので、うっかりすると見すごしやすい。内部は二階席があり、柱もないので、広々とした感じを与えている。四～五百人は収容でき、小倉というより大倉の名がふさわしいかも。

データ　●信徒数／約二三〇〇人●ミサ時間／土曜日十九時、日曜日六時四十五分・九時（冬十時）●住所／小倉北区香春口１・３・１●☎０９３・９２１・００９３●司祭／ミカエル平田寛、ペトロ平田三好

場所　●ＪＲ小倉駅下車、モノレール香春口三萩野駅下車。徒歩5分。

聖マリア学院短期大学　-1999年度　学生募集-　**聖マリア学院医療福祉専門学校**

看護学科（看護婦・看護士養成３年課程）入学定員100名

選抜区分	試験期日	試験科目等
推薦選抜	11月25日	基礎学力調査（英語１程度）、小論文、面接
社会人選抜	11月25日	
試験選抜	2月16日	国語１、英語１、理科（生物1B又は化学1B）、面接

専攻科：地域看護学専攻（保健婦・保健士養成１年課程）入学定員40名
助産学専攻　（助産婦養成１年課程・女子のみ）入学定員20名

選抜区分	試験期日	試験科目等
推薦選抜	11月10日	小論文、面接（専門科目に関する口頭試問を含む）
社会人選抜	11月10日	
試験選抜	2月　2日	看護学一般、面接

介護福祉学科（介護福祉士養成２年課程）入学定員100名

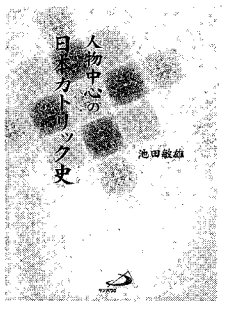
選抜区分		試験期日	試験科目等
学校推薦選抜		11月5日	小論文（テーマは募集要項に記載）、面接
自己推薦選抜 社会人選抜	1期	10月6日	面接（自己推薦書に基づく）
	2期	11月30日	
	3期	1月26日	
試験選抜	1期	2月25日	国語１又は数学１・Ａ（数と式）の選択
	2期	3月24日	

＊介護福祉学科においては、特待生制度等の奨学生制度を充実。
＊聖マリア病院、聖マリア介護支援センター等と協同した実践教育と充実した卒後教育を実施。
＊キャンパス見学随時

（お問い合わせ先）
〒830-8558　福岡県久留米市津福本町４２２番地
（西鉄大牟田線試験場前駅徒歩５分・聖マリア病院隣接）
聖マリア学院入試事務室 TEL：0942-35-7271 FAX：0942-34-9125

BOOK 読みは専科

★人物中心の日本カトリック史
池田敏雄著編



本書は約三十年前に発行された『人物による日本カトリック教会史』を新たに加筆・改訂した新版。歴史の流れにそって日本カトリックの柱石となった著名な、あるいはかくれた宣教師や伝道士、修道女、信徒たちの生涯をつづる。

キリシタン創立時代の聖フランシスコ・ザビエルに始まって、受難時代、キリシタン復活時代、明治の開拓時代、大正・昭和初期、軍国主義による苦難時代、戦後の布教時代と分け、教会現代化時代の志村辰弥神父までの八十名を、その時代背景とともに描いている。

サンパウロ　税別三二〇〇円

◇　◇　◇

★祈りの泉―365のことば―
ジーン・ヒントン編著
光原百合訳



祈りとは何であるか……祈っていると自覚することで、祈りは成長し、深まっていきます。この本は、多くのクリスチャンがみずからの霊的探求の旅の中で得た洞察をつづった言葉。月ごとにテーマが設けられているので、ゆっくりと思索をめぐらせながら心に強く響かせ、祈るにあたってどの方向に進んでよいかを確認させてくれる。月の初めにはテーマに関する導入文、あとは一日に一つ、短い言葉を載せている。

女子パウロ会　税別一五〇〇円

ジャパンスマイル㈱
株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
ＴＥＬ092－761－8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
ＴＥＬ092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材 { 石石他 / 理影の / 大御そ
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860-0006 熊本市段山本町2-21
TEL 096－352－2417

会合と催し

教区年間テーマ：キリスト者を活かす聖霊を信じます

10月　ロザリオの月

1日（木）幼いイエスの聖テレジア
2日（金）守護の天使
　聖書講座⑬［カテドラル19時］（～11月20日）■
3日（土）＋E.ラゲ［福岡司教館1929］
4日（日）アシジの聖フランシスコ
7日（水）ロザリオの聖母
8日（木）召命祈願ミサ（19時45分～大神学院）
10日（土）体育の日
　むなかたＴＥＮ・ＴＥＮまつり［福岡黙想の家］
11日（日）ディエゴ加賀山隼人列福祈願ミサ　■
　（小倉教会14時～）／福者十字架のベネディクタ修道女（エディットシュタイン）殉教者として列聖
12日（月）教区司祭黙想会（フランス・アルス～23日）
15日（木）聖テレジアおとめ教会博士
17日（土）聖イグナチオ（アンチオケ）
　＋J.グリーン［玉名教会1994］■
18日（日）聖ルカ福音記者／世界宣教の日《献金》
　黒崎教会創立50周年・聖家族の集い
19日（月）十字架の聖パウロ
23日（金）＋J.P.ドラビ［黒崎教会1967］
25日（日）茶山教会バザー
27日（火）＋J.ベルトラン［門司港教会1987］
28日（水）聖シモン・聖ユダ使徒
31日（土）＋ヨセフ糸永一［今村教会1992］

■印は本面に詳細説明あり

11月　死者の月

1日（日）諸聖人／茶山教会創立記念日
　教区和田墓地ミサ（14時～）
2日（月）死者の日
　＋S.アクワビバ［1984］
3日（火）文化の日／召命の集い（大神学院）■
　＋F.ボア［援助修道会黒崎修道院1977］
4日（水）聖カロロ・ボロメオ司教
　教皇ヨハネ・パウロ２世霊名祝日
6日（金）聖書講座⑱［カテドラル19時］（～11月20日）■
8日（日）大楠教会バザー／教区典礼研修会　■
9日（月）ラテラン教会の献堂
11日（水）聖マルチノ司教
12日（木）聖ヨサファト
15日（日）聖書週間（～22日）
　伊万里教会堅信式
19日（木）大神学院祭
21日（土）聖マリアの奉献
　聖霊刷新黙想会（健軍教会～23日）■
22日（日）王であるキリスト
　新田原教会堅信式
　聖セシリアおとめ殉教者
　＋P.ポール［1996］
23日（月）勤労感謝の日／北九州地区信徒協研修会
　＋B.シュルツ［吉塚教会1996］
27日（金）＋S.ズワノニ［唐津教会1962］
30日（月）聖アンデレ使徒

福岡

■聖テレーズの著作を読む会［日時］毎月第4日曜日14時～15時30分［場所］カルメル会修道院（福岡市西区上ノ原）［問合先］カルメル会修道院☎092・807・7361［世話人］城島暁（浄水通教会所属）。尚、同日13時～13時50分キリスト教入門講座があります。

■聖書講座［後期］テサロニケの信徒への手紙Ⅰ・Ⅱ［日時］毎週金曜日19時～21時（全10回）。11月20日まで［場所］カテドラル大名町教会［テーマ・講師］⑬10月2日・パウロのテサロニケでの宣教・青木悟神父⑭9日・再訪の願いとテモテの派遣・高見三明神父⑮16日・神に喜ばれる生活、主は来られる・高見神父⑯23日・主の再臨への備え、結びの言葉・櫻井尚明神父⑰30日・テサロニケの信徒への手紙Ⅱの著者、年代、場所、構成と教義・牧山勝美神父⑱11月6日・キリストの再臨と裁き・中浜一男神父⑲13日・不法の者への警告、救われた者の生活・牧山勝美神父⑳20日・けじめのない生活を戒める、結び・森山信三神父［受講料］一講座800円［主催］福岡教区聖書委員会［申込・問合先］カトリック福岡司教館☎092・522・5139（16時まで深堀）FAX523・2152（24時間）

■第20回聖歌研修会［日時］10月4日（日）13時～15時30分［場所］カトリック光丘教会［聖歌指導］深堀純氏（大名町教会信徒）［問合先］有馬浩☎092・661・2673

■カテキスタの集い［日時］10月4日（日）13時30分～15時30分［場所］福岡カトリック神学院［講師］山元眞神父（同神学院院長）［テーマ］信仰の伝達（家庭で・教会で）［会費］500円＊教会学校に関する資料をお持ちくだされば幸いです［問合先］福岡カトリック神学院☎092・531・6821 FAX524・7373

■第12回福岡パストラルケア研究会［日時］10月4日14時～16時［場所］福岡サン・スルピス大神学院新館ホール［内容］講話「ホスピス・ケアのめざすものーその人らしい生の完成を願ってー」［講師］井田栄一氏（熊本・みこころホスピス医師）［参加費］七〇〇円［問合先］事務局（シスター箕浦☎092・871・4943大神学院）

■第13回［日時］11月8日（日）14時～16時［内容］講話「介護がいやになった時、勇気を取り戻すコツ」［講師］井上重子氏（福岡看護専門学校）［参加費］無料［問合先］同右

■聖書深読黙想会［日時］10月16日（金）14時～17日（土）13時［場所］カトリック福岡黙想の家［指導］奥村一郎神父（カルメル会）［対象］一般信徒［参加費］7000円［申込・問合先］佐野☎045・321・0500（10月14日までに）

■福岡生と老い・死をみつめる会［日時］10月25日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会4階会議室［内容］講話「病からの贈り物」と語り合い・死別体験者の語り合い［講師］小林朝子氏（「生と老い死をみつめる会」会員）［会費］500円［問合先］事務局（大山美穂子☎092・713・8523）

■典礼研修会［日時］11月8日（日）13時～17時［場所］カテドラル大名町教会　＊詳細は1面参照

■ヤングママの黙想会［日時］11月9日（月）10時～15時［場所］司教館［テーマ］日常における聖霊の働き［指導］森山信三神父（大牟田教会主任）［内容］講話・ミサ・ゆるしの秘跡（希望者）［会費］1000円（昼食代含む）★ベビーシッターが付きます［主催］福岡地区婦人会［問合先］白石英子☎092・581・8197

■黙想会［日時］11月21日（土）17時～23日（月）昼食［場所］聖母訪問会・福岡修道院［テーマ］神のいつくしみにふれて…私は！［指導］白浜満神父（福岡サン・スルピス大神学院）［対象］青年女子信徒［参加費］3500円［申込・問合先］シスター大野☎092・741・4250

■ホスピスの会 第四回会合［日時］11月14日（土）14時～16時［場所］福岡サン・スルピス大神学院新館ホール［内容］講話「ホスピス・ケアのめざすものーその人らしい生の完成を願ってー」［講師］井田栄一氏（熊本・みこころホスピス医師）［参加費］七〇〇円［問合先］事務局（シスター箕浦☎092・871・4943大神学院）

■第13回［日時］11月8日（日）14時～16時［内容］講話「介護がいやになった時、勇気を取り戻すコツ」［講師］井上重子氏（福岡看護専門学校）［参加費］無料［問合先］同右

■聖書深読黙想会［日時］10月16日（金）14時～17日（土）13時［場所］カトリック福岡黙想の家［指導］奥村一郎神父（カルメル会）［対象］一般信徒［参加費］7000円［申込・問合先］佐野☎045・321・0500（10月14日までに）

■福岡生と老い・死をみつめる会［日時］10月25日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会4階会議室［内容］講話「病からの贈り物」と語り合い・死別体験者の語り合い［講師］小林朝子氏（「生と老い死をみつめる会」会員）［会費］500円［問合先］事務局（大山美穂子☎092・713・8523）

■典礼研修会［日時］11月8日（日）13時～17時［場所］カテドラル大名町教会　＊詳細は1面参照

■ヤングママの黙想会［日時］11月9日（月）10時～15時［場所］司教館［テーマ］日常における聖霊の働き［指導］森山信三神父（大牟田教会主任）［内容］講話・ミサ・ゆるしの秘跡（希望者）［会費］1000円（昼食代含む）★ベビーシッターが付きます［主催］福岡地区婦人会［問合先］白石英子☎092・581・8197

■黙想会［日時］11月21日（土）17時～23日（月）昼食［場所］聖母訪問会・福岡修道院［テーマ］神のいつくしみにふれて…私は！［指導］白浜満神父（福岡サン・スルピス大神学院）［対象］青年女子信徒［参加費］3500円［申込・問合先］シスター大野☎092・741・4250

■ホスピスの会 第四回会合［日時］11月22日（日）13時30分～［問合先］事務局／〒815・0034福岡市南区南大橋1・8・29小林計子☎FAX092・512・8723★昼間（9時30分～17時）092・83・2294

■第74回福岡結婚準備セミナー［日時］11月26日（木）～12月19日（土）毎木曜・土曜日19時～21時30分［場所］カテドラル大名町教会［申込・問合先］カトリックファミリーセンター☎092・541・6207 FAX541・6022

北九州

■ディエゴ加賀山隼人「列福祈願ミサ」［日時］10月11日（日）14時～［場所］カテドラル［司式］松永久次郎司教［主催］ディエゴ加賀山隼人顕彰奉仕会［問合先］カトリック小倉教会☎093・921・0093

■第12回お母さんの集い［日時］10月19日（月）10時30分～13時［場所］カトリック小倉教会聖堂［テーマ］暗いと不平を言うよりもすすんであかりをつけましょう［講師］G・マクドナル神父（心のともしび運動本部）［内容］講話とミサ［参加費］500円［問合先］福吉三代子☎093・962・1395

■北九州CYG30周年記念の集い［日時］10月25日（日）14時～16時［場所］カトリック黒崎教会［内容］みことばの祭儀、親子、O・Gの交わり［問合先］黒崎教会☎093・621・3672

■北九州地区信徒協研修会［日時］11月23日（月）13時～［場所］カトリック新田原教会テレジア館［テーマ］宣教師の目から見た北九州の信徒達［内容］講演・パネルディスカッション［講師］L・ベリオン神父（黒崎教会主任）［主催］北九州地区信徒使徒職協議会

佐賀

■第6回聖書を読む会［日時］10月1日10時～11時30分・19時30分～21時（毎月初木曜日）から99年3月初木曜日まで［場所］カトリック佐賀教会（信徒会館）［テーマ］希望に生きる［講師］A・アレグリーノ神父［テキスト］聖書（旧約・新約）［対象］どなたでも［受講料］無料［申込・問合先］佐賀教会内「聖書を読む会」☎0952・23・4754

熊本

■第11回熊本短期キリスト教講座　生きがいをさがそう！［日時］9月18日10時30分～12時30分・19時～21時（毎週金曜日・全7回）から11月1日まで（14時～16時のみ）［場所］カトリック手取教会［テーマ・講師］③10月2日・生命にとって大切なこと～心と身体の健康、さらに生命のいやしについて・倉元涼子＝精神科医（熊本瀧田病院）④9日・福音による勇気～カトリックの信仰と日本社会の危機・来住英俊神父＝御受難会司祭（福岡黙想の家）⑤16日・キレル若者の心に触れよう～キレル若者に福音の光を・岡宏神父＝浦和教区司祭（前橋教会）⑥23日・神様の摂理・佐藤哲夫神父＝長崎教区司祭（三ツ山教会）⑦11月1日・神の恵み～出産を通して・長岡孝子＝カトリック信徒（長崎・本原教会）／パーティー［受講料］全講座一〇〇〇円［申込・問合先］熊本カトリック案内所☎096・322・7948［主催］熊本短期キリスト教講座実行委員会

■J・グリーン神父命日祭（追悼ミサ）［日時］10月10日（土）18時～［場所］カトリック玉名教会墓地＊雨天時は教会にて［問合先］カトリック玉名教会☎0968・72・3269

■聖コロンバン会宣教50周年記念黙想会［日時］11月21日（土）～23日（月）［場所］健軍教会＊詳細は1面参照

編集後記

食べる、学ぶ、遊ぶ、祈る（順不同）。何をするにもよい季節。あっ！「仕事」を忘れてた！「祈り、かつ、働け」は厳律シトー会（トラピスト）のモットー。今秋のスローガンに。

◇3日（土）～4日（日）　福岡正義と平和協議会
◇7日（水）～9日（金）　イエズス会四校合同職員研修会
◇10日（土）むなかたTEN TENまつり
◇16日（金）～17日（土）聖書深読会（奥村神父）
◇18日（日）～24日（土）サレジオ会黙想

福岡黙想の家　10月

［問合先］黙想の家　☎0940・32・3222　FAX32・3385

黙想の家のホームページを御利用ください
◎ホームページ　http://w32.mtci.or.jp/~daneox
◎e-mail　Mail to daneox@mtci.or.jp

生命山カトリック別院

生命山では、皆様のために、美しい自然の中で、神との語らいの日々を過ごしていただきたく、黙想会を計画いたしました。ご参加ください。

■祈りの集い
日時：⑧10月8日（木）
　　⑨11月12日（木）
　　9時45分～15時

テーマ：詩編で祈る（全10回）
指導：フランコ神父
★最終回は12月10日（木）です。
■黙想会
日時：11月14日（土）15時
　　～15日（日）15時
テーマ：座禅と聖体礼拝
＊個人、又はグループでの黙想等、常時受け付けています。
［問合先］生命山カトリック別院　☎0968・85・3100

召命の集い'98

［テーマ］「イエス様がひろがる」
［日時］11月3日（火）文化の日 9時30分～15時30分［雨天決行］
［場所］福岡サン・スルピス大神学院
［内容］召命祈願ミサ・観劇・ミニ運動会・工作・講演会他
　★作品募集中★10月10日必着
［問合先］召命の集い実行委員会　☎092・864・4203
　＊くわしくは教会配布のご案内を参照してください

ホームページを御利用ください
◎臨床パストラルケア教育研修センター
　http://www2s.biglobe.ne.jp/~PASTORAL/
◎Fr. W・キッペス　http://www.hf.rim.or.jp/~w-kippes/

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者 ペトロ 平田 清

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所 大石真澄
☎092-552-8195 Ⓕ092-541-7734

FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長 藤木鐵三　福岡支店長 長山和博

カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月の意向

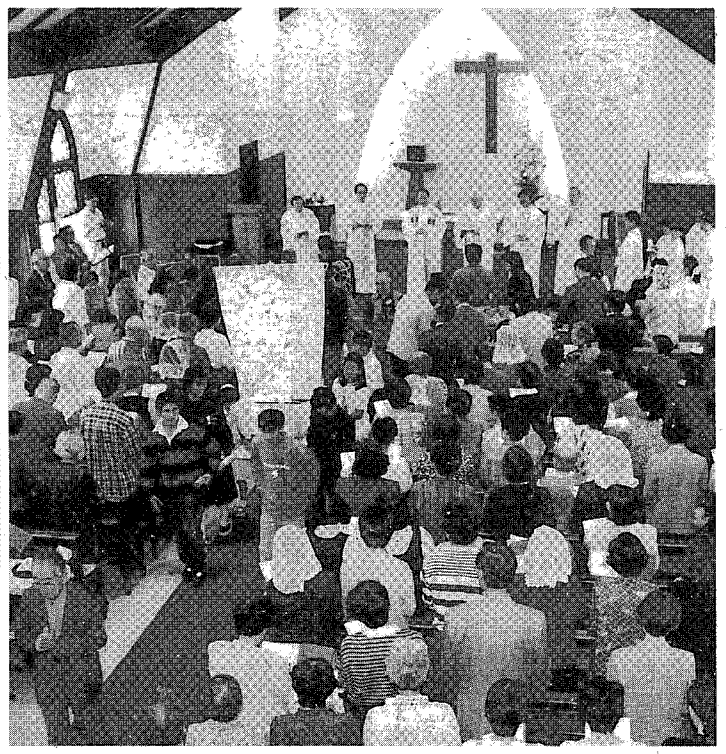
教皇様の意向のために祈りましょう
【一般の意向】薬物依存による犠牲者
【布教の意向】霊の真の賜物
【日本の教会の意向】エイズ／HIVに感染した人への理解
＊説明は2面に

新たな船出

創立50周年の喜び

北九州地区・黒崎教会

十月十八日の世界宣教の日、北九州市の黒崎教会（主任＝ベリオン・イイ神父）では小教区創立五十周年の記念ミサとお祝いが行われた。記念ミサの中では八人の幼児の洗礼式も行われ、新たな船出を祝った。


「聖家族丸50」はミサ後、若い世代に引き継がれ新たな船出をした

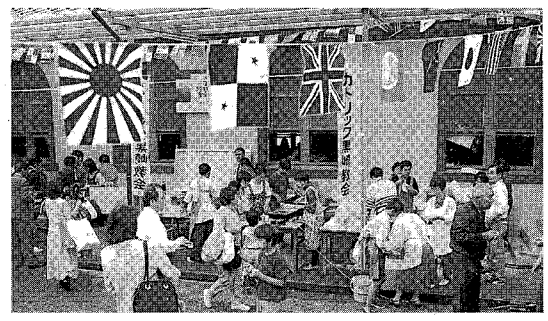
台風十号の影響を受け、悪天候の中で記念式典は始まった。五十周年記念の感謝のミサは、小教区出身の浦俊雄神父（湯川教会主任）と太田実神父（名古屋教区事務局長）をはじめ、以前同小教区で司牧をしたことのある、デ・モンジュール・アントワーヌ神父（パリ外国宣教会）、山元眞神父（福岡カトリック神学院）、黒崎教会のベリオン・ルイ神父とバスティ・クロード神父の共同司式で行われた。聖堂内は信徒、小教区出身の修道者、他県に転出した信徒、近郊の教会から祝いにかけつけた信徒、隣組の人たちを含め、五百人以上の人たちでいっぱいになった。


主任司祭を中心に共同司式が行われた

黒崎教会の誕生以来、五十年の信仰の歩みを表わす、三つの帆をいっぱいに広げた舟「聖家族丸50」が三世代の信徒によって引き継がれ、祭壇へと運ばれ記念ミサが始まった。

創立五十周年記念にふさわしい雰囲気のうちに、美しい聖歌と祈りが続くなか、八人の幼児が洗礼の恵みを受けた。ミサの終わりには、これから二十一世紀に向かって荒波を乗り越えてキリストへの信仰の道を進んで行こうと、心もあらたに小学生、中学生の信徒が舟を担ぎながら退堂。次いで祝賀会に移った。

祝賀会は広場を使う予定であったが、折からの悪天候のため、急きょ聖堂に場所が変更され、トロンボーンのファンファーレを合図に、力強い開会宣言と乾杯で始められた。出身司祭と来賓の神父、シスターの紹介とあいさつがあり、懐かしい人との出会いを楽しみながら話し合いもはずみ、家族的な雰囲気のうちに、トロンボーンの友情出演もあり、いちだんと盛り上がりをみせた。雨があがったあと、広場では創立五十周年記念の樹（ブルーアイス）の祝別記念植樹が行われた。


ミサ後には雨もあがり教会の庭でお祝いができた


記念植樹をするベリオン、バスティ両神父

黒崎教会では、昨年から「つたえよう・広げよう・キリストのこころを」のスローガンのもと、50周年記念式典の準備に入り、信者一人ひとりが聖霊の助けを祈りながら力を合わせ、さまざまな形で積極的に協力し合ってきた。主任司祭のベリオン・ルイ神父は、10回目の「聖家族の集い」を台風10号と共に迎え、嵐の船出となった。これまでの五十年も嵐がたびたびあったし、これからもあるだろう。悪天候に悩まされ、準備する責任を重く背負い、あるいは協力した大勢の皆さんにとって誇りの日として記憶されるでしょう、と語った。（取材協力　信徒会長　古川武治）

アルスで黙想・無事帰国



十月十二日からフランスのアルスで黙想をしていた松永久次郎司教をはじめとする教区司祭団が十月二十三日に無事帰国した。参加者は十七人で、長崎、大分教区からの参加者もいた。海外で黙想会をしたのは初めて。詳細は次号に掲載する。

時の話題

ナイス（福音宣教推進全国会議）を憶えていますか

冨田　敦夫

現実の社会から遊離し、信仰と生活がかけ離れたものになっている教会の刷新をめざした第二バチカン公会議の精神に基づき、日本の教会が福音宣教の使命を遂行するため、ナイスⅠ（一九八七年京都）、ナイスⅡ（一九九三年長崎）が開かれました。私もナイスⅡに福岡教区から参加させていただいた一人です。

あれから五年、ナイスはいったい何だったのか、ナイス以前と何も変わっていないのではないか、もしそうだとすれば、全国から会議に参加した人々と、支えて下さった多くの方々の祈りと犠牲は何のためだったのか、自分自身に問いかけることもありました。

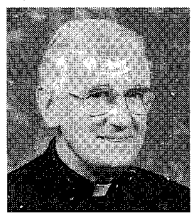
ところが最近出された大阪教区の「新生の明日を求めて、パートⅡ」を読んで気づかされました。その中で池長大司教様はこう勧めておられます。「―ナイスは日本の教会の信徒、修道者、司祭がどれほど自分たちの運動として参加し、そこから指針を生みだしたかを改めて思い浮かべてみましょう。―この草の根から生まれた指針を実現するため―、ナイスで立ち上がった時と同じように、ここでナイスを具体化するために、―再び全員で立ち上がりましょう。」と。

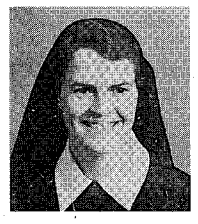
私はいつの間にか誰かが教会を刷新してくれるのを待つようになっていたのです。私たちは天を見上げて待つのではなく、一人ひとりが聖霊の息吹に応えて自らを開かなければ、深いところで芽吹こうとしている日本の教会の刷新の種子は封じ込まれてしまうでしょう。大聖年に向かう今、勇気と希望をもって共に立ち上がりたいものです。（天神町教会）

聖コロンバン会宣教５０周年記念黙想会

イエスの慈しみは聖霊と共に

―あなたの慈しみは大きく、天に満ち、あなたのまことは大きく、雲を覆います（詩108・5）―


ケヴン・スカロン神父


シスター・B・マッケナ

●講　師●Sr. ブリージ・マッケナ（聖クララ会）
Fr. ケヴン・スカロン（聖ヴィンセンチオ会）
●日　時●1998年11月21日（土）～23日（月）
8時30分（受付）～21時／23日は13時30分からの司教司式ミサにて終了
●会　場●カトリック健軍教会
●参加費●１日１,０００円
●問合先●カトリックファミリーセンター
［☎092-541-6207／FAX 522-5022］
●代表者●Fr. H. オカロール
●後　援●熊本地区信徒使徒職協議会

西日本宣教司祭大会

アンケートなど　準備着々と

来年十一月中旬に開催される西日本宣教司祭大会の詳細がこのほど決まり、趣意書と概要などが西日本六教区に大会実行委（委員長・橋本勲神父＝長崎）より配付された。

同大会は、日本における福音宣教の現状を真摯に見つめ、21世紀に向けて新しい福音宣教の手がかりを探り、新たな出発の契機となることを願って開かれるものである。この大会を少しでも実りあるものとするため、六教区の全司祭、修道者・信徒（各小教区三人）にアンケートが同時に送られた。質問事項は①典礼と宣教②説教と宣教③組織と宣教④青少年と宣教に分かれ、合計七十七の質問がある。これは司祭たちがある程度共通の意識をもって大会に臨むためであり、また分科会のテーマづくりの資料ともなる。

同大会の概要は次のとおり。

対象＝西日本六教区（広島・福岡・大分・長崎・鹿児島・那覇）の全司祭。日時＝一九九九年十一月十六日から十八日。会場と宿泊＝アークホテル博多ロイヤル（福岡市中央区）。ミサは大名町教会で行われる。

みちくさ

聖書週間がめぐってきた。来年は福岡で聖書展が開かれるという。楽しみなことである。各教区報を見ると聖書講座や深読黙想会など、勉強会があちこちで行われている。バチカン公会議の動きの一つであろう。そのためか、箴言をカンゲン、申命記をモウメイキと読む人を見かけなくなった。進歩である▼恥ずかしながら筆者、この種の集いに出たことがなく、新共同訳聖書が発刊されて以来いまだに読み通していない。怠け者なのである。かくてはならじと読み始めたら「とんでもございません」という表現（創44・7）にぶつかって、思わず「ウッソー」▼「とんでもない」は「勿体ない、おぼつかない、如才ない」などと同じく、それ自体一語化していて語尾変化しない。「勿体ございません」とは言わない。ていねいに言いたければ「とんでもないことでございます」となる、と教わった。「道草を食う」も同様で、たとえ良家の子女であろうと、道草をお食べになったり、召しあがったりはしないのである▼使徒言行録10・14では、ペトロが神に「とんでもないことです」と答えている。これが正しい。発行元に問い合わせる前、念のために調べてみたら、筆者の聖書は初版本で、新版ではちゃんと「とんでもないことです」と改められている。安堵の胸をなでおろした▼聖書にもこういう訂正はある。「らい病」も次の新版では「重い皮膚病」と改められるはずである。こうして聖書は完成されてゆく。ただし訂正されたからといって、その度に買いかえる余裕のないのが悩みでもある。（H）

弁論大会で受賞！

労働者では初めてのルイス・ジェンさん

財団法人「福岡ＹＭＣＡ」と財団法人「福岡国際交流協会」主催による第十六回「九州在住外国人による日本語弁論大会」がさる九月十九日、未永文化センターホール（福岡市城南区）で行われ、ジェン・ウジェキ・ルイス・サルバドルさん（ペルー、在柏屋郡志免町）が、みごと提言賞（積極的な提言者に与えられる）を受賞した。

全応募者十五カ国二十七人の中から第一次審査で九カ国十二人が合格、ルイスさんは「私の見た日本」と題し、現代の学生たちへ少々きびしい提言を行った。

ルイスさんは四年前に来日、コンクリート会社に勤務しながら日本語を身につけた。この種の弁論大会に出場するのは学生や研究者、国際交流員たちがふつうで、単純労働者の出場はルイスさんが初めて、という。

ルイスさんはまた、チャスキー（飛脚の意）というグループの会長を務めている。このグループはエルニーニョによる大水害で困っているペルーの人たちに、古着や支援金を送っている。


賞状を手に喜びのルイスさん

私が見た日本

はじめまして。私はルイス・ジェンと申します。ペルーから日本に来て四年になります。今は福岡に住み、コンクリートやブロックを作る会社で働いています。日本に来てから、いろんなしゅうかんや考え方の違いにとまどい驚いています。

たとえば、日本人と待ち合わせをした時には必ず約束した時間を守らなければいけないとか、たとえ自分の家の中であっても夜遅くまで騒いではいけないとか、食事の時に出されたご飯を残してはいけないとか、学校から家に帰って来てすぐ、じゅくに行く子供たちが多いことなどです。

でも、私が日本に住んでいて一番驚いたのは、日本の若者たちが学校に行かなくてアルバイトをしているという事です。今日はこのことについて私の考えをお話ししたいと思います。そのことの前に私の母国ペルーの話を聞いて下さい。

ペルーという国は貧しい国で、仕事がなくてお金もない家の子供たちは学校に行けません。だから、ほとんどの小学生たちは自分で働きながら学校に行っています。

たとえば、朝八時から十二時まで学校で勉強し、午後から仕事に行く子供たちや、その反対に朝仕事をし、午後一時から五時まで勉強する子供たちが普通です。

ペルーでは、子供たちはいろいろな仕事をしています。たとえば、パン屋さんでパンを売ったりするとか、ガソリンスタンドでおかしを売ったりするとか、一番多いのはいろいろな所でくつみがきをする仕事です。このようにペルーでは子供のときから家族のために働くのは当たり前のことなのです。

私も七才の時から働きながら学校に行きました。私の小さい時の生活は、夜中の三時から朝の六時半までパン屋さんで働き、家に帰って朝ご飯を食べます。それから午前中に学校に行き、午後からサッカーをしたり、友だちのところでアルバイトをしていました。

しかし、私はまだいいほうです。アマゾンやジャングルの子供たちは学校に行きたくても学校さえありません。だから、小さい時から、「もし、お金があったらもっとたくさんの子供たちが勉強が出来るのになあ」と私はいつも思っていました。

このようにペルーで育った私が日本にさいしょに来てうらやましく思ったのは、明日の生活のことを心配しなくてもいい子供たちや青年たちのぜいたくな生活でした。

でも、日本で生活をし始めてから、そのような考え方は少しずつ変わってきました。

なぜ変わったかというと、日本の若者たちの生活ぶりを知ったからです。

全員ではありませんが、とくに日本の大学生たちが、勉強をしなければいけないのに、アルバイトをしていることです。なぜじゅぎょうをさぼってアルバイトをするのでしょうか。なぜ勉強しないのに大学生なのでしょうか。なんのためにお金が必要なのでしょうか。私にはなかなかりかいしにくいところです。

なぜなら、私の国ペルーでは、ほとんどの大学生が、学費と生活費をかせぐために働きながら勉強をしているからです。なかには、きょうだいの学費や家族の生活費までもかせいでいる人もいます。

しかし、私が見ている日本の大学生たちはとてもこうきゅうな車に乗ったり、かみのけをきんぱつにしたり、夜おそくまでディスコで遊んだり、飲み歩いたりしています。

私がイメージする大学生とは、本人が大学生だという強い自覚をもって学生生活を送っている人たちです。ざんねんながら、私が見た日本の大学生たちはそのようないしきをもっている人たちはすくないみたいです。

このような、私からみればぜいたくで問題が無い日本の大学生のすごしかたを見て、一言申し上げたいのです。

学校に行きたくても行けない貧しい国の子供たちや、世界中のひんこんやききんなどの世界のげんじつにもっと目を向けてほしいのです。そして、どのようにして、今のりっぱな日本が出来たかということや、勉強が出来る学校がたくさんあること、学校に行かせてくれている、ごりょうしんのことにもっとかんしんをもち、かんしゃしてほしいのです。

さいごに、ひんこんとたたかう人、平和をきずく人になってほしいと思っています。そうなっていただくよう、私はきたいしています。

どうも、私のスピーチをさいごまで聞いて下さいまして、まことにありがとうございました。

典礼 あ・ら・か・る・と 14

ミサの基本構造

ミサの基本的な構造についてみておきましょう。

ミサ全体は、「ことばの典礼」と「感謝の典礼」を中心に構成されています。ことばの典礼では、聖書朗読によって神のことばが告げられ、答唱詩編や説教などをとおしてそれを味わいます。そして続く感謝の典礼では、奉献文の中でキリストの最後の晩さんの出来事が記念された後、一同はキリストの一つのからだを分け合い、互いの一致を深めます。ミサはこのような二つの部分を中心に成り立っていますが、二世紀半ばの聖ユスチノによれば、当時のキリスト者が行っていた主日の集会も、すでに同じような構造をもっていたことが伝えられています。

かつては、ことばの典礼は「ミサ前の部」あるいは「ミサの準備の部」に含まれると考えられたことがありました。そのため、大切なのは後半の感謝の典礼の部分で、ことばの典礼はその前の準備という印象を与えたこともあったようです。しかし、第二バチカン公会議の典礼の刷新により、ことばの典礼と感謝の典礼は「相互に固く結ばれて一つの典礼行為を成している」（『典礼憲章』56）とされ、この両者によって「神のことばとキリストのからだの食卓が用意され、信者はそこで教えられ、また養われる」（『ローマ・ミサ典礼書の総則』8）と述べられています。このように、ことばの典礼は、感謝の典礼とともにミサを構成する重要な要素であり、単なる準備や導入の部分ではないことが明らかにされています。

また、ミサ全体の準備と導入のためにはことばの典礼の前に「開祭」が置かれ、一同はミサに参加する心を整えます。そして、感謝の典礼の後には、結びとして「閉祭」が行われ、一人ひとりが生活の中で宣教の使命を果たすことができるよう祝福を受け、力強く派遣されるのです。（カトリック中央協議会『毎日のミサ』一九九七年五月号第一頁）

今年も盛況　むなかたＴＥＮＴＥＮまつり

毎年十月十日に福岡黙想の家で開かれている祭り、「ＴＥＮＴＥＮまつり」が今年も行われた。十七以上のボランティアやサークル活動のグループが出店。近隣の市民も参加してにぎわった。シスター渡辺和子の講演もあり好評の内に終了。締めくくりはルルドの前でのミサ（＝写真）。



社会復帰に向かってスタート！

薬物依存症者のための共同作業所《ビッグママ》開所

日本祈祷の使徒会は、毎月、教皇の意向に従って祈ることを勧めており、本紙でも毎月、祈りの意向を紹介している。

今月の祈りの一般の意向は「薬物の犠牲者と、彼らの人間性回復と社会復帰を目指して取り組んでいる人々のために」。

現在、シンナーをはじめとする覚せい剤などの薬物使用が低年齢化しており、大きな社会問題となっているのは周知の事実である。

福岡教区では、四年前から美野島司牧センター内にＤＡＲＣ（ダルク＝薬物依存回復施設）が設けられており、教会内でも支援の輪が徐々に広がっている。しかし、依存症者の社会復帰は非常に困難であり、復帰を準備する共同作業所の設置が望まれていた。

この度、博多保健所の指導のもとに、地元（博多区美野島地区）の人々の理解と協力によって、十一月一日付けで精神障害者小規模共同作業所《ビッグママ》が司牧センター内に開所した。この作業所では九州ダルクや専門の病院に通院している在宅者が、社会参加を目指して訓練に励むことになる。

作業の内容はコンピューターと印刷機による名刺やパンフレットの作成、販売、草取りなどの軽労働や運搬などが計画されている。すでに福岡カルメル会の協力により、クッキーの運搬などの仕事を始めた。

祈りと物的援助による信者の協力が求められる。

モニカ塩谷恵美様

イエズス会福岡修道院院長の塩谷恵策神父の母堂。十月十四日に逗子市で帰天。享年85歳。

召命祈願ミサ

12月３日(木)19時45分、有志の会である《召命をともに祈る会》主催で、福岡教区に豊かな司祭、修道者の召命を求めて、福岡サン・スルピス大神学院で「召命祈願ミサ」が行われる。どなたでも参加できます。

教皇様の今月の意向（１面参照）

【一般】薬物の犠牲者と、彼らの人間性回復と社会復帰を目指して取り組んでいる人々のために

【布教】「セクト」の広がりに対して、真の聖霊のたまものの新たな評価が地方教会で生まれるように

【日本の教会】社会の中で差別されているエイズ／ＨＩＶに感染した人々を、兄弟姉妹として受け入れるように

待降節の黙想会ご案内

12月　①　5日(土) 16：00 ～　6日(日) 15：00　＜来住英俊神父＞
②11日(金) 16：00 ～ 13日(日) 昼食後　＜ガブリエル神父＞
③18日(金) 16：00 ～ 20日(日) 15：00　＜畠　基幸神父＞
④23日(水) 16：00 ～ 24日(木) 15：00　＜マテオ神父＞
【会　費】①④6,000円　②③12,000円
【申　込】0940－32－3222（9：30～17：00受付）

福岡黙想の家　〒811-4155 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222 FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810-0044
福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ　土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
ＴＥＬ092－526－5656
〒810-0016
福岡市中央区平和３丁目1-5

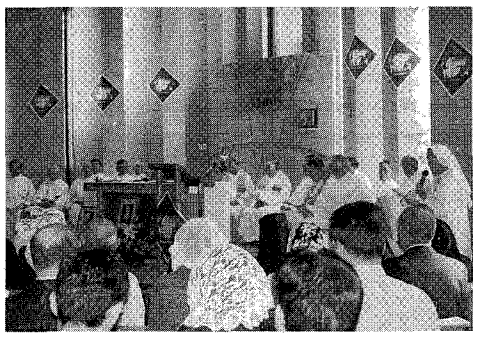
来日100周年を祝う

マリアの宣教者フランシスコ修道会
熊本修道院

さる十月十九日、マリアの宣教者フランシスコ修道会来日百周年を記念する九州地区でのミサが、コロンバン会地区長H・オッカロール神父と十四名の司祭による共同司式のもとに日本管区発祥の地、熊本修道院で行われた。

百年前のこの日、最初の会員五名が当時の長崎教区クザン司教の要請で、熊本地区長コール神父のハンセン病患者救済事業・待労院を引き継ぐために創立者マリー・ド・ラ・パシオンに派遣されて熊本に到着した。この修道院に灯された小さな光が日本の各地に広がり、この光に出会った人たちの中から多くの日本人シスターが誕生し、現在では、日本（十一教区）だけでなく世界四十カ国へ派遣されている。

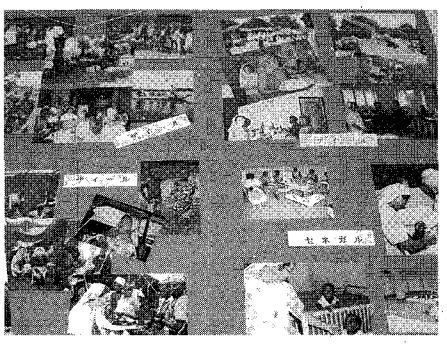
オッカロール神父はミサの中で、不安な気持ちで待労院に来るハンセン病患者をシスターたちが抱きしめて迎えたという患者の体験から、このようなフランシスコの本当の霊的な娘の行動がこの修道会を象徴していると話、「私たちには一つの国しかない。全世界という国。全世界、全人類のニーズはイエスのニーズでもあり、そのニーズに愛をもって応えなければならない」という創立者の言葉を引用して、この世界宣教の使命が聖体から力を汲みつつ、会員一人ひとりによって継承されてきていると語った。



このミサは、日本管区がこの百年間にいただいた神の力強い導きと、この神のわざに惜しみなく協力した教会とすべての人々への感謝として捧げられたものである。

ミサ後二時から隣接する老人ホームでパーティーが開かれ、オッカロール神父他十三人の司祭、七十余人の修道者、全体で約二百人の参加者が喜びを分かち合った。会場には、来日以来百年の歩みを説明するパネルや写真が掲示されていた。

（取材協力　シスター落藤葛子・高木昇氏）



百年の歩みをたどる展示

殉教者ディエゴ加賀山隼人正興長

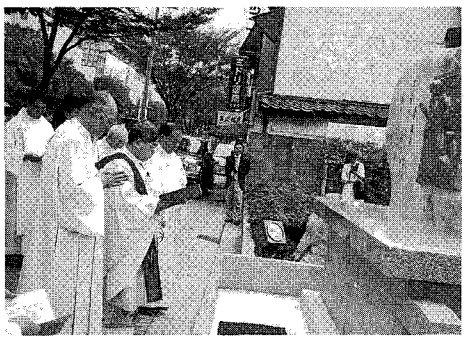
顕彰碑祝別と列福祈願ミサ

十月十一日午後二時から北九州市のカトリック小倉教会で殉教者ディエゴ加賀山隼人正興長の顕彰碑の祝別式とそれに続いて列福祈願ミサが行われた。主司式は松永久次郎司教が行い、十三人の司祭、約二百五十人の信徒が参加した。

ミサに先立って祝別された殉教顕彰碑は長崎純心聖母会のシスター谷口伸子さん（東京純心女子大学美術教授）の作で加賀山隼人のレリーフ（白銅製）と彼が詠んだ歌、

寄　港　戀
千尋より深きおもひの
海はあれど
もらしそむべき
言の葉ぞなき

が刻まれている。この歌は、一六〇七年の小倉城落成の折りに詠んだもので、加賀山隼人の心の中にある、言葉では表すことのできない、海よりも深い想いを歌っている。

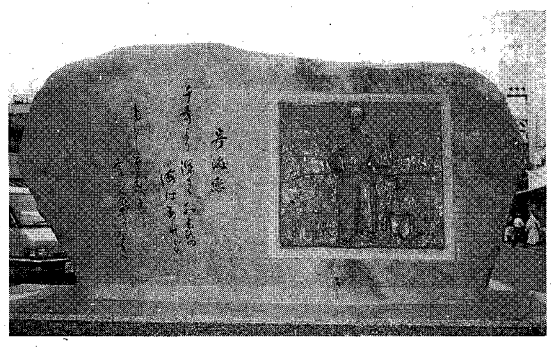


顕彰碑は教会入り口近くに設置された

祝賀行事ラッシュ

日本の教会は紀元二〇〇〇年の大聖年を期に、一八八人の殉教者の列福をバチカンに申請しているが、その中に北九州小倉の殉教者、加賀山隼人は含まれている。今回のミサはその列福を願うだけではなく、殉教者の信仰、精神に倣うことによって、恵みの大聖年を準備することが目的であった。司式した松永司教は、説教の中で、大要次のように語った。

加賀山隼人はこの世の王に仕えるより、キリストに仕えることを選んだ。そこに、神の恵みに応え、協力するまごころがある。その殉教は神の恵みの証しでもある。無力な私たちではあるが、神の恵みがあれば出来ることを殉教者は示した。地元のより強い崇敬心が求められる。



一六〇七年に加賀山隼人が詠んだ歌

司祭館・信徒会館・天使幼稚園が同時落成

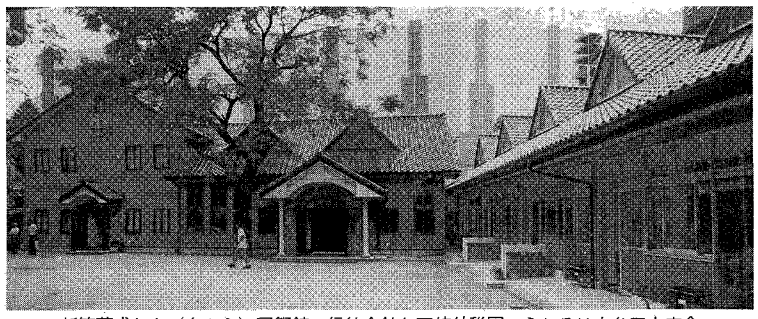
大牟田教会で祝賀

大牟田教会（主任・森山信三神父）では、今年春より工事中の司祭館と信徒会館、付属の天使幼稚園が完成し、さる九月二十七日、松永久次郎司教の司式によるミサの後、関係者・信徒多数出席のもと、落成・祝別式が行われた。

同教会では昨年九月、司祭館等の老朽化に伴い、教会にふさわしいものをと建築委員会を発足、十一月の臨時信徒総会で全員の賛同を得たので、今年二月に地元の大島組と契約、三月に解体工事に入り、四月に起工式を行った。八月末の完了までの間、司祭はアパートに住まい、聖堂は一部園児のための教室となった。

鉄骨二階建ての司祭館と同様の信徒会館は平屋、幼稚園は五教室（園児約百人）で、教会堂と共に広場をかこむ。

松永司教は落成式のあいさつで、「司祭が神と人々に仕え働くのにふさわしい司祭館の完成は、単に一つの家ができたというにとどまらず、司祭の中にキリストを見、司祭を大切にし、その働きを助け支える信徒の信仰のあかしである」と語った。



新築落成した（左から）司祭館、信徒会館と天使幼稚園。うしろは大牟田市庁舎

会合と催し（4面続き）

福岡

■カテキスタの集い　＊11月は休会。［日時］12月6日（日）13時30分～15時30分［場所］福岡カトリック神学院［講師］山元眞神父（同神学院院長）［テーマ］キリストの誕生を祝う［会費］500円＊教会学校に関する資料をお持ちくだされば幸いです［問合先］福岡カトリック神学院☎092・531・6821 FAX 524・7373

北九州

■北九州地区信徒協研修会　［日時］11月23日（月）13時～［場所］カトリック新田原教会テレジア館［テーマ］北九州の信徒たちへ・21世紀に向けた宣教師の声［内容］講演・パネルディスカッション［講師］L・ベリオン神父（黒崎教会主任）［主催］北九州地区信徒使徒職協議会

佐賀

■第6回聖書を読む会　［日時］11月5日10時～11時30分・19時30分～21時（毎月初木曜日）から99年3月初木曜日まで［場所］カトリック佐賀教会（信徒会館）［テーマ］希望に生きる［講師］A・アレグリーノ神父［テキスト］聖書（旧約・新約）［対象］どなたでも［受講料］無料［申込・問合先］佐賀教会内「聖書を読む会」☎0952・23・4754

熊本

■第11回熊本短期キリスト教講座　生きがいをさがそう！［日時］11月1日（日）14時～16時［場所］カトリック手取教会［テーマ・講師］⑦神の恵み＝自然と恩恵について・長岡孝子＝カトリック信徒（長崎・本原教会）／パーティー［申込・問合先］熊本カトリック案内所☎096・322・7948［主催］熊本短期キリスト教講座実行委員会

■聖コロンバン会宣教50周年記念黙想会　［日時］11月21日（土）～23日（月）［場所］健軍教会

＊詳細は1面参照

聖マリア学院短期大学　-1999年度　学生募集-　聖マリア学院医療福祉専門学校

看護学科（看護婦・看護士養成3年課程）入学定員100名

選抜区分	試験期日	試験科目等
推薦選抜	11月25日	基礎学力調査（英語1程度）、小論文、面接
社会人選抜	11月25日	
試験選抜	2月16日	国語1、英語1、理科（生物1BⅠまは化学1B）、面接

専攻科：地域看護学専攻（保健婦・保健士養成1年課程）入学定員40名
助産学専攻　（助産婦養成1年課程・女子のみ）入学定員20名

選抜区分	試験期日	試験科目等
推薦選抜	11月10日	小論文、面接（専門科目に関する口頭試問を含む）
社会人選抜	11月10日	
試験選抜	2月　2日	看護学一般、面接

（お問い合わせ先）
〒830-8558　福岡県久留米市津福本町422番地
（西鉄大牟田線試験場前駅徒歩5分・聖マリア病院隣接）
聖マリア学院入試事務室 TEL：0942-35-7271 FAX：0942-34-9125

介護福祉学科（介護福祉士養成2年課程）入学定員100名

選抜区分	試験期日		試験科目等
学校推薦選抜	11月5日		小論文（テーマは募集要項に記載）、面接
自己推薦選抜	1期	10月6日	面接（自己推薦書に基づく）
	2期	11月30日	
社会人選抜	3期	1月26日	
試験選抜	1期	2月25日	国語1又は数学1・A（数と式）の選択
	2期	3月24日	

＊介護福祉学科においては、特待生制度等の奨学生制度を充実。
＊聖マリア病院、聖マリア介護支援センター等と協同した実践教育と充実した卒後教育を実施。
＊キャンパス見学随時

BOOK 読みは専科

★神の恵みと人間
―自然と恩恵についての小カテキスム―
A・リュバック著　堤　安紀　訳



自然―人間―超自然、自然―自由―恩恵。この区別は、カトリックの伝統的教えの中で、重要な位置を占めている。現代では、この区別は「もはや無効」だとか、単なることばの問題とみる向きもある。本書は、古い考え方を守ろうというのではなく、ただ信仰に素直に従おうとするすべての人にとって、これらのことばの述べる事柄が現在・未来においても基本的事柄であることを明らかにする。

サンパウロ　税別二二〇〇円

◇　◇　◇

★クリスマスを楽しく
―修道院からの贈り物―
女子パウロ会編



修道院のシスターたちが心をこめて手作りした料理やお菓子ツリーやリース、オーナメントの数々、また、この日にちなんで思い出を語る、ほのぼのとした話が集められている。美しい写真入りで、リースやツリー、クリスマス・ディナー、料理、菓子、クリスマス・カードなどの作り方がやさしく説明されている。プレゼントにも好適。

女子パウロ会　本体一五〇〇円

ジャパンスマイルか株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石の素材　石の理想　石の影像　石の大御所　他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860-0006 熊本市段山本町2-21
TEL096-352-2417

福岡黙想の家 11月

◇ 2日(月)～ 3日(火) 聖母カテキスタ会
◇ 5日(木)～泰星／聖研グループ黙想会
◇ 7日(土)～ 8日(日) 北九州レジオ黙想会
山口・島根地区信徒の集い
◇ 9日(金)～13日(金) 聖コロンバン会黙想
◇14日(土)～15日(日) 在世フランシスコ会黙想
◇15日(日)～21日(土) サレジオ会黙想
◇21日(土)～23日(月) ゆふの会の集い
◇26日(木)～29日(日) ユースフルライフカウンセリングワークショップ
[問合先] 黙想の家 ☎0940・32・3222 FAX32・3385

黙想の家のホームページを御利用ください
◎ホームページ http://w32.mtci.or.jp/~daneox
◎e-mail Mail to daneox@mtci.or.jp

生命山カトリック別院

生命山では、皆様のために、美しい自然の中で、神との語らいの日々を過ごしていただきたく、黙想会を計画いたしました。ご参加ください。

■祈りの集い
日時：⑨11月12日(木)
9時45分～15時
テーマ：詩編で祈る（全10回）
指導：フランコ神父
★最終回は12月10日(木)です。

■黙想会
日時：11月14日(土) 15時
～15日(日) 15時
テーマ：座禅と聖体礼拝
＊個人、又はグループでの黙想等、常時受け付けています。
[問合先] 生命山カトリック別院
☎0968・85・3100

召命の集い'98

[テーマ]「イエス様がひろがる」
[日　時] 11月3日(火) 文化の日 9時30分～15時30分 [雨天決行]
[場　所] 福岡サン・スルピス大神学院
[内　容] 召命祈願ミサ・観劇・ミニ運動会・工作・講演会他
[問合先] 召命の集い実行委員会 ☎092・864・4203
＊くわしくは教会配布のご案内を参照してください

ホームページを御利用ください
◎臨床パストラルケア教育研修センター
http://www2s.biglobe.ne.jp/~PASTORAL/
◎Fr. W・キッペス http://www.hf.rim.or.jp/~w-kippes/

福岡教区　典礼研修会

ミサにおける信徒の奉仕

ー歴史的考察の上に立ってー

●講　師●白浜 満 神父（福岡サン・スルピス大神学院）
●協力者●深堀 純 氏（同上）
●日　時●1998年11月8日(日) 13時～17時
●会　場●カテドラル大名町教会　大講堂
●内　容●講話（ミサはありません）。典礼聖歌集を持参のこと。
●参加費●1,000円、中・高生500円（当日受付にて）
●申込・問合先●教区事務局 青木悟 神父 [FAX092-523-2152]
（小教区、修道院でまとめて下記までお申込みください）
●主　催●福岡教区典礼委員会

会合と催し

教区年間テーマ：キリスト者を活かす聖霊を信じます

11月　死者の月

1日（日）諸聖人／茶山教会創立記念日
教区和田墓地ミサ（14時～）
2日（月）死者の日
＋S.アクワビバ［1984］
3日（火）文化の日／召命の集い（大神学院）■
＋F.ボア［援助修道会黒崎修道院1977］
4日（水）聖カロロ・ボロメオ司教
教皇ヨハネ・パウロ2世霊名祝日
6日（金）聖書講座⑱［カテドラル19時］（～11月20日）■
8日（日）大楠教会バザー／教区典礼研修会 ■
小倉教会堅信式
9日（月）ラテラン教会の献堂
11日（水）聖マルチノ司教
15日（日）聖書週間（～22日）／伊万里教会堅信式
19日（木）大神学院祭
21日（土）聖マリアの奉献
聖霊刷新黙想会（健軍教会～23日）■
22日（日）王であるキリスト（聖セシリアおとめ殉教者）
新田原教会堅信式
＋P.ポール［1996］
23日（月）勤労感謝の日／北九州地区信徒協研修会
＋B.シュルツ［吉塚教会1996］
27日（金）＋S.ズワノニ［唐津教会1962］
29日（日）待降節第1主日《御父の年》
30日（月）聖アンデレ使徒

12月

1日（火）＋アシジF．伊東誠二［1997］
3日（木）聖フランシスコ・ザビエル
6日（日）待降節第2主日／宣教地司祭育成の日《献金》
八代殉教祭（八代教会13時～）
7日（月）聖アンブロジオ
8日（火）無原罪の聖マリア
福岡カトリック神学院創立記念日
13日（日）待降節第3主日（聖ルチアおとめ殉教者）
14日（月）十字架の聖ヨハネ
17日（木）＋M.コニリー［島崎修道院1990］
18日（金）＋J.マグラ［荒尾教会1976］
19日（土）＋パウロ青木功［行橋教会1973］
20日（日）待降節第4主日
＋M.ソーレ［久留米教会1917］
23日（水）天皇誕生日
＋A.ベニエ［飯塚教会1983］
24日（木）降誕祭前夜ミサ（カテドラル20時30分）
25日（金）主の降誕（クリスマス）
26日（土）聖ステファノ殉教者
27日（日）聖家族（聖ヨハネ使徒福音記者）
28日（月）幼子殉教者
31日（木）大晦日

■印は本面に詳細説明あり

福岡

《続きは3面に掲載》

■聖テレーズの著作を読む会
[日時] 毎月第四日曜日14時～15時30分 [場所] カルメル会修道院（福岡市西区上ノ原）[問合先] カルメル会修道院 ☎092・807・7361 [世話人] 城島暁（浄水通教会所属）。尚、同日13時～13時50分キリスト教入門講座があります。

■聖書講座 [後期] テサロニケの信徒への手紙Ⅰ・Ⅱ [日時] 毎週金曜日19時～21時(全10回)。11月20日まで [場所] カテドラル大名町教会 [テーマ・講師] ⑱11月6日・キリストの再臨と裁き・中浜一男神父⑲13日・不法の者への警告、救われた者の生活・牧山勝美神父⑳20日・けじめのない生活を戒める、結び・森山信三神父 [受講料] 一講座800円 [主催] 福岡教区聖書委員会 [申込・問合先] カトリック福岡司教館 ☎092・522・5139（16時まで深堀） FAX523・2152（24時間）

■第13回福岡パストラルケア研究会 [日時] 11月8日14時～16時 [場所] 福岡サン・スルピス大神学院新館ホール [内容] 講話「今の介護、そしてこれからの介護」[講師] 井上重子氏（福岡市医師会看護専門学校講師）[参加費] 無料 [問合先] 事務局（シスター箕浦 ☎092・871・4943大神学院）

■第14回 [日時] 12月6日(日) 14時～16時 [内容] 講話「病人訪問体験」[講師] シスター・マリー・テレーズ・モロ（聖母奉献修道会福岡修道院）[参加費] 七〇〇円 [問合先] 同右

■ヤングママの黙想会 [日時] 11月9日(月) 10時～15時 [場所] 司教館 [テーマ] 日常における聖霊の働き [指導] 森山信三神父（大牟田教会主任）[内容] 講話・ミサ・ゆるしの秘跡（希望者）[会費] 1000円（昼食代含む）★ベビーシッターが付きます [主催] 福岡地区婦人会 [問合先] 白石英子 ☎092・581・8197

■福岡地区信徒協代表者会議 [日時] 11月15日(月) 14時～ [場所] カテドラル大名町教会

■聖書週間特別講座 [日時] 11月15日(日) 14時～ [場所] カテドラル大名町教会 [テーマ] 聖書の中にみる御父 [講師] S・オチョア神父（イエズス会福岡修道院）[参加費] 自由献金（福岡聖書展のために）[主催] 福岡教区聖書委員会 [申込み] 当日 [問合先] カトリック福岡司教館 ☎092・522・5139（16時まで深堀） FAX523・2152（24時間）

■黙想会 [日時] 11月21日(土) 17時～23日(月) 昼食 [場所] 聖母訪問会福岡修道院 [テーマ] 神のいつくしみにふれて…私は！ [指導] 白浜満神父（福岡サン・スルピス大神学院）[対象] 青年女子信徒 [参加費] 3500円 [申込・問合先] シスター大野 ☎092・741・4250

■天使幼稚園50周年記念講演会「子供たちへのおくりもの」 [日時] 11月22日(日) 10時30分～（10時開場）[場所] 大牟田労働福祉会館大ホール（カトリック大牟田教会ウラ）[講師] シスター渡辺和子（ノートルダム清心学園理事長・同大学名誉教授）[会費] 無料 [後援] 大牟田市教育委員会 [問合先] 天使幼稚園 ☎0944・53・1048＊駐車場に限りがありますので、公共交通機関をご利用ください。

■ホスピスの会 第4回会合 [日時] 11月22日(日) 13時30分～ [場所] カテドラル大名町教会4階 [問合先] 事務局／〒815・0034福岡市南区南大橋1・8・29小林計子 ☎FAX092・512・8723 ★昼間（9時30分～17時）0942・83・2294

■記念感謝ミサ [日時] 11月23日(月) 10時～ [場所] カルメル会修道院（カルメル山の聖母修道院）[内容] 十字架のテレジア・ベネディクタ（エディット・シュタイン＝カルメル会修道女）列聖記念感謝のミサ、ミサ後講話（聖人について～ニコラ神父）、レセプション（吉川信雄氏）、歌とトーク（山元眞神父）[インストラクター] 吉川信雄氏 [対象] 20歳以上の独身男女 [参加費] 1000円 [申込締切] 11月24日(火) [申込・問合先] 前野良子（浄水通） ☎092・771・0793、村尾慶子（大名町） ☎607・6992、本吉芙美子（高宮） ☎551・7797＊当日参加も可能ですが、できるだけ事前にお申し込みください。

■福岡生と老い・死をみつめる会 [日時] 11月29日(日) 14時～16時 [場所] カテドラル大名町教会4階会議室 [内容] 講話「老いと死」と語り合い・死別体験者の語り合い [講師] 今村茂氏（福岡大学名誉教授）[会費] 500円 [問合先] 事務局（大山美穂子 ☎092・713・8523

■第7回パイプオルガンチャリティコンサート [日時] 12月5日(土) 開場14時30分開演15時 [場所] カトリック大名町教会大聖堂 [演奏者] スコット・ショウ（長崎活水学院オルガン科助教授 [チケット] 前売（小学生以上）1000円・当日1200円 [主催] ぶどうの樹の会 [後援] 福岡市・福岡市教育委員会・活水学院・聖パウロ女子修道会・カトリック大名町教会信徒会 [問合先] ☎020・581・6092（相良） ☎092・831・5356（古賀）[チケット取扱] セントポールFUKUOKA（旧聖パウロ書院）10時～16時（水曜定休）

★続きは3面に掲載

長崎出津 次兵衛岩巡礼

日　時：11月15日
8時浄水通教会集合
8時30分出発
19時浄水通教会解散
参加費：1000円
問合せ・申込先：Fr. 青木悟
☎092-522-5139（教区本部）
企画：召命をともに祈る会

編集後記

ロザリオの月が終わり、今月は死者の月。ロザリオの祈りを続けながら、先祖のために祈る。ロザリオはまだ手放せない。

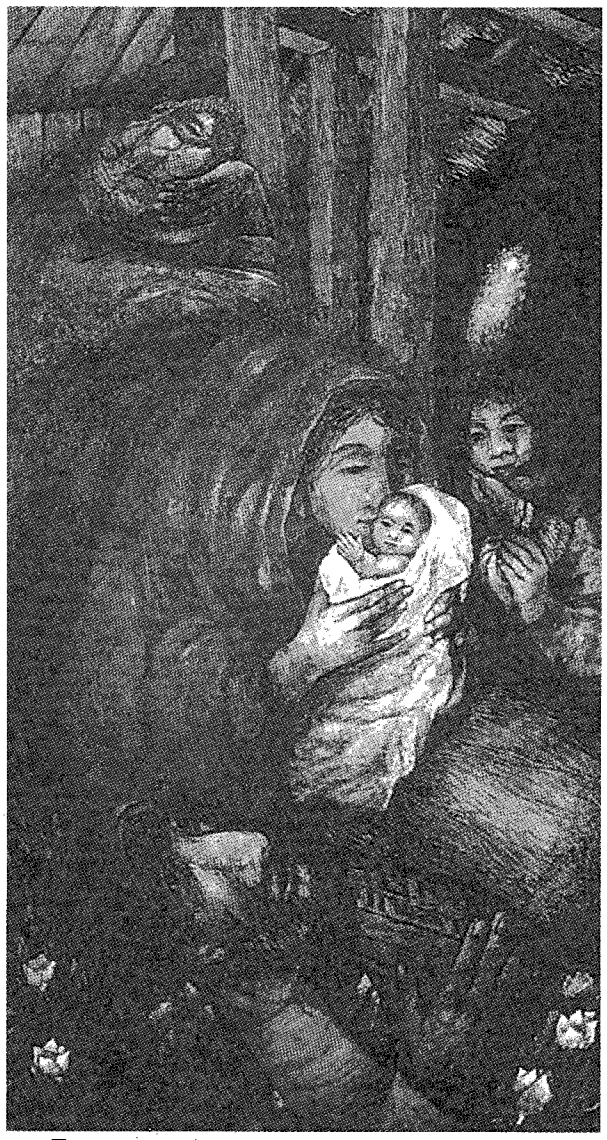
COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者 ペトロ 平田 清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所 大石真澄
☎092-552-8195 Ⓕ092-541-7734

未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1 TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長 藤木鐵三　福岡支店長 長山和博

カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円



「この方こそ主メシアである」
ルカ２・11　［イエスの誕生　ジーガ・ケーダ作］

半世紀で235人が司祭に

大神学院創立50周年の喜び



なごやかな雰囲気の中、ミサ後に聖堂内で記念撮影が行われた

十一月十九日、福岡サン・スルピス大神学院（院長＝大山悟神父）で創立五十周年を記念するミサと式典が行われた。長崎教会管区の司教をはじめ、来賓、卒業生、関係者など、約二〇〇人が集い、聖母マリアの奉献の典礼で感謝を捧げた。

今から六十五年前の一九三三年、大神学院創設のためスルピス会の会員レージェ師（後に枢機卿）とプレボー師がカナダから来日、十月七日、博多に到着した。三六年にはJ・ツルデル師も来日し、翌三七年には大牟田教会司祭館で中神学校が開校した。当時の学生は五人。

その後、中神学校は浄水通の司教館附属司祭館、さらには大濠へと移転する。四三年に一時閉鎖した後、福音宣教省の公式認可を受け、一九四八年に六十九人の神学生と共に、浄水通りの旧聖母訪問会修道院と司教館の一部、それにカマボコ兵舎二棟を利用して、福岡サン・スルピス大神学院の歴史的一歩を踏み出した。

福岡市城南区松山の現在地に移転したのは一九五一年。創立以来、この大神学院には、六五五人の神学生が入学し、そのうち、二三五人が司祭としての奉仕職に就いた。

記念ミサは一九五三年に献堂された聖堂で行われた。長崎教区の島本要大司教が主司式。福岡、大分、鹿児島、広島、高松の教区長はじめ、聖スルピス会総長のL・テリエン神父と同会カナダ管区長のL・ジャンドロン神父、東京大神学院から小宇佐敬二神父、高松の国際神学院から院長のM・スアレス神父も参加し、卒業生の神父、関係者など、約二〇〇人が感謝の祭儀を共に捧げた。

ミサに引き続いて聖堂内で記念式典が行われた。式典では、長崎教会管区司教団を代表して島本大司教が、同窓生を代表して平野勇神父（長崎大司教区）が祝辞を述べ、福岡教区の藤渕邦大神学生が学生を代表して挨拶した。また、永年勤続の講師、職員に感謝状と記念品が贈呈された。

式典に引き続いて祝宴が開かれた。例年通り叙階25周年、10周年も祝われ、福岡教区では、森山信三神父（大牟田教会主任）が10周年を迎えた。J・ツルデル師の送別式も行われた。引き続き食堂にて祝宴が開かれた。



50周年記念として作成されたテレフォンカード

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう
【一般の意向】より効果的な連帯
【布教の意向】児童の保護
【日本の教会の意向】家庭と子どもを大切に

＊説明は2面に

12月6日

宣教地司祭育成の日
祈りと献金によって
宣教地の司祭育てよう

待降節第二の主日（今年は十二月六日）は、全世界の教会で「宣教地司祭育成の日」と定められている。すべての人が、特に宣教地における司祭の召命について考え、祈り、献金するよう求められている。単に日本のためばかりでなく、全世界の宣教地で働く司祭の召命のために、熱心な祈りをささげたいものである。

司祭は、その気になればだれでもなれるというものではない。それは全面的に神からの招きである。召命激減が叫ばれている今日、すべての信徒は、多くの若者が神の招きの声に気づき、勇気をもって応えるように、また、すでに司祭職への道を歩んでいる神学生たちが、最後までキリストに従い続けるために、祈りと献金をもって支援する義務がある、といえよう。

ちなみに昨年この日に集まった献金額は一七、九九六、三二五円で、今年度のローマへの送金額は一六、四三三、一〇五円。

「みなさんの顔は思い出しませんが、みなさんを愛しています」



お別れの挨拶をするJ・ツルデル師とカナダから迎えに来られた甥のJ・ツルデル氏

62年間、司祭養成に奉仕したJ・ツルデル師は12月8日に92歳になられる。健康上の理由でカナダに帰国されたが、カナダ管区長館で日本のために祈ってくださる。

公示

日本カトリック司教協議会

教皇ヨハネ・パウロ二世は、1998年5月28日『信仰を守るために (Ad tuendam Fidem)』と題する自発教令を発表し、現行教会法典 に次の新しい条項（下線で表示された部分）を追加・挿入するようにとの指示を出しました。このたびその日本語訳が完成し、これを今後日本のカトリック教会として活用していくことが本年11月5日開催の常任司教委員会で承認されたことをここに公示いたします。

第750条

(1)書かれ又は伝承された神のことば、すなわち教会にゆだねられた唯一の信仰の遺産のうちに含まれ、かつ同時に教会の荘厳な教導、又は通常かつ普遍の教導により、神による啓示として提示された真理は、すべて神的かつカトリックの信仰をもって信ずべきである。それは実に、聖なる教導権の指導のもとに、キリスト信者の共同的固持によって明らかになる。したがって、すべての信者はこれらの真理に反するあらゆる教理を避けなければならない。

(2)さらに、信仰及び道徳上の教えに関して、教会の教導職が確定的に提示するすべての、そして個々のことがら、すなわち、信仰の遺産を大切に保全し忠実に明示するために必要とされることがらを、確固として受け容れ保持しなければならない。それゆえ、確定的なものとして保持すべきそれらの命題を否定する者は、カトリックの教えに反することになる。

第1371条

以下の者は、正当な刑罰によって処罰されなければならない。

1．第1364条第1項のほか、ローマ教皇又は公会議によって 断罪された教説を教える者、又は第750条 第2項若しくは第752条規定の教理を頑固に拒絶する者で、かつ、使徒座又は 裁治権者の警告にもかかわらず改めない者。

註：下線で表示された部分は新たに挿入された個所

北九州地区信徒使徒職協議会研修会

北九州の信徒へ
～21世紀へ向けた宣教師の声

十一月二十三日、北九州地区信徒協主催の研修会が新田原教会において開催された。

当日は、秋晴れの天候に恵まれ、北九州地区の聖職者、信徒合わせて約三百人の参加者で信徒会館ホールは満員となった。

この研修会は大聖年という節目の年を目前にして信徒一人ひとりが福音宣教を考えてみようということで計画された。

午後一時からの第一部では、入院中のベリオン神父に代わって山元神父が代読の形で基調講演を行った。



第二部は、J・ガイヤール神父、M・ラバルタ神父、山元眞神父、下町豊重神父の四人の神父によるパネル・ディスカッションが行われ（＝写真）、参加者から予め提出された質問に答えるかたちで進められた。

（詳細は三面）

一九九九年御父の年
―大聖年準備のための祈り―

◇　天の父よ、絶えずあなたをたたえます。／あなたは、いつもわたしたちとともにおられ、限りない愛をもって御子イエスをわたしたちの友、兄弟、救い主としてくださいました。／いつくしみ深い父よ、大聖年の恵みを感謝します。／あなたは、放蕩息子を忍耐強く待ち受け、ゆるしのうちに抱きとめようとし、食卓へと招いてくださいます。／この大聖年が、わたしたちにとって恵みの時、あなたに立ち帰る回心の時となりますように。▲父よ、絶えずあなたをたたえます。

◇　いつくしみ深い父よ、／大聖年の間、あなたと隣人に対するわたしたちの愛を今まで以上に強めてください。／キリストの弟子として　正義と平和を促進し、貧しい人に、福音を告げ知らせることができますように。／母である教会が、特に小さい人々、見捨てられている人々に、その愛を注いでいきますように。▲父よ…

◇　喜びの源である父よ、／すべてのカトリック信者が、この大聖年の間、みことばに生かされる喜びと　み旨に従う喜びを再び見いだすことができるよう導いてください。／ともにパンを分かち合い、ともにあなたをたたえ、兄弟として交わるすばらしさを味わうことができますように。▲父よ…

◇　すべての人を招いておられる父よ、／大聖年の間、キリストを信じるすべての人々の間に和解をもたらし、いろいろな宗教を信じる人々と対話できるよう、力をお与えください。あなたの計り知れない愛によって、すべての人にいつくしみが豊かに注がれますように。▲父よ…

◇　全能の父よ、／あなたの子らが、あなたに向かって歩むとき、／キリストの母であり、教会の母であるマリアが、／愛のうちにともにいてくださることを、／体験できるようにしてください。▲父よ…

◇　いのちの父、あらゆるものの永遠の源、最高の善、かげることのない光であるあなたに、誉れと栄光、賛美と感謝が、御子と聖霊とともに、世々限りなくありますように。　アーメン

大聖年直前の準備第三年目・テーマ「父である神」

父のところに行って言おう。「お父さん、わたしは罪を犯しました」

一九九九年は、聖フランシスコ・ザビエルの渡来四五〇年を記念する年であり、またアジア特別シノドスの実りを深めていく年でもあります。そして何よりも、キリスト御降誕二〇〇〇年の大聖年を迎える直前準備の最後の年に当たります。大聖年を迎える準備のため、一九九七年を「イエス・キリスト」の年、一九九八年を「聖霊」の年と定められた教皇ヨハネ・パウロ二世は、一九九九年を「父である神」の年と定め、御父を黙想しつつ反省し、祈り、新たな決意をするようにと呼びかけておられます。



「父である神」の年

一九九八年の待降節第一主日前晩の祈りから、大聖年直前準備の最後の年に入ります。教皇ヨハネ・パウロ二世は私たち一人ひとりに、この一年間とくに、御父から遣わされた御子キリストにならい、あらゆる事柄を御父とのかかわりによって見ていこうと呼びかけておられます。つまり、キリストが派遣され、戻っていかれた「天の父」の視点から、それぞれ自分の生活を振り返ることが求められています。

このような視点からみると、キリスト者の生活全体は、「御父の家への大巡礼」、「父のもとへの旅」だと言えるでしょう。というのは、キリスト者の生活は、「放蕩息子のたとえ」（ルカ15章11節以下参照）に示されている回心の旅そのものだからです。

具体的な取り組み

教皇の呼びかけに具体的にこたえていくために、手引きを作成しました。それぞれの共同体の実状に合わせて、これらの手引きを利用してくださるようにお願いします。

一、「主の祈り」とともに御父の年を過ごす　御子イエス・キリストが教えてくださった「主の祈り」こそ、御父を黙想するのにふさわしいお祈りでしょう。「主の祈り」を味わい、黙想し、分かち合いを深めるための手引きです。

二、正義と平和への関与　教皇ヨハネ・パウロ二世は、貧しい人、社会から見捨てられた人を優先して選ばなければならないと強調され、現代において正義と平和に関与することは、聖年の準備と祝いのための不可欠な条件であるとはっきり述べておられます。私たちに注がれている御父の無条件の愛に気づき、より一層その愛に強められながら生きていくためには、現実の生活の中で、神と隣人への愛をあかししていく必要があります。自分たちが直面しているさまざまな問題を出し合い、分かち合い、それらの問題への対処を探求するための手引きです。

三、最貧国の累積債務削減を　教皇ヨハネ・パウロ二世は、すべてのキリスト信者に、多くの貧しい国の将来にとって深刻な脅威となっている累積債務を削減するために働いてほしいと呼びかけておられます。まず貧しい国に債務が累積されてきた構造的問題について学ぶための手引きです。

四、共同回心式の具体例　真に回心の恵みをいただくために、ゆるしの秘跡の深い意味を再認識し、個人としてだけではなく、共同体としてこの秘跡にあずかることはとても有益なことです。これは、典礼暦を考慮しつつ、小教区や修道院などで行う共同回心式の手引きです。

一九九八年十一月一日
日本カトリック司教協議会
大聖年準備特別委員会

（注　各手引きはすでに小教区に配付されています。小教区や修道院、学校などで利用されることが望まれています＝編集部）

典礼 あ・ら・か・る・と 15

厳密な意味でのシンボルではないかもしれませんが、わたしたちが典礼の中だけでなく、他のさまざまな機会に祈るときにも繰り返し唱える「アーメン」という言葉について考えてみたいと思います。

「アーメン」とは、ヘブライ語で「確かに」「そのとおりになるように」という同意の意志を表す言葉です。ユダヤ人たちは会堂（シナゴーグ）での礼拝の中で、ラビの唱える祈りに同意を表すためにこの言葉を用いていました。そして、これは初期のキリスト者たちにも受け継がれ、祈りの結びに「アーメン」を唱えるようになったと考えられます。そのような例は、新約聖書の1ペトロ5・11、ユダ25、黙示録1・6、7などにみることができます。

現在のミサでは、開祭における十字架のしるしの結び、三つの公式祈願（集会祈願・奉納祈願・拝領祈願）の結び、回心の祈りの結び、奉献文の栄唱の結び、教会に平和を願う祈りの結び、各自の拝領のとき、派遣の祝福の結びなどで「アーメン」を唱えます。これらはいずれも、司式者が唱えた言葉に対して、わたしたちの心からの同意が求められている箇所です。古代キリスト教の文献には、信者たちの唱える「アーメン」は聖堂の外にいても聞こえるほど力強かったという記述が残されていますが、わたしたちが唱える「アーメン」は、このように心からの力強い同意の叫びになっているでしょうか。祈りを結ぶための決まり文句のように、単なる形式的な答えになってはいないでしょうか。

アーメン ―心からの同意の言葉―

「アーメン」は、直前の祈りや賛美の言葉を自分自身の祈りや賛美の言葉とするために一同が唱和する簡潔な賛同の表現です。このように考えると、「アーメン」はもっとも短い信仰告白の言葉であるということができるのではないでしょうか。（カトリック中央協議会『毎日のミサ』一九九六年十一月号　第一頁）

典礼研修会に参加して

杉本　恵子

十一月八日、典礼研修会「ミサにおける信徒の奉仕」がカテドラル大名町教会で開かれました。典礼奉仕の歴史と神学、具体的な役割、ミサと実生活への展開について第二バチカン公会議の精神を積極的に受け入れた、美しい典礼を目指す研修会でした。参加者皆で声を出して読む「典礼憲章」や「ミサ典礼書」の字句も、私にとっては意外に新鮮で、活字ばかりの資料もさほど難解ではありませんでした。もちろん、時にユーモアを交えた講話の、ゆえに…です。

微力ですが、私自身オルガン奉仕をさせていただいています。力不足で、緊張と疲労の連続です。祭壇の近くで奉仕させていただく喜びを感謝しながらオルガンの前に座っています。「ことばの典礼」「感謝の典礼」での朗読者、聖歌隊、オルガン、解説者がなすべき役割は、とても重要です。


クリスマス・キャロルを歌う子どもたち（昨年）

白浜満神父様が詞をつけられたとても美しい曲「約束された救い主」をレパートリーに入れようと練習中です。今年もまた、クリスマス・イブのミサで、頬を紅潮させた子どもたちのパワフルな歌声が聖堂いっぱいに響きわたりますよう祈り、願っています。

（小倉教会）

神さまと人々のために

聖パウロ修道会
志願者募集

聖パウロ修道会は、社会的コミュニケーションを通して福音宣教を行う修道会です。現在、サンパウロ（旧：中央出版社）を中心に活動しています。将来の修道者（司祭、修道士）を希望するカトリック信者の男子志願者（新中学生以上）を募集しています。手続きなど詳しくはお問い合わせください。

〒810-0033
福岡市中央区小笹4-11-11
聖パウロ修道会福岡修道院
☎ 092-531-0924
FAX 092-524-6169
院長　Fr. 百村　等
担当　Fr. 杉原　寛信

福岡カトリック神学院
生徒募集

神学院入学を希望する者は、下記の条件が必要ですので、主任司祭と相談の上、福岡カトリック神学院までご連絡ください。

【入学条件】
①司祭を希望するカトリック信者の男子（来年3月に小学校卒業予定の現小学6年生以上）
②主任司祭の推薦
＊途中編入も可

詳しくはお問い合わせください。
〒810-0028
福岡市中央区浄水通38
福岡カトリック神学院
☎ 092-531-6821
FAX 092-524-7373
院長　Fr. 山元　眞

召命祈願ミサ

12月3日（木）19時45分、有志の会である《召命をともに祈る会》主催で、福岡教区に豊かな司祭、修道者の召命を求めて、福岡サン・スルピス大神学院で「召命祈願ミサ」が行われる。どなたでも参加できます。

教皇様の今月の意向（1面参照）

【一般】貧しく謙遜なキリストの霊が、苦しんだり疎外されている人々と、より効果的な連帯を、教会の中にかき立ててくださるように

【布教】国連をはじめ国際機関の責任ある人々が、児童に加えられている暴力に対して、幼い命を断固として守るように

【日本の教会】すべての人間の故郷である家庭を大切にし、不幸にして家庭や社会の保護のない子どもたちを皆で守るように

待降節の黙想会ご案内

12月　①　5日(土) 16:00～　6日(日) 15:00　<来住英俊神父>
②11日(金) 16:00～13日(日) 昼食後　<ガブリエル神父>
③18日(金) 16:00～20日(日) 15:00　<扇　基幸神父>
④23日(水) 16:00～24日(木) 15:00　<マテオ神父>

【会　費】①④6,000円／②③12,000円
【申　込】0940-32-3222（9:30～17:00受付）

福岡黙想の家　〒811-4155 宗像市名残1-056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810-0044
福岡市中央区六本松3-11-33
代表取締役　ヨハネ　土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 (SOU-EN)
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

北九州地区信徒協研修会

回心して福音を信じ、そして宣教

十一月二十三日に新田原教会において『北九州の信徒達へ―21世紀へ向けた宣教師の声』と題して行われた研修会は二部に渡ってプログラムが組まれた。

第一部では、入院中のベリオン神父に代わって山元神父が代読の形で基調講演を行った。

その中で、まず「私たちの信仰の原点に戻る」ことが強調された。その原点とは常にイエスと福音に戻ることであり、マルコによる福音を引用して①回心して福音を信じること、②イエスと福音を伝え、証しすること、の二点を中心に話が進められた。

一点目の結びとして「21世紀を迎えるためにその準備として、この地上での、イエスの旅の始まりに述べられた、最初の言葉《回心して福音を信じなさい。》に耳を傾ける必要がある。」と語った。

二点目は、「恐れるな、私を信じ、神を信じなさい。このイエスの言葉をもっと理解し、その通りに生きて行こうとすれば、私たちでもイエスと福音を伝え、証しすることが出来る。」と結んだ。

最後に「回心して福音を信じること、イエスと福音を伝え、証しするように、たゆまず、こつこつ努力をするように心掛ければ安心して、勇気、希望をもって21世紀に向けて旅立つことが出来る、と私は確信する。」と述べた。

第二部の四人の神父によるパネル・ディスカッションは、参加者から予め提出された質問に答えるかたちで進められた。

そこでは、宣教のあり方について「聖書を教会内で読むだけでなく、貧しくされた人々のところへ行き、分かち合わなければならないのでは」、「子どもの要理が六年間で終わり、中学、高校生の再教育をどのようにしたらよいか」、また「福音を宣べ伝える方法として現代世界憲章を引用したほうが魅力が出るのではないか」など具体的な教会内外における宣教活動の問題点につき質疑応答がなされた。


講演に熱心に聞き入る参加者

来日50年近いパリ外国宣教会の宣教師による時折ユーモアを交えた経験談に、予定の一時間は総ての質問に答えきれずに過ぎ、終了した。

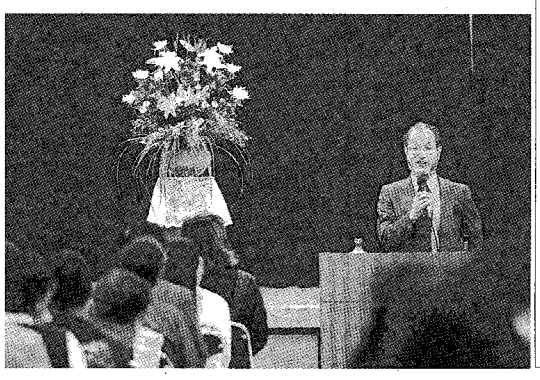
第三部は、茶話会として、十個程のテーブルに別れ、個別に神父と信徒との交流会が行われた。交流会では各小教区の久しぶりの出会いもあり、和やかな雰囲気のうちに研修会を閉会した。

（取材協力　大水健二）

映画《マザー・テレサとその世界》

11月1日新田原教会信徒会館で上映・千葉監督講演

午後2時から上映。引き続き監督の千葉茂樹さんの講演。演題は「マザー・テレサに学ぶ一生きることは分かち合うこと」　毎日5時間祈るマザーと共に祈った体験から、何か問題が起こったとき、マザーの「一緒にお祈りしましょう」という言葉に促されて祈ると、いつも必要な器材が撮影の間に合うように用意されたこと、無神論者のベテランカメラマンがマザーの生き方に心を動かされる話など、映画には出てこない一面を紹介した。「聖職者や信徒は笑顔がとても大切です」とも…。



第4回九州アディクション・フォーラム

はば広いわかち合い
～本当の出会いを求めて～

アディクション（嗜癖行動）とは、習慣の病のことです。アディクションの対象はさまざまです。それはアルコールや薬物へ、食べること、ギャンブル、お金を使うこと、働くこと…。心の穴を埋めるため、その対象へとらわれていきコントロールができなくなった時に、人は病んでゆきます。アルコール依存や薬物依存、摂食障害、ギャンブル依存、ショッピング依存、仕事依存、共依存と呼ばれる事態です。その習慣がコントロールできず当事者である本人が、そして周囲の家族や友人が傷ついています。いま、アディクションからの回復が語られるようになりました。アディクションの仲間、家族や友人、援助をしている関係者、いま一人で苦しんでいる人、アディクションについて知りたいと思っている人、誰でも参加できるフォーラムです。

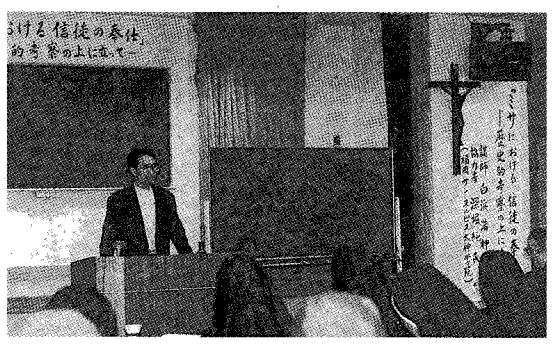
日時：１９９９年1月１７日（日）１０時～１６時
場所：大野城まどかぴあ（大野城市役所となり）
参加費：１４００円

プログラム

《第１部》体験談
・アルコール依存本人より　・薬物依存本人より
・摂食障害本人より　・家族より　他
《第２部》各自助グループの紹介とモデルミーティング
各関係の自助グループを体験するモデルミーティング

＊ミーティングは基本的にオープン（当事者以外の参加も可）ですが、グループによってはクローズド（当事者以外の参加は不可）ですのでご了承下さい。しかし、自分にこの問題があると感じておられる方は当事者として参加できます。

主催／問合先：第４回アディクション・フォーラム
実行委員会（☎０５０-４９４-８４１２）


ユーモアを交えて講演する白浜神父

不動山で第9回殉教慰霊祭

１１月２２日

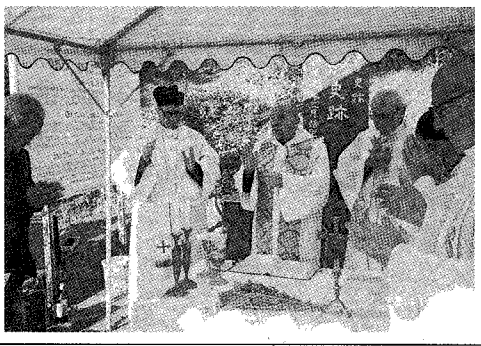
不動山（現佐賀県嬉野町）でキリシタンが盛んであったのは、一六〇〇年前後から、イタリアの宣教師カミロ・コスタンゾが不動山に潜行し、ひそかに布教していた一六三〇年頃までと伝えられている。

言い伝えをよりどころに嬉野町は、七つの史跡を建立。佐賀地区信徒使徒職協議会では、地元の不動山区と協力して、毎年いずれかの史跡で殉教者慰霊祭を行ってきた。

今年は雨上がりの小春日和のもと、野添史跡前で、地元からは嬉野町長・各区長が出席し、佐賀地区の各教会から六人の司祭と五十人の信徒が参列し、トラピスチヌ伊万里の聖母修道院のハイメ神父司式でミサを行った（＝写真）。

参列者は今から約三百五十年前、ここ不動山一帯で殉教した多くの信者の永遠の安息を祈り、神の愛を信じ、信仰の模範となった先祖の愛を通して、自分たちも神の栄光にあずかることができるようにと心を合わせて祈った。

（取材協力　佐賀教会　田丸鋭）



典礼は その準備段階から 始まっている

十一月八日、カテドラル大名町教会講堂で、教区典礼委員会（委員長　青木悟神父）主催の典礼研修会が開かれた。テーマは「ミサにおける信徒の奉仕―歴史的考察の上に立って」。

講師は福岡サン・スルピス大神学院の白浜満神父で、協力者として同神学院の深堀純氏。参加者約二〇〇人。第一部では神学院で典礼学を担当している白浜神父が資料を参加者と一緒に読んでいきながら、典礼奉仕の歴史と神学、奉仕の具体的な役割、キリストの救いのみわざの記念・再現としてのミサについて説明。さらには典礼奉仕と実生活の結び付きについても話した。典礼はその準備段階から始まっていることを強調した。

第二部は深堀氏が担当。静（沈黙）と動（作）、祈る、歌うなどについて説明。典礼のメリハリの大切さを説いた。

北九州など、福岡地区以外からも多くの参加者があった。

典礼センター・ピエタ 日・祭日閉店に

最近出された教皇の《主の日》についての教書に基づき、福岡典礼センター・ピエタ（師イエズス修道女会）は、待降節第一主日（11月29日）から日曜日を休業することに決めた。営業時間は以下のとおり。平日＝10時～18時。水曜日＝10時～13時。第一水曜日・日曜日＝休業。なお、以下の聖体礼拝、集いが行われており、参加自由。①聖体礼拝（修道院聖堂にて）平日＝8時30分～16時30分。②聖体礼拝（水通教会聖堂にて）第一金曜日朝ミサ後7時30分～17時から聖体賛美式。③「師イエズスの友」祈りの集い・茶話会（修道院）第二金曜日13時～14時。

BOOK 読みは専科

★レオニー
―小さい道を妹テレーズとともに―
伊従信子著

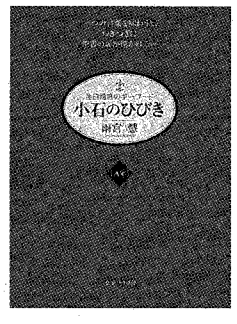


レオニー・マルタンはリジューの聖テレーズの十歳上の姉である。彼女は幼少よりひ弱で移り気で「のろまなあひる」、要するに、家庭でも学校でも、修道院においてさえ、「落ちこぼれ」で、妹テレーズの陰で、世に知られることがなかった。劣等感、失敗、内的反抗など多くの苦難を体験し、悩み、自分が臆病で欠点だらけの人間であることを現実として受け入れた彼女の生涯は、不安と失望・孤独・劣等感に悩む人たちにとって、大きな癒しとなる。

サンパウロ　税別一〇〇〇円

◇　◇　◇

★小石のひびき
―主日福音のキーワード［A］―
雨宮　慧著



主日、祝日のやさしい福音の解説。聖書の魅力を万華鏡にたとえることができます。ほんの少しずらすだけで、紙片の組み合わせが変わり、まったく違った美しさを作り出すように、聖書も視点をずらせば、まったく違った世界を垣間見せます。

一つの言葉を味わうと、次々に聖書の扉が開かれ、いつも新たな発見があります。聖書を奥深く味わい、生活を潤してくれるお薦めしたい一冊。

女子パウロ会　本体一一五〇円

-1999年度　学生募集-

聖マリア学院短期大学

看護学科（看護婦・看護士養成３年課程）入学定員100名

選抜区分	試験期日	試験科目等
試験選抜	2月１６日	国語１、英語１、理科（生物１B又は化学１B）、面接

専攻科：地域看護学専攻（保健婦・保健士養成１年課程）入学定員40名
助産学専攻　（助産婦養成１年課程・女子のみ）入学定員20名

選抜区分	試験期日	試験科目等
試験選抜	2月　2日	看護学一般、面接

（お問い合わせ先）
〒830-8558　福岡県久留米市津福本町４２２番地
（西鉄大牟田線試験場前駅徒歩５分・聖マリア病院隣接）
聖マリア学院入試事務室 TEL：0942-35-7271 FAX：0942-34-9125

聖マリア学院医療福祉専門学校

介護福祉学科（介護福祉士養成２年課程）入学定員100名

選抜区分	試験期日		試験科目等
自己推薦選抜 社会人選抜	3期	1月26日	面接（自己推薦書に基づく）
試験選抜	1期	2月25日	国語１又は数学１・A（数と式）の選択
	2期	3月24日	

＊介護福祉学科においては、特待生制度等の奨学生制度を充実。
＊聖マリア病院、聖マリア介護支援センター等と協同した実践教育と充実した卒後教育を実施。
＊キャンパス見学随時

ジャパンスマイルか
株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
ＴＥＬ092－761－8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
ＴＥＬ092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石材　石理影の大御そ　石他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860-0006 熊本市段山本町2-21
TEL 096－352－2417

福岡黙想の家　12月

◇5日(土)～6日(日) 待降節の黙想会〈来住神父〉
浄水通教会おやじの会
◇11日(金)～13日(日) 待降節の黙想会〈ガブリエル神父〉
◇18日(金)～20日(日) 待降節の黙想会〈畠神父〉
◇23日(水)～24日(木) 待降節の黙想会〈マテオ神父〉
［問合先］黙想の家　☎0940・32・3222　FAX32・3385

黙想の家のホームページを御利用ください
◎ホームページ　http://w32.mtci.or.jp/~daneox
◎e-mail　Mail to daneox@mtci.or.jp

生命山カトリック別院

生命山では、皆様のために、美しい自然の中で、神との語らいの日々を過ごしていただきたく、黙想会を計画いたしました。ご参加ください。

■祈りの集い
日時：12月10日（木）
9時45分～15時
テーマ：詩編で祈る
指導：フランコ神父
＊個人、又はグループでの黙想等、常時受け付けています。
［問合先］生命山カトリック別院　☎0968・85・3100

1998年12月24日／主の降誕・夜半のミサ

教会	時間	教会	時間	教会	時間
福岡地区		本　郷	18：30 21：00	鹿　島	18：00
糸　島	20：00			唐　津	20：00
今　村	20：00	吉　塚	19：30	佐　賀	20：00
大　楠	20：00	南粕屋	19：30	多　久	20：00
大牟田	20：00	老　司	19：30	武　雄	20：00
小　郡	19：30	北九州地区		鳥　栖	21：00
久留米	19：00 22：00	飯　塚	19：30	馬渡島	19：00
		黒　崎	19：00 22：00	呼　子	20：00
古　賀	19：00 23：00			熊本地区	
		小　倉	18：00 20：30 23：00	荒　尾	19：00
笹　丘	19：30			大　江	19：00
浄水通	18：00 20：30			帯　山	19：30
		新田原	20：00	菊　地	20：00
大名町	18：00 20：30 24：00	田　川	18：30	健　軍	20：00
		天神町	20：00	崎　津	21：00
		戸　畑	20：00	島　崎	20：00
高　宮	20：30	直　方	19：00	玉　名	19：00
茶　山	20：00	水　巻	20：00	手　取	19：30 23：00
西　新	19：00	門　司	19：30		
箱　崎	20：00	湯　川	20：00	人　吉	20：00
光　丘	20：00	行　橋	19：00	水　俣	20：00
二日市	20：00	若　松	19：30	本　渡	19：30
美野島	20：00 スペイン語	佐賀地区		武蔵ヶ丘	19：30
		伊万里	20：00	八　代	19：30

会合と催し

教区年間テーマ：キリスト者を活かす聖霊を信じます

12月

1日（火）＋アシジF．伊東誠二［1997］
3日（木）聖フランシスコ・ザビエル
6日（日）待降節第2主日／宣教地司祭育成の日《献金》
八代殉教祭（八代教会13時～）・堅信式
7日（月）聖アンブロジオ
8日（火）無原罪の聖マリア
福岡カトリック神学院創立記念日
13日（日）待降節第3主日（聖ルチアおとめ殉教者）
14日（月）十字架の聖ヨハネ
17日（木）＋M.コニリー［島崎修道院1990］
18日（金）＋J.マグラ［荒尾教会1976］
19日（土）＋パウロ青木功［行橋教会1973］
20日（日）待降節第4主日
＋M.ソーレ［久留米教会1917］
23日（水）天皇誕生日
＋A.ベニエ［飯塚教会1983］
24日（木）降誕祭前夜ミサ（カテドラル20時30分）
25日（金）主の降誕（クリスマス）
26日（土）聖ステファノ殉教者
27日（日）聖家族（聖ヨハネ使徒福音記者）
28日（月）幼子殉教者
31日（木）大晦日

1月

1日（金）元旦／神の母聖マリア《守るべき祝日》
世界平和の日ミサ（カテドラル10時）
＋G.ロー［人吉教会1950］
2日（土）＋J.ドノフ［菊池教会1985］
＋ヨセフ牧山藤房［福岡司教館1993］
3日（日）主の公現
4日（月）＋E．モーゼ［八王寺本部1998］
10日（日）主の洗礼
12日（火）**司祭新年の集い（浄水通11時）**
14日（木）＋A.ハルブ［崎津教会1945］
15日（金）成人の日
17日（日）（聖アントニオ）
18日（月）キリスト教一致祈祷週間（～25日）
＋J.M.マルタン［大牟田教会1975］
19日（火）＋L.ガルニエ［大江教会1941］
21日（木）聖アグネスおとめ
24日（日）カトリック児童福祉の日《指定献金》
25日（月）聖パウロの回心
26日（火）聖テモテ・聖テトス
28日（木）聖トマス・アクイナス
31日（日）（聖ヨハネ・ボスコ）

■印は本面に詳細説明あり

福岡

■第7回パイプオルガンチャリティコンサート　［日時］12月5日（土）開場14時30分開演15時［場所］カトリック大名町教会大聖堂［演奏者］スコット・ショウ（長崎活水学院オルガン科助教授）［チケット］前売（小学生以上）1000円・当日1200円［主催］ぶどうの樹の会［後援］福岡市・福岡市教育委員会・活水学院・聖パウロ女子修道会・カトリック大名町教会信徒会［問合先］☎020・581・6092（相良）☎092・831・5356（古賀）［チケット取扱］セントポールFUKUOKA（旧聖パウロ書院）10時～16時（水曜定休）

■カテキスタの集い　［日時］12月6日（日）13時30分～15時30分［場所］福岡カトリック神学院［講師］山元眞神父（同神学院院長）［テーマ］「父である神」の年をどのように伝えるか［会費］500円＊教会学校に関する資料をお持ちくだされば幸いです［問合先］福岡カトリック神学院☎092・531・6821FAX524・7373

■第14回福岡パストラルケア研究会　［日時］12月6日14時～16時［場所］福岡サン・スルピス大神学院新館ホール［内容］講話「病人訪問体験」［講師］シスター・マリー・テレーズ・モロ（聖母奉献修道会福岡修道院）［参加費］七〇〇円［問合先］事務局（シスター箕浦☎092・871・4943大神学院）

■第15回　［日時］1月17日（日）14時～16時［内容］講話「愛について」［講師］山元眞神父（福岡カトリック神学院）［参加費］七〇〇円［問合先］同右

■ホスピスの会 第5回会合　［日時］1月17日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会4階［参加費］500円［問合先］事務局／〒815・0034福岡市南区南大橋1・8・29小林計子☎FAX092・512・8723★昼間（9時30分～17時）0942・83・2594

■第74回福岡結婚準備セミナー開催中　［日時］11月26日（木）～12月19日（土）毎木曜・土曜日19時～21時30分［場所］カテドラル大名町教会［申込・問合先］カトリックファミリーセンター☎092・541・6207FAX552・5022

■福岡県こころの健康づくり「久留米大会」　12月9日は「障害者の日」です。この大会は、地域社会の一人ひとりが精神障害に関する正しい理解を深め、精神障害者の社会復帰及び社会参加を促進するため開催するものです。［日時］12月11日（金）13時30～16時［場所］久留米市民会館（久留米市城南町16―1）［プログラム］開場（受付）12時30分～、記念講演14時30分～「てんかん―医療と福祉―」［講師］中澤洋一氏（久留米大学名誉教授）、閉会16時［会費］無料［問合先］最寄りの保健所または、福岡県保健福祉部障害者福祉課☎092・651・1111（内線）3067

■福岡生と老い・死をみつめる会―12月は休会［問合先］事務局（大山美穂子☎092・471・5140）

■第51回福岡市民クリスマス　［日時］12月14日（月）18時30分（開場18時）［場所］福岡市民会館大ホール［メッセージ］神の前で私たちの弁護者［メッセンジャー］野村幸生（キリスト者学生会九州地区主事）［クリスマスコンサート］クリスマスの喜びをあなたに［ゲスト］森祐理（福音歌手・元NHK歌のお姉さん）［入場料］無料［主催］福岡市民クリスマス実行委員会（福岡キリスト教連合会）［問合先］同事務局☎092・731・1805

■第11回むなかた市民クリスス　［日時］12月15日（月）18時30分［場所］宗像ユリックハーモニーホール［メッセンジャー］野口直樹牧師（日本バプテスト連盟福間教会）［クリスマスコンサート］東海大学第五高等学校吹奏楽部他地元合唱団／LUMEN VITAE（ルーメン・ヴィテ）カトリック典礼聖歌合唱団（新垣千敏指揮）出演［主催］宗像市民クリスマス実行委員会（宗像市郡内カトリック・プロテスタント教会協賛）［問合先］福岡一麦教会☎0940・32・5225

■講演会―福岡YMCA「市民ボランティア推進室」設立3周年記念［日時］12月19日（土）14時（開場13時30分）～16時30分［場所］福岡電気ホール（福岡市中央区渡辺通2丁目☎092・781・0685）［講師］牟田悌三氏［演題］大事なことはボランティアで教わった［入場料］無料［主催］福岡YMCA他［申込方法］電話にて。この時点で受付。当日は直接会場においでください。定員になり次第締切［申込・問合先］福岡YMCA本館（市民ボランティア推進室）☎092・831・1771／国際センター☎092・781・7410

■九州ダルク・クリスマスパーティー　［日時］12月19日（土）13時～16時［場所］美野島司牧センター（九州ダルクデイケアーセンター）［参加費］無料（自由献金）★各自プレゼントを持参してください［問合先］九州ダルク☎092・471・5140

■聖テレーズの著作を読む会　［日時］毎月第四日曜日14時～15時30分［場所］カルメル会修道院（福岡市西区上ノ原）［問合先］カルメル会修道院☎092・807・7361［世話人］城島暁（浄水通教会所属）。尚、同日午後一時～一時五十分キリスト教入門講座があります。

佐賀

■第6回聖書を読む会　［日時］12月3日10時～11時30分・19時30分～21時（毎月初木曜日）から99年3月初木曜日まで［場所］カトリック佐賀教会（信徒会館）［テーマ］希望に生きる［講師］A・アレグリーノ神父［テキスト］聖書（旧約・新約）［対象］どなたでも［受講料］無料［申込・問合先］佐賀教会内「聖書を読む会」☎0952・23・4754

熊本

■第58回熊本結婚準備セミナー　［日時］1月18日（月）～2月9日（火）毎月曜・火曜日19時～21時30分［場所］手取教会［申込・問合先］手取教会☎0996・352・3030FAX352・1515

日本カトリック研修センター

⑲出張コース（福岡会場）　生活の節々をテーマに適切なみ言葉選びと、み言葉を中心とした祈りを学ぶ。私たちの文化、特にその地の文化に根差したシンボルを福音的視点から再解釈する。［日時］1月15日16時（金）～17日（日）［場所］福岡黙想の家［指導］日本カトリック研修センター研究企画部［対象］信徒・修道者・司祭［定員］30人［会費］21000円（税込み）［申込・問合先］日本カトリック研修センター研究企画部☎052・831・5037FAX831・5317

編集後記

今年一年間の皆様のご協力を心より感謝いたします。来年もよろしくお願い申し上げます。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者 ペトロ 平田 清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所 大石真澄
☎092-552-8195 Ⓕ092-541-7734

FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1 TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長 藤木鐵三　福岡支店長 長山和博